



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

ENDJOB (ジョブ終了) での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

ENDJOB (ジョブ終了) での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、489 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with ENDJOB (End Job)
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

ジョブ終了 (ENDJOB)	1	ジャーナル (JRN)	26
パラメーター	1	例	27
ジョブ名 (JOB)	2	エラー・メッセージ	27
終了方法 (OPTION)	2	回線回復終了 (ENDLINRCY)	29
制御された終了遅延時間 (DELAY)	3	パラメーター	29
スプール・ファイル削除 (SPLFILE)	3	行 (LINE)	29
ログ項目の最大数 (LOGLMT)	4	例	29
追加の対話式ジョブ数 (ADLINTJOBS)	4	エラー・メッセージ	29
重複ジョブ・オプション (DUPIJOB OPT)	5	ジョブ・ログ・サーバーの終了	
例	5	(ENDLOGSVR)	31
エラー・メッセージ	6	パラメーター	31
ジョブ異常終了 (ENDJOBABN)	7	終了方法 (OPTION)	31
パラメーター	8	例	32
ジョブ名 (JOB)	9	エラー・メッセージ	32
重複ジョブ・オプション (DUPIJOB OPT)	9	モード終了 (ENDMOD)	33
例	9	パラメーター	33
エラー・メッセージ	10	リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	33
ジャーナルの終了 (ENDJRN)	11	装置 (DEV)	34
パラメーター	11	モード (MODE)	34
オブジェクト (OBJ)	12	ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	34
ファイル識別コード (OBJFID)	12	リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	35
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	13	保留された要求の完了 (CPLPNDRQS)	35
名前パターン (PATTERN)	13	例	35
ジャーナル (JRN)	14	エラー・メッセージ	35
例	14	メール・サーバー・フレームワークの終了	
エラー・メッセージ	15	(ENDMSF)	37
アクセス・パス・ジャーナル終了		パラメーター	37
(ENDJR NAP)	17	終了方法 (OPTION)	37
パラメーター	17	制御された終了遅延時間 (DELAY)	38
ジャーナル処理ファイル (FILE)	18	例	38
ジャーナル (JRN)	18	エラー・メッセージ	38
例	19	NFSサーバーの終了 (ENDNFSSVR)	39
エラー・メッセージ	19	パラメーター	39
ジャーナル・オブジェクト終了		サーバー・デーモン (SERVER)	40
(ENDJRNOBJ)	21	デーモン終了のタイムアウト (ENDJOB TIMO)	40
パラメーター	21	例	40
オブジェクト (OBJ)	22	エラー・メッセージ	41
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	22	NETWARE接続の終了 (ENDNTWCNN)	43
ジャーナル (JRN)	22	パラメーター	43
例	23	サーバー (SERVER)	43
エラー・メッセージ	23	接続番号 (CNNNBR)	43
ジャーナル物理ファイルの終了		例	43
(ENDJR NPF)	25	エラー・メッセージ	44
パラメーター	25		
ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	26		

ネットワーク・インターフェース回復の終了 (ENDNWIRCY)	45
パラメーター	45
ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)	45
例	45
エラー・メッセージ	45

パススルー終了 (ENDPASTHR).	47
パラメーター	47
ジョブ・ログ (LOG)	47
例	48
エラー・メッセージ	48

PERFORMANCE EXPLORERの終了 (ENDPEX)	49
パラメーター	50
セッションID (SSNID).	50
オプション (OPTION)	50
データ・オプション (DTAOPT).	51
データ・ライブラリー (DTALIB)	51
データ・メンバー (DTAMBR)	52
管理コレクション (MGTCOL)	52
データの置き換え (RPLDTA)	53
スレッドの数 (NBRTHD).	53
テキスト'記述' (TEXT)	53
例	54
エラー・メッセージ	54

パフォーマンス収集の終了 (ENDPFRCOL)	55
パラメーター	55
強制終了 (FRCCOLEND)	55
例	55
エラー・メッセージ	56

パフォーマンス・トレース終了 (ENDPFRTRC)	57
パラメーター	57
トレースのダンプ (DMPTRC)	57
メンバー (MBR).	58
ライブラリー (LIB).	58
テキスト'記述' (TEXT)	58
例	58
エラー・メッセージ	59

プログラム終了 (ENDPGM)	61
パラメーター	61
例	61
エラー・メッセージ	61

プログラム・エクスポート・リストの終了 (ENDPGMEXP)	63
パラメーター	63
例	63
エラー・メッセージ	63

プログラム・プロファイリングの終了 (ENDPGMPRF)	65
パラメーター	65
例	65
エラー・メッセージ	65

事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)	67
パラメーター	67
サブシステム (SBS)	67
プログラム (PGM)	68
終了方法 (OPTION).	68
制御された終了遅延時間 (DELAY).	69
スプール・ファイル削除 (SPLFILE)	69
ログ項目の最大数 (LOGLMT)	69
例	70
エラー・メッセージ	70

印刷装置エミュレーション終了 (ENDPRTEML)	71
パラメーター	71
エミュレーション装置 (EMLDEV).	71
エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)	72
印刷装置 (PRTDEV)	72
例	72
エラー・メッセージ	72

受信終了 (ENDRCV)	73
パラメーター	73
表示装置 (DEV).	73
オープン・ファイル識別コード (OPNID).	74
例	74
エラー・メッセージ	74

(ENDRDBRQS)	75
パラメーター	75
例	75
エラー・メッセージ	75

読み取りプログラム終了 (ENDRDR).	77
パラメーター	77
読み取りプログラム (RDR)	77
読み取りプログラム終了時点 (OPTION)	77
例	78
エラー・メッセージ	78

リモート・サポートの終了 (ENDRMTSPT)	79
パラメーター	79
ライブラリー削除 (DLTLIB).	79
終了方法 (OPTION).	79
例	80
エラー・メッセージ	80

RPC BIND プログラム・デーモンの終了 (ENDRPCBIND)	81
---	----

パラメーター	81
例	81
エラー・メッセージ	81
要求終了 (ENDRQS)	83
パラメーター	83
要求レベル (RQSLVL)	83
例	84
エラー・メッセージ	84
S/36セッションの終了 (ENDS36)	85
パラメーター	85
例	85
エラー・メッセージ	85
サブシステム終了 (ENDSBS)	87
パラメーター	88
サブシステム (SBS)	88
終了方法 (OPTION)	88
制御された終了遅延時間 (DELAY)	89
サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)	89
バッチ時間制限 (BCHTMLMT)	90
例	90
エラー・メッセージ	90
SELECT グループ終了 (ENDSELECT)	93
パラメーター	93
例	93
エラー・メッセージ	93
サービス・エージェントの終了 (ENDSRVAGT)	95
パラメーター	95
タイプ (TYPE)	95
例	95
エラー・メッセージ	95
サービス・ジョブ終了 (ENDSRVJOB)	97
パラメーター	97
例	97
エラー・メッセージ	97
サブルーチンの終了 (ENDSUBR)	99
パラメーター	99
戻り値 (RTNVAL)	99
例	100
エラー・メッセージ	100
システム終了 (ENDSYS)	101
パラメーター	101
終了方法 (OPTION)	102
制御された終了遅延時間 (DELAY)	102
サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)	102
確認 (CONFIRM)	103
例	103
エラー・メッセージ	104

TCP/IPの終了 (ENDTCP)	105
パラメーター	105
終了方法 (OPTION)	106
制御された終了遅延時間 (DELAY)	106
適用業務サーバーの終了 (ENDSVR)	107
例	107
エラー・メッセージ	108
TCP/IPの異常終了 (ENDTCPABN)	109
パラメーター	109
例	109
エラー・メッセージ	109
TCP/IP接続の終了 (ENDTCPCNN)	111
パラメーター	111
プロトコル (PROTOCOL)	111
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	111
ローカル・ポート (LCLPORT)	112
リモート・インターネット・アドレス (RMTINTNETA)	112
リモート・ポート (RMTPORT)	112
例	113
エラー・メッセージ	113
TCP/IPインターフェースの終了 (ENDTCPIFC)	115
Warning: Temporary Level 2 Header	115
パラメーター	115
IPアドレス (INTNETADR)	116
別名 (ALIASNAME)	116
例	116
エラー・メッセージ	117
POINT-TO-POINT TCP/IPの終了 (ENDTCPPTP)	119
パラメーター	119
プロファイルの構成 (CFGPRF)	119
操作モード (OPRMODE)	120
例	120
エラー・メッセージ	121
TCP/IPサーバーの終了 (ENDTCPSVR)	123
パラメーター	123
サーバー適用業務 (SERVER)	124
HTTPサーバー (HTTPSVR)	126
DNSサーバー (DNSSVR)	126
TCMサーバー (TCMSVR)	127
ASF TOMCATサーバー (TOMCATSVR)	127
例	127
エラー・メッセージ	128
TIEセッション終了 (ENDTISSN)	129
パラメーター	129
例	129

エラー・メッセージ	129
トレースの終了 (ENDTRC)	131
パラメーター	131
セッションID (SSNID)	131
データ・オプション (DTAOPT)	132
データ・ライブラリー (DTALIB)	132
データの置き換え (RPLDTA)	132
トレース・データの印刷 (PRTRC)	133
例	133
エラー・メッセージ	133

トラップ管理機能の終了 (ENDTRPMGR)	135
パラメーター	135
例	135
エラー・メッセージ	135

監視の終了 (ENDWCH)	137
パラメーター	137
セッションID (SSNID)	137
例	138
エラー・メッセージ	138

書き出しプログラム終了 (ENDWTR)	139
パラメーター	139
書き出しプログラム (WTR)	139
書き出しプログラムの終了時点 (OPTION)	139
例	140
エラー・メッセージ	140

リンクの除去 (ERASE)	141
パラメーター	142
オブジェクト・リンク (OBJLNK)	142
例	143
エラー・メッセージ	143

プログラム記号のエクスポート (EXPORT)	145
パラメーター	145
エクスポートされた記号名 (SYMBOL)	145
例	145
エラー・メッセージ	145

NFSエクスポートの変更 (EXPORTFS)	147
パラメーター	148
NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)	148
ディレクトリー (DIR)	152
ホスト名 (HOSTOPT)	152
例	153
エラー・メッセージ	154

プログラム情報抜き出し (EXTPGMINF)	155
エラー・メッセージ: EXTPGMINF	155
パラメーター	155
プログラム (PGM)	156

情報を受け取るファイル (FILE)	156
レコード抜き出しオプション (OPTION)	156
ファイルの作成 (CRTFILE)	157
記録するライブラリー名 (RECLIB)	157
一貫性検査 (CHECK)	157
例	158
エラー・メッセージ	158

文書ファイル (FILDOC)	159
パラメーター	159
ファイルされる情報 (TYPE)	161
受け取り文書 (TODOC)	161
受け取りフォルダー (TOFLR)	161
機密性 (SENSITIV)	162
ユーザー権限 (USRAUT)	162
権限リスト (AUTL)	163
アクセス・コード (ACC)	163
置き換え可能 (ALWRPL)	163
プロファイル・ファイル (IDPFILE)	164
プロファイル・メンバー (IDPMBR)	164
ユーザー識別コード (USRID)	165
文書ファイル (DOCFILE)	165
文書メンバー (DOCMBR)	165
配布識別コード (DSTID)	166
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	166
メール・ログに保管 (KEEP)	166
文書タイプ (DOCTYPE)	166
システム・コード (SYSCOD)	167
文書記述 (DOCD)	167
作成者 (AUTHOR)	168
文書クラス (DOCCLS)	168
キーワード (KWD)	168
主題 (SUBJECT)	168
文書日付 (DOCDATE)	169
ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)	169
リスト・コピー (CPYLST)	169
満了日 (EXPDATE)	170
参照 (REFERENCE)	170
処置期日 (ACTDATE)	170
文書状況 (STATUS)	171
完了日 (CMPDATE)	171
プロジェクト (PROJECT)	171
文書文字識別コード (DOCCHRID)	171
言語識別コード (DOCLANGID)	172
国別または地域ID (DOCCNTRYID)	172
個人 (PERSONAL)	173
配布満了標識 (DSTEXPDATE)	173
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	173
例	174
エラー・メッセージ	175

9フォーマット・データ (FMTDTA)	177
パラメーター	177
入力ファイル (INFILE)	177
出力ファイル (OUTFILE)	178
ソース・ファイル (SRCFILE)	179

ソース・メンバー (SRCMBR)	179
印刷ファイル (PRTFILE)	179
オプション: (OPTION)	180
プログラム日付: (PGMDATE)	180
例	180
エラー・メッセージ	181

メッセージ・カタログの生成 (GENCAT) 183

パラメーター	183
メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)	184
ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)	184
テキスト記述 (TEXT)	184
メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)	184
ソース・ファイルのCCSID (SRCCCSID)	185
データの共通認可 (DTAAUT)	185
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	186
例	187
MRGMSGCLGの例	187
エラー・メッセージ	187

コマンド文書の生成 (GENCMDDOC) 189

パラメーター	190
コマンド (CMD)	190
TOディレクトリー (TODIR)	190
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	191
ファイルの置き換え (REPLACE)	191
生成オプション (GENOPT)	191
例	192
エラー・メッセージ	193

メニュー表示へ (GO) 195

パラメーター	195
メニュー (MENU)	196
戻り点 (RTNPNT)	197
例	197
エラー・メッセージ	197

GO TO (GOTO) 199

パラメーター	199
コマンド・ラベル (CMDLBL)	199
例	199
エラー・メッセージ	200

アクセス・コード権限認可 (GRTACCAUT) 201

パラメーター	201
文書アクセス・コード (ACC)	201
ユーザー・プロファイル (USER)	202
参照ユーザー・プロファイル (REFUSER)	202
例	202
エラー・メッセージ	203

オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) 205

パラメーター	206
オブジェクト (OBJ)	207
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	207

ASP装置 (ASPDEV)	208
ユーザー (USER)	208
権限(AUT)	209
権限リスト (AUTL)	210
参照オブジェクト (REFOBJ)	210
参照オブジェクト・タイプ (REFOBJTYPE)	211
参照ASP装置 (REFASPDEV)	211
置き換え権限 (REPLACE)	212
例	212
エラー・メッセージ	212

ユーザー権限認可 (GRTUSRAUT) 215

パラメーター	215
ユーザー (USER)	216
参照されたユーザー (REFUSER)	216
例	216
エラー・メッセージ	216

ユーザー認可 (GRTUSRPMN) 219

パラメーター	219
TOユーザー・プロファイル (TOUSER)	219
ユーザー・プロファイル (FORUSER)	219
例	220
エラー・メッセージ	220

ワークステーション・オブジェクト権限認可 (GRTWSOAUT) 221

パラメーター	222
ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)	222
ユーザー (USER)	224
権限(AUT)	224
権限リスト (AUTL)	226
ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)	226
例	226
エラー・メッセージ	226

通信装置保留 (HLDCMNDEV) 227

パラメーター	227
装置 (DEV)	227
オプション (OPTION)	228
例	228
エラー・メッセージ	228

配布待ち行列の保留 (HLDDSTQ) 231

パラメーター	231
配布待ち行列 (DSTQ)	231
優先順位 (PTY)	232
例	232
エラー・メッセージ	232

ジョブ保留 (HLDJOB) 235

パラメーター	235
ジョブ名 (JOB)	236
スプール・ファイルの保留 (SPLFILE)	236
重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)	236

例	237
エラー・メッセージ	237
ジョブ待ち行列保留 (HLDJOBQ)	239
パラメーター	239
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	239
例	240
エラー・メッセージ	240
ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)	241
パラメーター	241
ジョブ名 (JOB)	241
項目番号 (ENTRYNBR)	242
例	242
エラー・メッセージ	243
出力待ち行列保留 (HLDOUTQ)	245
パラメーター	245
出力待ち行列 (OUTQ)	245
例	246
エラー・メッセージ	246
読み取りプログラム保留 (HLDRDR)	247
パラメーター	247
読み取りプログラム (RDR)	247
例	247
エラー・メッセージ	248
スプール・ファイルの保留 (HLDSPLF)	249
パラメーター	249
スプール・ファイル (FILE)	250
ジョブ名 (JOB)	250
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	250
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	251
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	251
ファイル選択 (SELECT)	252
ASP装置 (ASPDEV)	253
ファイルの保留時期 (OPTION)	253
例	254
エラー・メッセージ	254
書き出しプログラム保留 (HLDWTR)	257
パラメーター	257
書き出しプログラム (WTR)	257
書き出しプログラムの保留時点 (OPTION)	257
例	258
エラー・メッセージ	258
IF (IF)	259
パラメーター	260
条件 (COND)	260
コマンド (THEN)	260
例	261
エラー・メッセージ	262

LINUXサーバーの導入 (INSLNXSVR)	263
パラメーター	264
ネットワーク・サーバー記述 (NWSD)	267
資源名 (RSRCNAME)	267
LINUXサーバー配布版 (LNXSVRDST)	267
LINUXソース・ディレクトリー (LNXSRCDIR)	267
TCP/IPポート構成 (TCPPORTCFG)	268
仮想イーサネット・ポート (VRTETHPORT)	269
TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)	270
TCP/IP NAME SERVERシステム (TCPNAMSVR)	270
サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)	271
記憶スペースASP (SVRSTGASP)	271
サーバー記憶ASP装置 (STGASPDEV)	272
言語バージョン (LNGVER)	272
日付と時刻の同期化 (SYNCTIME)	273
制約された装置資源 (RSTDDEVRSRC)	273
シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)	274
活性化タイマー (ACTTMR)	274
通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)	274
記憶域パス (STGPTH)	275
仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)	275
TCPポートのシャットダウン (SHUTDPORT)	275
仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)	276
リモート・システムNWSCFG (RMTNWSCFG)	276
サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)	276
接続機密保護NWSCFG (CNNNWSCFG)	276
省略時のIP機密保護規則 (DFTSECRULE)	277
IP機密保護規則 (IPSECRULE)	277
サービス・プロセッサの初期化 (INZSP)	278
ユニキャストを使用可能にする (ENBUNICAST)	279
格納装置ID (EID)	279
サービス・プロセッサ名 (SPNAME)	279
SP IPアドレス (SPINTNETA)	280
SP認証 (SPAUT)	280
SP証明書ID (SPCERTID)	281
リモート・システムID (RMTSYSID)	282
配送方式 (DELIVERY)	282
CHAP認証 (CHAPAUT)	283
ブート装置ID (BOOTDEVID)	283
動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)	284
リモート・インターフェース (RMTIFC)	285
テキスト'記述' (TEXT)	287
構成ファイル (CFGFILE)	287
仮想PTP イーサネット・ポート (VRTPTPPORT)	287
例	288
エラー・メッセージ	289
プログラム一時修正の導入 (INSPTF)	291
パラメーター	291
プロダクトの説明 (LICPGM)	292
装置 (DEV)	292
PTF適用タイプ (INSTYP)	293
PTF省略リスト (OMIT)	293
HIPER PTFのみ (HIPER)	294
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	294
再始動タイプ (RESTART)	294

媒体のプロンプト (PMTMED)	295
PTFのコピー (CPYPTF)	295
例	296
エラー・メッセージ	296
WINDOWSサーバーの導入	
(INSWNTSVR)	299
パラメーター	300
ネットワーク・サーバー記述 (NWS)	304
導入タイプ (INSTYPE)	304
資源名 (RSRCNAME)	304
WINDOWSサーバー・バージョン (WNTVER)	305
WINDOWS ソース・ディレクトリー	
(WNTSRCDIR)	305
導入オプション (OPTION)	306
TCP/IPポート構成 (TCPPORTCFG)	306
仮想イーサネット・ポート (VRTETHPORT)	307
TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNAME)	308
TCP/IP NAME SERVERシステム (TCPNAMSVR)	309
サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	309
イベント・ログ (EVTLOG)	310
サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSI)	311
記憶スペースASP (SVRSTGASP)	312
サーバー記憶ASP装置 (STGASPDEV)	312
NTFSへの変換 (CVTNTFS)	313
ワークグループ (TOWRKG)	313
ドメイン (TODMN)	314
フルネーム (FULNAM)	315
組織名 (ORG)	315
言語バージョン (LNGVER)	315
日付と時刻の同期化 (SYNCTIME)	315
ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)	316
WINDOWSライセンス・キー (WNTLICKEY)	316
ライセンス・モード (LICMODE)	316
制約された装置資源 (RSTDDEVRS)	317
シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)	318
活動化タイマー (ACTTMR)	318
通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)	318
記憶域パス (STGPTH)	319
仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)	319
TCPポートのシャットダウン (SHUTDPORT)	320
仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)	320
リモート・システムNWSCFG (RMTNWSCFG)	321
サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)	321
接続機密保護NWSCFG (CNWNWSCFG)	321
省略時のIP機密保護規則 (DFTSECRULE)	321
IP機密保護規則 (IPSECRULE)	322
サービス・プロセッサの初期化 (INZSP)	323
ユニキャストを使用可能にする (ENBUNICAST)	324
格納装置ID (EID)	324
サービス・プロセッサ名 (SPNAME)	325
SP IPアドレス (SPINTNETA)	325
SP認証 (SPAUT)	326
SP証明書ID (SPCERTID)	326
リモート・システムID (RMTSYSID)	327
配送方式 (DELIVERY)	328

CHAP認証 (CHAPAUT)	328
ブート装置ID (BOOTDEVID)	330
動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)	330
リモート・インターフェース (RMTIFC)	331
テキスト記述 (TEXT)	333
キーボードのレイアウト (KBDTYPE)	334
構成ファイル (CFGFILE)	334
クラスター名 (CLU)	334
クラスター構成 (CLUCFG)	335
仮想PTP イーサネット・ポート (VRTPTPPORT)	336
例	337
エラー・メッセージ	339

DLFMの初期化 (INZDLFM) 341

パラメーター	341
既存のデータベースの消去 (CLEARDB)	341
例	341
エラー・メッセージ	342

配布待ち行列の初期設定 (INZDSTQ) 343

パラメーター	344
配布待ち行列 (DSTQ)	344
待ち行列項目の消去 (CLEAR)	344
例	344
エラー・メッセージ	345

NWS構成の初期設定 (INZNWSCFG) 347

パラメーター	347
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	347
処理オプション (OPTION)	348
SP認証 (SPAUT)	348
例	349
エラー・メッセージ	349

光ディスク初期設定 (INZOPT) 351

パラメーター	351
ボリューム識別コード (VOL)	351
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	352
装置 (DEV)	352
ボリューム満杯しきい値 (THRESHOLD)	352
活動ボリューム検査 (CHECK)	352
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	353
消去 (CLEAR)	353
ボリューム・タイプ (TEXT)	353
ボリューム・タイプ (TYPE)	354
コード化文字セットID (CCSID)	354
媒体の形式 (MEDFMT)	354
例	355
エラー・メッセージ	355

ISERIES ACCESSの初期設定 (INZPCS) 359

エラー・メッセージ: INZPCS	359
パラメーター	360
キーボード・タイプ (KBDTYPE)	360
ASCIIコード・ページ番号 (ASCII)	363
EBCDICコード・ページ番号 (EBCDIC)	363

言語機能コード (LANGUAGE)	363
例	365
エラー・メッセージ	365

物理ファイル・メンバー初期設定 (INZPFM) 367

パラメーター	367
物理ファイル (FILE)	367
メンバー (MBR)	368
レコードの初期設定 (RECORDS)	368
レコードの合計数 (TOTRCD)	368
例	369
エラー・メッセージ	369

システムの初期設定 (INZSYS) 371

パラメーター	371
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	371
例	372
エラー・メッセージ	372

テープ初期設定 (INZTAP) 373

パラメーター	373
装置 (DEV)	373
新しいボリューム識別コード (NEWVOL)	374
新しい所有者識別コード (NEWOWNID)	374
ボリューム識別コード (VOL)	374
活動ファイルの検査 (CHECK)	375
テープ密度 (DENSITY)	375
コード (CODE)	380
テープ終了オプション (ENDOPT)	380
消去 (CLEAR)	380
例	381
エラー・メッセージ	381

繰り返し (ITERATE) 383

パラメーター	383
コマンド・ラベル (CMDLBL)	383
例	384
エラー・メッセージ	384

LEAVE (LEAVE) 385

パラメーター	385
コマンド・ラベル (CMDLBL)	385
例	386
エラー・メッセージ	386

データ定義リンク／リンク解除 (LNKDTADFN) 387

パラメーター	387
オプション (OPTION)	387
データベース・ファイル (FILE)	388
データ・ディクショナリー (DTADCT)	388
ファイル定義 (DFN)	388
作成日 (CRTDATE)	389
例	389
エラー・メッセージ	389

イメージ・カタログのロード/アンロード (LODIMGCLG) 391

パラメーター	391
イメージ・カタログ (IMGCLG)	392
仮想装置 (DEV)	392
オプション (OPTION)	392
書き込み保護 (WRTPTC)	392
例	393
エラー・メッセージ	394

IMGCLG項目のロード/アンロード/マウント (LODIMGCLGE) 395

パラメーター	395
イメージ・カタログ (IMGCLG)	396
イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)	396
オプション (OPTION)	396
イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)	396
例	397
エラー・メッセージ	397

光ディスク・ファームウェアのロード (LODOPTFMW) 399

パラメーター	399
FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)	399
装置タイプ (TYPE)	399
装置型式 (MODEL)	399
例	400
エラー・メッセージ	400

プログラム一時修正ロード (LODPTF) 401

パラメーター	401
プロダクト (LICPGM)	402
装置 (DEV)	402
選択するPTF番号 (SELECT)	402
除外するPTF番号 (OMIT)	402
置き換えられたPTF (SPRPTF)	403
リリース (RLS)	403
順序番号 (SEQNBR)	403
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	404
経路識別コード (PATHID)	404
保管ファイル (SAVF)	405
PTFカバー・レター・コピー (COVER)	405
PTF保管ファイルのコピー (CPYSAVF)	406
例	406
エラー・メッセージ	406

Q/A データベース・ロード (LODQSTDB) 411

パラメーター	411
Q/Aデータベース (QSTDB)	411
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	412
例	412
エラー・メッセージ	412

ロードおよび実行 (LODRUN) 413

パラメーター	415
装置 (DEV)	415
順序番号 (SEQNBR)	416
ボリューム識別コード (VOL)	416
ディレクトリー (DIR)	416
例	417
エラー・メッセージ	417

ディレクトリーの作成 (MD) 419

パラメーター	420
ディレクトリー (DIR)	420
データの共通認可 (DTAAUT)	420
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	421
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	422
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	423
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	424
例	424
エラー・メッセージ	424

ディレクトリーの作成 (MKDIR) 427

パラメーター	428
ディレクトリー (DIR)	428
データの共通認可 (DTAAUT)	428
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	429
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	430
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	431
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	432
例	432
エラー・メッセージ	432

メッセージ・モニター (MONMSG) 435

パラメーター	436
メッセージ識別コード (MSGID)	436
比較データ (CMPDTA)	437
実行するコマンド (EXEC)	437
例	438
エラー・メッセージ	438

マウントFSの追加 (MOUNT) 439

パラメーター	439
ファイル・システムのタイプ (TYPE)	440
マウントするファイル・システム (MFS)	441
マウントするディレクトリー (MNTOVRDIR)	441
マウント・オプション (OPTIONS)	441
コード化文字セットID (CCSID)	443
コード・ページ (CODEPAGE)	444
例	445
エラー・メッセージ	446

オブジェクトの移動 (MOV) 447

パラメーター	448
オブジェクト (OBJ)	448
TOディレクトリー (TODIR)	448
TOオブジェクト (TOOBJ)	449

変換元CCSID (FROMCCSID)	449
変換先CCSID (TOCCSID)	450
データ形式 (DTAFMT)	450
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	451
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	451
例	452
エラー・メッセージ	453

文書の移動 (MOVDOC) 455

パラメーター	455
取り出し文書 (FROMDOC)	455
取り出しフォルダー (FROMFLR)	456
受け取りフォルダー (TOFLR)	456
名前付け直し (RENAME)	456
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	457
例	457
エラー・メッセージ	457

オブジェクトの移動 (MOVE) 459

パラメーター	460
オブジェクト (OBJ)	460
TOディレクトリー (TODIR)	461
TOオブジェクト (TOOBJ)	461
変換元CCSID (FROMCCSID)	461
変換先CCSID (TOCCSID)	462
データ形式 (DTAFMT)	462
FROMコード・ページ (FROMCODPAG)	463
TOコード・ページ (TOCODEPAGE)	463
例	464
エラー・メッセージ	465

オブジェクト移動 (MOV OBJ) 467

パラメーター	468
オブジェクト (OBJ)	469
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	469
TOライブラリー (TOLIB)	470
複写元ASP装置 (ASPDEV)	470
宛先ASP装置 (TOASPDEV)	471
例	471
エラー・メッセージ	472

メッセージ・カタログの組合せ (MRGMSGCLG) 477

パラメーター	477
メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)	478
ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)	478
メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)	478
テキスト'記述' (TEXT)	478
ソース・ファイルのCCSID (SRCCSID)	479
データの共通認可 (DTAAUT)	479
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	480
例	481
エラー・メッセージ	481

メッセージ・ファイル組み合わせ (MRGMSGF) 483

パラメーター	483	例	486
取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)	484	エラー・メッセージ	487
受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)	484		
置き換えられたメッセージ・ファイル (RPLMSGF)	485	付録. 特記事項	489
選択するメッセージID (SELECT).	485	商標	490
除外するメッセージID (OMIT)	485	使用条件	491

ジョブ終了 (ENDJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ終了 (ENDJOB)コマンドは、指定されたジョブを終了し、関連したインライン・データ・ファイルがあればそれも終了します。ジョブはジョブ待ち行列上にあるか、活動状態になっているか、またはすでに実行を完了している可能性があります。

ジョブの終了処理を制御するための時間をアプリケーション・プログラムに与えることを指定することができます。時間が与えられていない場合、あるいは与えられた時間内にクリーンアップを実行できない場合には、システムは最小限のジョブの終わり処理を実行します。これには次のものが含まれます。

- データベース・ファイルのクローズ。
- ジョブ・ログの出力待ち行列へのスプーリング。
- オペレーティング・システムの内部オブジェクトのクリーンアップ。
- ジョブ終了画面の表示（対話式ジョブの場合）
- コミットメント制御処理の完了

ジョブを終了する前に、2フェーズ・コミットが進行中のために疑わしい状態になっている作業論理単位がないことを確認する必要があります。そうなっている場合には、「ENDJOBの処置」コミットメント・オプションの値がENDJOB処理に著しい影響を与える可能性があります。たとえば、「ENDJOBの処置」コミットメント・オプションが省略時の値WAITである場合には、コミットメント制御操作が完了するまで、このジョブは保留され、そのジョブの終わり処理は完了しません。これにより、関連したすべてのシステム上のデータベース安全性が保証されます。これらの条件を判別する方法に関する特定の指示、およびこれらの条件下でのこのジョブを終了した場合のすべての影響については、BACKUP AND RECOVERYを参照してください。

制約事項: コマンド発行側は、終了されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。この制約事項は、現行ジョブの終了時であっても強制されます。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション、位置 2
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプション、位置 3
SPLFILE	スプール・ファイル削除	*NO, *YES	オプション、位置 4
LOGLMT	ログ項目の最大数	整数, *SAME, *NOMAX	オプション
ADLINTJOBS	追加の対話式ジョブ数	*NONE, *GRPJOB, *ALL	オプション
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

終了するジョブの修飾ジョブ名を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

- * このコマンドを実行するジョブは終了されます。この値が現行ジョブを終了する唯一の方法であることを指定します。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しないと、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数見つかった場合は、修飾ジョブ名は明示的に、または選択表示を介して提供する必要があります。詳細については、**重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)**パラメーターを参照してください。

トップ

終了方法 (OPTION)

ジョブが即時に終了するか、あるいはアプリケーション・プログラムがジョブの終わり処理を実行できる制御された方式によって終了するかを指定します。いずれの場合にも、システムは何らかのクリーンアップ処理を実行します。

***CNTRLD**

ジョブは制御された方式によって終了します。これにより、実行中のプログラムはクリーンアップ（ジョブの終わり処理）を行なうことができます。終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。アプリケーションは、ジョブを終了する前にクリーンアップを完了するために、DELAYパラメーターに指定された時間があります。

***IMMED**

ジョブは即時に終了し、システムはジョブの終わりクリーンアップを実行します。システムのクリーンアップにはわずかな時間または数分かかることがあります。終了するジョブに非同期信号SIGTERMの信号処理プロシージャがあると、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成され、QENDJOBLMTシステム値が時間制限を指定します。実行中のプログラムは、SIGTERM信号の処理による以外、いかなるクリーンアップも実行できません。

注: *IMMED値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御された終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

注: ジョブの即時終了時にSIGTERM信号ハンドラーが実行している時は、OPTION(*IMMED)を指定したENDJOBコマンドを使用して、そのSIGTERM信号ハンドラーを終了できます。これが許されるのは、そのSIGTERM信号ハンドラーがすでに少なくとも2分間実行している場合だけです。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御された終了中にそのクリーンアップ処理を完了するためにジョブで使用できる時間（秒数）を指定します。遅延時間の終わりまでにクリーンアップが完了しないと、ジョブは即時に終了されます。（システムのクリーンアップだけが実行されます。）

次のいずれかの条件のためにジョブが中断された場合は、ジョブが活動状態になるまで、遅延時間は始まりません。

- システム要求オプション1が選択された。
- ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドによってジョブが保留された。
- 2次ジョブへの移行 (TFRSECJOB)コマンドによってジョブが転送された。
- グループ・ジョブへの移行 (TFRGRPJOB)コマンドによってジョブが転送された。

注: このパラメーターが有効なのは、OPTION(*CNTRLD)が指定された場合だけです。

30 ジョブが終了するまでにクリーンアップに30秒の最大遅延時間が与えられます。

1から999999

ジョブが終了する前の最大遅延時間（秒数）を指定してください。

トップ

スプール・ファイル削除 (SPLFILE)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルが通常処理のために保持されるか、あるいは削除されるかを指定します。スプール・ファイルが削除されるかどうかかわりなく、ジョブ・ログは保持されません。

***NO** 終了されるジョブによって作成されるスプール出力ファイルは、書き出しプログラムによる通常処理に備えて保管されます。ジョブが終了すると、スプール・ファイルを切り離すのか、あるいはジョブとともに保管するのかは、スプール・ファイル処置(SPLFACN)ジョブ属性によって判別されません。

***YES** 終了しようとしているジョブが作成したスプール出力ファイルのうち、このコマンドを出すスレッドのライブラリー名スペースの出力待ち行列にあるものが削除されます。ジョブ・ログは削除されません。ジョブがすでに終了していて、そのジョブのスプール・ファイル処置がスプール・ファイルを切り離すことである場合には、ジョブ終了(ENDJOB)コマンドではそのジョブが検索されないし、スプール・ファイルも削除されません。

トップ

ログ項目の最大数 (LOGLMT)

終了するジョブのメッセージ待ち行列中の、ジョブ・ログに書き込まれる項目の最大数を指定します。このパラメーターを使用して、終了するジョブごとに、ジョブ・ログの印刷出力ファイルQPJOBLOGに書き込まれるメッセージの数を制限することができます。

ジョブがすでに終了中である場合、またはジョブがすでに終了された場合であっても、このパラメーターに指定された値によって、そのジョブのロギング限界を変更できます。ロギング限界の変更方法の例は次の通りです。

1. 指定された値が、コマンドが出された時点で書き出されたメッセージ数より大きい場合には、新しい限界に達するまでメッセージの書き出しが続行されます。
2. 指定された値が、スプール・ファイルにすでに書き出されたメッセージ数より小さい場合には、限界に達したことを示すメッセージが最後の項目としてスプール・ファイルに即時に示されます。待ち行列上の残りのメッセージは無視されます。
3. スプール・ファイルにメッセージを書き出す前に、0（ゼロ）が指定された場合には、終了中のジョブのジョブ・ログは作成されません。ジョブがすでに終了し、ジョブ・ログがまだ作成されていない場合は、ジョブ・ログ出力(LOGOUTPUT)ジョブ属性の値にかかわらずジョブ・ログが除去されます。保留ジョブ・ログの除去の詳細については、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIを参照してください。

***SAME**

メッセージのロギング限界は変更されません。前のコマンドでこのジョブのロギング限界が変更されていない場合には、システムによって使用される値は*NOMAXとなります。

***NOMAX**

記録されるメッセージの数に制限はありません。ジョブ・メッセージ待ち行列にあるすべてのメッセージがジョブ・ログに書き込まれます。

整数 ジョブ・ログに書き出すことができるメッセージの最大数を指定してください。

トップ

追加の対話式ジョブ数 (ADLINTJOBS)

ジョブ名 (JOB)パラメーターに指定されたジョブと関連した追加の対話式ジョブを終了するかどうかを指定します。

***NONE**

JOBパラメーターに指定されたジョブのみが終了します。

***GRPJOB**

JOBパラメーターに指定されたジョブがグループ・ジョブの場合は、そのグループと関連したすべてのグループ・ジョブが終了します。そのジョブがグループ・ジョブでない場合は、JOBパラメーターに指定されたジョブが終了します。

***ALL** JOBパラメーターに指定されたジョブと関連したワークステーションで実行しているすべての対話式ジョブが終了します。これには、グループ・ジョブおよび2次ジョブが含まれます。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

例

例1:ジョブを即時に終了する

```
ENDJOB JOB(JOB1) OPTION(*IMMED) SPLFILE(*YES)
```

このコマンドは、JOB1という名前のジョブを即時に終了します。このジョブが生成したスプール出力は削除されますが、ジョブ・ログは保管されます。

例2:スプール出力を保管する

```
ENDJOB JOB(001234/XYZ/JOB2) OPTION(*CNTRLD)
      DELAY(50) SPLFILE(*NO)
```

このコマンドは、001234/XYZ/JOB2という名前のジョブを終了します。スプール出力は、通常処理のためにスプール書き出しプログラムによって保管されます。このジョブはクリーンアップ・ルーチンの実行に50秒を要し、その後、即時に終了されます。

例3:保留ジョブ・ログの除去

```
ENDJOB JOB(543210/ABCDE/JOB3) LOGLMT(0)
```

このコマンドは、543210/ABCDE/JOB3という名前の完了ジョブの保留ジョブ・ログを除去します。これには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIと同じ効果があります。

例4:現行ジョブの終了

```
ENDJOB JOB(*) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、コマンドが出されるジョブを終了します。必要なクリーンアップが実行された後でSIGTERM信号処理プロシージャから終了するには、現行ジョブを即時に終了してください。即時オプション

ョンが使用された場合であっても、制御はコマンド発行側に戻されます。この状態を処理するために、このコマンドを出したプログラムは戻す必要があります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1342

このコマンドのジョブ名として現行ジョブを使用することはできない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF135D

この時点ではENDJOB OPTION(*IMMED)は許可されません。

CPF1360

ENDJOBABNのため、&3/&2/&1はすでに終了中である。

CPF1361

ジョブ&3/&2/&1が*IMMEDオプションですすでに終了中である。

CPF1362

ジョブ&3/&2/&1が完了した。

CPF1363

ジョブ&3/&2/&1が*CNTRLDですすでに終了中である。

CPF8172

ジョブ&10/&9/&8のスプール制御ブロックに損傷がある。

トップ

ジョブ異常終了 (ENDJOBABN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ異常終了 (ENDJOBABN)コマンドは、終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDを指定したジョブ終了 (ENDJOB)コマンドでは正常に終了できないジョブを終了します。即時終了要求を出してから10分が経過するまでは、ENDJOBABNコマンドをジョブに対して出すことはできません。これにより、通常のジョブ終了機能を試みるのに十分な時間ができます。

ENDJOBABNコマンドが出されると、ジョブ終了処理の大部分（ジョブ・ログのプール、対話式ジョブのジョブ終了画面、および実行中の個々の機能のジョブ終了処理など）がう回されます。試みられるジョブ終了処理の部分は、完了まで5分の猶予しかありません。5分経っても完了しないと、ジョブはその時点で強制的に終了されます。ジョブ・クリーンアップの一部が実行されないため、即時終了の最中であるジョブが終了を完了しないで、そのジョブが使用中である資源を別のジョブまたはシステムが必要としているにだけ、ENDJOBABNコマンドを使用するようにしてください。ENDJOBABNコマンドを使用すると、終了するジョブが使用中の資源の一部が、次のIPLまで使用不可のままにされることがあります。

ENDJOBABNコマンドを使用すると、次のシステム終了にABNORMALのマークが付けられます。そうすると、後続のIPL時に一定のシステム機能が呼び出され、ENDJOBABNコマンドの実行が原因で発生した可能性のある条件が解消されます。ただし、これによって、マシン回復機能が呼び出されることもなければ、アクセス・パスの再作成が必要になることもありません。ジョブが使用している一部の記憶域は、ENDJOBABNコマンドが実行された後で使用不可になることがあります。使用可能な記憶域は、記憶域再利用 (RCLSTG)コマンドを使用して再利用することができます。

ジョブ・ログ書き込みプロセスをう回すると、ENDJOBABNコマンドによってジョブが終了された後、ジョブの状況はJOBLOG PENDING (DSPJOB状況属性画面に表示される)になります。ジョブ・ログ書き込みは、次のIPLまで実行されません。ただし、ジョブ・ログ表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用すれば、ジョブ・ログの内容を印刷または表示することができます。

ENDJOBABNコマンドの実行時に、次の機能が正常に実行されます。

- ジャーナル処理項目
- コミットメント制御

ジョブを異常終了する前に、2フェーズ・コミットが進行中のために疑わしい状態になっている作業論理単位がないことを確認する必要があります。そうなっている場合には、このシステムで保留中のコミット可能な変更のコミットまたはロールバックは行われません。したがって、データベース保全本性は関連したすべてのシステムで維持されない可能性があります。これらの条件を判別する方法に関する特定の指示、およびこれらの条件下でのこのジョブの異常終了の影響すべての説明については、INFORMATION CENTERにあるCOMMITMENT CONTROLの更を参照してください。

- データベース・ファイルを他のジョブで使用可能にすること
- ファイルのロックの解放

このコマンドは、以下の状況では、ジョブの終了に失敗するか、終了するのに少なくとも5分を要します。

- ジョブがハング状態のサブシステム・モニターのもとで実行されたか、異常な低速で進行しているか、異常終了した時（サブシステム・モニターは終了機能の一部を実行します）。
- ジョブで実行中のマシン・インターフェース(MI)命令がハング状態にあるか、異常な低速で進行している時。現在実行中のMI命令が完了するか、中断点に達するまで、ジョブを終了できません。

制約事項:

1. コマンド発行側は、終了中のジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。あるいはコマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。
2. ENDJOBABNコマンドを実行した後で、続けてENDJOBABNコマンドをジョブに対して出すことはできません。
3. ユーザーは読み取りプログラム、書き出しプログラム、サブシステム・モニター、またはシステム・ジョブを終了することはできません。
4. ユーザーは、ジョブの即時終了が開始されてから10分間はENDJOBABNコマンドを実行できません。ジョブの即時終了は次の方法で開始されます。
 - OPTION(*CNTRLD)を含むジョブ終了 (ENDJOB)コマンドが指定されて、遅延時間が終了した時。
 - OPTION(*IMMED)を含むENDJOBコマンドが出された時。
 - OPTION(*CNTRLD)を含むサブシステム終了 (ENDSBS)コマンドが、ジョブを実行中のサブシステムに対して出され、遅延時間が終了した時。
 - OPTION(*IMMED)を含むENDSBSコマンドが、ジョブを実行中のサブシステムに対して出された時。
 - OPTION(*IMMED)またはOPTION(*CNTRLD)を含むシステム終了 (ENDSYS)コマンドが出され、遅延時間が終了した時。
 - OPTION(*IMMED)を含むシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドが出された時。
5. ジョブが非同期信号SIGTERMのハンドラーを定義している場合は、SIGTERM信号ハンドラーを実行できるようにジョブの即時終了が遅延されます。詳細については、システム値QENDJOB LMTを参照してください。SIGTERM信号ハンドラーの実行中は、ENDJOBABNコマンドを実行できません。SIGTERM信号ハンドラーが少なくとも2分間実行した場合は、OPTION(*IMMED)を指定したENDJOBコマンドを使用して、SIGTERM信号ハンドラーを停止してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

終了するジョブの修飾ジョブ名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しないと、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数見つかった場合は、修飾ジョブ名は明示的に、または選択表示を介して提供する必要があります。詳細については、**重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)**パラメーターを参照してください。

トップ

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

*SELECT

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

*MSG 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

トップ

例

```
ENDJOBABN JOB(000310/SMITH/PAYROLL)
```

このコマンドは、ENDJOBコマンドを使用して前に終了しようと試みて失敗したバッチ・ジョブ 000310/SMITH/PAYROLLを終了します。ENDJOBABNコマンドは、ENDJOBコマンドを出してから少なくとも10分間ジョブの終了を待機した後でしか出せません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1342

このコマンドのジョブ名として現行ジョブを使用することはできない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1359

この時点でジョブ&3/&2/&1に対してENDJOBABNを使用することはできない。

CPF1360

ENDJOBABNのため、&3/&2/&1はすでに終了中である。

CPF1362

ジョブ&3/&2/&1が完了した。

[トップ](#)

ジャーナルの終了 (ENDJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル終了(ENDJRN)コマンドは、オブジェクトまたはオブジェクトのリストに対する変更のジャーナル処理を終了するために使用されます。このインターフェースによってサポートされるオブジェクト・タイプは、データ域(*DTAARA)、データ待ち行列(*DTAQ)、バイト・ストリーム・ファイル(*STMF)、ディレクトリー(*DIR)、および記号リンク(*SYMLNK)です。「ルート」(/)、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムに入っているタイプ*STMF、*DIR、または*SYMLNKのオブジェクトだけがサポートされます。

また、特定のジャーナルに現在ジャーナル処理されているサポート・タイプのすべてのオブジェクトがジャーナル処理を停止する場合があります。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

1. アクセス・パス-ジャーナル・アクセス・パスの終了(ENDJRNAP)
2. 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理終了(ENDJRNPF)
3. その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)

制約事項:

- コマンドに指定されたオブジェクトは、コマンドの実行中は理由にかかわらず使用できません。
- OBJ(*ALL)を指定すると、ジャーナル名を指定する必要があります(JRNパラメーター)。
- ジャーナル名およびオブジェクト名のリストを指定する場合には、すべてのオブジェクトは指示するジャーナルに対して現在ジャーナル処理されていなければなりません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。
- パラメーターOBJまたはOBJFIDの少なくとも1つを指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
JRN	ジャーナル	パス名, *OBJ	オプション

オブジェクト (OBJ)

変更がジャーナル処理されなくなるオブジェクト・パス名を最大で300まで指定します。パス名が*STMF, *DIR, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのタイプのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされています。

単一値

***ALL** 示されたジャーナルに現在ジャーナル処理中のサポート・タイプのオブジェクトはすべて、その変更のジャーナル処理を停止します。*ALLを指定する場合は、パラメーターOBJFIDを指定する必要はありません。

要素1: 名前

’オブジェクトのパス名’

変更がジャーナル処理されなくなるオブジェクトのパス名を指定します。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが変更のジャーナル処理を停止させます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは、変更のジャーナル処理を停止させるオブジェクトに組み込まれません。これは *INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパスのサブセットを除外するために使用されることになります。

トップ

ファイル識別コード (OBJFID)

変更がジャーナル処理されなくなるファイルID (FID)を最大300まで指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けされている固有のIDです。このフィールドは16進形式で入力されます。FIDがタイプ*STMF, *DIR, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされています。

ファイルID

FIDで確認されるオブジェクトはジャーナル処理されなくなります。

トップ

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ディレクトリー・サブツリーのオブジェクトが変更のジャーナル処理を停止させるかどうかを指定します。

注: オブジェクト・パス名がディレクトリー・オブジェクトでない限り、このパラメーターは無視されません。

注: OBJFIDパラメーターを指定すると、このパラメーターは無視されます。

*NONE

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

***ALL** 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

トップ

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル処理終了操作のオブジェクトを組み込みまたは除外するために使用されるパターンを最大20まで指定します。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。

このパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

注: OBJFIDパラメーターを指定すると、このパラメーターは無視されます。

要素1: 名前パターン

****** 入力OBJパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが、ジャーナル処理の終了操作に組み込まれるか、またはジャーナル処理の終了操作から除外されます。

名前パターン

ジャーナル処理の終了操作にオブジェクトを組み込むかまたは除外するためにパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、ディレクトリー・サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが変更のジャーナル処理を停止させます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは、変更のジャーナル処理を停止させるオブジェクトに組み込まれません。これは *INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

変更が現在ジャーナル処理されているジャーナルを指定します。

***OBJ** ジャーナルは、指定のオブジェクト・パス名またはオブジェクト・ファイルIDからシステムによって判別されます。

ジャーナル・パス名

変更が現在ジャーナル処理されているジャーナルのパス名を指定します。

[トップ](#)

例

例1:すべての非データベース・ジャーナル処理の終了

```
ENDJRN OBJ(*ALL) JRN('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRN')
```

このコマンドは、タイプが*DIR、*STMF、*SYMLNK、*DTAARA、および*DTAQのすべてのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRNへのジャーナル処理を終了します。

例2:ディレクトリーを省略したジャーナル処理の終了

```
ENDJRN OBJ('/MYPATH' *INCLUDE) ('/MYPATH/MYOBJECT' *OMIT)
```

このコマンドは、オブジェクト/MYPATH/MYOBJECTを除くディレクトリー/MYPATH内のすべての第1レベル・オブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。オブジェクト/MYPATH/MYOBJECTのジャーナル処理は続行されます。

例3:パターン選択によるジャーナル処理の終了

```
ENDJRN OBJ('/MYPATH' *INCLUDE) ('/MYPATH/MYSUBDIR' *OMIT)
SUBTREE(*ALL) PATTERN('*.*.TXT' *INCLUDE)
```

このコマンドは、タイプが*DIR、*STMF、および*SYMLNKのディレクトリー/MYPATH内の、パターン '*.*.TXT' と一致したすべてのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。ディレクトリー/MYPATH/MYSUBDIR内のすべてのオブジェクトのジャーナル処理は続行されます。

例4:ファイルIDを使用したジャーナル処理の終了

```
ENDJRN  OBJFID(00000000000000000007E09BDB000000009  
          000000000000000009E09BDB00000000A)
```

このコマンドは、指定されたIDによって表される、タイプが*DIR, *STMF, *SYMLNK, *DTAARA,または*DTAQのオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。

例5:一連のデータ域上のジャーナル処理の終了

```
ENDJRN  OBJ(' /QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYDATA*.DTAARA')  
          JRN(' /QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYJRN.JRN')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のタイプが*DTAARAの、文字'MYDATA'で始まるオブジェクトに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPF700B

&2個のオブジェクトのうち&1個がジャーナル処理を終了した。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

トップ

アクセス・パス・ジャーナル終了 (ENDJRNAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・パス・ジャーナル終了(ENDJRNAP)コマンドは、ジャーナル処理されたファイルのアクセス・パスのジャーナル処理を終了するために使用されます。

現在特定のジャーナルにジャーナル処理されているすべてのアクセス・パスのジャーナル処理が停止されることもあります。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- 統合ファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理終了(ENDJRN)
- 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理終了(ENDJRNPFF)
- その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)

制約事項:

- コマンドの実行中は、コマンドに指定されたファイルのアクセス・パスをいかなる理由であれ使用できません。
- 一時変更は、FILEパラメーターにリストされているファイルには適用されません。
- FILE(*ALL)を指定した場合には、ジャーナル名を指定しなければなりません。
- ジャーナル名およびファイル名のリストを指定する場合には、リストされたファイルのすべてのアクセス・パスが指示されたジャーナルに現在ジャーナル処理されていなければなりません。
- 物理ファイルの項目のジャーナル処理は、このコマンドの実行によって終了されません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナル処理ファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル処理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRN	ジャーナル	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ジャーナル処理ファイル (FILE)

アクセス・パスのジャーナル処理を終了する最大50のデータベース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指示されたジャーナルに対する現行のアクセス・パスのジャーナル処理がすべて終了されます。

修飾子1: ジャーナル処理ファイル

ファイル名

ジャーナル項目のアクセス・パスが終了するデータベース・ファイル名およびライブラリーを指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

指示されたファイルに対するアクセス・パスのジャーナル処理を終了するジャーナルを指定します。

単一値

***FILE** ジャーナル名が、指定したファイル名からシステムによって判別されます。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

ENDJRNAP FILE(MYLIB/MYFILE)

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILEのすべてのアクセス・パスのジャーナル処理を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6972

&2のファイル&1のアクセス・パスを割り振ることができない。

CPF7008

ファイル&1のアクセス・パスのジャーナル処理を開始または終了することはできない。

CPF703C

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703D

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703E

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF7032

ENDJRNPFまたはENDJRNAPコマンドが正常に実行されなかった。

CPF7033

メンバー&3のジャーナル処理の開始または終了が正常に行なわれなかった。

CPF7034

&2のファイル&1の論理的な損傷。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・オブジェクト終了 (ENDJRNOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・オブジェクト終了(ENDJRNOBJ)コマンドは、オブジェクトまたはオブジェクトのリストに対する変更のジャーナル処理を終了するために使用されます。

また、特定のジャーナルに現在ジャーナル処理されているオブジェクト・タイプ*DTAARAおよび*DTAQが、ジャーナル処理を停止させる場合もあります。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-ジャーナル・アクセス・パスの終了(ENDJRNAP)
- 統合ファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理終了(ENDJRN)
- 物理ファイル-物理ファイル・ジャーナル処理終了(ENDJRNPf)

制約事項:

- コマンドに指定されたオブジェクトは、コマンドの実行中は理由にかかわらず使用できません。
- OBJ(*ALL)またはOBJTYPE(*ALL)を指定すると、ジャーナル名を指定する必要があります(JRNパラメーター)。
- ジャーナル名およびオブジェクト名のリストを指定する場合には、すべてのオブジェクトは指示するジャーナルに対して現在ジャーナル処理されていなければなりません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *ALL	必須, 定位置 2
JRN	ジャーナル	単一値: *OBJ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

オブジェクト (OBJ)

変更がジャーナル処理されなくなる最大300のオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指示したジャーナルに現在ジャーナル処理されている指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが、その変更のジャーナル処理を停止します。

修飾子1: オブジェクト

オブジェクト名

ジャーナル処理が終了されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

ジャーナル処理が終了されるオブジェクト・タイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DTAARA

データ域オブジェクトがそのジャーナル処理を終了させます。

*DTAQ

データ待ち行列オブジェクトがそのジャーナル処理を終了させます。

***ALL** このコマンドでサポートされているオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトがそのジャーナル処理を終了させます。

注: OBJTYPE(*ALL)を指定した場合には、OBJ(*ALL)も指定しなければなりません。

[トップ](#)

ジャーナル (JRN)

オブジェクトの変更が現在ジャーナル処理されているジャーナルの修飾名を指定します。

単一値

***OBJ** ジャーナル処理が、指定のオブジェクト名およびオブジェクト・タイプからシステムによって判別されます。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

指示されたオブジェクトが現在ジャーナル処理されているジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:すべてのデータ域およびデータ待ち行列のジャーナル処理の終了

```
ENDJRNOBJ OBJ(*ALL) OBJTYPE(*ALL) JRN(MYLIB/MYJRN)
```

このコマンドは、タイプが*DTAARAおよび*DTAQのすべてのオブジェクトに対するすべての変更のライブラリーMYLIBのジャーナルMYJRNへのジャーナル処理を停止します。

例2:特定データ域のジャーナル処理の終了

```
ENDJRNOBJ OBJ(DTALIB/MYDTAARA) OBJTYPE(*DTAARA)
```

このコマンドは、ライブラリーDTALIBのデータ域MYDTAARAに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF700B

&2個のオブジェクトのうち&1個がジャーナル処理を終了した。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル物理ファイルの終了 (ENDJRNPf)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PF変更ジャーナル終了(ENDJRNPf)コマンドは、特定の物理ファイルおよびそのすべてのメンバーに対する変更のジャーナル処理を終了するために使用されます。

現在特定のジャーナルにジャーナル処理されているすべての物理ファイルも、ジャーナル処理が停止される可能性があります。

ジャーナル処理の終了したファイルが分散ファイルである時に、ジャーナル処理がローカルで正常に終了した場合には、ENDJRNPfコマンドの配布が試みられます。たとえ配布要求が正常に実行されなくても、ローカル・ファイルはジャーナル処理されません。さらに、ジャーナルおよびファイル名が指定されていて、ファイルが配布された場合には、ファイルがローカルでジャーナル処理されなくても、ENDJRNPf要求の配布が試みられます。

ジャーナル処理を終了するその他の方法については、以下のコマンドを参照してください。

- アクセス・パス-ジャーナル・アクセス・パスの終了(ENDJRNP)
- 統合ファイル・システム・オブジェクト-ジャーナル処理終了(ENDJRN)
- その他のオブジェクト-オブジェクト・ジャーナル処理終了(ENDJRNOBJ)

制約事項:

- コマンドに指定されたファイルの中のメンバーは、コマンドの実行中は、いかなる理由にかかわらず、使用することはできません。
- 一時変更は、FILEパラメーターにリストされているファイルには適用されません。
- FILE(*ALL)を指定した場合には、ジャーナル名を指定しなければなりません。
- ジャーナル名およびファイル名のリストを指定する場合には、すべてのファイルは、指示されたジャーナルに対して現在ジャーナル処理されていないなければなりません。
- 指定するジャーナルはローカル・ジャーナルでなければなりません。
- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ *SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

変更がジャーナル処理されなくなる最大50の物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 現在指定したジャーナルに対してジャーナル処理しているすべての物理ファイルは、以後その変更がジャーナル処理されません。

修飾子1: ジャーナルされた物理ファイル

ファイル名

変更がジャーナル処理されなくなる物理データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナル (JRN)

現在指示されたファイルの変更がジャーナル処理されているジャーナルの名前を指定します。

単一値

***FILE** ジャーナルは、指定のファイル名からシステムによって判別されます。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

現在指定されたファイルの変更がジャーナル処理されているジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

```
ENDJRNPf FILE(MYLIB/MYFILE)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILEのすべてのメンバーに対するすべての変更のジャーナル処理を停止します。このコマンドの実行後に行われた変更はジャーナル処理されません。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF6959

オブジェクト&1は現在ジャーナル処理されていない。

CPF6970

ファイル&1に作成されたアクセス・パスはジャーナル処理中である。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF703B

アクセス・パスのジャーナル処理の暗黙の終了が正常に実行されなかった。

CPF703C

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703D

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF703E

DDLトランザクションによってジャーナル処理操作ができない。

CPF7031

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF7032

ENDJRNPfまたはENDJRNAPコマンドが正常に実行されなかった。

CPF7033

メンバー&3のジャーナル処理の開始または終了が正常に行われなかった。

CPF7034

&2のファイル&1の論理的な損傷。

CPF704C

ジャーナル処理がローカルで終了されたが、分散要求は正しく実行されなかった。

CPF704D

ENDJRNPFCOMMANDコマンドが正しく実行されなかった。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

回線回復終了 (ENDLINRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線回復終了(ENDLINRCY)コマンドは、特定の回線に対する自動的エラー回復手順を終了します。このコマンドの実行後に何かのタイプの障害が起った場合には、システム操作員に照会メッセージが送られます。

回線に対するエラー回復手順を再開するためには、回線回復手順再開(RSMLINRCY) コマンドを使用してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	行	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

行 (LINE)

回復手順を停止する通信回線の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

ENDLINRCY LINE(NYC2)

このコマンドは、NYC2という名前の回線に対してのエラー・リカバリー手順を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2704

回線記述&1が見つからない。

CPF5917

回線記述&1の使用は認可されていない。

CPF5932

回線&1をアクセスすることができない。

CPF5933

回線&1がオンに構成変更されていない。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・ログ・サーバーの終了 (ENDLOGSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・ログ・サーバーの終了 (ENDLOGSVR)コマンドは、ジョブ・ログ・サーバーを終了するために使用されます。ジョブ・ログ・サーバーは、ジョブ・ログ保留状態であるジョブのジョブ・ログを書き込みます。このコマンドが出された時に複数のジョブ・ログ・サーバー・ジョブが活動状態である場合は、すべてのジョブ・ログ・サーバー・ジョブが終了されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

使用上の注意:

- 特定のジョブ・ログの実動だけを停止したい場合は（たとえば非常に長い場合、多くの資源を消費するため）、このコマンドの代わりにジョブの変更(CHGJOB)コマンドまたはジョブの終了(ENDJOB)コマンドを使用してください。

サーバーが現在作業しているジョブを判別するには、ジョブ・ログの表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用してサーバー・ジョブのジョブ・ログを表示してください。サーバー・ジョブのジョブ・ログには、通知メッセージCPI1307「&3/&2/&1のジョブ・ログを書き込み中」が、そのメッセージに指定されたジョブのジョブ・ログを書き込んでいる間に記録されます。

後でCPI1307に指定されたジョブの完了ジョブ・ログを書き込みできるようにしたい場合は、CHGJOBコマンドを使用して*PNDをLOGOUTPUTパラメーターに指定し、ジョブを変更します。

ジョブ・ログが不要であり、保存せずに後で再書き込みできるようにしたい場合は、LOGLMT(0)を指定してCPI1307メッセージに指定されたジョブでENDJOBコマンドを使用してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション、位置 1

トップ

終了方法 (OPTION)

ジョブ・ログ・サーバーを制御された方法で終了するか、あるいは即時に終了するか指定します。

***CNTRLD**

サーバーは制御された方法で終了します。書き込み処理中であるジョブ・ログは、完了するまで続行できます。

***IMMED**

サーバーは即時に終了されます。ジョブ・ログ・サーバーによって現在処理されているジョブはシステムから除去されず、現在書き込みされているジョブ・ログは完了されません。不完全なジョブ・ログは、新規ジョブ・ログ・サーバーの開始時に始めから再書き込みされます。

トップ

例

ENDLOGSVR

このコマンドは、制御された方法でジョブ・ログ・サーバーを終了します。現在ジョブ・ログ・サーバーによってスプール・ファイルに書き込まれているジョブ・ログは、完了できます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF134B

ジョブ・ログ・サーバーが終了していません。

トップ

モード終了 (ENDMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード終了(ENDMOD) コマンドは、特定の拡張プログラム間通信機能(APPC)リモート・ロケーションの単一モードまたはすべての活動モードを終了（非活動化）します。モード開始(STRMOD)コマンドを実行してモードを開始するまで、そのモードは非活動状態になったままです。このコマンドを使用して、特定のリモート・ロケーションのすべてのセッションを終了し、活動交換接続を切断することができます。また、ユーザーはリモート・システムで要求済みだが、まだ実行されていない活動の処理方法を指定することもできます。

このコマンドの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

制約事項: このコマンドは、リモート・ロケーションのCLIENT ACCESS/400モード(QPCSUPP)を終了（非活動化）するためには使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 1
DEV	装置	名前, *LOC	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR, *ALL	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
CPLPNDRQS	保留された要求の完了	*NO, *YES	オプション

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

1つまたは複数のモードを終了するリモート・ロケーションのリモート・ロケーション名を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

装置記述名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** 装置記述はシステムによって決められます。

装置名 装置記述名を指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

終了するモードを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

***ALL** リモート・ロケーションによって現在使用中のすべてのモードが終了します。

BLANK

モード名 (8文字のブランク文字からなる) が使用されます。

モード名

モード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であって、使用することはできません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** ローカル・ロケーション名はシステムによって決められます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

このロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションに対する特定のローカル・ロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーション名を指定します。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションと一緒に使用されるリモート・ネットワーク ID を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LOC** システムがリモート・ネットワーク ID を選択します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

使用されるリモート・ネットワーク ID を指定してください。

[トップ](#)

保留された要求の完了 (CPLPNDRQS)

リモート・ロケーションが保留中の作業を完了することができるか、あるいは保留された作業を開始可能になる前に終了しなければならないかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 要求した活動は、現在リモート・ロケーションで進行中であれば完了することができます。要求したがりリモート・ロケーションで開始されていない活動は実行されません。

***YES** モードの終了前に、要求したすべての活動を完了することができます。

[トップ](#)

例

```
ENDMOD RMTLOCNAME(APPCRLOC) MODE(APPCMOD)
```

このコマンドは、リモート・ロケーションAPPCRLOCに対してAPPCMODという名前のモードを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF598B

1つまたは複数のモードで&1コマンドが正常に実行されなかった。

[トップ](#)

メール・サーバー・フレームワークの終了 (ENDMSF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メール・サーバー・フレームワーク終了(ENDMSF)コマンドは、システム作業サブシステム(QSYSWRK)中のメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	<u>*CNTRLD</u> , *IMMED	オプション、位置 1
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプション、位置 2

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

システム作業サブシステム(QSYSWRK)中のメール・サーバー・フレームワーク・ジョブが即時に終了するか、あるいは制御つきで終了するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*CNTRLD

すべてのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブは制御つきで終了します。これによりフレームワーク・ジョブは現在のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージの処理を完了してから終了することができます。

*IMMED

すべてのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブが即時に終了します。ジョブが終了した時に処理中であつたどのメール・サーバー・フレームワーク・メッセージも、メール・サーバー・フレームワークが再始動される時に処理されます。

[トップ](#)

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御つき終了の時にメール・サーバー・フレームワーク・ジョブがその処理を完了するのに可能な時間（秒数）を指定します。OPTION(*IMMED)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。遅延時間が終わるまでにジョブが終了しなかった場合には、ジョブは即時に終了します。

考えられる値は、次の通りです。

30 メール・サーバー・フレームワーク・ジョブが終了するまでに30秒の最大遅延時間が使用可能です。

遅延時間

ジョブが終了するまでの最大遅延時間を秒数で指定してください。有効な値の範囲は1-999999です。

[トップ](#)

例

例1: 制御された方法でのメール・サーバー・フレームワークの終了

```
ENDMSF OPTION(*CNTRL) DELAY(60)
```

このコマンドは、システム作業サブシステムのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを制御された方法で終了して、現在処理中のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージの処理が完了するのを60秒間待機します。

例2: メール・サーバー・フレームワークの即時終了

```
ENDMSF OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、システム作業サブシステムのメール・サーバー・フレームワーク・ジョブを即時終了します。メール・サーバー・フレームワーク・ジョブは、現在処理中のメール・サーバー・フレームワーク・メッセージの処理を完了しません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFAFAB

ENDMSFが正常に完了しない。

CPFAFAC

ENDMSFが正常に完了した。しかし、エラーが起きました。

CPFAFFF

プログラム&1でシステムの内部エラー。

[トップ](#)

NFSサーバーの終了 (ENDNFSSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル・システム・サーバー終了(ENDNFSSVR)コマンドは、NFS サーバー・デーモンの1つまたはすべてを終了させます。これらのデーモン・ジョブの詳細については、NETWORK FILE SYSTEM BOOK (SC41-5714)を参照してください。

SERVER(*ALL)を指定する必要があります。これは、次の順序でデーモンを終了させます。(この順序は、ネットワーク・ファイル・システム・デーモンを終了させる場合に望ましい順序です。)

- ネットワーク・ロック・マネージャー(NLM)デーモン
- ネットワーク状況モニター(NSM)デーモン
- マウント(MNT)デーモン
- サーバー(SVR)デーモン
- ブロック入出力(I/O) (BIO)デーモン
- リモート・プロシージャ呼び出し(RPC) RPCBINDデーモン

1つのデーモンだけを終了させる場合には、NFSデーモンを終了させる適切な順序と、上記以外の順序でデーモンを終了させた場合に考えられる結果について理解するようにしてください。NFSデーモン終了の詳細については、NETWORK FILE SYSTEM BOOK (SC41-5714)を参照してください。

実行中でない1つまたは複数のデーモンを終了させようとした場合に、そのことがコマンドの失敗原因になることはなく、終了を要求しているその他のデーモンの終了が続行されます。

NFSデーモンが実行中かどうかを判別するためには、活動ジョブ処理(WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRK内に、次のジョブが存在しているか調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン
QNFSBIOD ブロックI/O (BIO)デーモン
QNFSNFSD サーバー(SVR)デーモン
QNFSMNTD マウント(MNT)デーモン
QNFSNSMD ネットワーク状況モニター(NSM)デーモン
QNFSNLMD ネットワーク・ロック・マネージャー(NLM)デーモン

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. 他の担当者によって開始されたデーモン・ジョブを終了させるには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー・デーモン	*ALL, *RPC, *BIO, *SVR, *MNT, *NSM, *NLM	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
ENDJOBTIMO	デーモン終了のタイムアウト	1-3600, <u>30</u> , *NOMAX	オプション、定位置 2

トップ

サーバー・デーモン (SERVER)

終了させるネットワーク・ファイル・システム(NFS)デーモンを指定します。

***ALL** すべてのNFSデーモンを終了します。

***RPC** NFSリモート・プロシージャ呼び出し(RPC) RPCBINDデーモンを終了します。

***BIO** 実行中のすべてのNFSブロック入出力(I/O)デーモンが終了されます。

***SVR** 実行中のすべてのNFSサーバー・デーモンを終了します。

***MNT** NFSマウント・デーモンを終了します。

***NSM** NFSネットワーク状況モニター・デーモンを終了します。

***NLM** NFSネットワーク・ロック・マネージャー・デーモンを終了します。

これは必須パラメーターです。

トップ

デーモン終了のタイムアウト (ENDJOBTIMO)

それぞれのデーモンが正常に終了されるのを待機する秒数を指定します。デーモンがタイムアウト値以内に終了しなかった場合には、コマンドが正常に実行されません。

30 デーモン・ジョブが終了するまで30秒間待機します。

***NOMAX**

デーモンが終了するまで永久に待機します。タイムアウトは起こりません。

1から3600

コマンドがタイムアウトになって失敗するまでにデーモンが終了するのを待機する秒数を指定してください。30秒に満たないタイムアウト値は30秒に切り上げられます。

トップ

例

例1: すべてのデーモンの終了

```
ENDNFSSVR SERVER(*ALL)
```

このコマンドは、実行中のすべてのNFSデーモンを終了します。

例2: 単一デーモンの終了

```
ENDNFSSVR SERVER(*MNT) ENDJOBTIMO(*NOMAX)
```

このコマンドは、NFSマウント・デーモンを終了して、それが終了するまで永遠に待機します。マウント・デーモンはすでに実行されていて、その他のデーモンは適切な順序で終了されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

NETWARE接続の終了 (ENDNTWCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE接続終了(ENDNTWCNN)コマンドによってユーザーは、活動状態のNETWARE接続を終了することができます。このコマンドは、特定のNETWAREサーバー上の特定のNETWARE接続を終了するために使用することができます。この接続は、ISERIESを起点としていることも、また、起点としていないこともあります。

制約事項: ユーザー独自のもの以外の接続を終了するためには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 1
CNNBR	接続番号	1-65534	必須, 定位置 2

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

1つまたは複数の接続が終了されるNETWAREサーバーを指定します。

名前 ネットワークに対して定義されている活動サーバーの名前を指定します。

[トップ](#)

接続番号 (CNNBR)

終了する活動状態のNETWARE接続の接続番号を指定します。

1-65534

終了するNETWARE接続の接続番号を指定します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

FPE0103

NETWARE接続&1が終了しなかった。

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース回復の終了 (ENDNWIRCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース回復終了(ENDNWIRCY)コマンドは、ネットワーク・インターフェース記述の自動エラー回復手順を終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWI	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWI)

回復が終了されるネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

ENDNWIRCY NWID(ISDNNET)

このコマンドは、ISDNNETという名前のネットワーク・インターフェースに対しての自動エラー・リカバリ手順を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF591A

ネットワーク・インターフェース記述&1は認可されていない。

CPF593A

ネットワーク・インターフェース&1はオンに構成変更されていない。

CPF593B

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF593C

ネットワーク・インターフェース&1をアクセスすることができない。

[トップ](#)

パススルー終了 (ENDPASTHR)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パススルー終了(ENDPASTHR)コマンドは、パススルー・セッションを終了させます。このENDPASTHRコマンドは、ユーザーをターゲット・システムからサインオフし、拡張プログラム間通信機能(APPC)セッションを終了します。これによって仮想表示装置はサブシステムから解放され、オンへの構成変更保留状態に戻ります。パススルー・セッションの各中間ノードにあるジョブも終了します。制御権は、ソース・システムのパススルー開始(STRPASTHR)コマンドの次のコマンドに戻されます。

注: ENDPASTHRコマンドでは、その処理の一部としてSIGNOFFコマンドが使用されます。SIGNOFFコマンドがライブラリー・リストのQSYS/SIGNOFFの前にあるシステムの場合には、ENDPASTHRによってSIGNOFFコマンドが使用されます。SIGNOFFコマンドでENDPASTHRコマンドを使用してはなりません。これを使用すると、パススルー・セッションを終了させた時にシステムがループ状態になります。

ターゲット・システムに2次対話式ジョブがある場合には、ENDPASTHRコマンドによってパススルー・セッションは終了されません。ENDPASTHRコマンドを入力する前に(SIGNOFFまたはENDJOBを使用して)ジョブの1つを終了しなければなりません。

ENDPASTHRコマンドが入力され、パススルー・セッションがない場合には、エラー・メッセージが送られます。

パススルーの詳細については、REMOTE WORK STATION SUPPORT (SC41-5402)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOG	ジョブ・ログ	<u>*NOLIST</u> , *LIST	オプション、位置 1

トップ

ジョブ・ログ (LOG)

ターゲット・システムでジョブ・ログを保管するかどうかを指定します。

*NOLIST

ジョブ・ログの情報はジョブの終了時に削除されます。

***LIST** ターゲット・システムでジョブ・ログが保管されます。

トップ

例

ENDPASTHR LOG(*LIST)

このコマンドは、パススルー・セッションを終了して、ジョブ・ログを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8914

ENDPASTHRコマンドを使用することはできない。

CPF8915

ENDPASTHRを使用することはできない。システム要求ジョブが活動中です。

[トップ](#)

PERFORMANCE EXPLORERの終了 (ENDPEX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PERFORMANCE EXPLORER終了(ENDPEX)コマンドは、PERFORMANCE EXPLORERツールにデータ収集の停止を指示します。このコマンドでは、終了するPERFORMANCE EXPLORERセッションのインスタンスを識別する要求に伴うセッション名が必要です。

ユーザーは、データ収集セッションを終了するか、あるいはデータ収集セッションを中断することができます。ユーザーがセッションの終了を選択した場合には、収集されたデータは、DTAOPTパラメーターに指定された値に基づいて、タイプ*MGTCOL のオブジェクトに入れられるか、あるいはデータベース・ファイルのセットに入れられるか、あるいは削除されます。

ユーザーがパフォーマンス・データの収集の中断を選択した場合には、セッションは活動状態のままです。中断されたセッションでデータの収集を再開するためには、ユーザーはSTRPEX (PERFORMANCE EXPLORER開始) コマンドの後続の呼び出しでOPTION(*RESUME)を指定することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. 指定されたDTALIBおよびMGTCOLライブラリーに対する*ADDおよび*EXECUTE権限が必要です。
3. 既存の管理収集オブジェクトを置き換える場合には、管理収集オブジェクトに対する*OBJMGMT, *OBJEXIST,および使用権限が必要です。
4. このコマンドを使用するには、*SERVICE特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能を許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法情報の変更(QSYCHFUI) APIも、トレース操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
5. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSRV
6. 2次スレッドからENDPEXを実行する場合には、QAYPE*ファイルがDTALIBライブラリーにすでに存在していなければなりません。これらのファイルは、ENDPEX DTAOPT(*LIB)を実行して、1次スレッドで作成されなければなりません。
7. 2次スレッドからENDPEXを実行する場合には、DTAOPT(*MGTCOL)オブジェクトを指定することはできません。
8. ENDPEXを同時に実行するために、同じジョブ内で2つのスレッドを使用することはできません。最初にENDPEXを出したスレッドがコマンドの実行を完了するのを、2番目のENDPEXが待機します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前, <u>*SELECT</u>	オプション, 位置 1
OPTION	オプション	<u>*END</u> , *SUSPEND, *STOP	オプション
DTAOPT	データ・オプション	<u>*LIB</u> , *MGTCOL, *DLT	オプション
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	オプション
DTAMBR	データ・メンバー	名前, <u>*SSNID</u>	オプション
MGTCOL	管理コレクション	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 管理コレクション	名前, <u>*SSNID</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>QPEXDATA</u>	
RPLDTA	データの置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
NBRTHD	スレッドの数	1-256, <u>*CALC</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

[トップ](#)

セッションID (SSNID)

終了するPERFORMANCE EXPLORERセッションを指定します。これは、STRPEX (PERFORMANCE EXPLORER開始) コマンドに指定されたセッションID です。

*SELECT

活動状態のすべてのPERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションのリスト・パネルが、終了するセッションを選択するオブジェクトを示して表示されます。*SELECTが有効なのは、ENDPEX コマンドが対話式に実行中の場合だけです。コマンドがバッチで実行中の場合には、セッションIDを指定しなければなりません。

セッションID

終了するPERFORMANCE EXPLORERデータ収集セッションを指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

データ収集セッションを終了するか、あるいはセッションでのパフォーマンス・データの収集を中断するだけなのかを指定します。

*END PERFORMANCE EXPLORERセッションが終了されます。ユーザーには、収集されたデータを処理する3つの方法から選択するためのプロンプトが出されます。

1. 収集されたデータのデータベース・ファイルのセットへの保管。
2. 単一ファイルへのデータの保管 (分析のためにデータを弊社に送るために使用)。
3. データの破棄。

*SUSPEND

PERFORMANCE EXPLORERセッションが中断されて、セッションは活動状態のままですが、このセッションの追加のデータは収集されません。セッションが中断されると、OPTION(*RESUME)を

指定したSTRPEXを使用してデータ収集を再開するか、あるいはOPTION(*END)を指定したENDPEXを指定して中断されたセッションを終了することができます。

***STOP**

PERFORMANCE EXPLORERセッションが終了されて、ジョブは収集から除去されます。このセッションは再び開始できません。アドレスがオブジェクト名に解決されないし、データベース・ファイルは作成されません。アドレス・データおよびデータベース・ファイルは、ENDPEXのOPTION(*END) およびDTAOPT(*LIBまたは*MGTCOL)オプションを指定して後から作成することができます。ただし、オブジェクトを削除した場合には、PERFORMANCE EXPLORERは一部のアドレスを解決できない場合があります。*STOPと*ENDの間が長くなればなるほど、解決されるアドレス・データが不完全なものになる傾向にあります。

トップ

データ・オプション (DTAOPT)

収集されたデータの処理方法を指定します。収集されたデータはデータベース・ファイルのセットに、または管理収集オブジェクト(*MGTCOL),あるいはこの両方に保管することができます。収集されたデータの保持に使用される一時管理収集オブジェクトは削除されます。収集されたデータを保管しないで一時管理収集オブジェクトを削除するには、*DLTを指定してください。

注: このパラメーターが有効なのはOPTION(*END)を指定した場合だけです。

***LIB** セッションで収集されたすべてのパフォーマンス・データがDTALIBパラメーターに指定したライブラリーにあるデータベース・ファイルのセットに記憶されることを示します。PERFORMANCE EXPLORERツールは、ライブラリーが初めてパフォーマンス・データの保管に使用される場合に、必要なすべてのファイルを作成します。セッション・データが記憶される各ファイルのメンバー名はDTAMBRパラメーターによって制御することができますが、省略時の値はセッションIDと同じ名前です。

***MGTCOL**

収集されたすべてのデータを管理収集オブジェクト (タイプ*MGTCOL)に保管することを指示します。データベース・ファイルは作成されません。データを別のシステムに配送するか、あるいは分析のためにサービス・プロバイダーに配送する場合には、このオプションを使用することができます。

***DLT** セッションで収集されたパフォーマンス・データは、システムから削除されます。

トップ

データ・ライブラリー (DTALIB)

収集されたパフォーマンス・データが記憶されるデータベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、ユーザーがDTAOPT(*LIB)を指定した場合だけです。

QPEXDATA

QPEXDATAライブラリーは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集されたデータを保管するために推奨されるライブラリーです。初めてPERFORMANCE EXPLORERツールを使用するとき、このライブラリーがユーザー用に作成され、情報を保管するデータベース・ファイルのセットがこのライブラリーに作成されます。

ライブラリー名

収集されたデータを記憶するためのライブラリーの名前を指定します。ライブラリーが存在しない場合は、このコマンドはエラー状態で終了します。ライブラリーを作成した後で、コマンドをやり直してください。指定したライブラリーにまだパフォーマンス・データベース・ファイルがない場合には、ファイルが作成され、データが記憶されます。

[トップ](#)

データ・メンバー (DTAMBR)

収集されたパフォーマンス・データが記憶されるデータベース・メンバーに使用される名前を指定します。指定した名前のメンバーが存在していない場合には、作成されます。

注: このパラメーターが有効なのは、ユーザーがDTAOPT(*LIB)を指定した場合だけです。

*SSNID

メンバー名は、SSNIDパラメーターに指定した値と同じです。

メンバー名

収集されたデータをPERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに保管するとき使用するメンバー名を指定してください。

[トップ](#)

管理コレクション (MGTCOL)

収集されたパフォーマンス・データを保管する管理収集オブジェクトの名前を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、DTAOPT(*MGTCOL)を指定した場合だけです。

*MGTCOLオブジェクト名は、次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

QPEXDATA

QPEXDATAライブラリーは、PERFORMANCE EXPLORERツールで収集されたデータを保管するために推奨されるライブラリーです。初めてPERFORMANCE EXPLORERツールを使用するとき、このライブラリーがユーザー用に作成されます。

データ・ライブラリー名

収集されたデータを記憶するためのライブラリーの名前を指定します。ライブラリーが存在しない場合は、このコマンドはエラー状態で終了します。ライブラリーを作成した後で、コマンドをやり直してください。

*SSNID

収集されたパフォーマンス・データを収めるための管理収集オブジェクトを作成する時に、SSNIDパラメーターに指定した名前が使用されます。

管理収集名

収集されたパフォーマンス・データを収めるための管理収集オブジェクトを作成する時に使用する名前を指定します。

[トップ](#)

データの置き換え (RPLDTA)

既存のファイル・メンバーまたは管理収集オブジェクトを新しいパフォーマンス・データで置き換えるかどうかを指定します。DTAMBRが指定されて、指定されたライブラリー(DTALIBパラメーター)に入っているPERFORMANCE EXPLORERデータベース・ファイルに同じ名前のメンバーがすでに存在する場合には、このパラメーターはメンバーのデータを置き換えるかどうかを制御します。MGTCOLが指定されて、同じ名前のオブジェクトがすでに存在する場合には、そのオブジェクトのデータを置き換えるかどうかを、このパラメーターが制御します。

- *NO** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られません。これにより、ユーザーが不用意に既存のデータを上書きすることがなくなります。
- *YES** 同じ名前のメンバーがすでに存在している場合には、古いデータは失われ、新しいデータで置き換えられます。

トップ

スレッドの数 (NBRTHD)

終了するセッション中のデータを処理するためにENDPEXコマンドで使用する同時スレッド数を指定します。1以上の数値を指定することによって、マルチプロセッサ・システムでは特に、ENDPEXコマンドで使用可能なCPUサイクルを利用することができます。また、これによってコマンドの処理速度は高くなりますが、システム上の他のジョブのパフォーマンスを低下させることもあります。ENDPEXコマンドを実行するジョブの優先順位を高いものに変更することによって、この影響を最小限にすることができます。また、ディスク・サブシステムが追加スレッドを処理できることを検査する必要もあります。

- *CALC** システムは、CPUまたはディスク資源を過剰に使用しないコマンド処理を行なうためにスレッドの適切な数を計算します。
- *MAX** システムは、コマンド処理を行なうためにスレッドの最大数を計算します。処理時間を最小のものにするために、すべての資源で使用効率を最大化しようとします。これによって、システム上の他のすべてのジョブでかなりの性能低下が起こることがあります。

スレッド数

収集されたデータの処理に使用するために、ENDPEXコマンドのスレッド数を指定します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

収集されるデータのタイプを簡単に記述するテキストを指定します。

- *BLANK** テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

例

例1: セッションを終了してデータベース・ファイルを保管

```
ENDPEX  SSNID(TEST3)  OPTION(*END)  DTAOPT(*LIB)
        DTAMBR(SYS1DATA)
```

このコマンドは、TEST3という名前のPERFORMANCE EXPLORERセッションを終了して、ライブラリーQPEXDATAにデータベース・ファイルのセット内のデータを保管します。各ファイルに使用するメンバー名はSYS1DATAです。

例2: セッションを終了してデータを削除

```
ENDPEX  SSNID(TESTRUN)  OPTION(*END)  DTAOPT(*DLT)
```

このコマンドは、TESTRUNという名前のPERFORMANCE EXPLORER セッションを終了して、収集されたパフォーマンス・データを削除します。

例3: セッションを終了して*MGTCOLを保管

```
ENDPEX  SSNID(TEST3)  OPTION(*END)  DTAOPT(*MGTCOL)
        MGTCOL(MYLIB/SYS1DATA)  NBRTHD(*CALC)
```

このコマンドは、TEST3という名前のPERFORMANCE EXPLORER セッションを終了して、SYS1DATAという名前の管理収集オブジェクトのライブラリーMYLIBの管理収集オブジェクトにデータを保管します。ENDPEX は、スレッドの数を計算して、この要求を処理します。このスレッドの数は、残りのシステムを中断することなく、可能な限り迅速にENDPEX処理を実行します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFAF06

ENDPEXコマンドが正常に行なわれませんでした。理由コードは&1です。詳細については、明細を参照してください。

[トップ](#)

パフォーマンス収集の終了 (ENDPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集終了(ENDPFRCOL)コマンドは、システム・レベルの収集を停止します。収集サービスを使用している他のクライアント・アプリケーションがない場合には、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)も終了します。

クライアント・アプリケーションが収集サービスを使用している場合には、強制終了パラメーターも指定しない限り、サーバー・ジョブは引き続き実行します。クライアント・アプリケーション（たとえば、ISERIESナビゲーター・モニターやパフォーマンス・データ収集機能APIなど）が使用されているときにサーバー・ジョブを強制終了すると、それらのクライアントがデータ収集の失敗を経験することになります。

他のシステム機能は、収集サービスを開始可能です。このコマンドがサーバー・ジョブの現行インスタンスを終了しても、サーバー・ジョブの再開が妨げられることはありません。サーバー・ジョブを開始できる機能には、PM ISERIES、マネージメント・セントラル・サーバー、およびパフォーマンス・データ収集機能APIが含まれます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FRCCOLEND	強制終了	*NO, *YES	オプション、定位置 1

[トップ](#)

強制終了 (FRCCOLEND)

収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSPFRCOL)を強制終了するかどうかを決定します。

***NO** QYPSPFRCOLジョブは、クライアント・アプリケーションが使用していない場合に終了されるだけです。

***YES** QYPSPFRCOLジョブは、即時に強制終了されます。

[トップ](#)

例

例1: パフォーマンス収集の終了

ENDPFRCOL

このコマンドは、システム・レベルのパフォーマンス・データの収集を終了します。収集サービスを使用しているクライアント・アプリケーションがない場合には、このコマンドは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)も終了します。クライアント・アプリケーションが収集サービスを使用している場合には、QYSPFRCOLジョブは引き続き実行します。

例2: パフォーマンス収集の強制終了

```
ENDPFRCOL FRCCOLEND(*YES)
```

このコマンドは、クライアント・アプリケーションが使用している場合でも、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)を強制終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPFB94A

収集プログラムの通信エラー。理由コードは&1です。

[トップ](#)

パフォーマンス・トレース終了 (ENDPFRTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス・トレース終了(ENDPFRTRC)コマンドは、QPM_STRPFRTRCトレース・テーブル中のパフォーマンス・トレース・データの収集を停止し、任意指定でパフォーマンス・トレース・データをデータベース・ファイルに書き込みます。QPM_STRPFRTRCトレース・テーブルは、データがデータベース・ファイルに書き込まれるかどうかにかかわらず、削除されます。

このコマンドは、パフォーマンス・トレース開始(STRPFRTRC)コマンドで開始されたパフォーマンス・トレースを終了するために使用します。ただし、これはQPM_STRPFRTRCトレース・テーブルで活動状態のトレースを終了しその処理を試みます。

制約事項:

1. このコマンドは共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QSRV

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DMPTRC	トレースのダンプ	*NO, <u>*YES</u>	オプション、位置 1
MBR	メンバー	名前	オプション
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

[トップ](#)

トレースのダンプ (DMPTRC)

トレース・データをパフォーマンス・データベース・ファイルQAPMDMPTにダンプされるかどうかを指定します。データをダンプしない場合には、トレース・テーブルが削除される時にこれは失われます。

***YES** トレース・データがあればダンプされます。

***NO** トレース・データはダンプされません。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

トレース・テーブル・データがダンプされるQAPMDMPTデータベース・ファイル内のメンバーを指定します。トレースのダンプ (DMPTRC)パラメーターに*YESが指定されている場合には、このパラメーターに値を指定しなければなりません。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

トレース・データ用のデータベース・ファイルが入っているライブラリーを指定します。指定したライブラリーの中にこのファイルが見つからない場合には、システムは自動的にそのライブラリーの中にファイルを作成します。

QPFRDATA

IBM提供のパフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが、トレース・データのデータベース・ファイルを入れるのに使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

データベース・メンバーを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

例

例1:パフォーマンス追跡の終了

```
ENDPFRTRC DMPTRC(*YES) MBR(MYDATA)
```

この例では、現行追跡が終了され、データがライブラリーQPFRDATA中のファイルQAPMDMPTのメンバーMYDATAに書き込まれます。そして追跡テーブルが削除されて、この追跡に使用される記憶域を解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

メッセージについては、TRCINTおよびDMPTRCコマンドを参照してください。

[トップ](#)

プログラム終了 (ENDPGM)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム終了(ENDPGM)コマンドは、CLプロシーチャーの終わりを指定します。このコマンドが処理されると、RETURNコマンドの場合と同じ結果が生じます。すなわち、呼び出し側プログラムの中のCALLコマンドの次のコマンドに制御権が返されます。

CLプロシーチャーの終わりには、ENDPGMコマンドは不要です。CLプロシーチャー・ソース・ファイルの最後のステートメントに達して、ENDPGMコマンドが見つからない場合には、コンパイラーによってENDPGMコマンドと見なされます。

制約事項:このコマンドはCLプロシーチャー内でのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

```
PGM
:
ENDPGM
```

このCLプロシーチャーは、パラメーターを含まないPGMコマンドによって識別され、ENDPGMコマンドによって終了されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

プログラム・エクスポート・リストの終了 (ENDPGMEXP)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム・エクスポート・リストの終了(ENDPGMEXP)バインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロック中のエクスポートのリストを終了します。

このステートメントにパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDPGMEXP

このバインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム用にエクスポートされる変数またはプロシージャのリストの終わりをマークします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

プログラム・プロファイリングの終了 (ENDPGMPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

プログラム・プロファイル作成終了(ENDPGMPRF)コマンドは、CHGPGM (プログラム変更)、CHGSRVPGM (サービス・プログラム変更) CLコマンドで、あるいはCHGMOD (モジュール変更) CLコマンドを使用してモジュールを作成する場合に、PRFDTA(*COL)オプションを使用して、プロファイル・データを収集できるようになっているプログラムまたはサービス・プログラムに関するプログラム・プロファイル・データの収集を終了します。

制約事項:

- このコマンドは、共通(*EXCLUDE)権限なし、およびコマンドに対する使用(*USE)権限をもつQPGMRユーザー・プロファイル付きで出荷されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDPGMPRF

このコマンドは、プログラム・プロファイル・データ収集を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5CAA

プログラムのプロファイル作成中に予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

事前開始ジョブの終了 (ENDPJ)コマンドは、すべてのジョブを終了し、活動サブシステム中の事前開始ジョブ項目に関連したインライン・データ・ファイルがある場合にそれも終了します。

ジョブは要求を待機することもできるし、あらかじめ要求と関連づけることもできます。また、終了するジョブに関連したスプール出力ファイルは終了することもできるし、出力待ち行列上にそのまま残すこともできます。各ジョブ・ログに書き込まれるメッセージの数の限界も変更できます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限。
- 独立補助記憶域プール(ASP 33から255)内の出力待ち行列に入っているスプール出力ファイルは削除されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBS	サブシステム	名前	必須, 定位置 1
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	終了方法	*CNTRL, *IMMED	オプション, 定位置 3
DELAY	制御された終了遅延時間	1-999999, <u>30</u>	オプション, 定位置 4
SPLFILE	スプール・ファイル削除	*NO, *YES	オプション, 定位置 5
LOGLMT	ログ項目の最大数	整数, *SAME, *NOMAX	オプション

トップ

サブシステム (SBS)

事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 事前開始ジョブ項目が入っている活動サブシステムの名前を指定してください。

プログラム (PGM)

事前開始ジョブ項目を識別するプログラムの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 事前開始ジョブ項目を識別するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

終了方法 (OPTION)

アプリケーション・プログラムがジョブの終わり処理を実行できる制御された方式によってジョブが終了されるか、あるいはジョブが即時に終了されるかを指定します。

*CNTRLD

ジョブは制御された方式で終了します。これによって、実行中のプログラムはジョブの終わり処理を実行することができます。終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。アプリケーションは、ジョブを終了する前にクリーンアップを完了するために、DELAYパラメーターに指定された時間があります。

*IMMED

ジョブは即時に終了します。終了するジョブに非同期信号SIGTERMの信号処理プロシージャがあると、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成され、QENDJOBLMTシステム値が時間制限を指定します。実行中のプログラムは、SIGTERM信号の処理による以外、ジョブ終了処理を実行できません。

注: *IMMED値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御された終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

プログラムが制御された方式による終了の時に、ジョブの終わり処理を完了できる時間（秒数）を指定します。遅延時間の終わりまでにジョブの終わり処理が完了しなかった場合には、ジョブが即時に終了します。システムのクリーンアップだけが実行されます。このパラメーターは、終了方法 (OPTION)パラメーターに*IMMEDが指定された場合には無効です。

30 各事前開始ジョブが終了するまでにジョブの終わり処理に30秒の最大遅延時間が与えられます。

1から999999

各事前開始ジョブが終了するまでの最大遅延時間（秒数）を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル削除 (SPLFILE)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルが書き出しプログラムによる通常処理のために保持されるか、あるいは削除されるかを指定します。

***NO** 終了するジョブによって作成されたスプール出力ファイルは、書き出しプログラムによる通常処理のために保持されます。ジョブが終了すると、スプール・ファイルを切り離すのか、あるいはジョブとともに保管するのかは、スプール・ファイル処置(SPLFACN)ジョブ属性によって判別されます。

***YES** 終了しようとしているジョブが作成したスプール出力ファイルのうち、システム補助記憶域プール (ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)の出力待ち行列にあるものが削除されます。独立ASP (ASP 33から255)内の出力待ち行列に入っているスプール出力ファイルは削除されません。ジョブ・ログは削除されません。

[トップ](#)

ログ項目の最大数 (LOGLMT)

終了するジョブのメッセージ待ち行列の中の、ジョブ・ログに書き込まれる項目の最大数を指定します。このパラメーターを使用して、終了する各ジョブごとに、ジョブ・ログの印刷出力ファイルQPJOBLOGに書き込まれるメッセージの数を制限することができます。

*SAME

メッセージのロギング限界は変更されません。前のコマンドでこの事前開始ジョブのロギング限界が変更されなかった場合には、システムによって使用される値は*NOMAXになります。

*NOMAX

記録されるメッセージの数に制限はありません。各ジョブ・メッセージ待ち行列にあるすべてのメッセージが各ジョブのジョブ・ログに書き込まれます。

整数 各ジョブごとに、ジョブ・ログに書き込まれるメッセージの最大数を指定してください。この値は、ジョブ・ログ中のメッセージが最大数に達していない時に入力する場合にのみ、最大とします。そうでなければ、ジョブ・ログへのこれ以上のメッセージの書き込みは、制限によって停止されます。ログにメッセージが何も書き込まれていない時に0を指定した場合には、ジョブ・ログは作成されません。

[トップ](#)

例

例1:ジョブを即時に終了する

```
ENDPJ  SBS(SBS1)  PGM(PJLIB/PJPGM)  OPTION(*IMMED)
        SPLFILE(*YES)
```

このコマンドは、サブシステムSBS1内の事前開始ジョブ項目PJPGMと関連したすべてのジョブを即時に終了します。これらの事前開始ジョブが生成したスプール出力は削除されますが、ジョブ・ログは保管されません。

例2:ジョブ終了を表示する

```
ENDPJ  SBS(SBS2)  PGM(PJPGM2)  OPTION(*CNTRLD)
        DELAY(50)  SPLFILE(NO)
```

このコマンドは、サブシステムSBS2内の事前開始ジョブ項目PJPGM2と関連したすべてのジョブを終了します。これらの事前開始ジョブのスプール出力は、通常処理のためにスプール書き出しプログラムによって保管されます。これらのジョブはクリーンアップ・ルーチンの実行に50秒を要し、その後、即時に終了されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0922

事前開始ジョブ終了コマンドは現在許可されない。

CPF1083

事前開始ジョブはすでに制御付きで終了中である。

CPF1084

事前開始ジョブはすでに即時終了中である。

CPF1227

コマンドの使用権限が認可されていない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1834

プログラム&1の事前開始ジョブ項目が&2に存在していない。

[トップ](#)

印刷装置エミュレーション終了 (ENDPRTEML)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置エミュレーション終了(ENDPRTEML)コマンドは、ジョブを終了しないで印刷装置エミュレーションを終了します。ジョブに別の要求がある場合には、次にその要求が処理されます。

このコマンドは、ホスト・システムに対してファイルをクローズしてから、印刷装置ファイルをクローズすることによって、ホスト・システムから受け取った最後のデータをスプール・ファイルまたは印刷装置に書き出します。

場合によっては、要求は即時に実行されません。印刷装置エミュレーション要求に次の条件が存在している間は、要求が据え置かれます。

- ホスト・システムから送られたブロックを印刷中である。
- 印刷装置エラー（用紙ジャムなど）が解消されるのを待機中である。
- PA1またはPA2照会メッセージに対する応答を待機中である。
- ホスト・システムまたは印刷装置に対してエラー回復が行なわれるのを待機中である。
- ジョブがHLDJOBコマンドによって保留されている。この条件が解消されたら、印刷装置エミュレーション終了要求が効力をもち、印刷装置エミュレーション要求が終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLDEV	エミュレーション装置または	名前	オプション、位置 1
EMLLOC	エミュレーション・ロケーション	通信名	オプション、位置 2
PRTDEV	印刷装置	名前	オプション、位置 3

[トップ](#)

エミュレーション装置 (EMLDEV)

ホスト・システムからデータを受け取る印刷装置エミュレーション装置の名前を指定します。この装置は3287印刷装置(EMLDEV(3287))または3289印刷装置(EMLDEV(3289))でなければならず、さらにLU1装置として現在作動中ではなければなりません。この装置を使用しようとする印刷装置エミュレーション・ジョブまたはセッションは要求を通知されます。LU1セッションがブラケット間である場合には、印刷装置エミュレーションはブラケットを開始して、方向転換(CD)要求でPAキー信号をホスト・システムに送信します。LUセッションが受信状態になっている場合には、信号(CDのための要求)がホスト・システムに送信されて、印

刷装置エミュレーションはCDを待ちます。CDを受信すると、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。LUセッションが送信状態になっている場合には、PAキー信号がCDとともにホスト・システムに送信されます。

このパラメーター、あるいは **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーターおよび**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーターが必要です。

[トップ](#)

エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)

このセッションと関連したリモート・ロケーション名を指定します。ロケーション名は装置記述の構成時に定義され、通信が行なわれるリモート・ロケーションを示します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドのエミュレーション・ロケーション(EMLLOC)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。

このパラメーターと**印刷装置 (PRTDEV)**パラメーター、または**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターのいずれかが必要です。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

スプール出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定します。この値は、印刷装置エミュレーション開始(STRPRTEML)コマンドの印刷装置(PRTDEV)パラメーターに指定された値と同じでなければなりません。EMLLOCパラメーターが指定されているときには、このパラメーターを指定しなければなりません。

このパラメーターと **エミュレーション・ロケーション (EMLLOC)**パラメーター、あるいは**エミュレーション装置 (EMLDEV)**パラメーターが必要です。

[トップ](#)

例

```
ENDPRTEML  EMLDEV(HOSTPRT3)
```

このコマンドは、装置HOSTPRT3を使用している印刷装置エミュレーション要求を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8599

印刷装置エミュレーション終了機能は実行されない。

[トップ](#)

受信終了 (ENDRCV)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

受け取り終了(ENDRCV)コマンドは、前に出されたRCVFまたはSNDRCVFコマンド(WAIT(*NO)の指定されているもの)からの入力要求を終了(取り消し)します。ENDRCV コマンドが処理されるのと同時にユーザーが要求されたデータを表示装置から入力したとしても、入力要求は終了します。受け取り終了操作が行なわれたときに、要求されたデータがすでに入力済みであり、プログラムに対して送られている途中であった場合には、入力されたデータは失われます。未処理の入力要求がない場合には、コマンドは無視されません。

制約事項:

- このコマンドは、CLプロシージャー内の表示装置ファイルに対してのみ有効です。データベース・ファイルでは、これを使用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	表示装置	名前, <u>*FILE</u>	オプション、位置 1
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, <u>*NONE</u>	オプション

トップ

表示装置 (DEV)

入力要求を終了する表示装置の名前を指定します。

FILE** 応答を終了する装置の名前。この装置は、ファイル宣言(DCLF)コマンドの**ファイル (FILE)**パラメーターで宣言される装置ファイルに入っています。装置ファイルに指定された装置名が複数ある場合には、FILE** を指定することはできません。

名前 応答を終了する表示装置の名前を指定してください。

トップ

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャ内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイルIDを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

*NONE

オープン・ファイルIDは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイルIDとして*NONEが指定されているCLプロシージャでは1つのファイルしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャ内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:前の受け取りの終了

```
ENDRCV  DEV(MYDISPLAY)
```

DCLFコマンドで前に宣言された装置ファイルからの入力と表示装置MYDISPLAYからの入力を要求するために、WAIT(*NO)を含むRCVFコマンドがCLプロシージャ内で前に出されたとします。そうすると、このENDRCVコマンドが処理されると、MYDISPLAYからの入力に対する要求は終了されます。

例2:オープン・ファイルIDの使用

```
DCLF  FILE(MYLIB/MYDSPFILE)  RCDfmt(FMT1)  OPNID(DSPFILE1)
:
SNDRCVF  DEV(DSP02)  RCDfmt(FMT1)  OPNID(DSPFILE1)  WAIT(*YES)
:
ENDRCV  DEV(DSP02)  OPNID(DSPFILE1)
```

このコマンドは、ワークステーション表示装置DSP02からの入力に対する前のSNDRCVF（ファイル送出し／受け取り）コマンドの要求を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0883

ファイル&1のDEVパラメーターの*FILEが正しくない。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

[トップ](#)

(ENDRDBRQS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

読み取りプログラム終了 (ENDRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

読み取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドは、指定されたデータベース読み取りプログラムを終了します。読み取りプログラムは、現在読み取り中のジョブを完了することなく即時に停止することも、あるいは現行ジョブの終わりで停止することもあります。このコマンドが出された時に読み取りプログラムが保留状態の場合には、読み取りプログラムは即時に停止されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDR	読み取りプログラム	名前	必須, 定位置 1
OPTION	読み取りプログラム終了時点	<u>*CNTRL</u> D, *IMMED	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

終了するデータベース読み取りプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 終了する読み取りプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

読み取りプログラム終了時点 (OPTION)

終了する読み取りプログラムの処理をいつ停止させるかを指定します。

***CNTRL**D

読み取りプログラムは、現行ジョブの読み取りが完了し、ジョブの項目がジョブ待ち行列に置かれた後で、処理を停止します。

***IMMED**

読み取りプログラムは即時に処理を停止します。読み取り中のジョブはジョブ待ち行列に置かれませんが、

[トップ](#)

例

ENDRDR RDR(DISKETTE)

このコマンドは、現行ジョブが読み込みを完了すると同時に読み取りプログラムDISKETTEを停止し、その装置をシステムに解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF3312

読み取りプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3490

指定した読み取りプログラムに対して権限がない。

[トップ](#)

リモート・サポートの終了 (ENDRMTSPT)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・サポート終了(ENDRMTSPT)コマンドは、リモート・サポート開始(STRRMTSPT)コマンドによって作成された回線記述、制御装置記述、および装置記述をオフに構成変更し、削除します。このコマンドは、リモート・サポート開始(STRRMTSPT)コマンドによって作成されたQTILIBライブラリーを任意に削除します。

制約事項: このコマンドは、リモート・サポート・ワークステーションにサインオンしている時には使用できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLTLIB	ライブラリー削除	*YES, <u>*NO</u>	オプション、定位置 1
OPTION	終了方法	<u>*CNTRLD</u> , *IMMED	オプション、定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー削除 (DLTLIB)

リモート・サポート終了(ENDRMTSPT)コマンドの実行時にリモート保守ライブラリー(QTILIB)を削除するかどうかを指定します。

***NO** リモート・サービス・ライブラリー(QTILIB)は削除されません。

***YES** リモート保守ライブラリー(QTILIB)は削除されません。

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

リモート・サポート接続の終了方法を指定します。

***CNTRLD**

リモート・サポート接続は、接続タイムアウトになった時に終了します。

***IMMED**

リモート・サポート接続は直ちに終了します。

[トップ](#)

例

```
ENDRMTSPT DTLIB(*NO) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、リモート・サポート接続を即時に終了して、作成された構成オブジェクトを削除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

RPC BIND プログラム・デーモンの終了 (ENDRPCBIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

RPC BIND プログラム・デーモンの終了 (ENDRPCBIND)コマンドは、リモート・プロシージャ呼び出し (RPC) RPCBINDデーモンを終了します。ネットワーク・ファイル・システム(NFS)のデーモンとコマンド、および一部のTI-RPC APIを使用して実行するためには、RPCバインド・プログラム・デーモン・ジョブが実行中でなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンドを使用して出すこともできます。

- ENDNFSSVR SERVER(*RPC)

このデーモンを終了させようとして、デーモンが実行中でない場合に、そのことがデーモンの失敗原因にはなりません。

RPCBINDデーモンが実行中かどうかを判別するには、活動ジョブ処理 (WRKACTJOB)コマンドを使用して、サブシステムQSYSWRKに次のジョブが存在するかどうかを調べてください。

QNFSRPCD RPCBINDデーモン

制約事項

- このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

例1: RPCバインダー・デーモンの終了

```
ENDRPCBIND
```

このコマンドは、RPCバインダー・デーモン・ジョブが実行中であれば、それを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

要求終了 (ENDRQS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

要求終了(ENDRQS)コマンドは、前に要求された操作（コマンド）を終了（取り消し）します。要求終了 (ENDRQS)コマンドの一般的な使用法の1つは、現在停止点で停止している要求を取り消すことです。このコマンド機能は、システム要求メニューのオプションとしても使用することができます。

中断することのできないシステム機能が現在実行中であるために、要求終了(ENDRQS)コマンドの処理を即時に行うことができない場合には、中断が可能になるまでコマンドの実行は延期されます。

要求が終了すると、取り消そうとしている要求レベルで現在呼び出されている要求処理プログラムに、エスケープ・メッセージが送られます。要求処理プログラムを取り消すことができます。要求処理プログラムでは、エスケープ・メッセージを監視して、要求が取り消された時にクリーンアップを行うことができます。静的記憶域およびオープン・ファイルは、その要求処理プログラムによって呼び出されたプログラムのために再利用されます。その要求処理プログラムによって呼び出されたどのプログラムに対しても取り消しの通知は行われないので、それらのプログラムにとっては処理を停止する機会がなくなります。

要求処理プログラムとなるためには、プログラムは要求メッセージを受け取らなければなりません。

プログラム中にENDRQSコマンドがある場合には、そのプログラムは、このコマンドを出す前に要求処理プログラムになっていなければなりません。

プログラムが要求処理プログラムとなるようにセットアップする方法の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「CL」情報にあります。

注: オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドによってロックされた外部オブジェクトは、取り消された要求によってアンロック（割り振り解除）されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RQSLVL	要求レベル	整数, <u>*PRV</u>	オプションル、定位置 1

トップ

要求レベル (RQSLVL)

取り消そうとしているコマンドがどのコマンド要求レベルで入力されたかを指定します。

*PRV 直前のレベルで入力されたコマンドが取り消されます。

整数 取り消そうとしているコマンドが入力された要求レベルを指定してください。指定したレベルから
現行レベルまでのすべての要求レベルが取り消されます。

トップ

例

例1:コマンドの終了

```
CALL PROGA      (これはレベル1です)
:
停止点の発生
CALL PROGB      (これはレベル2です)
:
停止点の発生
ENDRQS          (これはレベル3です)
```

この例では、RQSLVL(*PRV)が省略時の値であるので、レベル2で行われた要求は取り消されます。ユーザーは、別のコマンドをレベル2で入力するか、あるいはF3キーを押してPROGAの停止点画面を再度表示することができます。

例2:コマンドの終了

```
CALL PROGA      (これはレベル1です)
:
停止点の発生
CALL PROGB      (これはレベル2です)
:
停止点の発生
ENDRQS RQSLVL(1) (これはレベル3です)
```

この例では、最高レベルで行われた要求(CALL PROGA)が取り消されます。結果として、レベル1とレベル3の間で行われたすべての要求も取り消されます。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

S/36セッションの終了 (ENDS36)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

システム/36終了(ENDS36)コマンドによって、システム/36開始(STRS36) コマンドで開始されたシステム/36環境セッションを終了することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDS36

このコマンドはシステム/36環境セッション、およびシステム/36環境で実行しているプログラムまたはプロシージャを即時終了します。ENDS36コマンドがプロシージャまたはプログラム中にある場合には、そのコマンドの後にあるステートメントは無視されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

サブシステム終了 (ENDSBS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム終了 (ENDSBS)コマンドは、指定されたサブシステム（またはすべての活動サブシステム）を終了し、処理中の活動作業に対して起こることを指定します。このコマンドが実行された後では、サブシステムで新しいジョブまたはルーティング・ステップは開始されません。

ジョブ転送 (TFRJOB)コマンドによってジョブ待ち行列に転送された対話式ジョブは、サブシステムの終了の一部として終了されます。バッチか対話式のいずれかのジョブがジョブ待ち行列上にある間に(TFRJOBコマンドのために)初期プログラム・ロード(IPL)が行われた場合には、ジョブはIPL時にジョブ待ち行列から除去され、そのジョブ・ログが作成されます。

サブシステムで実行中のアプリケーション・プログラムがジョブの終わり処理を制御するための時間を与えられるように指定することができます。時間が与えられていない場合、あるいは与えられた時間内にクリーンアップを実行できない場合には、システムは最小限のジョブの終わり処理を実行します。これには次のものが含まれます。

- データベース・ファイルのクローズ。
- ジョブ・ログの出力待ち行列へのスプーリング。
- オペレーティング・システムの内部オブジェクトのクリーンアップ。
- ジョブ終了画面の表示（対話式ジョブの場合）。
- コミットメント制御処理の完了。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限。
 - 指定されたサブシステムと関連したサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限。
2. 制御サブシステムが終了している場合には、その名前か*ALLのいずれかが**サブシステム (SBS)**パラメーターに指定されているので、このコマンドは以下でのみ実行することができます。
 - 制御サブシステムにある対話式ジョブで、および制御サブシステム記述のワークステーション項目で**割り振り (AT)**パラメーターに*SIGNONが指定されているワークステーション（この対話式ジョブに関連するもの）からのみ。詳細については、ワークステーション項目追加 (ADDWSE)コマンドを参照してください。
 - あるいは、ジョブ待ち行列から開始され、BCHTMLMTパラメーターおよびSBS(*ALL)が指定されて、制御サブシステムで実行中のバッチ・ジョブ。

ENDSBS SBS(*ALL)は、TELNETジョブ、パスルー・ジョブ、またはワークステーション機能ジョブでは使用できません。

3. ENDSBS SBS(*ALL)は、複数のスレッドが可能なバッチ・ジョブでは使用することができません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBS	サブシステム	名前, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	終了方法	*CNTRLD, *IMMED	オプション, 定位置 2
DELAY	制御された終了遅延時間	0-99999, *NOLIMIT	オプション
ENDSBSOPT	サブシステム終了オプション	単一値: *DFT その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *NOJOBLOG, *CHGPTY, *CHGTSL	オプション
BCHTIMLMT	バッチ時間制限	5-9999, *NOMAX	オプション

トップ

サブシステム (SBS)

終了するサブシステムの名前を指定するか、またはすべての活動サブシステムを終了することを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 現在活動状態であるすべてのサブシステムが終了されます。このコマンドが入力されたジョブを除くすべてのジョブが終了します。この値を指定した時には、QSYSOPR メッセージ待ち行列がサブシステム終了コマンドを出したジョブで中断転送モードになります。

名前 終了するサブシステムの単純名を指定します。指定したサブシステムが制御サブシステムである場合には、このコマンドを出した対話式ジョブは活動状態のままで残ります。また、指定したサブシステムが制御サブシステムで、かつ、このコマンドを出したジョブがワークステーションで活動状態にある2つの2次ジョブの1つである場合には、2つの2次ジョブはどちらも強制終了されません。制御サブシステムは、(1つのジョブでサインオフすることによって、あるいは別のジョブからジョブを終了することによって) ジョブの1つを終了するまで終了しません。

トップ

終了方法 (OPTION)

サブシステム中のジョブを制御された方式で終了するか (制御された方式でジョブを終了すると、アプリケーション・プログラムはジョブ終了処理を実行することができます)、あるいは即時に終了するかを指定します。

*CNTRLD

ジョブは制御された方式で終了します。これにより、実行中のプログラムはクリーンアップ (ジョブ終了処理) を行うことができます。終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。アプリケーションには、ジョブが終了する前にクリーンアップするための、DELAYパラメーターに指定されただけの時間の長さがあります。

*IMMED

ジョブは即時に終了します。終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャが

ある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成され、QENDJOBLMTシステム値が時間制限を指定します。SIGTERM信号を処理する以外に、実行中のプログラムはいかなるクリーンアップも実行できません。

注: *IMMED値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御された終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御方式によるサブシステム終了操作を完了するのに許される時間 (秒数) を指定します。この時間が過ぎても終了操作が完了しない場合には、サブシステムでまだ処理中のジョブはすべて即時に終了します。

***NOLIMIT**

制御方式による終了を完了する時間に制限を設けません。

0から99999

終了操作が完了可能である秒数を指定してください。

トップ

サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)

活動サブシステムの終了時に取られるオプションを指定します。一般に、これらのオプションを指定すると、ENDSBSコマンドのパフォーマンスが改善されます。各オプションには特定の副次作用があるので、これらのオプションの使用の前にそれを分析する必要があります。

このパラメーターは、すでに終了状況にあるジョブには影響しません。

***DFT** サブシステムは特殊な終了オプションなしで終了されます。

- ジョブ・ログが生成されます。
- 実行優先順位は変わりません。
- タイム・スライス値は変わりません。

***NOJOBLOG**

このコマンドの呼び出しによって、終了されるジョブのジョブ・ログは作成されません。これには、サブシステム・モニター・ジョブおよびサブシステムのすべてのユーザー・ジョブが含まれます。このオプションでは、ENDSBSコマンドの完了までに要する時間を大幅に短縮することができますが、ジョブ中で問題が起こった場合には、その問題を記録するジョブ・ログがないので、問題の診断が困難になるかまたは不可能になる可能性があります。

***CHGPTY**

終了しているジョブのCPU優先順位が高い値 (より劣る優先順位) に変わります。*CHGPTYを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

***CHGTSL**

終了しているジョブのタイム・スライスは下限値に変わります。*CHGTSLを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完

了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

注: *CHGPTYおよび*CHGTSLを指定すると、システム上の他の活動ジョブに対する影響は軽減されますが、終了中のサブシステムに割り当てられている活動ワークステーションが複数ある場合には、望ましくない遅延の原因になることがあります。終了中のサブシステムに割り当てられている活動ワークステーションを他のサブシステムに対して割り当て可能とする前に、その表示を使用しているジョブを終了しなければならないので、それらのワークステーションでそのサインオン画面を再表示するまでに長くかかる場合があります。

[トップ](#)

バッチ時間制限 (BCHTMLMT)

システムがバッチ制限状態で実行される時間の長さ（分数）を指定します。このパラメーターは、制御サブシステムで実行中のバッチ・ジョブからすべてのサブシステムを終了している場合にのみ有効です。この状態では、パラメーター値を指定する必要があります。このパラメーターが指定された場合には、システムは終了して制限状態になり、ENDSBSコマンドを実行中のバッチ・ジョブだけが活動状態のままとなります。システムがこの制限状態にある間は、システム参照コードA900 3C70が表示されます。指定された時間制限に達すると、バッチ・ジョブは終了され、制御サブシステムが再始動されます。

注: このパラメーターは、操作員の対話を必要としないアプリケーションにのみお勧めします。

*NOMAX

バッチ制限機能には時間制限はありません。システムは、ジョブが終了するか、サブシステム開始 (STRSBS) コマンドが使用されるか、あるいはバッチ制限状態を終了するための専用保守ツール (DST) オプションが使用されるまで、制限状態のままとなります。

5から9999

バッチ制限機能の実行を許可する時間制限（分数）を指定します。

[トップ](#)

例

```
ENDSBS SBS(QBATCH) OPTION(*CNTRLD) DELAY(60)
```

このコマンドは、QBATCHサブシステム内のすべての活動ジョブ終了し、そのサブシステムを終了します。活動ジョブには、アプリケーション提供のジョブ終了処理を実行するために60秒が許可されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1032

*CNTRLDオプションでシステムが終了中である。

CPF1033

*IMMEDオプションでシステムが終了中である。

CPF1034

*CNTRLDオプションですべてのサブシステムが終了中である。

CPF1035

*IMMEDオプションでサブシステムが終了中である。

CPF1036

*CNTRLDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1037

*IMMEDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1038

コマンドを使用する権限がない。

CPF1052

現在の環境では、ENDSBS *ALLを使用することはできない。

CPF1053

制御サブシステム&1の終了は認められない。

CPF1054

サブシステム&1は活動状態ではない。

CPF1055

サブシステム&1が*CNTRLDオプションで終了中である。

CPF1056

サブシステム&1が*IMMEDオプションですでに終了中である。

CPF1081

制御サブシステムがすでに単一ジョブに終了中である。

CPF1091

システム・アービターで機能チェックが起こった。

CPF18C3

出口点プログラム&1は制限状態に入ることができません。

[トップ](#)

SELECT グループ終了 (ENDSELECT)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SELECT グループの終了(ENDSELECT)コマンドは、処理するコマンドのグループを選択するSELECTコマンドと一緒に使用されます。ENDSELECTコマンドは、関連したSELECTコマンドで開始される選択グループの終了を指定します。ENDSELECTコマンドは、選択グループ内の最後のWHENまたはOTHERWISEコマンドの後に指定しなければなりません。

選択グループがネストされる場合には、各グループの終わりにそれ自体のENDSELECTコマンドがなければなりません。各ENDSELECTコマンドはSELECTコマンドと対応していなければなりません。CLプロシージャ・ソース中のENDSELECTコマンドが多過ぎる場合には、メッセージが出されて、プログラムは作成されません。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

```
DCL  VAR(&NAME)  TYPE(*CHAR)  LEN(10)
:
SELECT
  WHEN  COND(&NAME *EQ *CMD)  THEN(DO)
    :  (CLコマンドのグループ)
  ENDDO
    :  (他のWHENまたはOTHERWISEコマンド)
ENDSELECT
```

ENDSELECTコマンドは、活動中のSELECTコマンド・グループを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

サービス・エージェントの終了 (ENDSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの終了(ENDSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの外観の処理を終了できます。終了される外観は、**タイプ (TYPE)**パラメーターで指定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	<u>*SBSJOB</u>	オプション、位置 1

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

処理を終了されるサービス・エージェントの外観を指定します。

*SBSJOB

QSYSWRKサブシステムで実行中のすべてのサービス・エージェント・モニター・ジョブが即時に終了されます。QSYSWRKサブシステムが開始していないか、サービス・エージェント・モニター・ジョブがQSYSWRKサブシステムで開始していない場合には、このオプションは何の効果もありません。

[トップ](#)

例

ENDSRVAGT TYPE(*SBSJOB)

このコマンドは、QSYSWRKサブシステムで実行中のすべてのサービス・エージェント・モニター・ジョブを即時に終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・ジョブ終了 (ENDSRVJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・ジョブ終了(ENDSRVJOB)コマンドは、リモート・ジョブのサービス操作を終了させます。このコマンドは、サービス・ジョブ開始(STRSRVJOB)コマンドが入力された時点で開始されたサービス操作を終了させます。

制約事項:

- このコマンドを入力する時点で、サービスを受けるジョブでトレースまたはデバッグが活動状態である場合には、リモート・サービス操作は終了しません。
- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための専用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRV
 - QSRVBAS

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDSRVJOB

このコマンドは、現在サービスされているジョブのサービス操作を停止します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

サブルーチンの終了 (ENDSUBR)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

サブルーチン終了(ENDSUBR)コマンドは、サブルーチンの終わりを指定するもので、前のサブルーチン(SUBR)コマンドと対になっていなければなりません。ENDSUBRコマンドが処理されると、サブルーチンを呼び出したサブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンド直後のコマンドに制御が戻されます。エラー・コードなどの値を戻す場合には、戻り値が4バイトの符号付き整数CL変数に保管できるようになっていなければなりません。戻り値 (RTNVAL)パラメーターは変数または定数とすることができます。RTNVALパラメーターを定義しない場合は、値は省略時のゼロになります。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャー内でのみ有効です。
- サブルーチンは、プロシージャー内で定義し、プロシージャーの終わりになければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RTNVAL	戻り値	整数, <u>0</u>	オプション

トップ

戻り値 (RTNVAL)

サブルーチンから戻される値を指定します。これは、4バイトの符号付き整数CL変数に保管できる変数または定数とすることができます。サブルーチンを呼び出したサブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンドが戻された値のCL変数を指定している場合には、変数がこの値に設定されます。

0 サブルーチンはゼロを戻します。

整数定数

戻り値の定数整数値を指定してください。

CL変数名

呼び出されるサブルーチンからの戻り値を入れるCL変数の名前を指定してください。これは符号付き整数CL変数でなければなりません。

トップ

例

```
PGM
:
SUBR SUBR1
:
ENDSUBR
ENDPGM
```

このCLサブルーチンは、サブルーチン名SUBR1を含むSUBRコマンドによって識別され、ENDSUBRコマンドによって終了されます。

```
PGM
:
SUBR SUBR1
:
ENDSUBR RTNVAL(-1)
ENDPGM
```

このCLサブルーチンには、-1を戻すENDSUBRコマンドがあります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

システム終了 (ENDSYS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム終了 (ENDSYS)コマンドは、システムのほとんどの活動を終了し、システムを制御サブシステムでコンソールだけが活動状態であるような状態にしておきます。これは、操作員がシステムのバックアップ、新しいプログラムのロードなどの作業を行うことができるようにするために行われます。この状態は制限状態と呼ばれ、システムの保管や記憶域の再利用などの操作を行うために必要です。コンソールで制御サブシステム中に2つのジョブが活動状態である場合には、いずれのジョブも強制的には終了されません。ENDSYSコマンドは、(1つのジョブでサインオフすることによって、あるいは他のジョブからジョブを終了することによって) ジョブの1つを終了するまでは実行を完了することができません。

すべての活動サブシステムは、システム終了操作が実行中であることを通知されます。これらのサブシステムで新しいジョブまたはルーティング・ステップを受け入れることはできません。このコマンドは、活動状態のすべての作業に対して何が起こるかも指定します。

ジョブ転送 (TFRJOB)コマンドによってジョブ待ち行列に転送されている対話式ジョブは、サブシステム終了の一部として終了されます。バッチか対話式のいずれかのジョブがジョブ待ち行列上にある間に(TFRJOBコマンドのために) 初期プログラム・ロード(IPL)が行われた場合には、ジョブはIPL時にジョブ待ち行列から除去され、そのジョブ・ログが作成されます。

制約事項: このコマンドは、制御サブシステム中の対話式ジョブにだけ入れることができます。このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)権限がユーザーに必要です。このコマンドをパスルー・ジョブまたはワークステーション機能ジョブの中で使用することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	* <u>CNTRLD</u> , *IMMED	オプション、位置 1
DELAY	制御された終了遅延時間	0-99999, * <u>NOLIMIT</u>	オプション
ENDSBSOPT	サブシステム終了オプション	単一値: * <u>DFT</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *NOJOBLOG, *CHGPTY, *CHGTSL	オプション
CONFIRM	確認	* <u>ENVVAR</u> , *YES, *NO	オプション

[トップ](#)

終了方法 (OPTION)

すべての活動ジョブが制御方式で終了するか（アプリケーション・プログラムは処理終結を実行することができます）、あるいは即時に終了するかを指定します。いずれの場合にも、システムはある種のジョブ終結機能を実行します。

***CNTRLD**

ジョブは制御された方式で終了します。これにより、実行中のプログラムはクリーンアップ（ジョブ終了処理）を行うことができます。終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成されます。アプリケーションには、ジョブが終了する前にクリーンアップするための、DELAYパラメーターに指定されただけの時間の長さがあります。

***IMMED**

ジョブは即時に終了します。終了中のジョブに非同期信号SIGTERM用の信号処理プロシージャがある場合は、そのジョブに対してSIGTERM信号が生成され、QENDJOBLMTシステム値が時間制限を指定します。SIGTERM信号を処理する以外に、実行中のプログラムはいかなるクリーンアップも実行できません。

注: *IMMED値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御された終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

制御された終了操作の実行が可能な時間の量（秒数）を指定します。この時間が経過しても、終了操作が完了しない場合には、長時間実行命令を実行するジョブを除いて、まだ処理中のジョブはすべて即時に終了します。

***NOLIMIT**

制御方式による終了を完了する時間に制限を設けません。

0から99999

終了操作が完了可能である秒数を指定してください。

トップ

サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)

活動サブシステムの終了時に取られるオプションを指定します。一般に、これらのオプションを指定すると、ENDSYSコマンドのパフォーマンスが改善されます。各オプションには特定の副次作用があるので、これらのオプションの使用の前にそれを分析する必要があります。

このパラメーターは、すでに終了状況にあるジョブには影響しません。

***DFT** サブシステムは特殊な終了オプションなしで終了されます。

- ジョブ・ログが生成されます。
- 実行優先順位は変わりません。
- タイム・スライス値は変わりません。

*NOJOBLOG

このコマンドの呼び出しによって、終了されるジョブのジョブ・ログは作成されません。これには、サブシステム・モニター・ジョブおよびサブシステムのすべてのユーザー・ジョブが含まれます。このオプションでは、ENDSYSコマンドの完了までに要する時間を大幅に短縮することができますが、ジョブ中で問題が起こった場合には、その問題を記録するジョブ・ログがないので、問題の診断が困難になるかまたは不可能になる可能性があります。

*CHGPTY

終了しているジョブのCPU優先順位が高い値（より劣る優先順位）に変わります。*CHGPTYを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

*CHGTSL

終了しているジョブのタイム・スライスは下限値に変わります。*CHGTSLを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。サブシステムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

[トップ](#)

確認 (CONFIRM)

システムを終了する前に、その要求を確認する必要があるかどうかを指定します。

*ENVVAR

環境変数QIBM_ENDSYS_CONFIRMの値は、その要求を確認する必要があるかどうかの判別に使用されます。この値が*YESまたは*NOに設定された場合には、その値について下記で説明される処置が取られます。環境変数が定義されないか、あるいはこれらの値の1つに設定されない場合には、確認は行われません。

***YES** ENDSYSコマンドが出されると、確認パネルが表示されます。

***NO** ENDSYSコマンドが出されると、確認は行われません。

[トップ](#)

例

例1:システム活動の終了

```
ENDSYS
```

このコマンドは、システム内のすべての活動ジョブにその固有の処理の終了の実行が許可された後に、システム活動を終了します。終了に要する時間の長さは制限されません。

例2:ジョブが終了した後のシステム活動の終了

```
ENDSYS OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、すべての活動ジョブが即時に終了された後に、システム活動を終了します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1017

コンソールの電源がオフになったか、あるいはオフに構成変更された時に、ENDSYSを使用することはできない。

CPF1032

*CNTRLDオプションでシステムが終了中である。

CPF1033

*IMMEDオプションでシステムが終了中である。

CPF1034

*CNTRLDオプションですべてのサブシステムが終了中である。

CPF1035

*IMMEDオプションでサブシステムが終了中である。

CPF1036

*CNTRLDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1037

*IMMEDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1038

コマンドを使用する権限がない。

CPF1051

コマンドは制御サブシステムでしか実行することができない。

CPF1082

制御サブシステムがすでに単一ジョブに終了中である。

CPF1091

システム・アービターで機能チェックが起こった。

CPF18C3

出口点プログラム&1は制限状態に入ることができません。

TCP/IPの終了 (ENDTCP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP終了(ENDTCP)コマンドはTCP/IP処理を終了します。

注意:

ENDTCPを入力しても確認画面は表示されません。ENDTCPコマンドは注意して使用する必要があります。これを使用すると、作業しているシステムでのすべてのTCP/IP処理が終了します。

ENDTCPコマンドにOPTION(*IMMED)が指定されている場合には、次のことが起こります。

- すべてのTCP/IP接続が終了します。これは、ソケットまたはPASCAL APIを使用している現在活動状態のすべてのアプリケーションに影響します。
- ENDSVR(*NO)が指定されていない限り、TELNET, FTP, TFTP, SMTP, LPD, HTTP, POP, ROUTED, DHCP, DNS, DDM, BOOTP, REXEC, SNMP, DIRSRV, NSLD, INETD, MGTC, ONDMD, NETSVR, DLFM, VPN, EDRSQL, HOD, ODP, NTP, QOS, TCM, DOMINO, WEBFACING,およびCIMOMのTCP/IPサーバー・ジョブが終了します。
- QSYSWRKサブシステムで現在活動状態のエージェントが終了します。詳細については、**適用業務サーバーの終了 (ENDSVR)**パラメーターの記述を参照してください。
- 活動状態のすべてのTCP/IPインターフェースが終了します。

ENDTCPコマンドにOPTION(*CNTRL)が指定されている場合には、次のことが起こります。

- TCP, UDP,または行ソケットに対して新しいオープン操作を使用できません。
- DELAYパラメーター値に指定されている時間が満了した後で、ENDTCP *IMMED操作を実行するQSYSWRKサブシステムにジョブが投入されます。
- ENDTCP OPTION(*CNTRL)を出した後では、いつでもENDTCP OPTION(*IMMED)を投入することができます。これは制御された終了を取り消します。ENDTCP OPTION(*IMMED)が出されると、TCP/IP処理が終了します。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。このコマンドは、TCP/IPサーバーの各タイプを処理するために別のプログラムを呼び出します。呼び出されるこのプログラムがスレッド・セーフの場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	*IMMED, *CNTRL	オプション、位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
DELAY	制御された終了遅延時間	1-86400, <u>30</u>	オプションル、定位置 2
ENDSVR	適用業務サーバーの終了	<u>*YES</u> , *NO	オプションル

トップ

終了方法 (OPTION)

TCP/IP処理が直ちに終了するか、あるいは制御された方式で終了するかを指定します。

*IMMED

TCP/IP処理が即時に終了されます。

注意：

ENDTCP OPTION(*IMMED)コマンドは注意して使用してください。ENDTCP *IMMEDコマンドを出したときに、アプリケーションがデータを処理中で操作が完了していない場合には、データは一部だけ更新されてしまう場合があります。次の通り実行するようお奨めします。

- ENDTCPコマンドを出す前に、他のすべてのユーザーが自分たちのアプリケーションを終了できるように、ユーザーに通知してください。
- システムで発生しているTCP/IPトラフィックがないことが判明した時点でENDTCPコマンドを出してください。システム上の現在のTCP/IPトラフィックを表示するには、TCP/IP状況の処理(WRKTCPSTSまたはNETSTAT)コマンドでオプション3を使用してください。

*CNTRL

TCP/IP処理は制御された方式で終了します。TCP/IPを使用中のアプリケーションはその処理を完了するための時間が与えられます。新しいアプリケーションの処理はできません。指定した時間が経過した後で、ENDTCP OPTION(*IMMED)の処理が実行されます。

制御された終了処理は次のいずれも実行 しません。

- 指定された時間が経過する前にすべてのTCP/IP処理が完了したかどうかを監視しません。
- TCP/IP接続を現在使用しているアプリケーションに、TCP/IP処理が終了することを通知しません。

トップ

制御された終了遅延時間 (DELAY)

TCP/IP処理の制御された終了操作を完了するために許される時間（秒数）を指定します。この時間が経過すると、すべてのTCP/IP処理が即時に終了します。

1から86400

終了操作が完了する秒数を指定してください。

トップ

適用業務サーバーの終了 (ENDSVR)

TCP/IP終了(ENDTCP)コマンドでTCP/IP処理が終了された時に、すべてのTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了するかどうかを指定します。

注意：

このパラメーターに*NOを指定する前に、以下を考慮してください。

- TCP/IPを使用しているアプリケーションに影響を与えることなく、システム上のすべてのTCP/IP処理を終了することはできません。
- TCP/IP処理が終了し、活動状態のTCP/IPエミュレーション形式(ANYNETなど)がない場合には、再始動されないTCP/IPアプリケーションは正しく機能しません。
- PASCAL APIを使用しているアプリケーションは、TCP/IP処理が終了し再始動される時には、常に終了し再始動されます。

***YES** ENDTCPコマンドは、TCP/IP処理を終了する前にすべてのTCP/IPアプリケーション・サーバーを終了します。

***NO** ENDTCPコマンドは、TCP/IP処理を終了する時にどのTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブも終了しません。

注: ENDTCP ENDSVR(*NO)を使用して、ANYNETを使用しているジョブの操作を妨げることなく、TCP/IP処理を終了することができます。TCP/IP処理は終了しますが、ANYNETを使用しているTCP/IPアプリケーション・サーバーは機能を続行します。

TCP/IPとANYNETの両方が非活動状態の場合には、TCP/IPサーバー終了(ENDTCP SVR) コマンドを使用して、TCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了します。

[トップ](#)

例

例1: TCP/IPの即時終了

```
ENDTCP OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、システム上のすべてのTCP/IP処理を即時に終了します。

例2: TCP/IPの制御された時間以内の終了

```
ENDTCP OPTION(*CNTRL) DELAY(120)
```

このコマンドは、120秒が経過した後ですべてのTCP/IP処理を終了します。この時間中には、新しいTCP/IP処理はできません。

例3: アプリケーション・サーバーを終了しないTCP/IPの即時終了

```
ENDTCP OPTION(*IMMED) ENDSVR(*NO)
```

このコマンドは、システム上のすべてのTCP/IP処理を即時に終了します。しかし、TCP/IP処理が終了すると、アクティブであるTCP/IPアプリケーション・サーバー(FTP, SMTPなど)が、すべて終了するわけではありません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1A13

別のジョブがTCP/IPまたはIP OVER SNAを開始または終了中である。

TCP1A70

&1が活動状態になっていない。

TCP1A72

*CNTRL DオプションでTCP/IPはすでに終了している。

TCP1A73

内部オブジェクトに損傷がある。

TCP1A74

ジョブの投入中にエラーが起こった。

TCP1A77

&1は正常に完了したが、エラーが起こった。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPの異常終了 (ENDTCPABN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP異常終了(ENDTCPABN)コマンドは、TCP/IP処理の終了を強制するために使用されます。これは、OPTION(*IMMED)を指定したTCP/IP終了(ENDTCP)コマンドの使用を試みた後にのみ使用することができます。

ENDTCPABNコマンドは、ENDTCPコマンドが完了するか、あるいはTCP/IPの即時終了の要求の後に10分経過するまでは、出すことができません。これにより、通常のTCP/IP終了機能を行う十分な時間ができます。

ENDTCPABN処理の正常な完了であれば、システムのIPLなしにTCP/IPの再始動が許可されるはずですが、ENDTCPABNコマンドを出すことは、システム終了には直接影響しません。次のシステム終了には、ENDTCPABN処理の結果としてABNORMALはマークされません。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認可があります。
- OPTION(*IMMED)を指定してENDTCPコマンドを実行した10分後になるまで、ENDTCPABNコマンドは実行できません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDTCPABN

このコマンドは、TCP/IP処理を強制的に終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1A66

ENDTCPABNはこの時点では使用できません。理由は&1です。

[トップ](#)

TCP/IP接続の終了 (ENDTCPCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP接続終了(ENDTCPCNN)コマンドは伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)の接続を終了するために使用します。このコマンドは接続を即時に終了するので、通常の終了ができない時のみ使用すべきです。

注: ENDTCPCNNコマンドは通常、WRKTCPCNN (NETSTAT)画面のTCP/IP接続状況の処理リストのオプション4を指定することによって使用します。ENDTCPCNNコマンドは、システム管理者にこの機能の制御権を与えるための独立したコマンドとして提供されています。ENDTCPCNNコマンドに対する権限を制限することによって、システム管理者は、NETSTATユーティリティに対するアクセスを制限することなく、TCP/IP接続を終了できるユーザーを限定します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PROTOCOL	プロトコル	*UDP, *TCP	必須, 定位置 1
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, *	必須, 定位置 2
LCLPORT	ローカル・ポート	1-65535	必須, 定位置 3
RMTINTNETA	リモート・インターネット・アドレス	文字値, *	オプション, 定位置 4
RMTPORT	リモート・ポート	1-65535, *	オプション, 定位置 5

[トップ](#)

プロトコル (PROTOCOL)

終了される接続によって使用されるプロトコルを指定します。プロトコルの値は*TCPまたは*UDPのいずれかでなければなりません。

***UDP** この接続はユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)と一緒に使用するために作成されました。

***TCP** この接続は伝送制御プロトコル(TCP)と一緒に使用するために作成されました。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

終了する接続のローカルIPアドレスを指定します。このパラメーターはUDPおよびTCPの両方に必要です。

* この接続がオープンされた時には、リモート・ポート番号はまだ指定されていませんでした。

文字値 ローカルIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

ローカル・ポート (LCLPORT)

終了する接続のローカル・ポート番号を指定します。このパラメーターはUDPおよびTCPの両方に必要です。このコマンドには、ローカル・ポートを識別する10進数を常に指定しなければなりません。

1から65535

終了する接続のローカル・ポート番号を指定してください。

注意：

ポート1から1024は、システム提供のTCP/IPアプリケーションによる使用のために予約されています。ポート1から1024を指定した場合には、これらのアプリケーションの操作に影響することがあります。

[トップ](#)

リモート・インターネット・アドレス (RMTINTNETA)

終了する接続のリモートIPアドレスを指定します。このパラメーターはTCPに必要です。

* この接続がオープンされた時には、リモート・ポート番号はまだ指定されていませんでした。

文字値 リモートIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

リモート・ポート (RMTPORT)

終了する接続のリモート・ポート番号を指定します。

このパラメーターはTCPに必要です。

* この接続がオープンされた時には、リモート・ポート番号はまだ指定されていませんでした。

1から65535

終了する接続のリモート・ポート番号を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: TCP接続の終了

```
ENDTCPCNN  PROTOCOL(*TCP) LCLINTNETA('9.5.1.109')
            LCLPORT(13054)
            RMTINTNETA('9.130.28.144') RMTPORT(23)
```

このコマンドは、ローカルIPアドレス9.5.1.109のローカル・ポート13054とリモートIPアドレス9.130.28.144のリモート・ポート23の間のTCP接続を終了します。TCP/IPプロトコル・スタックは、その接続での活動をすべて終了し、資源をフリー記憶域プールに戻します。

例2: UDPソケットのクローズ

```
ENDTCPCNN  PROTOCOL(*UDP) LCLINTNETA('9.130.28.144')
            LCLPORT(596)
```

このコマンドは、ローカル・ポート596およびローカルIPアドレス9.130.28.144を使用しているUDPソケットをクローズします。TCP/IPプロトコル・スタックは、その接続での活動をすべて終了し、資源をフリー記憶域プールに戻します。

例3: TCPソケット状態の聴取の終了

```
ENDTCPCNN  PROTOCOL(*TCP) LCLINTNETA(*) LCLPORT(5023)
            RMTINTNETA(*) RMTPORT(*)
```

このコマンドは、ローカル・ポート5023で聴取中のTCPソケットを終了します。このソケットを作成したアプリケーションがローカルIPアドレスを指定していませんでした。このソケットはクローズされ、ローカル・ポートは別のアプリケーションが使用するために使用可能にされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP2670

要求を完了することができない。TCP/IPサービスは使用できません。

TCP3B01

TCP接続&3 &4、&5 &6を終了できない。

TCP3B02

UDPソケット&3 &4をクローズできない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

[トップ](#)

TCP/IPインターフェースの終了 (ENDTCPIFC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPインターフェース終了(ENDTCPIFC)コマンドは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)インターフェースを終了するために使用します。このコマンドを使用してインターフェースを終了した場合には、このインターフェースと関連するIPアドレスにアドレッシングされているデータグラムは受け入れられなくなります。しかし、終了されるインターフェースと同じ回線記述を使用している他のTCP/IPまたはIP OVER SNAインターフェースの操作は影響を受けません。

このコマンドは、前にTCP/IPインターフェース開始(STRTCPIFC)コマンドまたはTCP開始(STRTCP)コマンドを使用して開始したインターフェースを終了するために使用することができます。

TCP/IPを終了する前にすべてのTCP/IPインターフェースを終了するためには、このコマンドを使用してください。また、TCP/IPと関連した装置、制御装置、または回線をオフに構成変更する前にすべてのTCP/IPインターフェースを終了する場合にも、このコマンドを使用してください。これを正常に実行できないと、予測できない結果となることがあります。

Warning: Temporary Level 2 Header

Warning: Temporary Level 3 Header

インターフェース・バインドへの経路に関する注意事項

インターフェースは、このシステムが直接接続されるネットワークまたはサブネットワークへの直接の経路を定義します。経路は間接的な経路を定義します。間接経路は、このシステムが直接には接続されないネットワークまたはサブネットワークへのパス上のネクスト・ホップを定義します。

間接的な経路は、最も良く合致した最初のアルゴリズムを使用してインターフェースに結合されます。このアルゴリズムは、インターフェースの状況、および経路やインターフェースに指定されたTYPE OF SERVICE (TOS)に基づいています。インターフェースを終了する時には、そのインターフェースに関連した経路を既存の別の活動インターフェースに移動することができます。これによって、最も広範囲に使用可能なレベルの結合性がもたらされます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INTNETADR	IPアドレス	文字値	オプション、位置 1
ALIASNAME	別名	単純名	オプション

[トップ](#)

IPアドレス (INTNETADR)

TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドによってすでにTCP/IP構成に追加されていて、STRTCPIFCまたはSTRTCPコマンドによってすでに開始されているインターフェースのIPアドレスを指定します。インターネット・アドレスは`NNN.NNN.NNN.NNN`の形式で指定されます。ここで`NNN`は0から255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。コマンド行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

注: コマンドには、INTNETADRパラメーターかALIASNAMEパラメーターのいずれかを指定する必要がありますが、両方は指定できません。

文字値 終了するインターフェースに関連したIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

別名 (ALIASNAME)

TCP/IPインターフェース追加(ADDTCPIFC)コマンドによってすでにTCP/IP構成に追加されていて、STRTCPIFCまたはSTRTCPコマンドによってすでに開始されているインターフェースの名前を指定します。指定する別名は、IPV4インターフェースに対するものでなければなりません。別名がIPV6インターフェースに対するものである場合には、エラー・メッセージが戻されます。

注: コマンドには、INTNETADRパラメーターかALIASNAMEパラメーターのいずれかを指定する必要がありますが、両方は指定できません。

単純名 終了するインターフェースの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: X.25インターフェースの終了

```
ENDTCPIFC INTNETADR('9.5.11.125')
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、IPアドレス9.5.11.125と関連付けられたインターフェースが非活動化されます（終了します）。

例2: トークンリング・インターフェースの終了

```
ENDTCPIFC INTNETADR('156.93.81.7')
```

このコマンドによって、TCP/IPプロトコル・スタックは、IPアドレス156.93.81.7と関連付けられたインターフェースが非活動化されます（終了します）。

例3: 別名を使用したトークンリング・インターフェースの終了

```
ENDTCPIFC ALIASNAME(TEST_NETWORK)
```

このコマンドは、TCP/IPプロトコル・スタックに別名TEST_NETWORKと関連したインターフェースを非活動化（終了）させます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1B15

回線記述&2は使用できない。内部エラーが見つかりました。

TCP1B61

&1インターフェースが終了したかどうかを判別できない。

TCP1B62

&1インターフェースが終了したかどうかを判別できない。

TCP1B65

&2インターフェースは終了されません。理由は&1です。

TCP1B71

&1インターフェースは終了されません。

TCP1B72

&1インターフェースは終了されません。&1インターフェースが活動状態になっていません。

TCP1B73

&1インターフェースは終了されません。&1のインターフェースはTCP/IP構成の中で定義されていません。

TCP1B74

&1インターフェースは終了されません。回線記述&2が見つかりません。

TCP1B85

インターフェース&1の終了要求を投入できない。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP265F

INTNETADRパラメーターの値&2が正しくない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

POINT-TO-POINT TCP/IPの終了 (ENDTCPPTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IPの終了(ENDTCPPTP)コマンドは、POINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブの終了に使用されます。セッション・ジョブは可能な2つのモードの1つで操作されます。

1. 応答モード・セッション(*ANS)によって、リモート・システムはローカル・システムに接続し、POINT-TO-POINT TCP/IPセッションを確立することができます。
2. ダイヤル呼び出しモード・セッション(*DIAL)によって、ローカル・システムはPOINT-TO-POINT TCP/IPをサポートするリモート・システムと接続することができます。

注: 回線タイプ*PPPのプロファイルは、このコマンドで終了できますが、ISERIESナビゲーターのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用してい *PPPプロファイルの構成を行なっていないとなりません。

TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブはQSYSWRKサブシステムで実行されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
OPRMODE	操作モード	*ANY, *ANS, *DIAL	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

プロファイルの構成 (CFGPRF)

終了する必要がある1つまたは複数のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** OPRMODEパラメーターで指定されたモードで現在操作中の活動状態のすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

総称名 終了することになるPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前をもつすべてのプロファイルが終了されます。アスタリスクが含まれていない場合には、その名前は完全なPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイル名と見なされます。指示されたプロファイルを使用して、OPRMODEパラメーターで指定されたモードで現在操作中の活動状態のすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

名前 TCP/IPのPOINT-TO-POINT構成プロファイルの名前を指定します。このプロファイルを使用するPOINT-TO-POINT活動セッション・ジョブが終了されます。

トップ

操作モード (OPRMODE)

終了したいTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの操作モードを指定します。

***ANY** 操作モードに関係なく、CFGPRFパラメーターに指定された構成プロファイル名と一致するすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

***ANS** 終了するセッションの操作モードは*ANSです。現在活動中で指定されたCFGPRF パラメーターと一致するすべての*ANSのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

***DIAL** 終了するセッションの操作モードは*DIALです。現在活動中で指定されたCFGPRF パラメーターと一致するすべての*DIALのPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブが終了されます。

トップ

例

例1: TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(DIALPRF)
```

このコマンドは、構成プロファイルDIALPRFを使用中のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを終了します。操作モード(OPRMODE)値の省略時の値として*ANYが使用されるので、この操作モードはセッション・ジョブを終了するかどうかの判断では使用されません。

例2: 全応答(*ANS)モードTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(*ALL)  OPRMODE(*ANS)
```

このコマンドは、アクティブまたは活動化中のPOINT-TO-POINT応答モード(*ANS)TCP/IPセッション・ジョブをすべて終了します。

例3: 全TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(*ALL)
```

このコマンドは、アクティブまたは活動化中のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブをすべて終了します。

例4: XYZで始まっている全TCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(XYZ*)
```

このコマンドは、XYZで始まっているプロファイルをもつ活動状態または活動化中のPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブをすべて終了します。

例5: 特定プロファイル名を使用した応答モードTCP/IP POINT-TO-POINTセッション・ジョブの終了

```
ENDTCPPTP  CFGPRF(DIALPRF)  OPRMODE(*ANS)
```

このコマンドは、プロファイルDIALPRFが応答モードで実行されるように定義されていると、このプロファイルを使用してPOINT-TO-POINT TCP/IPセッション・ジョブを終了します。このプロファイルがダイヤル・モードで実行されるように定義されている場合は、処置は行なわれません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1A1F

&3/&2/&1が&6を使用中に、要求を処理することはできない。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8209

ジョブ&6/&5/&4に対するENDTCPPTP &1 &3は完了しました。&11個のセッションのうち&10個が終了しました。

[トップ](#)

TCP/IPサーバーの終了 (ENDTCPSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ENDTCPSVRコマンドは、SERVERパラメーターに指定されているTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了するために使用されます。これらのジョブの中に現在活動状態の接続がある場合には、それらの接続は直ちに終了されます。活動状態でないサーバーを終了するためにENDTCPSVRコマンドを使用した場合には、診断メッセージが戻されることがあります。

TCP/IPサーバー終了コマンドは、TCP/IPが完全に作動可能状態である場合にのみ使用することができます。インターフェース・サーバー・ジョブQTCPIPが使用可能でなければなりません。システムが制限状態である時には、このコマンドは使用できません。

ADDTCPSSVR (TCP/IPサーバー追加) CLコマンドを使用すれば、ENDTCPSVRがサポートするサーバーのリストに追加のサーバーを自動的に追加することができます。

制約事項:

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。このコマンドは、TCP/IPサーバーの各タイプを処理するために別のプログラムを呼び出します。呼び出されるこのプログラムがスレッド・セーフの場合には、このコマンドはスレッド・セーフです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー適用業務	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプションル、位置 1
HTTPSVR	HTTPサーバー	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: サーバー・インスタンス	名前, *ADMIN	
DNSSVR	DNSサーバー	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: サーバー・インスタンス	名前	
TCMSVR	TCMサーバー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: インスタンス名	文字値, *ALL	
TOMCATSVR	ASFTOMCATサーバー	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: サーバー・インスタンス名	文字値, *ALL	

サーバー適用業務 (SERVER)

このコマンドで終了するTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを指定します。

TCP/IPサーバー追加(ADDTCPSVR)コマンドを実行することによって追加のTCP/IPサーバーが追加されている場合には、それらも使用可能になります。

このパラメーターでサポートされるすべての値のリストについては、このコマンドのプロンプト時にこのパラメーターでF4 (プロンプト) を押すことができます。

単一値

***ALL** すべてのTCP/IPサーバー・ジョブが終了されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

*ASFTOMCAT

APACHE SOFTWARE FOUNDATION (ASF) TOMCATサーバーが終了されます。

*BOOTP

ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)サーバーが終了されます。

*CIMOM

COMMON INFORMATION MODELオブジェクト・マネージャー(CIMOM)サーバーが終了されます。

***DBG** デバッグ・サーバーが終了されます。

***DDM** 分散データ管理(DDM)サーバー・ジョブが終了されます。

*DHCP

動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバー・ジョブが終了されます。

*DIRSRV

LDAPディレクトリー・サービス(DIRSVR)サーバー・ジョブが終了されます。

*DLFM

データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)サーバー・ジョブが終了されます。

***DNS** ドメイン・ネーム・システム(DNS)サーバー・ジョブは、次の場合以外は終了されます。

- 特定のサーバー・インスタンス名がDNSSVRパラメーターに指定されている。特定のサーバー・インスタンスを指定した場合には、そのインスタンスだけが終了されます。

DNSサーバーのすべてのインスタンスを終了するためには、次の1つを指定してください。

```
ENDTCPSVR SERVER(*DNS)
ENDTCPSVR SERVER(*DNS) DNSSVR(*ALL)
```

*DOMINO

LOTUS DOMINO (DOMINO)サーバーが終了されます。

*EDRSQL

拡張動的リモートSQL (EDRSQL)サーバーが終了されます。

***FTP** すべてのファイル転送プロトコル(FTP)サーバー・ジョブが終了されます。

***HOD** ホスト・オンデマンド(HOD)サーバーが終了されます。

***HTTP**

次の場合を除いて、HTTPサーバー・ジョブのすべてのインスタンスが終了されます。

- 特定のサーバー・インスタンス名がHTTPSVRパラメーターに指定されている。特定のサーバー・インスタンスを指定した場合には、そのインスタンスだけが終了されます。
- *ADMIN値がHTTPSVRパラメーターに指定されている。HTTPSVR(*ADMIN)を指定した場合には、管理サーバーだけが終了されます。

HTTPサーバーのすべてのインスタンスを終了するためには、次の1つを指定してください。

```
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP)
ENDTCPSVR SERVER(*HTTP) HTTPSVR(*ALL)
```

このHTTPサーバーはIBM HTTP SERVERとしても知られています。

***IBMHELP**

IBMオンライン・ヘルプおよびECLIPSE INFORMATION CENTER (IBMHELP)サーバーが終了されます。

***INETD**

インターネット・デーモン(INETD)サーバーが終了されます。

***LPD** すべてのライン・プリンター・デーモン(LPD)サーバーが終了されます。

***MGTC**

マネージメント・セントラル(MGTC)サーバーが終了されます。

***NETSVR**

NETSERVER (NETSVR)サーバーが終了されます。

***NSLD**

ネットワーク・ステーション・ログイン・デーモン(NSLD)サーバーが終了されます。

***NTP** すべてのSIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)サービス・サーバーが終了されます。

注:クライアントとサーバーSNTPサービスの両方が開始されている場合には、SERVER(*NTP)を指定してENDTCPSVRコマンドを実行することによって、クライアントとサーバー・サービスの両方が終了されます。クライアントだけ、あるいはサーバーSNTPサービスだけを終了したい場合には、SERVER(*NTP)およびNTPSRV(*CLIENT)またはNTPSRV(SERVER)を指定して、TCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドを再度実行する必要があります。

***ODPA**

オンデマンド・プラットフォーム認証(ODPA)サーバーが終了されます。

***ONDMD**

オンデマンド(ONDMD)サーバー・ジョブが終了されます。

***POP** すべてのPOST OFFICE PROTOCOL (POP3)メール・サーバー・ジョブが終了されます。

***QOS** QUALITY OF SERVICE(QOS)サーバーが終了されます。

***REXEC**

すべてのリモート実行(REXEC)サーバーが終了されます。

***ROUTED**

ルーター・デーモン(ROUTED)サーバーが終了されます。

***SMTP**

QSYSWRKサブシステム中のSIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)と関連のあるすべてのジョブが終了されます。QSNADSサブシステム中のブリッジ・ジョブは終了されません。

*SNMP

QSYSWRKサブシステム中のSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)エージェントと関連のあるすべてのジョブが終了されます。

*SRVSPTPRX

SERVICE AND SUPPORT PROXY (SRVSPTPRX)サーバーが終了されます。

*TCM TRIGGERED CACHE MANAGER (TCM)サーバーは、次の場合以外は終了されます。

- 特定のサーバー・インスタンス名がTCMSVRパラメーターに指定されている。特定のサーバー・インスタンスを指定した場合には、そのインスタンスだけが終了されます。

TCMサーバーのすべてのインスタンスを終了するためには、次を指定してください。

```
ENDTCPSVR SERVER(*TCM) TCMSVR(*ALL)
```

*TELNET

すべてのTELNETサーバー・ジョブが終了します。

*TFTP

すべての簡易ファイル転送プロトコル(TFTP)サーバー・ジョブが終了されます。

*VPN 仮想プライベート・ネットワーク(VPN)サーバーが終了されます。

*WEBFACING

WEBFACINGサーバーが終了されます。

[トップ](#)

HTTPサーバー (HTTPSVR)

終了するHTTPサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定されているSERVERパラメーターは*HTTPでなければなりません。さもないと、このパラメーターは無視されます。

複数のHTTPサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

*ALL 現在実行中のHTTPサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

*ADMIN

管理サーバーが終了されます。管理サーバーは、WEBブラウザを使用して特定のシステム機能を管理できるようにするHTTPサーバーのインスタンスです。

名前 終了するHTTPサーバー・インスタンスの名前を指定します。

[トップ](#)

DNSサーバー (DNSSVR)

終了するDNSサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定されているSERVERパラメーターは*DNSでなければなりません。さもないと、このパラメーターは無視されます。

複数のDNSサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

***ALL** 現在実行中のDNSサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

名前 終了するDNSサーバー・インスタンスの名前を指定します。

[トップ](#)

TCMサーバー (TCMSVR)

終了するTCMサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定されているSERVERパラメーターは*TCMでなければなりません。さもないと、このパラメーターは無視されます。

複数のTCMサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

***NONE**

現在実行中のTCMサーバーのどのインスタンスも終了されません。

***ALL** 現在実行中のTCMサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

名前 終了するTCMサーバー・インスタンスの名前を指定します。

[トップ](#)

ASFTOMCATサーバー (TOMCATSVR)

終了するTOMCATサーバー・インスタンスの名前を指定します。指定するSERVERパラメーターは*ASFTOMCATでなければなりません。さもないとこのパラメーターは無視されます。

複数のTOMCATサーバー・インスタンスが定義されている場合には、すべてのインスタンスを終了するか、あるいは終了するインスタンス名を指定することによって1つの特定のインスタンスを終了するよう選択することができます。

***NONE**

現在実行中のTOMCATサーバーのどのインスタンスも終了されません。

***ALL** 現在実行中のTOMCATサーバーのすべてのインスタンスが終了されます。

名前 終了するTOMCATサーバー・インスタンスの名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1: 全TCP/IPサーバーの終了

```
ENDTCPSVR  SERVER(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのアクティブTCP/IPアプリケーション・サーバー・ジョブを終了します。

例2: LPDサーバーの終了

```
ENDTCPSVR  SERVER(*LPD)
```

このコマンドは、TCP/IP LPDアプリケーション・サーバー・ジョブを終了します。

例3:特定HTTPサーバー・インスタンスの終了

```
ENDTCPSVR  SERVER(*HTTP)  HTTPSVR(HTTP1)
```

このコマンドは、'HTTP1'という名前のTCP/IP HTTPアプリケーション・サーバー・インスタンスを終了します。

例4:特定DNSサーバー・インスタンスの終了

```
ENDTCPSVR  SERVER(*DNS)  DNSSVR('DNS1')
```

このコマンドは、'DNS1'という名前のTCP/IP DNSアプリケーション・サーバー・インスタンスを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3894

メッセージ&1に対して取り消し応答を受け取った。

TCP1A0A

&1が異常終了しました。理由コードは&2です。

TCP1A11

&1が正常に実行されなかった。

TCP1A77

&1は正常に完了したが、エラーが起こった。

[トップ](#)

TIEセッション終了 (ENDTISSN)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

技術情報交換セッション終了(ENDTISSN)コマンドを使用すればTIEバッチ・コマンドに使用されている通信回線を切断することができます。このコマンドは、他のTIEバッチ・コマンドの後になければなりません。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDTISSN

このコマンドは、TIEバッチ・コマンドに使用されている通信回線を切断することによって、TIE機能を終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

トレースの終了 (ENDTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース終了(ENDTRC)コマンドは、STRTRC (トレース開始)コマンドによって開始されたトレース・セッションを終了します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用できません。
- DTAOPT(*LIB)が指定された場合には、トレース・データが保管されるそのライブラリー内のライブラリーおよびデータベース・ファイルに対する権限が必要です。
- PRTRC(*YES)が指定された場合には、PRTRC (トレース印刷)コマンドに対する権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前, *PRV	必須, 定位置 1
DTAOPT	データ・オプション	*LIB, *DLT	オプション
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *CURLIB	オプション
RPLDTA	データの置き換え	*YES, *NO	オプション
PRTRC	トレース・データの印刷	*NO, *YES	オプション

トップ

セッションID (SSNID)

トレースを終了するセッションIDを指定します。この名前は、前に開始され、まだ活動状態のトレースのセッションIDと一致していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***PRV** このENDTRCコマンドを実行している、その同じユーザーによって最後に開始されたトレース・セッションが終了されます。たとえば、ENDTRCコマンドを実行中のジョブがユーザー・プロファイルBOBのもとで実行している場合には、ユーザー・プロファイルBOBのもとで開始された最後のトレース・セッションが終了されます。

名前 終了させるトレースのセッションIDを指定します。

データ・オプション (DTAOPT)

収集したトレース・データをデータベース・ファイルに保管するか、あるいはトレース・データを削除するかを指定します。

***LIB** トレース・データはデータベース・ファイルにコピーされます。このコマンドまたはトレース印刷 (PRTRC)コマンドのPRTRCパラメーターは、データの形式設定および印刷に使用することができます。

***DLT** トレース・データは、それを収集した内部バッファから削除されます。

トップ

データ・ライブラリー (DTALIB)

トレース・データが入っているライブラリーの名前を指定します。1セットのデータベース・ファイルがトレース・データを入れるためにこのライブラリー中に作成されます。このファイルがまだ存在しない場合には、それが作成されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに***LIB**が指定された場合だけです。

***CURLIB**

トレース・データは、ジョブの現行ライブラリー中のファイルに保管されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 トレース・データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。ENDTRCコマンドを実行する場合には、このライブラリーが事前に存在しなければなりません。

トップ

データの置き換え (RPLDTA)

同じセッションIDの前のトレース・セッションで収集したトレース・データは、新規のトレース・データと置き換えられます。これは、トレース・データを保管する1セットのデータベース・ファイルが、指定されたトレース・セッションID(SSNIDパラメーター)と同じファイル・メンバーをすでに持っているかどうかをチェックして判別されます。

注: このパラメーターが有効となるのは、**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに***LIB**が指定された場合だけです。

***YES** トレース・データが指定されたトレース・セッションIDですでに存在する場合には、古いトレース・データは失われて、新規のトレース・データと置き換えられます。

***NO** 指定されたセッションにトレース・データがすでに存在している場合には、エラー・メッセージがユーザーに送られます。

トップ

トレース・データの印刷 (PRTTRC)

トレース・データをトレース・データベース・ファイルに保管した後でそれを形式設定して印刷するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、**データ・オプション (DTAOPT)**パラメーターに*LIBが指定された場合だけです。

***NO** このPRTTRC (トレース印刷) コマンドは、このコマンドの一部としては実行されません。

***YES** このPRTTRC (トレース印刷) コマンドは、トレース・データをトレース・データベース・ファイルに保管した後で実行されます。

トップ

例

例1:最新の開始済みトレースを終了する

```
ENDTRC  SSNID(*PRV)
```

このコマンドは、ENDTRCコマンドを実行しているのと同じユーザーによって最近開始されたトレース・セッションを終了します。トレース・データは、ジョブの現行ライブラリーまたはQGPL (ジョブの現行ライブラリーがない場合) 中にあるファイルのセットに保管されます。

例2:トレースを終了してトレース・データを削除する

```
ENDTRC  SSNID(DCG1)  DTAOPT(*DLT)
```

このコマンドは、トレース・セッションDCG1を終了して、トレース・データを削除します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPC3923

ENDTRCセッションID &1は正常にライブラリー&2に保管された。

CPC3924

ENDTRCセッションID &1が正常に削除された。

CPF39CA

トレース・セッションID &1が見つかりません。

CPF39CB

ライブラリー&2のトレース・セッションID &1にデータが存在する。RPLDTA(*YES)を指定してください。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

CPF39D3

トレースを開始/終了できません。

[トップ](#)

トラップ管理機能の終了 (ENDTRPMGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トラップ管理機能終了(ENDTRPMGR)コマンドを使用して、OS/400 SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL(SNMP)トラップ管理機能のジョブを終了してください。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

ENDTRPMGR

このコマンドは、OS/400 SNMP管理機能フレームワーク・トラップ管理機能ジョブを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFA805

トラップ管理プログラム・ジョブは活動状態でないか、終了中である。

[トップ](#)

監視の終了 (ENDWCH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

監視終了(ENDWCH)コマンドは、STRWCH（監視開始）コマンドまたは監視開始(QSCSWCH) APIによって開始された監視セッションを終了します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムのサービス監視機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_WATCHの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、監視操作の開始および終了に使用できるユーザーのリストを変更するために使用することができます。
- ジョブ・ログ内のメッセージを監視している監視セッションを終了する場合に、コマンド発行側は、監視しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持つユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限は、総称ユーザー名を持つジョブが監視されているセッションを終了する場合も必要です。
- 監視ジョブ名に*ALLまたは総称ユーザー名を指定して開始された監視セッションを終了する場合には、*ALLOBJ特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してオペレーティング・システムの任意にジョブ監視機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_WATCH_ANY_JOBの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、監視操作の開始および終了に使用できるユーザーのリストを変更するために使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SSNID	セッションID	名前, *PRV	必須, 定位置 1

[トップ](#)

セッションID (SSNID)

監視を終了するセッションIDを指定します。この名前は、前に開始され、まだ活動状態の監視セッションのセッションIDと一致していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

***PRV** このENDWCHコマンドを実行している、その同じユーザーによって最後に開始された監視セッション

ンが終了されます。たとえば、ENDWCHコマンドを実行中のジョブがユーザー・プロファイルBOBで実行されている場合には、ユーザー・プロファイルBOBで開始された最後の監視セッションが終了されます。

名前 終了させる監視のセッションIDを指定してください。

[トップ](#)

例

例1:最新の開始済み監視を終了する

```
ENDWCH SSNID(*PRV)
```

このコマンドは、ENDWCHコマンドを実行しているのと同じユーザーによって最後に開始された監視セッションを終了します。

例2:特定の監視セッションを終了する

```
ENDWCH SSNID(MYSESSION)
```

このコマンドは、監視セッションMYSESSIONを終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF39EC

&2コマンドによって開始した監視セッション&1を終了できません。

CPF39E1

監視セッション&1が見つかりませんでした。

CPF39E2

現行のユーザー・プロファイルの活動状態の監視セッションがありません。

CPF39E6

ユーザーに必要な権限がありません。

CPF39E8

監視操作に対して十分な権限がありません。

CPF39E9

*JOBCTLの特殊権限が必要です。

[トップ](#)

書き出しプログラム終了 (ENDWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドは、指定されたスプール書き出しプログラムを終了し、関連の出力装置をシステムに使用できるようにします。書き出しプログラムは、即時に終了することも、あるいは制御された方式で終了することもできます。即時に終了した場合には、書き出しプログラムはファイルの書き出しを停止し、ファイルがもう一度出力待ち行列上で使用できるようになります。制御された方式で終了する場合には、書き出しプログラムは現行ファイル（またはファイルのコピー）の書き出しを完了するか、ファイルのページの印刷を完了してから、終了します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WTR	書き出しプログラム	名前, *SYSVAL, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	書き出しプログラムの終了時点	*CNTRLD, *IMMED, *PAGEEND	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

停止させるスプール書き出しプログラムを指定します。これで書き出しプログラムの出力装置は、システム上で使用可能な状態になります。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 開始されているすべての書き出しプログラムを停止させます。

***SYSVAL**

システムの省略時の印刷装置に開始されている書き出しプログラムを停止させます。

名前 停止させる書き出しプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

書き出しプログラムの終了時点 (OPTION)

書き出しプログラムがいつ処理を停止するかを指定します。

***CNTRLD**

スプール書き出しプログラムは、制御された方法で処理を停止します。出力は、出力装置に対して現在書き出し中のスプール・ファイル（またはファイルのコピー）の終わりで停止します。

***IMMED**

書き出しプログラムは即時に処理を停止します。現在印刷中のスプール・ファイルは出力待ち行列上に残ります。

***PAGEEND**

書き出しプログラムは現行バッファの処理後に停止されます。この値は、スプール書き出しプログラムが印刷装置書出プログラムの場合にのみ有効です。

トップ

例

ENDWTR WTR(PRINTER)

このコマンドは、出力が印刷されているスプール・ファイルの終わりでPRINTERという名前の書き出しプログラムを停止し、次に、その装置をシステムに解放します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1842

システム値&1をアクセスすることができない。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3339

書き出しプログラム&3/&2/&1に対する前の終了要求は保留されている。

CPF3438

*PAGEENDは書き出しプログラム&3/&2/&1の場合には正しくない。

トップ

リンクの除去 (ERASE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リンクの除去 (ERASE)コマンドは、指定されたオブジェクトへのリンクを除去します。これがオブジェクトへの唯一のハード・リンクであった場合には、それが使用されなくなった時にオブジェクトが除去されます。オブジェクトへのシンボリック・リンクが存在していた場合であっても、オブジェクトは除去することができます。シンボリック・リンクは、それが除去されるまで残されます。

このコマンドはリンクの除去 (RMVLNK)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- DEL
- RMVLNK

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、オブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。ハード・リンクをリンク解除する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限も必要です。
2. QDLSファイル・システムでは、オブジェクトに対する全(*ALL)権限と親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
4. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
5. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトをリンク解除することはできません。
 - a. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - b. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
6. ディレクトリーをリンク解除することはできません。
7. ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルへのリンクを除去することはできません。
8. 上にリストされた制約事項は、タイプが*DDIR, *DSTMF, *SOCKET, *STMF,および*SYMLNKのI5/OSオブジェクトに対するものです。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

1. このコマンドをこれらのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。それらの制約事項を識別するには、除去する

オブジェクトの削除コマンドを参照してください。一般に、このコマンドの名前はI5/OSオブジェクト・タイプの値を使用し、そこから文字*を除去して、先頭に動詞DLTを追加して形成されます。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*LRTBLのアラート・テーブルを削除するには、警報テーブルの削除(DLTALRTBL)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

ただし、この規則には例外があります。たとえば、オブジェクト・タイプの値が*MODULEのコンパイラ単位を削除するには、モジュールの削除(DLTMOD)コマンドの追加の制約事項を参照してください。

オブジェクト・タイプについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックを参照してください。

- これらのファイル・システムでは、リンクの除去(RMVLNKまたは別名DELあるいはERASE)コマンドを使用して、ライブラリーおよびデータベース・ファイルを削除することはできません。しかし、これらのオブジェクトは、ディレクトリーの除去(RMVDIRまたは別名RMDIRあるいはRD)コマンドを使用して削除することができます。
- 次のオブジェクト・タイプは、別のコマンドを使用して削除することはできません。*EXITRG, *IGCSRT, *JOBSCD, *PRDAVL, *QRYDFN, *RCT。

QDLSファイル・システムの相違点

- このコマンドをこのファイル・システム内にあるオブジェクトのリンクを除去するために使用する場合には、追加の制約事項が適用される場合があります。これらの制約事項を識別するには、文書ライブラリー・オブジェクトの削除(DLTDLO)コマンドの説明を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJLNK	オブジェクト・リンク	パス名	必須, 定位置 1

トップ

オブジェクト・リンク (OBJLNK)

リンク解除するオブジェクトのパス名を指定します。名前パターンによって、複数のリンクを除去することができます。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

例

ERASEの代替コマンド名はRMVLNKです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、ERASEはそれらのすべてで直接RMVLNKに置き換えることができます。

例1: オブジェクト・リンクの除去

```
RMVLNK OBJLNK('PAY')
```

このコマンドは、PAYという名前のリンクを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0BD

&1リンクは除去された。&2リンクは正常に実行されなかった。

[トップ](#)

プログラム記号のエクスポート (EXPORT)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム記号のエクスポート(EXPORT)バインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロック中のエクスポートを定義します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYMBOL	エクスポートされた記号名	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

エクスポートされた記号名 (SYMBOL)

エクスポートする記号を指定します。記号は、アポストロフィ(')または引用符で囲むか、あるいは区切りのマークなしで表すことができます。

これは必須パラメーターです。

文字値 エクスポートするプログラム外部変数またはプロシージャの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
EXPORT SYMBOL('EXTVAR2')
```

このバインダー定義ステートメントは、サービス・プログラム・エクスポート・ブロックにエクスポートする記号として**EXTVAR2**を定義します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

NFSエクスポートの変更 (EXPORTFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル・システム・エクスポート変更(EXPORTFS)コマンドは、(エクスポートする)ディレクトリー名、または現在ネットワーク・ファイル・システム(NFS)クライアントにエクスポートされているディレクトリー・ツリーの(アンエクスポートの)リストから除去するディレクトリー名を追加します。OPTIONSリストのフラグは、EXPORTFSコマンドで実行される処置を指示します。

ディレクトリーおよびディレクトリーとその内容をエクスポートするためのオプションのリストは、*/ETC/EXPORTS*ファイルに保管されます。EXPORTFSコマンドでは、-Aフラグを使用して*/ETC/EXPORTS*ファイルに指定されているすべてのディレクトリー・ツリーをエクスポートするか、またはディレクトリー名を指定して単一のディレクトリー・ツリーをエクスポートすることができます。エクスポートするディレクトリー・ツリーが*/ETC/EXPORTS*ファイルに存在する場合には、そこで指定されたオプションでエクスポートするか、またはEXPORTFSコマンドで新規オプションを指定し、-Iフラグを使用してオプションを指定変更することができます。

また、EXPORTFSコマンドでそのオプションを指定して、前に*/ETC/EXPORTS*ファイルで定義されていないディレクトリー・ツリーをエクスポートすることもできます。EXPORTFSコマンドで-Uフラグを使用して、ディレクトリー・ツリーをアンエクスポートすることができます。

また、-Fフラグを使用して、*/ETC/EXPORTS*ファイルのエクスポート項目を追加、変更、または除去することもできます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CHGNFSEXP

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドに関する詳細については、*NETWORK FILE SYSTEM BOOK (SC41-5714)*を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. パス名接頭部の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
3. -Fフラグが指定されていて、*/ETC/EXPORTS*ファイルが存在しない場合には、*/ETC*ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
4. -Fフラグが指定されていて、*/ETC/EXPORTS*ファイルが存在する場合には、*/ETC/EXPORTS*ファイルに対する読み取り、書き込み(*RW)権限と*/ETC*ディレクトリーに対する*X権限が必要です。
5. 混合CCSIDエンコード・スキームはサポートされていません。指定されるCCSIDは、1バイト文字セット(SBCS)または全くの2バイト文字セット(DBCS)でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTIONS	NFSエクスポート・オプション	文字値, *DFT	オプションナル, 位置 1
DIR	ディレクトリー	パス名	オプションナル, 位置 2
HOSTOPT	ホスト・オプション	単一値: *DFT その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプションナル
	要素 1: ホスト名	文字値	
	要素 2: データ・ファイル CCSID	0-65535, *BINARY , *ASCII, *JOBCCSID	
	要素 3: パス名CCSID	0-65535, *ASCII , *JOBCCSID	
	要素 4: 強制同期書き出し	*SYNC , *ASYN	

トップ

NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)

エクスポート・オプション・リストには、エクスポートするディレクトリーの特性の文字ストリングが入っているリストが任意選択で後に続くフラグが入っています。

各フラグはマイナス“-”に文字を続けた形式です。フラグはスペースで区切ります。特定の組み合わせのフラグだけを使用できます。無効な組み合わせが検出されると、エラーが戻されます。

注: OPTIONSまたはディレクトリー (**DIR**)パラメーターのいずれかに指定する必要がある(*NONE以外の)値。OPTIONSとDIRは、-AがOPTIONSパラメーターに指定されたオプション・リストの一部でない場合に指定することができます。

***DFT** オプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

'-A'

オプション・フラグ

-A これは「全」フラグで、*/ETC/EXPORTS*ファイルのすべての項目が処理されることを示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Aであり**-U**でない

これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルのすべての項目をエクスポートします(NFSクライアントが使用できるようにします)。

-Aおよび**-U**

これは現在エクスポートされているすべての項目をアンエクスポートします(NFSクライアントに対して使用できなくする)。これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルの内容に対する参照にはなりません。

-Aおよび**DIR**パラメーター

この組み合わせは使用できません。

-Aおよび**(-Iまたは-Fまたは-O)**

これらの組み合わせは使用できません。

- I これは「無視」フラグであり、DIRパラメーターに指定されたディレクトリー・ツリーについてのエクスポート特性の判別方法を指示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Iおよび-O

-Oフラグで指定されたエクスポート特性が使用され、*/ETC/EXPORTS*にリストされた定義は（もしあれば）無視されます。

-Iでも-Oでもない

*/ETC/EXPORTS*ファイルにリストされたエクスポート特性が使用されるか、またはそのファイルにオプションがなければ省略時のオプションとみなされるかのいずれかです。省略時のオプションのリストについては、-Oフラグ記述を参照してください。

-Iおよび(-Aまたは-U)

これらの組み合わせは使用できません。

- U これは「アンエクスポート」フラグであり、DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがアンエクスポートされる(NFSクライアントに対して使用できなくなる)ことを指示します。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Uおよび-A

これは現在エクスポートされているすべての項目をアンエクスポートします(NFSクライアントに対して使用できなくする)。これは、*/ETC/EXPORTS*ファイルの内容に対する参照にはなりません。

-Uおよび-F

DIRパラメーターで参照された項目がアンエクスポートされ(NFSクライアントが使用できないようにし)さらに*/ETC/EXPORTS*ファイルから（もしあれば）除去されます。

-Uおよび(-Iまたは-O)

これらの組み合わせは使用できません。

- F これは「ファイル」フラグであり、DIRパラメーターを必要とします。次のフラグの組み合わせには特殊な意味があります。

-Fおよび-U

DIRパラメーターで参照された項目がアンエクスポートされ(NFSクライアントが使用できないようにし)さらに*/ETC/EXPORTS*ファイルから（もしあれば）除去されます。

-Fであり-Uでも-Oでもない

DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがエクスポートされます(NFSクライアントに対して使用可能にする)。さらに、DIRパラメーターに入力されたこのディレクトリー・ツリーの項目が*/ETC/EXPORTS*ファイルに追加されます。ファイルにすでに項目が存在する場合には、この新しいエクスポート項目と置き換えられます。このファイルが存在しない場合には、ファイルが作成されて、エクスポート項目が追加されます。「ファイル」フラグ-Fが「アンエクスポート」フラグ-Uなしで指定されると、「無視」フラグ-Iが暗黙指定となることに注意して

ください。「オプション」フラグ-Oが指定されていないので、省略時のオプションが想定されます。省略時のオプションのリストについては、-Oフラグ記述を参照してください。

-Fであり-Uでなく-Oである

DIRパラメーターに入力した指定のディレクトリー・ツリーがエクスポートされます(NFSクライアントに対して使用可能にする)。さらに、DIRパラメーターに入力されたこのディレクトリー・ツリーの項目が/ETC/EXPORTSファイルに追加されます。ファイルにすでに項目が存在する場合には、この新しいエクスポート項目と置き換えられます。このファイルが存在しない場合には、ファイルが作成されて、エクスポート項目が追加されます。「ファイル」フラグ-Fが「アンエクスポート」フラグ-Uなしで指定されると、「無視」フラグ-Iが暗黙指定となることに注意してください。「オプション」フラグ-Oで指定されたすべてのエクスポート特性オプションは、子Mで指定された/ETC/EXPORTSファイルに保管されます。

-Fおよび-A

この組み合わせは使用できません。

注: -Fフラグを正常に使用すると、/ETC/EXPORTSファイルの内容が完全に置き換えられて、-Fフラグによって行われた変更、追加、または削除が反映されるようになります。関連のない既存の項目はコピーされますが、-Fフラグを使用した結果として/ETC/EXPORTSファイルのすべてのコメントは失われます。

- E** これは「エスケープ・メッセージ」フラグであり、試みたエクスポートのいずれかについてコマンドが正常に実行されない場合にエスケープ・メッセージが出されることを指示します。
- O** このフラグは、エクスポートする(NFSクライアントに対して使用可能にする)ディレクトリー・ツリーのエクスポート特性を指定します。-Oフラグ・リストの後のオプション・リストは、コンマで区切られたオプションから構成されています。一部のオプションの後には、等号 '=' および値 (またはコロン ':' で区切られた値のリスト) が続いています。オプション・リストには、スペースが含まれる場合があります。オプションを指定しないと、そのオプションの省略時の値が使用されます。-Oフラグが有効であるのは、「無視」フラグ-I または「ファイル」フラグ-Fが指定されている場合だけです。

オプションが必要で、-Oフラグが指定されていない場合には、以下が省略時のオプションです。

- 'RW=' すべてのホスト名はディレクトリー・ツリーへの読み取り/書き出しアクセス権をもちます。
- プロファイル *QNFSANON* と関連づけられた *ANON=UID*。
- 許可ビット以外のモードになっているビットに対する要求が許されます。
- 'ROOT=' すべてのホストでルート・アクセスは使用できません。
- 'ACCESS=' すべてのクライアントがディレクトリーをマウントすることが許されます。

使用可能なオプションとその説明を以下に示します。

- RO** エクスポート済みディレクトリー・ツリーの保護を指定します。ROを指定した場合には、ディレクトリーとその内容への読み取り専用アクセスのみが認められるディレクトリー・ツリーがエクスポートされます。これを指定しない場合には、ディレクトリーとその内容への読み取り/書き出しアクセスが認められます。

RW=[HOSTNAME[:HOSTNAME]](...)

エクスポート済みのディレクトリーおよびその内容への読み取り／書き出しアクセスが認められる1つまたは複数のホスト名を指定します。ホスト名が指定されていない場合には、読み取り専用アクセスのみが認められているディレクトリーとその内容がエクスポートされます。

ROおよびRWのいずれも指定されていない場合には、'RW='が前提とされ、すべてのホスト名がエクスポート済みのディレクトリーへの読み取り／書き出しアクセス権をもちます。

ANON=UID

不明ユーザーからの要求を行う場合には、このUIDを有効なユーザーIDとして使用してください。下のROOTオプションで指定されていない限り、ルート・ユーザーは不明とみなされることに注意してください。このオプションの省略時の値は、ユーザー・プロファイル*QNFSANON*に関連づけられたUIDです。

不明のユーザーからの要求を許可したくない場合には、'ANON=-1'を使用してください。

NOSUID

クライアントによる、許可ビット以外のビットを使用可能にするいかなる試みも無視されます。このオプションが指定されていない場合には、許可ビット以外のビットをセットする試みが行われます。

ROOT=[HOSTNAME[:HOSTNAME]](...)

エクスポートされたディレクトリー・ツリーへのルート・アクセスが認められる1つまたは複数のホスト名を指定します。ホストに対するルート・アクセスが許可されると、0の着信UIDがユーザー・プロファイル*QSECOFR*にマップされて、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持つユーザーからの着信要求が許可されます。ホストに対するルート・アクセスが許可されない場合には、0の着信UIDおよび*ALLOBJ特殊権限を持つユーザーからの着信要求がANONオプションで指定されたUIDにマップされます。ROOTオプションが指定されないと、どのホストもルート・アクセスを認可されません。

ACCESS=[CLIENT[:CLIENT]](...)

エクスポート済みディレクトリー・ツリーをマウントすることを認める1つまたは複数のクライアントを指定します。クライアントはホスト名またはネットグループとすることができます。クライアントを指定しない場合には、すべてのクライアントがディレクトリー・ツリーをマウントすることを認められます。

トップ

ディレクトリー (DIR)

エクスポートする(NFSに対して使用可能にする) またはアンエクスポートする(NFSに対して使用できなくする) 既存ディレクトリーの絶対パス名を指定します。このディレクトリーを (別のファイル・システムに入っていない限り) すでにエクスポートされたディレクトリーのサブディレクトリーまたは親にすることはできません。NFSエクスポート・オプション (OPTIONS)パラメーターで-Aフラグが指定されている場合には、このパラメーターは許可されません。OPTIONSパラメーターで-Fフラグを指定すると、このパラメーターが必要です。

注: OPTIONSまたはDIRパラメーターのいずれかに指定する必要がある(*NONE以外の) 値。
OPTIONSとDIRは、-AがOPTIONSパラメーターに指定されたオプション・リストの一部でない場合に指定することができます。

トップ

ホスト名 (HOSTOPT)

HOSTOPTパラメーターには、ディレクトリー・ツリーのエクスポート先のNFSクライアントに関する追加の情報を指定する4つの要素があります。ディレクトリー・ツリーのエクスポート先のホスト名にHOSTOPTパラメーターが指定されていない場合には、HOSTOPTパラメーターのそれぞれの要素の省略時の値がそのホストに使用されます。

***DFT** *DFTは、1つ以上のディレクトリー・ツリーがエクスポートされるすべてのクライアントに、HOSTOPTパラメーターの要素の省略時の値が使用されることを示します。ネットワーク・データ・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)は*BINARY,ネットワーク・パス名のコード化文字セットID (CCSID)は*ASCII, 強制同期書き出しは*SYNCです。

要素1:ホスト名

追加のオプションを指定するホストの名前。このホストは、エクスポートされたディレクトリー・ツリーに対するアクセス権をもつホストとして、OPTIONS -Oリスト中で上の方に指定する必要があります。単一ホストのアドレスの別名である単一ホスト名か、あるいはこれらのオプションと関連付けられるネットグループ名のいずれかを指定してください。

名前は、TCP/IP構成メニュー(CFGTCP)コマンドのTCP/IPホスト・テーブル項目の処理オプションによるか、あるいはI5/OS ISERIESナビゲーターのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを介してインターネット・アドレスに割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバは、リモート・システム名をIPアドレスにマップするために使用することもできます。

要素2:ネットワーク・データ・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)

ネットワーク・データ・ファイルのCCSIDは、指定のホスト名 (またはネットグループ名) から送受信されるファイルのデータに使用されます。HOSTOPTパラメーターで指定されていないホストの場合には、省略時のネットワーク・データ・ファイルCCSID (*BINARY)が使用されます。CCSIDは、以下の1つとすることができます。

***BINARY**

省略時のネットワーク・データ・ファイルのCCSID (2進, 変換なし) が使用されます。

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからの取得されたCCSIDが使用されます。

1から65533

データ・ファイルのCCSIDを指定してください。

要素3:ネットワーク・パス名のコード化文字セットID (CCSID)

ネットワーク・パス名CCSIDは、指定のホスト名（またはネットグループ名）から送受信されるファイルのパス名構成要素に使用されます。HOSTOPTパラメーターで指定されていないホストの場合には、省略時のネットワーク・パス名CCSID (*ASCII)が使用されます。CCSIDは、以下の1つとすることができます。

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからの取得されたCCSIDが使用されます。

1から65533

ファイルのパス名構成要素のCCSIDを指定してください。CCSIDをUCS-2レベル1 (1200)に変換できるコード・ページのみがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。

要素4:書き出しモード

このホスト名（またはネットグループ名）の書き出し要求を同期処理するか、または非同期処理するかを指定します。*SYNC（省略時の値）では、即時にデータがディスクに書き出されます。

*ASYNCでは、即時にデータがディスクに書き出されることは保証されず、サーバーのパフォーマンスを向上するために使用できます。

注: ネットワーク・ファイル・システム(NFS)プロトコルは従来から同期書き出しを使用しています。

*SYNC

書き出し要求は同期実行されます。

*ASYNC

書き出し要求は非同期実行されます。

トップ

例

EXPORTFSの代替コマンド名はCHGNFSEXPです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、EXPORTFSはそれらのすべてで直接CHGNFSEXPに置き換えることができます。

例1: /ETC/EXPORTSからのすべての項目のエクスポート

```
CHGNFSEXP  OPTIONS('-A')
-または-
CHGNFSEXP  '-A'
```

この両方のコマンドは、/ETC/EXPORTSファイルに存在するすべての項目をエクスポートします。

例2: オプションによる1つのディレクトリーのエクスポート

```
CHGNFSEXP  '-I -O RO,ANON=GUEST1,ACCESS=ROCH1:9.7.431.2'
'/PROGRAMS/PUBLIC' HOSTOPT((MIAMI1 850 850))
```

このコマンドは、パス名/*PROGRAMS/PUBLIC*の下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。これは、2つのクライアントにこのディレクトリー・ツリーのマウントを許可するだけです。これは、定位置パラメーター*OPTIONS*および*DIR*を活用します。これは、*HOSTOPT* パラメーターを使用して、ホスト*MIAMI1*のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

例3: オプションによる1つのディレクトリーのエクスポートおよび/*ETC/EXPORTS*ファイルの更新。

```
CHGNFSEXP  '-I -F -O RO,ANON=GUEST1,ACCESS=ROCH1:9.7.431.2'  
           '/PROGRAMS/PUBLIC'  HOSTOPT((MIAMI1 850 850))
```

このコマンドは、パス名/*PROGRAMS/PUBLIC*の下のディレクトリー・ツリーを読み取り専用としてエクスポートします。これは、2つのクライアントにこのディレクトリー・ツリーのマウントを許可するだけです。*OPTIONS*パラメーターの値は定位置に指定されます。これは、*HOSTOPT*パラメーターを使用して、ホスト名*MIAMI1*のデータおよびパス名のコード化文字セットID (CCSID)として850を指定します。

さらに、これは/*PROGRAMS/PUBLIC*のエクスポート項目も、*OPTIONS*および*HOSTOPT*パラメーターの値と一緒に/*ETC/EXPORTS*ファイルに追加します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

プログラム情報抜き出し (EXTPGMINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム情報検索(EXTPGMINF)コマンドは、拡張プログラム・モデル(EPM)プログラム・オブジェクトから外部関係情報を抜き出し、この情報をライブラリー情報ファイルに記憶します。外部変数および入口点を含む外部関係情報は、EPMプログラム・オブジェクトからしか抜き出すことができません。C/400*, FORTRAN/400*,およびPASCALのコンパイラーは、EPMプログラム・オブジェクトを作成します。

ライブラリー情報ファイルは、1組の関連プログラムの関係情報の集まりです。このライブラリー情報ファイル名は、SETPGMINFコマンドのLIBFILEパラメーターに使用されます。たとえば、C/400実行時ライブラリーを構成する1組のプログラムのライブラリー情報ファイル名が提供されます。

EXTPGMINFコマンドにより、各プログラム・オブジェクト名をSETPGMINFコマンドのSUBPGMパラメーターに指定しなくても、アプリケーションで影響を受けるすべての入口点の名前を記憶するファイルを作成することができます。

エラー・メッセージ: EXTPGMINF

なし

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB	
FILE	情報を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 情報を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	レコード抜き出しオプション	*REPLACE, *DELETE, *UPDATE	オプション, 定位置 3
CRTFILE	ファイルの作成	*NO, *YES	オプション
RECLIB	記録するライブラリー名	名前, *LIBL, *FOUND	オプション
CHECK	一貫性検査	*ALL, *ENTRY, *DATA, *NONE	オプション

トップ

プログラム (PGM)

PGMパラメーターは、抜き出したい関係情報が入っているプログラムおよびライブラリーの名前を指定します。これは必須パラメーターです。

プログラム名

抜き出したい関係情報が入っているプログラムの名前を入力してください。

総称* 抜き出したい関係情報が入っているプログラムの総称名を入力してください。

***ALL** 関係情報はライブラリーに入っているすべてのプログラムから抜き出されます。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。CRTFILE(*YES)を指定した場合には、*LIBLを指定することはできません。

*USRLIBL

システムはライブラリー・リストのユーザー部分を検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーの名前が使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

[トップ](#)

情報を受け取るファイル (FILE)

ライブラリー情報ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には、CRTFILE(*YES)を指定して作成してください。指定しない場合には、メッセージが出されます。

ファイル名

関係情報を保管するファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。

*CURLIB

現行ライブラリーの名前が使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

関係情報ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

レコード抜き出しオプション (OPTION)

ライブラリー情報ファイルのデータの置き換え、削除、または更新のオプションを指定します。

*REPLACE

ライブラリー情報ファイルのすべてのデータを消去して、PGMパラメーターに指定したプログラムから抜き出した情報と置き換えてください。

***DELETE**

PGMパラメーターに指定したプログラムのライブラリー情報ファイルのデータを削除します。このライブラリー情報ファイルからデータを削除した結果として、ファイルが圧縮されます。PGMパラメーターに指定したプログラムと関連していないデータは、ライブラリー情報ファイルにそのままとなります。ライブラリー情報ファイルには、新しい情報は追加されません。

***UPDATE**

指定されたプログラムの既存の情報を削除し、新しい情報でそれを置き換えます。このライブラリー情報ファイルからデータを削除した結果として、ファイルが圧縮されます。指定したライブラリー情報ファイルが空の場合には、このオプションは*REPLACEと同じです。

トップ

ファイルの作成 (CRTFILE)

抜き出された情報を記憶するためのライブラリー情報ファイルを作成します。

***NO** ライブラリー情報ファイルを作成しません。

***YES** 抜き出された情報を記憶するためのライブラリー情報ファイルを作成します。指定したライブラリー情報ファイルが存在しない場合には、*YESを選択してください。ファイルが存在している場合には、メッセージが表示されます。

トップ

記録するライブラリー名 (RECLIB)

プログラムが記憶されているライブラリーの名前を指定します。実行時にSETPGMINFコマンドを入力すると、システムはここで指定したライブラリーを検索してプログラムを見つけます。

***LIBL** システムはライブラリー・リストを検索します。

***FOUND**

EXTPGMINFコマンドを処理中に、システムは指定されたプログラムが見つかったライブラリーの名前を記録します。システムは、EXTPGMINFコマンドを処理した時にそのプログラムが入っていたライブラリーを検索します。

ライブラリー名

ライブラリーの名前を入力してください。

トップ

一貫性検査 (CHECK)

ライブラリー情報ファイル中のデータおよび入口点の一貫性を検査するように指定します。*NONEを指定した場合には、警告メッセージは出されません。*NONEを指定しなかった場合には、PSE警告メッセージが出されます。

***ALL** データと入口点の両方の一貫性を検査します。

***ENTRY**

入口点の一貫性を検査します。

***DATA**

データの一貫性を検査します。

***NONE**

一貫性検査は実行されません。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

文書ファイル (FILDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ファイル(FILDOC)コマンドによって、文書ライブラリー中の文書をファイルすることができます。

制約事項:

- 他のユーザーの代行処理が許可されている場合には、別のユーザーの代行処理で文書をファイルすることができます。ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって、他のユーザーに代わって作業を行う権限を与えてもらわなければなりません。
- ユーザーIDおよびアドレスをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。
- 新しい文書に対するセキュリティはFILDOCコマンドのパラメーターから取られ、フォルダーからは継承されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ファイルされる情報	*FILE, *IDP, *DSTID	必須, 定位置 1
TODOC	受け取り文書	文字値, *NONE	オプション
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値, *NONE	オプション
SENSITIV	機密性	*NONE, *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
USRAUT	ユーザー権限	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロフィール	名前, *PUBLIC	
	要素 2: 権限レベル	*EXCLUDE, *USE, *CHANGE, *ALL, *AUTL	
AUTL	権限リスト	名前, *NONE	オプション
ACC	アクセス・コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 0-2047	オプション
ALWRPL	置き換え可能	*NO, *YES	オプション
IDPFILE	プロフィール・ファイル	単一値: *NONE, *DOCFILE, *DSTIDIDP その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロファイル・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
IDPMBR	プロフィール・メンバー	名前, *FIRST	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
DOCFILE	文書ファイル	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 文書ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
DOCMBR	文書メンバー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション
DSTID	配布識別コード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	1-99, <u>*NONE</u>	オプション
KEEP	メール・ログに保管	<u>*NO</u> , <u>*YES</u> , <u>*REF</u>	オプション
DOCTYPE	文書タイプ	2-65535, <u>*DFT</u> , <u>*FFT</u> , <u>*RFT</u>	オプション
SYSCOD	文書システム・コード	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
DOCD	文書記述	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
AUTHOR	作成者	単一値: <u>*NONE</u> , <u>*USRID</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOCCLS	文書クラス	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
KWD	キーワード	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SUBJECT	主題	単一値: <u>*NONE</u> , <u>*DOCD</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
DOCDATE	文書日付	日付, <u>*NONE</u> , <u>*CURRENT</u>	オプション
FILCAB	ファイル・キャビネット位置	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CPYLST	リスト・コピー	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
EXPDATE	満了日	日付, <u>*NONE</u>	オプション
REFERENCE	参照	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
ACTDATE	処置期日	日付, <u>*NONE</u> , <u>*CURRENT</u>	オプション
STATUS	文書状況	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
CMPCDATE	完了日	日付, <u>*NONE</u> , <u>*CURRENT</u>	オプション
PROJECT	プロジェクト	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
DOCCHRID	文書文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , <u>*DEV</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DOCLANGID	言語識別コード	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
DOCCNTRYID	国別または地域ID	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
PERSONAL	個人	<u>*NO</u> , <u>*YES</u>	オプション
DSTEXPDATE	配布満了標識	要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付, <u>*NONE</u> , <u>*CURRENT</u>	
	要素 2: 時刻	時刻, <u>*ENDOFDAY</u>	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , <u>*DEV</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

ファイルされる情報 (TYPE)

ファイルされた情報のタイプおよびこのコマンドで有効なパラメーターを指定します。

これは必須パラメーターです。

***FILE** 文書ファイル (DOCFILE)パラメーターおよび文書メンバー (DOCMBR)パラメーターで指定するデータベース・ファイルがファイルされます。

注: この値が指定された場合には、FILCAB, DSTID, DSTIDEXN,およびKEEPパラメーターに省略時の値を指定しなければならず、DOCFILE(*NONE)を指定することはできません。

***IDP** プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターおよびプロファイル・メンバー (IDPMBR)パラメーターに指定された交換文書プロファイル(IDP), あるいはこのコマンドによって作成される文書プロファイルがファイルされます。

注: この値が指定された場合には、DOCFILE, DOCMBR, DOCTYPE, SYSCODE, DOCCHRID, DSTID, DSTIDEXT,およびKEEPパラメーターに省略時の値を指定しなければなりません。この値が指定された場合には、IDPFILEとFILCABの両方に*NONEを指定することはできません。

***DSTID**

配布識別コード (DSTID)パラメーターに指定される配布IDによって識別される配布文書がメール・ログから文書ライブラリーにファイルされます。

注: この値が指定された場合には、DSTID(*NONE)を指定することはできません。

[トップ](#)

受け取り文書 (TODOC)

新たにファイルされる文書の名前を指定します。

名前 新しくファイルされた文書のユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。この文書名は、文書をファイルするフォルダー中に存在してはなりません。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

新たにファイルされる文書が入っているフォルダーの名前を指定します。このパラメーターを指定できるのは、受け取り文書 (TODOC)パラメーターにも値を指定する時にだけです。

***NONE**

新しくファイルされた文書にはユーザー割り当て名がなく、フォルダーにはファイルされません。

名前 新たにファイルされる文書を入れるフォルダーの名前を指定してください。文書をファイルするフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名 (FLR1/FLR2/その他) から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

文書名を受け取り文書 (TODOC)パラメーターに指定する時には、フォルダー名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性のレベルを指定します。4つのレベルとは、機密性なし、個人用、私用、および会社機密です。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。

***NONE**

この文書には、機密上の制限はありません。

***PERSONAL**

この文書はユーザーの個人用です。

***PRIVATE**

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。

***CONFIDENTIAL**

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

トップ

ユーザー権限 (USRAUT)

既存のユーザーの名前およびユーザー権限レベルを指定します。この文書に対して認可されたユーザーを変更するためには、このパラメーターを使用し、その文書に対する権限以上のユーザー権限を与えるか、その文書に対するユーザー権限を除去するか、あるいはその文書に対するユーザー権限を変更してください。

***NONE**

ユーザーは文書にアクセスする特定権限をもちません。

***PUBLIC**

文書に対して特定権限をもたず、権限リスト上になく、またそのユーザー・グループが文書に対して特定権限をもっていないユーザーに権限が与えられます。

名前 文書に対する権限を与える1人または複数のユーザーのユーザー・プロファイル名を指定してください。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***AUTL**

権限リスト (AUTL)パラメーターで指定された権限リストの権限が、文書に対して使用されます。
*AUTL値が有効なのは、*PUBLICも指定された場合だけです。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

受け取り文書 (TODOC)パラメーターに指定された文書の保護に使用される権限リストの名前を指定します。

***NONE**

権限リストは指定されません。

名前 文書に対して使用する権限をもつ権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

アクセス・コード (ACC)

この文書で使用するアクセス・コードを指定します。アクセス・コードはシステムにすでに存在していなければなりません。アクセス・コードがすでに存在しているのでなければ、アクセス・コード追加(ADDACC)コマンドを使用してシステムに追加しなければなりません。

***NONE**

この文書にはアクセス・コードは割り当てられません。この文書に対する権限は、**ユーザー権限 (USRAUT)**パラメーターおよび**権限リスト (AUTL)**パラメーターで指定された値によって制御されます。

0から2047

誰がこの文書を使用できるかを制御するアクセス・コードを指定してください。最大50個のアクセス・コードを指定することができます。0のアクセス・コードでは、すべてのユーザーに使用(*USE)権限が与えられます。

[トップ](#)

置き換え可能 (ALWRPL)

ファイル中の文書の文書内容を置き換え可能にする設定値を指定します。置き換え可能でない文書をファイルしている時にこのパラメーターを指定した場合には、そのパラメーターは無視されます。置き換え可能でない文書を置き換え可能の文書に変更することはできません。

***NO** ファイルしている文書の文書内容を置き換えることはできません。

***YES** ファイルしている文書の文書内容を置き換えることができます。

[トップ](#)

プロファイル・ファイル (IDPFILE)

文書プロファイル情報がどこにあるかを指定します。このパラメーターを指定した場合には、**プロファイル・メンバー (IDPMBR)**パラメーターより後の残りのパラメーターは無視され、例外としては**コマンド文字識別コード (CMDCHRID)**パラメーターおよび**文書文字識別コード (DOCCHRID)**パラメーターがあります。

***NONE**

交換文書プロファイル(IDP)がこのコマンドの他のパラメーターによって指定されます。IDP情報が入っているデータベース・ファイルはありません。***NONE**を指定した場合には、**プロファイル・メンバー (IDPMBR)**パラメーターは無視されます。

***DSTIDIP**

配布文書と関連したIDP情報が使用されます。**プロファイル・メンバー (IDPMBR)**パラメーターは無視されます。これは、**TYPE(*DSTID)**を指定した時にだけ有効です。

***DOCFILE**

プロファイル情報は、文書に対して指定されたデータベース・ファイルにも入っています。***DOCFILE**を指定した場合には、**文書ファイル (DOCFILE)**パラメーターおよび**文書メンバー (DOCMBR)**パラメーターは文書プロファイル情報の場合に使用されます。

名前 IDPが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。文書プロファイル・データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルとするか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドに指定された出力ファイルとすることができます。ユーザー定義のファイルを指定する場合には、そのファイルの形式は、RCVDSTまたはRTVDOCで作成される出力ファイルと同じでなければなりません。出力ファイルを指定した場合には、文書プロファイル・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書プロファイル・レコードから接頭部が取り除かれます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとして現行ライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

プロファイル・メンバー (IDPMBR)

使用する交換文書ファイル・メンバー名を指定します。このパラメーターは、**プロファイル・ファイル (IDPFILE)**パラメーターにもデータベース・ファイル名を指定した時にだけ使用されます。

***FIRST**

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連付けるかどうかを指定します。

単一値

*CURRENT

自分自身で要求を実行します。

要素1: ユーザー識別コード

文字 別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーの代行処理が許可されているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。

要素2: アドレス

文字 別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

文書ファイル (DOCFILE)

データベース・ファイルの名前および文書データが入っているライブラリーの名前を指定します。データベース・ファイルは、ユーザー定義ファイルであるか、あるいは配布受信(RCVDST)コマンドまたは文書検索(RTVDOC)コマンドのいずれかに指定されている出力ファイルです。出力ファイルが指定されている場合には、文書データ・レコードのデータ部分だけが出力ファイルから読み取られます。文書データ・レコードから接頭部が除去されます。

名前 文書データが入っているデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブのライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

文書メンバー (DOCMBR)

使用する文書データベース・ファイル・メンバーを指定します。

*FIRST

データベース・ファイルに作成された最初のメンバーが使用されます。

名前 使用するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

配布識別コード (DSTID)

配布の固有の配布IDを指定します。配布IDは、配布の生成時にシステムによって割り当てられます。配布IDは配布QUERY(QRYDST) コマンドを使用して見つけることができます。IDは配布送信(SNDDST)コマンドからも戻されます。

*NONE

配布IDは使用されません。

配布ID

送信元ユーザーIDの後半部分（右側に埋め込みをした8桁）、送信元ユーザーIDの前半部分（右側に埋め込みをした8桁）、および先行ゼロを含めて4桁のゾーン順序番号の3つの部分から構成される配布IDを指定してください。たとえば、'NEWYORK SMITH 0204'などです。*DSTIDが送信する情報 (TYPE)パラメーターに指定された場合には、このパラメーターが必須です。

[トップ](#)

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布識別コード (DSTID)パラメーターで指定された配布IDのエクステンション（ある場合）を指定します。この2桁のエクステンションは、重複した配布を固有に識別する01から99の範囲の値です。省略時の値は01です。

*NONE

重複した配布はありません。*NONEは01のエクステンションと同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

[トップ](#)

メール・ログに保管 (KEEP)

メール・ログにファイルされている配布文書のコピーを保存するか、メール・ログから配布を削除するか、あるいはメール・ログ中のファイル済み配布文書に対する参照を保存するか、そのいずれかを指定します。

***NO** ファイルが完了した後にメール・ログから配布文書を削除します。

***YES** メール・ログ中のファイル済み配布文書のコピーを保存します。

***REF** 配布文書は削除されますが、ファイル済み配布文書に対する参照はメール・ログに保存されます。

[トップ](#)

文書タイプ (DOCTYPE)

使用する文書のタイプを指定します。このIDは、データ・ストリームを正しく処理できるかどうかを調べるためにシステムによって使用されます。

***DFT** システムが、データのソース仕様に基づいて適切な文書タイプIDを作成します。

***FFT** 文書は最終形式テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討され、印刷することを目的としたものですが、編集は行われません。

***RFT** 文書は変更可能テキストです。このタイプの文書は、受信者によって検討、印刷、および編集することができます。

2から65,535

文書タイプID値を指定します。2から32,767の番号は、IBM文書交換アーキテクチャーでこれらを登録することによって制御され、IBM定義の文書タイプで使用されます。32,768から65,535の範囲の番号は、IBMとしては登録されず、IBM定義以外の文書タイプで使用することができます。これらの文書タイプの意味は、システム・コード (SYSCOD)パラメーターでシステム・コードの値を定義することによって決定しなければなりません。

トップ

システム・コード (SYSCOD)

使用される文書タイプを固有に識別することを容易にするために、文書タイプ (DOCTYPE)パラメーターに指定される値と一緒に使用されるテキストを指定します。文書を編集、表示、印刷、または変更する文書データ・ストリームおよび処理要件は、データ・ストリームの受信者が決定します。

***DFT** システムが省略時のシステム・コードを提供します。文書タイプ (DOCTYPE)パラメーターに指定した値が2から32,767の範囲の数値である場合には、省略時の値は'IBM AS/400 CL'で、メッセージCPX9026から検索されます。文書タイプ (DOCTYPE)パラメーターに指定した値が32,768から65,535の範囲の数値である場合には、システム・コードを指定しなければなりません。

システム・コード

送信する文書のタイプを固有に識別するテキストを指定してください。最大13文字を指定することができます。

トップ

文書記述 (DOCD)

ファイルする文書の記述を指定します。この記述は文書交換アーキテクチャー文書名フィールドにあるものです。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

***DFT** システムがデータベース・ファイルから文書記述を作成します。省略時の値は、データベース・ファイルの (ライブラリー名/ファイル名/メンバー名) です。印刷文書に対する参照だけをファイルするためにファイルされる情報 (TYPE)パラメーターに*IDPを指した場合には、省略時の文書名はハードコピー文書参照で、メッセージCPX9025から取られます。導入先でこのメッセージを変更できますが、文書名に使用されるのは、最初の44桁だけです。ファイルされる情報 (TYPE)パラメーターに*DSTIDを指定した場合には、省略時の文書名は配布の送信時に指定された配布文書名です。

記述 文書の記述を指定してください。最大44文字を指定することができます。

トップ

作成者 (AUTHOR)

文書の作成者（複数の場合もある）を指定します。

*NONE

文書の作成者は識別されません。

*USRID

ユーザー識別コード (USRID)パラメーターで指定されたユーザーIDおよびアドレスが作成者の名前として使用されます。

名前 作成者（複数の場合もある）の名前を指定してください。最大50人の作成者を指定することができます。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

文書クラス (DOCCLS)

MEMO, FORM,またはSHEETなど、この文書と関連したクラスを指定します。

*NONE

文書にクラスは割り当てられません。

クラス 文書クラスを指定してください。最大16文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

キーワード (KWD)

文書を記述するキーワードを指定します。

*NONE

この文書にキーワードは定義されません。

キーワード

文書を記述するキーワードを指定してください。最大50個のキーワードを指定することができます。各キーワードは、最大60桁とすることができます。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

主題 (SUBJECT)

文書の件名（複数の場合もある）を指定します。

***NONE**

文書の件名は定義されません。

***DOCD**

文書記述が文書の件名として使用されます。

件名 文書の件名（複数の場合もある）を指定してください。最大50個の件名を指定することができます。各件名は最大60文字のテキストとすることができます。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

文書日付 (DOCDATE)

ユーザーが文書に割り当てる必要のある日付を指定します。

***NONE**

文書に日付は割り当てられません。

***CURRENT**

システムが文書に現在のシステム日付を割り当てます。

日付 文書日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)

文書の位置を指定します。このパラメーターは印刷文書の位置を記述するためのものです。印刷文書を参照する交換文書プロファイル(IDP)が配布されます。**送信する情報 (TYPE)**パラメーターに*IDPを指定して、**プロファイル・ファイル (IDPFILE)**パラメーターに*NONEを指定した場合には、このパラメーターは必須です。

***NONE**

この文書のファイリング・キャビネット参照は定義されません。

参照 印刷文書がどこにあるかを記述するテキストを指定してください。最大60文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

リスト・コピー (CPYLST)

この文書を受け取るユーザーの名前を指定します。

***NONE**

この文書のコピー・リストは組み込まれません。

名前 文書を受け取るユーザーの名前を指定してください。最大50個の名前を指定することができます。各名前は最大60文字とすることができます。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

満了日 (EXPDATE)

文書が不要となる日付を指定します。

***NONE**

文書の満了日は指定されません。

日付 文書満了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

参照 (REFERENCE)

文書と関連した参照を指定します。

***NONE**

この文書配布の参照フィールドは組み込まれません。

参照 文書と関連した参照を記述するテキストを指定してください。最大60文字を使用することができます。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

処置期日 (ACTDATE)

要求された処置の期日となる日付を指定します。

***NONE**

処置期日要求は指定されません。

***CURRENT**

現行のシステム処置期日が使用されます。

日付 処置期日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイル (**IDPFILE**)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

文書状況 (STATUS)

文書のユーザー定義状況を指定します。状況の例は、処理中、承認保留、または廃棄などです。

*NONE

この文書には状況は組み込まれません。

状況 文書の状況を記述するテキストを指定してください。最大20文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

完了日 (CMPDATE)

要求された処置が完了する日付を指定します。

*NONE

完了日は組み込まれません。

*CURRENT

現在のシステム日付が完了日として使用されます。

日付 処置完了日を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

プロジェクト (PROJECT)

文書と関連したプロジェクトを指定します。

*NONE

プロジェクト・フィールド情報はこの文書に組み込まれません。

名前 文書と関連したプロジェクトの名前を指定します。最大10文字を指定することができます。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

トップ

文書文字識別コード (DOCCHRID)

使用中の文書データの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDは、文書データの作成で使用した表示装置と関連しています。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

図形文字セットコード・ページ

配布するデータの作成に使用する図形文字セットおよびコード・ページ値を指定してください。

注: 両部分ともその長さは最大5桁とすることができます。

[トップ](#)

言語識別コード (DOCLANGID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる言語IDを指定します。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語IDが使用されます。

言語ID

言語IDを指定してください。有効なIDのリストを表示するには、言語識別コード (DOCLANGID)パラメーターからPF4キーを押してください。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

国別または地域ID (DOCCNTRYID)

この文書の交換文書プロファイル(IDP)に入れる国別または地域のIDを指定します。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された国別または地域のIDが使用されます。

国別または地域ID

国別または地域IDを指定します。有効なIDのリストを表示するには、国別または地域ID (DOCCNTRYID)パラメーターからPF4キーを押してください。

注: プロファイル・ファイル (IDPFILE)パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

個人 (PERSONAL)

文書配布が私用であるかどうかを指定します。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

PERSONAL(*YES)を使用する場合には、SENSITIVパラメーターを省略するか、あるいはこれを値SENSITIV(*NONE)と一緒に使用しなければなりません。このパラメーターを指定しないでコマンドのプロンプトが出された場合には、このパラメーターは表示されません。

***NO** 機密でない文書にアクセスできるのは、所有者およびその文書に対して認可されているユーザーだけです。この文書にアクセスできる他のユーザーに代行して処理が許可されたユーザーは、機密でない文書にアクセスすることができます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。

***YES** 私用文書にアクセスできるのはその所有者だけです。この文書にアクセスできる他のユーザーに代行して処理が許可されたユーザーは、この文書へのアクセスは得られません。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

[トップ](#)

配布満了標識 (DSTEXPDATE)

メール・ログ内に配布が必要でなくなる日付および時刻を指定します。

***NONE**

満了日なし

***CURRENT**

現在の日付が使用されます。

日付 満了日として使用する値を指定してください。日付は、システム値QDATFMTによって指定された形式で指定しなければなりません。

要素2: 時刻

***ENDOFDAY**

満了時刻は指定された日付の終わりまでに要求されます。時刻は23:59:59に設定されます。

時刻 満了時刻として使用する値を指定してください。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。文字IDはコマンドの入力に使用される表示装置に関連付けられています。

CMDCHRIDパラメーターは次のパラメーターに適用され、文書にアクセスする表示装置がフィールドを正しく印刷または表示できるように文字セットおよびコード・ページがフィールドと一緒に記憶されることを意味します。フィールドは、検索データベースに書き出される時に、共通文字セットおよびコード・ページに変換されます。交換可能文字セットおよびコード・ページは'697 500'です。

次のフィールドが変換されます。

- ユーザー識別コード (USRID)
- 配布識別コード (DSTID)
- 文書システム・コード (SYSCOD)
- 文書記述 (DOCD)
- 作成者 (AUTHOR)
- 文書クラス (DOCCLS)
- キーワード (KWD)
- 主題 (SUBJECT)
- ファイル・キャビネット位置 (FILCAB)
- リスト・コピー (CPYLST)
- 参照 (REFERENCE)
- 文書状況 (STATUS)
- プロジェクト (PROJECT)

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 個人用文書のファイリング

```
FILDOC TYPE(*FILE) DOCFILE(MARYLIB/MARYFILE)
      SENSITIV(*PRIVATE) IDPFILE(*DOCFILE)
```

このコマンドは、文書内容および文書概要情報が入っているデータベース・ファイルを使用して私用文書をファイルします。配布ID拡張の省略時の値は01 (DSTID(01))です。

例2: 配布文書のファイリング

```
FILDOC TYPE(*DSTID) DSTID('NEWYORK SMITH 0201') DSTID(02)
      DOCCLS('NEW CLASS') TODOC(DST0201) TOFLR(FLRDST)
```

このコマンドは、文書ライブラリーQDOC内の配布文書を文書DST0201およびフォルダーFLRDST内にファイルします。文書クラスは配布文書内で変更されていて、ユーザーに配布済みの2番目の配布がファイルされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF901B

文書ファイル要求が正常に実行されなかった。

CPF902B

*AUTLの権限はUSRAUT(*PUBLIC)でしか使用することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

9 フォーマット・データ (FMTDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ形式設定(FMTDTA)コマンドは、ソース・ファイル・メンバーに記憶されている一連の分類仕様を処理します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INFILE	入力ファイル	値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST	
OUTFILE	出力ファイル	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QFMTSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB, *LIBL	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 4
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 5
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, QSYSVRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OPTION	オプション:	値 (最大 8 回の繰り返し): *CHK, *NOCHK, *PRT, *NOPRT, *DUMP, *NODUMP, *NOSECLVL, *SECLVL	オプション, 定位置 6
PGMDATE	プログラム日付:	日付, *CURRENT	オプション

[トップ](#)

入力ファイル (INFILE)

入力データとして使用するファイルの名前を最高 8 つまで指定します。データベース・ファイルの場合には、各ファイル名ごとに 1 つのメンバー名を指定することができます。ディスクット・ファイルの場合には、各装置ファイル名ごとにディスクット識別コードを指定することができます。これは必須パラメーターです。

ファイル名

入力に使用するファイルの名前を入力してください。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

ライブラリー名

入力ファイルのライブラリーの名前を入力してください。

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが入力に使用されます。

データ・ファイル識別コード

ディスク・ファイルの場合には、指定した各装置ファイル名ごとに1つのデータ・ファイル識別コードを入力してください。1つの装置ファイル名に対して複数のディスク・データ・ファイル処理する場合には、装置ファイル名は必要な回数だけ指定してください。

メンバー名

データベース・ファイルの場合には、指定した各データベース・ファイル名ごとに1つのメンバー名を入力してください。同じデータベース・ファイルの複数のメンバーを処理する場合には、データベース・ファイル名は必要な回数だけ指定してください。

[トップ](#)

出力ファイル (OUTFILE)

出力に使用するファイル名およびメンバー名を指定します。このパラメーターで指定する前に、ファイルとメンバーの両方が存在していなければなりません。これは必須パラメーターです。

ファイル名

使用する出力ファイルの名前を入力してください。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

ライブラリー名

出力ファイルのライブラリー名を入力してください。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力に使用されます。

メンバー名

出力に使用する出力ファイルのメンバー名を入力してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

実行する分類仕様が入っているソース・ファイルの名前を指定します。ソース・ファイルは装置ファイルまたはデータベース・ファイルのいずれでも構いませんが、ソース・ファイルの属性をもっていなければなりません。

QFMTSRC

弊社提供ソース・ファイル(QFMTSRC)には分類仕様が入っています。

ソース・ファイル名

分類仕様が入っているソース・ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

実行する分類仕様が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイルは装置ファイルまたはデータベース・ファイルのいずれでも構いませんが、ソース・ファイルの属性をもっていなければなりません。

***FIRST**

分類仕様が入っているソース・ファイルの最初のメンバーが実行されます。

データ・ファイル識別コード

データ・ファイルがディスクットにある場合には、分類仕様ステートメントが入っているディスクット・データ・ファイル識別コードの名前を入力してください。

メンバー名

実行する分類仕様が入っているソース・ファイルのメンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

印刷ファイル (PRTFILE)

印刷データが送られる印刷装置ファイルの名前を指定します。

QSYSPRT

データはシステム印刷装置で印刷されます。

印刷ファイル名

データを印刷する印刷装置ファイルの名前を入力してください。

***LIBL** ファイルが入っているライブラリーを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

オプション: (OPTION)

分類ユーティリティーの実行中に使用する順序検査および印刷オプションを指定します。

***CHK** 分類仕様は順序検査されます。

***NOCHK**

分類仕様は順序検査されません。

***PRT** 分類仕様とエラー・メッセージまたは通知メッセージが印刷されます。

***NOPRT**

分類仕様とエラー・メッセージまたは通知メッセージは印刷されません。

***NODUMP**

問題分析に使用される内部テーブルは印刷されません。

***DUMP**

問題分析に使用される内部テーブルが印刷されます。

***NOSECLVL**

コンパイル中に検出されたエラーに対して第2レベル・テキストの印刷は行なわれません。

***SECLVL**

コンパイル中に検出されたエラーに対して第2レベル・テキストが印刷されます。

[トップ](#)

プログラム日付: (PGMDATE)

レコード仕様のキーワードとして項目2で使用される日付を指定します。

***CURRENT**

コマンド処理時点の現行システム日付を使用します。

***DATE**

システム値QDHTFMTによって指定されるか、あるいは区切り記号を使用する場合には、QDATSEPによって指定される形式で、日付を入力します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

メッセージ・カタログの生成 (GENCAT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

このコマンドはメッセージ・カタログ組合わせ(MRGMSGCLG)コマンドの別名であり、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

• MRGMSGCLG

メッセージ・カタログ生成(GENCAT)コマンドは、1つまたは複数のソース・ファイル (SRCFILEパラメーター) からのメッセージ・テキストを、指定されたメッセージ・カタログ(CLGFILEパラメーター) 内のメッセージ・テキストと組み合わせます。指定されたカタログが存在していない場合には、CLGCCSID, DTAAUT,およびOBJAUTパラメーターに指定された値を使用してそのカタログが作成されます。指定されたカタログがすでに存在している場合には、既存のメッセージ・カタログのCCSID, DTAAUT,およびOBJAUT属性が使用されます。

最大300のメッセージ・テキスト・ソース・ファイルを指定することができます。メッセージ・テキスト・ソース・ファイルは指定された順に処理されます。各ソース・ファイルが次から次へと連続的にカタログを変更します。メッセージ・カタログにすでに存在しているメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、メッセージ・カタログ・ファイル内の古いメッセージ・テキストは、ソース・ファイルに定義されている新しいメッセージ・テキストに置き換わります。メッセージ・カタログに存在していないメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、そのメッセージ情報がメッセージ・カタログに追加されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLGFILE	メッセージ・カタログ名	パス名	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル・パス名	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
CLGCCSID	メッセージ・カタログの CCSID	1-65533, *SRCCSID , *JOB	オプション
SRCCSID	ソース・ファイルのCCSID	1-65533, *SRCFILE , *JOB	オプション
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR , *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR , *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション

トップ

メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)

変更または作成するメッセージ・カタログのパス名を指定します。ストリーム・ファイル・パス名内のすべてのディレクトリが存在していなければなりません。指定されたパス名をもつストリーム・ファイルが存在していない場合には、指定されたファイル名をもつメッセージ・カタログが作成されます。そのパス名が QSYSファイル・システムにある場合には、そのファイルが存在していなければなりません。QSYSファイル・システムにファイル・メンバーが存在していない場合には、それが作成されます。複数のデータ・ワールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

[トップ](#)

ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)

メッセージ・カタログと組み合わせるメッセージ・テキストが入っているソース・ファイルのパス名を指定します。ファイルがQSYSファイル・システムからのものである場合には、それはデータベース・ソース物理ファイルでなければなりません。

注: ソース・ファイルがレコード・ファイルでない場合には、ソース・ファイル中の各行は、ソース・ファイルの作成時には改行または行送り文字で終了していなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

メッセージ・カタログを簡単に記述したテキストを指定します。

注: オブジェクトへのテキストの割り当ては、メッセージ・カタログに使用されているファイル・システムまたはオブジェクト・タイプによって提供されるサポートにより異なります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)

メッセージ・テキストをメッセージ・カタログに入れる際のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージ・カタログがストリーム・ファイルの場合には、入力されたCCSID値がストリーム・ファイルの属性を設定するために使用されます。メッセージ・カタログのCCSIDを表示するには、オブジェクト・リンク処理(WRKLNK) コマンドを使用します。QSYSファイル・システム内のメッセージ・カタログのCCSID を調べるには、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCCSID**

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSIDパラメーター) に指定された値からCCSID が決定されることを示す特殊値。

***JOB** カタログ情報の代わりにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

カタログ情報の代わりに使用されるCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

[トップ](#)

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSID)

ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCFILE**

CCSIDが最初のソース・ファイル(SRCFILEパラメーター) のCCSIDから決定されることを示す特殊値。

***JOB** ソース・ファイルのCCSIDにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

ソース・ファイルのCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

[トップ](#)

データの共通認可 (DTAAUT)

作成されるオブジェクトの中のデータに対してユーザーに与えられる共通権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

作成されるオブジェクトに対する権限は、それが作成されるディレクトリーによって決まります。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限により、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在、オブジェクト管理、オブジェクト変更、およびオブジェクト参照権限によって制御される操作を除いて、オブジェクトについてのすべての操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できます。*RWX権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。

***RX** *RX権限により、ユーザーはプログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトにおける基本操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*RX権限は、オブジェクト操作権と読み取りおよび実行の権限を提供します。

***RW** *RW権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示および変更できます。*RW権限は、オブジェクト操作権およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

***WX** *WX権限により、ユーザーはオブジェクトの内容の変更、プログラムの実行、およびライブラリーまたはディレクトリーの検索ができます。*WX権限は、オブジェクト操作権と、データの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

***R** *R権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示できます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。

***W** *W権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を変更できます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

***X** *X権限により、ユーザーはプログラムを実行したり、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索できます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

除外権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値が*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対するデータ権限を何も認可されません。この値をOBJAUT値*NONEと一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ユーザーに与えられるオブジェクトに対する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このオブジェクトが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***NONE**

他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照権限）はユーザーに認可されません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リスト名を指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** 他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、および参照権限）のすべてがユーザーに認可されます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト存在権限を認可されます。

***OBJMGT**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を認可されます。

***OBJALTER**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト変更権限を認可されます。

***OBJREF**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト参照権限を認可されます。

[トップ](#)

例

MRGMSGCLGの例

```
MRGMSGCLG  CLGFILE('/USDIR/USMSG.CAT')  CLGCCSID(*SRCCSID)
           SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MSGSRC.FILE/USMSG.MBR')
           DTAAUT(*R)  TEXT('MESSAGE CATALOG FOR USA')
```

このコマンドは、QSYSファイル・システム中のライブラリーMYLIBにあるソース物理ファイルMSGSRCのメンバーUSMSGのメッセージ・テキストをディレクトリーUSDIR中のメッセージ・カタログUSMSG.CATと組み合わせます。メッセージ・カタログがまだ存在しない場合には、ソース・ファイルのCCSIDおよびデータ権限*Rで作成されます。テキスト・パラメーターは、これをUSAのメッセージ・カタログとして記述します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3BE3

メッセージ・カタログ&1が作成または更新されていない。

[トップ](#)

コマンド文書の生成 (GENCMDDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド文書生成(GENCMDDOC)コマンドは、制御言語(CL)コマンドの文書を含む出力ファイルを生成します。生成されるファイルは次のいずれかです。

- **生成オプション (GENOPT)**パラメーターに*HTMLを指定した場合には、ファイルにハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)ソースが入ります。生成されたファイルは、標準のインターネット・ブラウザを使用して表示でき、HTML 4.0の仕様を満たしています。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトおよびコマンドと対応するコマンド・ヘルプ・パネル・グループ(*PNLGRP)オブジェクトから検索されます。
- GENOPTパラメーターに*UIMを指定すると、ファイルにはユーザー・インターフェース管理機能(UIM)ソースが入ります。生成されるソースは、そのコマンドのオンライン・コマンド・ヘルプの概要です。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトだけから検索されます。このオプションは、CLコマンドのオンライン・ヘルプの作成タスクの単純化を目的にしています。

UIMを使用したコマンド文書作成の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CL」情報を参照してください。

制約事項:

- 指定するコマンドに対する使用(*USE)権限、およびコマンドが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限をもっていなければなりません。コマンド名に総称名または*ALLを指定した場合には、*USE権限をもっていないコマンドの出力ファイルは生成されません。
- 指定するコマンドのコマンド・ヘルプ情報を含む各関連パネル・グループについて、そのパネル・グループに対する*USE権限、およびパネル・グループが入っているライブラリーに対する*EXECUTE権限をもっていなければなりません。
- 生成されるファイルのパス中のディレクトリーに対する実行(*X)権限、および生成されるファイルの親ディレクトリーに対する書き込みおよび実行(*WX)権限がなければなりません。
- 出力ファイルが存在しない場合には、共通権限はOS400.FILE.CREATE.AUTH JAVAプロパティー値によって決定されます。このJAVAプロパティーが設定されなかった場合には、作成されるストリーム・ファイルの共通権限は*RWに設定されます。
- 出力ファイルがすでに存在している場合には、そのファイルに対する書き込み(*W)権限が必要で、**ファイルの置き換え (REPLACE)**パラメーターに*YESを指定する必要があります。
- このコマンドは、プロキシCLコマンドをサポートしていません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TODIR	TOディレクトリー	パス名, '.'	オプション
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	文字値, *CMD	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	*YES, *NO	オプション
GENOPT	生成オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *HTML, *UIM, *NOSHOWCHOICEPGMVAL, *SHOWCHOICEPGMVAL, *NOSERVICE, *SERVICE	オプション

トップ

コマンド (CMD)

文書出力ファイルを作成する対象のコマンドを指定します。

注: コマンド名に総称コマンド名または*ALLを指定した場合には、ライブラリー名修飾子として*LIBLを使用することはできず、TOストリーム・ファイル (TOSTMF)パラメーターは*CMDでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

***ALL** 指定したライブラリー中のすべてのコマンドの文書ファイルが生成されます。

総称名 文書ファイルが生成されるコマンドの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称コマンド名と同じ接頭部で始まる名前をもつすべてのコマンドの文書ファイルが生成されます。

名前 文書出力ファイルを生成したいコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

生成されたコマンド文書ファイルを保管するディレクトリーを指定します。このディレクトリー内で使用されるファイル名は、TOストリーム・ファイル (TOSTMF)パラメーターによって指定されます。

注: 出力ファイルは、現行作業ディレクトリーに保管されます。

パス名 生成された出力ファイルを保管するディレクトリーのパス名を指定します。

トップ

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

生成されたコマンド文書ファイルの保管に使用するターゲット・ストリーム・ファイルを指定します。指定されたファイルは、**TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターに指定されたディレクトリー・パスを使用して見付けられます。

注: **コマンド (CMD)**パラメーターに総称コマンド名または*ALLを指定した場合には、このパラメーターに指定する値または省略時の値として使用する値は、*CMDでなければなりません。

***CMD** TODIRパラメーターで、ターゲットが/QSYS.LIBファイル・システム中にあることが指定されている場合には、生成されるファイル名は、コマンド名と同じになります。

そうでない場合には、生成されるファイル名は、**生成オプション (GENOPT)**パラメーターに*HTMLまたは*UIMのいずれが指定されたかに依存します。*HTMLを指定した場合に生成されるファイル名は、**LIBNAME_CMDNAME.HTML**になりますが、この**CMDNAME**はコマンド名で、**LIBNAME**はコマンドが入っているライブラリーの名前です。*UIMを指定した場合に生成されるファイル名は、**LIBNAME_CMDNAME.UIM**になります。

文字値 生成されるコマンド文書ファイルに使用する名前を指定します。

トップ

ファイルの置き換え (REPLACE)

指定されたか生成されたファイル名(TOSTMFパラメーター)によって、ターゲット・ディレクトリー(TODIRパラメーター)中の既存ファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 指定された名前または暗黙の名前のファイルがすでに存在している場合には、ファイルの内容が、生成されたコマンド文書ファイルによって置き換えられます。

***NO** 指定された名前または暗黙の名前のファイルがすでに存在している場合には、エラー・メッセージが送られて、コマンド文書ファイルは生成されません。ターゲット・ディレクトリー中に同じ名前のファイルが存在しない場合には、そのファイルが作成され、エラー・メッセージは送られません。

トップ

生成オプション (GENOPT)

生成するコマンド情報を制御するオプションを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定できます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線で示した値は、省略時の値と類似していますが、実際には省略時の値ではないので、コマンドの省略時値変更(CHGCMDDDFT)コマンドでは変更できません。

生成ソース・オプション

*HTML

生成されるファイルには、ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)ソースが入ります。生成されたファイルは、標準のインターネット・ブラウザを使用して表示でき、HTML 4.0の仕様を満たしています。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトおよびコマンドと対応するコマンド・ヘルプ・パネル・グループ(*PNLGRP)オブジェクトから検索されます。

***UIM** 生成されるファイルにはユーザー・インターフェース管理機能(UIM)ソースが入ります。生成されるソースは、そのコマンドのオンライン・コマンド・ヘルプの概要です。ファイルの生成に使用する情報は、指定されたコマンド(*CMD)オブジェクトだけから検索されます。このオプションは、CLコマンドのオンライン・ヘルプの作成タスクの単純化を目的にしています。生成されたファイルを編集してコマンドの記述テキストを追加し、そのソースをソース・ファイル・メンバーに保管すると、このUIMソースをパネル・グループ作成(CRTPNLGRP)コマンドへの入力として使用して、このコマンドのコマンド・ヘルプ・パネル・グループを作成できます。

UIMを使用したコマンド文書作成の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CL」情報を参照してください。

選択プログラム値オプション

*NOSHOWCHOICEPGMVAL

関連した選択プログラムをもつコマンド・パラメーターについて、生成されるパラメーター要約テーブルに選択プログラムから戻される値を表示しません。選択プログラムの値は、システムによって異なります。選択プログラム値を表示しないことによって、コマンド・オブジェクトで定義されたパラメーター値だけが与えられます。

*SHOWCHOICEPGMVAL

関連した選択プログラムをもつコマンド・パラメーターについて、生成されるパラメーター要約テーブルに選択プログラムの呼び出しから戻される値を表示します。選択プログラム値を表示することによって、このシステム上でコマンドのプロンプトが出された場合に表示されるのと同じパラメーター値が与えられます。

サービス・オプション

*NOSERVICE

追加のトレースまたはダンプ情報は生成されません。

*SERVICE

このオプションは、コマンドが正常に機能しないで、ソフトウェア・サービス・プロバイダーからこの問題のAPARを作成するように依頼された場合に使用することを目的にしています。このオプションを指定すると、追加のトレースおよびダンプ情報が生成されます。生成されたこの追加情報をAPARと一緒に送ってください。

トップ

例

例1: I5/OSコマンドのHTML文書の生成

GENCMDDOC CMD(CRTUSRPRF)

このコマンドは、CRTUSRPRFコマンドの文書ファイルを生成します。このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストを使用して見付けられます。生成されたストリーム・ファイルは、ジョブの現行作業ディレクトリーに保管されることとなります。このコマンドがライブラリーQSYSで見つかり、ファイル名はQSYS_CRTUSRPRF.HTMLになります。その名前のファイルがすでにターゲット・ディレクトリーに存在している場合には、生成されたファイルがそのファイルを置き換えます。

例2:ユーザー・コマンドのUIM文書を生成

```
GENCMDDOC  CMD(MYLIB/MYCMD)
            TODIR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/QPNLSRC.FILE')
            TOSTMF('MYCMD.MBR') REPLACE(*NO) GENOPT(*UIM)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているコマンドMYCMDの文書ファイルを生成します。生成されるファイルは、ライブラリーMYLIBのファイルQPNLSRCにメンバー名MYCMDとして保管されることとなります。ターゲット・ファイル中にこの名前のメンバーがすでに存在している場合には、エラー・メッセージが送られ、文書ファイルは生成されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6E74

&1個のコマンド文書が失敗しました。&2個のコマンド文書は正常に作成されました。

CPF6E75

CMDパラメーターでエラーが検出されました。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPF6E67

&2のプロキシ・コマンド&1のコマンド文書を生成することができません。

[トップ](#)

メニュー表示へ (GO)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー表示(GO)コマンドは、要求されたメニューを表示します。このコマンドでは特定のメニュー名または総称メニュー名を指定することができます。指定されたメニューが表示された後で、このコマンドを入力したメニューに戻るかどうかを任意に指定することができます。

前画面および終了キーの使用

メニューは、実行される前に内部メニュー・スタックに入れられます。スタックがメニューに使用可能でない場合には、1つのスタックが作成されます。メニューについて取り消しキーが押された場合には、スタック中の前のメニューが表示されます。各メニュー・スタックは、10要素（メニュー）の深さです。11番目のメニューがメニュー・スタックに入れられた場合には、最初の、つまり最も古い、メニューがスタックから除去されます。取り消しキーを使用してこのメニューに戻ることはできません。

終了キーを押すと、RTNPNT(*YES)を指定したGOコマンドを入力した直前の画面またはメニューに戻ります。戻る先の画面は、戻り点が見つかるまでメニュー・スタックのメニューを除去することによって見つけられます。この処理では、また、プログラムが戻り点になっていない場合に、呼び出しスタック中のプログラムがその呼び出し側プログラムに戻る原因となることがあります。

メニューに関するヘルプの表示中に終了キーか取り消しキーを押すと、そのメニューに戻ります。

制約事項:

- メニューおよびその画面とメッセージ・ファイルまたはプログラム（どちらか適用される方）に対する使用(*USE)権限が必要です。
- また、メニューが入っているライブラリーに対する*USE権限も持っていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
RTNPNT	戻り点	*YES, *NO	オプション的, 定位置 2

トップ

メニュー (MENU)

表示されるメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

***ALL** 指定したライブラリーの中のすべてのメニューのリストが表示されます。このリストから、実行するメニューを選択することができます。

総称名 実行するメニューの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称メニュー名と同じ文字で始まる名前を持つすべてのメニューのリストが表示され、このリストから、実行するメニューを選択します。

名前 表示するメニューの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***USRLIBL**

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されません。

QDSNX	QRCLXXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXMX
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成するこ

とができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

戻り点 (RTNPNT)

終了キーを押した時に、このコマンドを入力した画面に戻るかどうかを指定します。

***YES** 終了キーを押すと、このコマンドを入力した画面に戻ります。

***NO** 終了キーを押しても、このコマンドを入力した画面には戻りません。

トップ

例

GO MENU(PERSMENU)

このコマンドは、ライブラリー・リスト (省略時の値*LIBL)の検索によって見付けられるライブラリーに入っているPERSMENUというメニューを実行します。

PERSMENUが表示されている時に「終了」キーを押すと、GOコマンドを入力した画面(RTNPNTパラメータの省略時の値*YES)が表示されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF6ACD

&2のメニュー&1がシステムのバージョンと違う。

CPF6AC7

ライブラリー&2のメニュー&1が表示できない。

トップ

GO TO (GOTO)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

GO TO (GOTO)コマンドは、プログラムのある部分から別の部分に分岐するためにCLプロシージャ中で使用されます。分岐は、GO TO(GOTO)コマンドに指定されている別のコマンドのラベルに対して行われます。分岐は前方または後方にできますが、指定するラベルはプログラム内になければなりません。サブルーチン内のGOTOコマンドの場合、分岐のターゲットは同じサブルーチンに関連していなければなりません。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- GOTOを使用してのサブルーチン内部またはサブルーチンの外部への分岐はできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDLBL	コマンド・ラベル	単純名	必須, 定位置 1

[トップ](#)

コマンド・ラベル (CMDLBL)

GO TO(GOTO)が処理される時に制御権が移されるコマンドのラベル名を指定します。次に、ラベルのあるコマンドが処理されます。指定されたコマンドを実行することができない場合（たとえば、これがDCLコマンドである場合）には、指定されたラベルをもつコマンドの後にある次のコマンドに制御が転送されます。このラベルはGOTOコマンドと同じプログラム中になければなりません。ラベル名を指定するために、CL変数名を使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
LOOP: CHGVAR &A (&A + 1)
IF (&A *LT 30) THEN(GOTO LOOP)
```

変数変更(CHGVAR)コマンドは、&Aが30以上になるまで、&Aの値を1ずつ増やします。IFコマンドが式をテストして、結果が真になるたびに、GOTOコマンドが処理されます。THENパラメーターの次のGOTOコ

マンドにより、プロシージャは分岐してCHGVARコマンドのラベルLOOPに戻ります。CHGVARコマンドおよびIFコマンドの機能の詳細については、これらのコマンドの説明を参照してください。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

アクセス・コード権限認可 (GRTACCAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード権限認可(GRTACCAUT)コマンドにより、アクセス・コードと関連した文書およびフォルダーにアクセスする権限を指定されたユーザーに与えることができます。アクセスは読み取り専用(*USE権限)に制限されます。

制約事項:

- アクセス・コード権限を認可するためには、システムにアクセス・コードを定義しなければなりません。
- アクセス・コード権限が認可されるユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。
- このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはセキュリティー管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACC	文書アクセス・コード	単一値: *REFUSER その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 1-2047	必須, 定位置 1
USER	ユーザー・プロファイル	値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
REFUSER	参照ユーザー・プロファイル	名前, *NONE	オプション

[トップ](#)

文書アクセス・コード (ACC)

ユーザー・プロファイル (USER)パラメーターで識別されるユーザーが使用することを認可するアクセス・コードを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*REFUSER

認可しているアクセス・コード権限は (参照される) ユーザー・プロファイル名に基づいて決められ、参照ユーザー・プロファイル (REFUSER)パラメーターに指定されます。

その他の値 (最大300個指定可能)

1から2047

権限を認可したいアクセス・コードを指定します。このアクセス・コードは、このパラメーターで指定する前に、アクセス・コード追加 (ADDACC)コマンドを使用してシステムに対して定義しなければなりません。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

アクセス・コード権限を認可するユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。識別されたユーザーは、認可されたアクセス・コードの現行リストに追加されるアクセス・コードをもつこととなります。このアクセス・コードは、文書ライブラリーからの追加の文書およびフォルダー・アクセスを検査するために使用されます。アクセス・コードを使用する権限を認可する前に、ユーザーをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

注: アクセス・コードをグループ・ユーザー・プロファイルに認可することによって、そのアクセス・コードはそのグループのもとにあるすべてのユーザーに（暗黙に）認可されます。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには300個の値を指定することができます。

名前 アクセス・コード権限を認可するユーザーのユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

参照ユーザー・プロファイル (REFUSER)

アクセス・コード権限の基礎となっている参照されるユーザー・プロファイルを指定します。このパラメーターを使用する場合には、文書アクセス・コード (ACC)パラメーターで*REFUSERを指定しなければなりません。

*NONE

参照されるユーザーはアクセス・コード権限を認可するために使用されません。

名前 アクセス・コード権限が基礎になっているユーザー・プロファイル名を指定します。このユーザーもシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

[トップ](#)

例

例1:複数ユーザーへの権限の認可

```
GRTACCAUT ACC(3 30 60) USER(SAM LARRY)
```

このコマンドは、アクセス・コード3, 30,および60に対する権限をSAMおよびLARRYに付与します。

例2:別のユーザーを基にした権限の認可

```
GRTACCAUT ACC(*REFUSER) USER(JOE) REFUSER(TOM)
```

このコマンドは、アクセス・コード権限をTOMの権限を基にしたJOEに付与します。たとえば、JOEが現在はアクセス・コード1, 12,および50に対する権限をもっていて、TOMが現在はアクセス・コード8および9に対する権限がある場合は、GRTACCAUTコマンドはJOEにアクセス・コード1, 8, 9, 12,および50に対する権限を認可します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9013

アクセス・コード権限が&1ユーザーに与えられたが、&2ユーザーには認可されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9065

アクセス・コード権限を与えることはできない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドは、このコマンドに指定されたオブジェクトについて、特定権限を別のユーザーまたはユーザーのグループに対して認可します。

次に対して権限を認可することができます。

- 指定されたユーザー
- オブジェクトまたは権限リストに対する特定権限を持っていないユーザー(*PUBLIC)
- 参照オブジェクト (REFOBJ)および参照オブジェクト・タイプ (REFOBJTYPE)パラメーターで参照されたオブジェクトのユーザー
- 権限リスト

AUT(*AUTL)が指定されている場合には、オブジェクトに対するPUBLIC権限はそのオブジェクトを保護している権限リストのPUBLIC権限から取り出されます。

AUTLパラメーターは、権限リストによってオブジェクトを保護したり、あるいはオブジェクトから権限リストを除去するために使用されます。ユーザー・プロファイルを権限リスト(*AUTL)によって保護することはできません。

このコマンドを使用できるのは、オブジェクトの所有者または指定されたオブジェクトに対してオブジェクト管理権限を持つユーザーです。オブジェクト管理権限を持つユーザーは、別のユーザーに、オブジェクト管理権限以外の自分が持っているすべての権限を認可することができます。ユーザーにオブジェクト管理権限を認可できるのは、そのオブジェクトの所有者または全オブジェクト特殊権限 (*ALLOBJ)を持っている担当者だけです。

*ALL権限を持つユーザーは、新しい権限リストを割り当てることができます。

権限をユーザーに認可する場合に、REPLACEパラメーターは、指定する権限でユーザーの既存の権限を置き換えるかどうかを指示します。省略時の値REPLACE(*NO)は指定された権限を付与しますが、*EXCLUDE権限を認可していない限り、指定された権限より大きい権限を除去しません。REPLACE(*YES)はユーザーの現行権限を除去してから、指定された権限を認可します。

権限を参照オブジェクトによって認可すると、このコマンドは指定された権限を付与しますが、*EXCLUDE権限を認可していない限り、指定された権限より大きい権限を除去しません。

このコマンドはユーザーが指定する権限を認可しますが、ユーザーが*EXCLUDE権限を認可されているか、REPLACE(*YES)を指定しない限り、指定したものより大きい権限を除去することはありません。

制約事項:

1. ユーザーに読み取りまたはオブジェクト操作権限を与える前に、このコマンドはデータベース・ファイルで排他ロックを行なわなければなりません。
2. 認可された別のユーザーが現在使用中の装置に対して、他に指定されたユーザーの権限をユーザーが要求した場合には、その装置に対する権限は与えられません。

3. オブジェクト・タイプ*AUTLを指定することはできません。
4. AUT(*AUTL)が有効なのはUSER(*PUBLIC)と一緒にする場合だけです。
5. ユーザーはオブジェクトの所有者でなければならないか、AUTLパラメーターを使用する*ALL権限が必要かのいずれかです。
6. ユーザーには、オブジェクトに対するオブジェクト管理権限が必要です。
7. オブジェクトがファイルの場合には、ユーザーにはオブジェクト操作権限およびオブジェクト管理権限が必要です。
8. 表示装置の場合またはその表示装置と関連したワークステーション・メッセージ待ち行列の場合は、権限を認可する装置でこのコマンドが入力されない場合には、このコマンドの前に、オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンド、後にオブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)コマンドを実行しなければなりません。
9. 補助記憶域プール装置を指定する場合は、その補助記憶域プール装置に対する*USE権限が必要です。

注: IBM提供オブジェクトの共通認可を変更する場合には注意が必要です。たとえば、QSYSOPRメッセージ待ち行列の共通認可を*CHANGEより限定的なものに変更すると、システム・プログラムに障害が起こる原因となります。システム・プログラムがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送る十分な権限を持たないこととなります。詳細については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *USRLIBL, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRS, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3
AUT	権限	単一値: *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *READ, *UPD, *EXECUTE	オプション, 定位置 4

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	名前, *NONE	オプション
REFOBJ	参照オブジェクト	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 参照オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REFOBJTYPE	参照オブジェクト・タイプ	*OBJTYPE, *ALRTBL, *BNDDIR, *AUTL, *CFGL, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSCFG, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *S36, *SBS, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
REFASPDEV	参照ASP装置	名前, *, *SYSBAS	オプション
REPLACE	置き換え権限	*NO, *YES	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

特定権限を1人以上のユーザーに付与するオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

総称名 特定権限を1人以上のユーザーに付与するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

名前 特定権限を1人以上のユーザーに付与するオブジェクトの名前を指定してください。

***ALL** 指定されたオブジェクト・タイプ(OBJTYPEパラメーター) のすべてのオブジェクトに対する特定権限が付与されます。*ALLを指定する場合は、ライブラリー名修飾子に対して特定ライブラリー名を指定しなければなりません。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

特定権限を指定したユーザーまたは権限リストに付与するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。*AUTL以外のすべてのオブジェクト・タイプを指定することができます。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F4 (プロンプト) を押してください。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべてのオブジェクト・タイプに対する特定権限(*AUTLを除く)が、指定されたユーザーまたは権限リストに付与されます。

オブジェクト・タイプ

特定権限を指定されたユーザーに付与するオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

オブジェクト(OBJパラメーター)を含むライブラリーが入っている、その補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、このコマンドの操作のターゲットとして正しいオブジェクトが使用されるようにしなければなりません。

* 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1)、定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32)、さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPがオブジェクトを見つけるために検索されます。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていなければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

指定されたオブジェクトに対する権限を付与する1人以上のユーザーを指定します。

参照オブジェクト (REFOBJ)パラメーターまたは**権限リスト (AUTL)**パラメーターのいずれかが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

*PUBLIC

ユーザーがオブジェクトに対して特に権限が与えられていないで、権限リストに載っておらず、そのグループの誰もが権限をもっていないか、権限リストに載っていない時には、AUTパラメーターに指定されているように、ユーザーはオブジェクトの使用が認可されます。何も権限をもっていないユーザー、およびグループとして何も権限をもっていないユーザーは、AUTパラメーターに指定されているように、そのオブジェクトの使用が認可されます。

名前 オブジェクトに対して特定権限を付与する1人以上のユーザーの名前を指定してください。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

[トップ](#)

権限(AUT)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザーに付与する権限を指定します。

このパラメーターに値を指定する場合は、AUTL、REFOBJ,またはREFOBJTYPEパラメーターには値を指定することができません。

単一値

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

***AUTL**

オブジェクトに対する共通認可として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通認可が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

その他の値 (最大10個指定可能)

***OBJALTER**

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

***OBJMGT**

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

***OBJEXIST**

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

***OBJOPR**

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

***OBJREF**

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

***EXECUTE**

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

***READ**

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

トップ

権限リスト (AUTL)

指定されたオブジェクトに対して権限を認可するために項目を使用する権限リストを指定します。指定された権限リストに対して権限リスト管理(*AUTLMGT)権限が必要です。

このパラメーターに値を指定する場合は、AUT、REFOBJ,またはREFOBJTYPEパラメーターには値を指定することができません。

***NONE**

オブジェクトを保護する権限リストが除去されます。オブジェクト内の共通認可が*AUTLである場合には、それは*EXCLUDEに変更されます。

名前 使用する権限リストの名前を指定してください。

トップ

参照オブジェクト (REFOBJ)

権限情報を得るために照会する参照オブジェクトを指定します。これらの権限は、OBJパラメーターで指定されたオブジェクトに付与されます。参照オブジェクトに対して認可されたユーザーは、権限を付与するオブジェクトに対しても同様に権限を認可されます。参照オブジェクトが権限リストで保護されている場合には、その権限リストはOBJパラメーターで指定されたオブジェクトを保護します。

このパラメーターに値を指定する場合は、AUTまたはAUTLパラメーターには値を指定することができません。

名前 参照オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

参照オブジェクト・タイプ (REFOBJTYPE)

参照オブジェクト (REFOBJ)パラメーターに指定された参照オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

*OBJTYPE

参照オブジェクトのオブジェクト・タイプは、オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)パラメーターに指定されたオブジェクト・タイプと同じです。

オブジェクト・タイプ

参照オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。このコマンドのプロンプトが出されたときに、オブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付けて、F4 (プロンプト) を押してください。

トップ

参照ASP装置 (REFASPDEV)

参照オブジェクト(REFOBJパラメーター)が入っているライブラリーがある補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。参照オブジェクトのライブラリーがジョブに関連したライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、このパラメーターを指定して、正しいオブジェクトから権限が照会されるようにしなければなりません。

- * 現在、ジョブのライブラリー名スペースの一部となっているASPが参照オブジェクトを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP番号1),定義されているすべての基本ユーザーASP (ASP番号2から32),さらに現行スレッドにASPグループがある場合には、そのASPグループ中のすべての独立ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ユーザーASPが参照オブジェクトを見つけるために検索されません。ジョブにASPグループがあっても独立ASPは検索されません。

名前 参照オブジェクトを見つけるために検索する独立ASPの装置名を指定してください。独立ASPは活性化されていて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、AVAILABLEの状況になっていないければなりません。システムASPおよび基本ユーザーASPは検索されません。

トップ

置き換え権限 (REPLACE)

権限でユーザーの現行権限を置き換えるかどうかを指示します。

NO** 権限はユーザーに付与されますが、EXCLUDE**権限を認可していない限り、権限は除去しません。

***YES** ユーザーの現行権限が除去されてから、権限がそのユーザーに付与されます。

トップ

例

例1:すべてのユーザーへの権限の認可

```
GRTOBJAUT OBJ(USERLIB/PROGRAM1) OBJTYPE(*PGM) USER(*PUBLIC)
```

このコマンドは、PROGRAM1という名前のオブジェクトを使用する権限を、権限が特に付与されていないか、権限リスト上にないか、ユーザー・グループにはそのオブジェクトに対する権限がないか、あるいはユーザー・グループが権限リスト上にないすべてのシステムのユーザーに付与します。このオブジェクトは、USERLIBという名前のライブラリー名内にあるプログラム(*PGM)です。AUTパラメーターが指定されていないので、すべてのユーザーに付与される権限は変更権限です。これにより、すべてのユーザーは、プログラムを実行することができ、そのプログラムをデバッグすることができます。

例2:オブジェクト管理権限の認可

```
GRTOBJAUT OBJ(ARLIB/PROGRAM2) OBJTYPE(*PGM) USER(TMSMITH)
AUT(*OBJMGT)
```

このコマンドは、オブジェクト管理権限をTMSMITHという名前のユーザーに付与します。この権限によって、TMSMITHは、ARLIBという名前のライブラリーにあるプログラムである、PROGRAM2という名前のオブジェクトに対して個人的に所有する権限を他のユーザーに認可することができます。

例3:権限リストのユーザーに対する権限の認可

```
GRTOBJAUT OBJ(MYLIB/PRGM3) OBJTYPE(*PGM) AUTL(KLIST)
```

このコマンドは、PRGM3という名前のオブジェクト名に対する権限リストで指定された権限をユーザーに付与します。このオブジェクトは、ライブラリーMYLIB内にあるプログラムです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF22A0

*AUTLの権限は、USER(*PUBLIC)の場合にだけ使用することができる。

CPF22A1

OBJTYPE(*AUTL)は、このコマンドでは正しくない。

CPF22A2

*AUTLの権限をオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A3

AUTLパラメーターをオブジェクト・タイプ*USRPRFに使用することはできない。

CPF22A9

*AUTLの権限を指定することはできない。

CPF22DA

&2のファイル&1の操作は許可されていない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2210

オブジェクト・タイプ*&1に対する操作は許されていない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2223

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1に権限を与えることは認可されていない。

CPF2227

コマンドの処理中に1つ以上のエラーが起こった。

CPF2236

AUTの入力値はサポートされていない。

CPF2243

ライブラリー名&1にOBJ(総称名)またはOBJ(*ALL)を使用することはできない。

CPF2245

処理プロファイルは&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の所有者でない。

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2254

&1要求のライブラリーが見つからなかった。

CPF2273

ユーザー&4の&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の権限は変更されていないと考えられる。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2290

*EXCLUDEを別の権限と一緒に指定することはできない。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

トップ

ユーザー権限認可 (GRTUSRAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー権限認可(GRTUSRAUT)コマンドは、他のユーザー・プロファイルを参照することによって、ユーザーに権限を認可します。

注: 権限および後続のSAVSYSまたはSAVSECDTA機能の権限の授与でより高いパフォーマンスを必要とする場合には、可能な限り、ユーザー権限認可(GRTUSRAUT)コマンドの代わりにグループ・サポートまたは権限リストを使用する必要があります。

機密保護担当者がこのコマンドを出した場合には、オブジェクト管理権限を含めて、ユーザー・プロファイル中の権限が受け取りユーザーに対して認可されます。

このコマンドがユーザー・プロファイルの所有者によって実行された場合には、オブジェクト管理権限を含めて、所有されている各オブジェクトに対するすべての権限が認可されます。

参照されるユーザー・プロファイルが所有しているものでないが、使用を認可されているオブジェクトの場合には、このコマンドのユーザーは、オブジェクト管理権限およびオブジェクトに認可される権限を持っているか、あるいはオブジェクトを所有していなければなりません。そうでない場合には、オブジェクトに対する権限が与えられません。

このコマンドによって、オブジェクトの所有権またはユーザー・プロファイルによって保留されている権限を変更することはできません。ユーザー・プロファイルに認可されたオブジェクトに対する権限が、すでにユーザー・プロファイルが持っている権限に追加されます。

制約事項:

- 以下のユーザー・プロファイルは、このコマンドのいずれのパラメーターにも指定できません。

QANZAGENT, QAUTPROF, QCLUMGT, QCLUSTER, QCOLSRV, QDBSHR, QDBSHRDO, QDFTOWN, QDIRSRV, QDLFM, QDOC, QDSNX, QEJB, QEJBSVR, QGATE, QIBMHELP, QIPP, QLPAUTO, QLPINSTALL, QMGTC, QMSF, QNETSPLF, QNFSANON, QNTP, QPEX, QPM400, QRJE, QSNADS, QSPL, QSRVAGT, QSYS, QTCM, QTCP, QTMHHTP1, QTMHHTTP, QTSTRQS, QYCMCIMOM, QYPSJSVR

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USER	ユーザー	名前	必須, 定位置 1
REFUSER	参照されたユーザー	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

ユーザー (USER)

権限が認可されるユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

参照されたユーザー (REFUSER)

権限に参照されるユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

例

例1: QSECOFRユーザー・プロファイルのもとでのGRTUSRAUTの実行

```
GRTUSRAUT  USER(USRB)  REFUSER(USRA)
```

このコマンドは、USRAが所有している全オブジェクトに対してもっているのと同じ権限（オブジェクト管理権限を含む）または権限を持っている全オブジェクトに対してもっているのと同じ権限を、ユーザー・プロファイルUSRBに認可します。

例2: ユーザー・プロファイルUSRAのもとでのGRTUSRAUTの実行

```
GRTUSRAUT  USER(USRB)  REFUSER(USRC)
```

このコマンドは、USRCがこのコマンドを入力しているUSRAがオブジェクトに対するオブジェクト管理権をもっているか、参照先のオブジェクトの所有者である場合だけ権限をもっている全オブジェクトに対してもっているのと同じ権限をユーザー・プロファイルUSRBに認可します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2223

&3のタイプ*&2のオブジェクト&1に権限を与えることは認可されていない。

CPF2252

&2オブジェクトへの権限が認められた。&3オブジェクトへの権限は付与されません。

[トップ](#)

ユーザー認可 (GRTUSRPMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドにより、あるユーザーが他のユーザーに代わって文書およびフォルダーを処理したり、OFFICEVISION/400関連タスクを実行したりする認可を与えることができます。アクセスは、個人用でない文書、フォルダー、およびメール項目に制限されます。このコマンドを実行する前に、指定されたユーザーをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

制約事項:

あるユーザーに他のユーザーの代行処理を行うための認可を与えるためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TOUSER	TOユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
FORUSER	ユーザー・プロファイル	単一値: *CURRENT その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

TOユーザー・プロファイル (TOUSER)

ユーザー・プロファイル (**FORUSER**)パラメーターに指定されたユーザーの代行処理が許可されたユーザー・プロファイルの名前を指定します。アクセスはOFFICEVISION /400の文書、フォルダー、および個人のものでないメール項目に制限されます。このコマンドを実行する前に、ユーザー・プロファイルが存在していて、ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (FORUSER)

TOユーザー・プロファイル (**TOUSER**)パラメーターで指定されたユーザーが処理するユーザー・プロファイルの名前を指定します。このコマンドを実行する前に、ユーザーをシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。

***CURRENT**

処理を代行するユーザーに認可を与えます。

名前 **TOユーザー・プロファイル (TOUSER)**パラメーターに指定されたユーザーが処理を代行するユーザー・プロファイルの名前を指定します。

[トップ](#)

例

GRTUSRPMN TOUSER(JUDY) FORUSER(PEGGY)

JUDYは、遂行上の管理アシスタントです。このコマンドによって、JUDYは、個人用ではないPEGGYの文書またはフォルダーを処理することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9007

ユーザーの代行認可が&1ユーザーに提供されたが、&2ユーザーには提供されなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト権限認可 (GRTWSOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ワークステーション・オブジェクト権限認可(GRTWSOAUT)コマンドは、ユーザーがこのコマンドで指定されたワークステーション・オブジェクトに対する特定権限を他のユーザーまたはユーザー・グループに認可するために使用します。ワークステーション・オブジェクトは、I5/OSグラフィックス操作プログラムによって使用されます。

次に対して権限を認可することができます。

- 指定されたユーザー。
- オブジェクトまたは権限リストで特定権限が与えられていないユーザー(*PUBLIC)。
- オブジェクトに対する権限を持っていないか、あるいはオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー・グループ。
- 参照されたワークステーション・オブジェクト(REFWSOパラメーターで指定された)のユーザー。
- 確立された権限リストにあるユーザー。

AUT(*AUTL)を指定すると、ユーザーは以下に対して権限を指定することができます。

- オブジェクトに対して認可される特定権限を持っていないすべてのユーザー。
- オブジェクトを保護する権限リストにないユーザー。
- そのユーザー・グループが特定権限を認可されていないユーザー。
- そのユーザー・グループがオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー。

このコマンドを使用できるのは、オブジェクト所有者、機密保護担当者、指定されたオブジェクトに対してオブジェクト管理権限を持っているユーザーだけです。

制約事項:

1. ユーザーはオブジェクトの所有者であるか、またはAUTLパラメーターを使用する*ALL権限を持っていないかならなりません。
2. オブジェクトに対して権限を認可するために、ユーザーはそのオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を持っていないかならなりません。
3. AUT(*AUTL)を指定できるのはUSER(*PUBLIC)の場合だけです。権限リスト(*AUTL)によってユーザー・プロファイル名を保護することはできません。
4. ユーザーにオブジェクト管理権限を認可できるのは、オブジェクトの所有者または全オブジェクト権限(*ALLOBJ)を持っている担当者だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WSOTYPE	ワークステーション・オブジェクト・タイプ	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOBQ, *JOBQ, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJL, *OBJL, *TPLLIBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSET	
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾子リスト	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ユーザー	名前	
AUT	権限	単一値: *CHANGE , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *AUTL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *ADD, *DLT, *READ, *UPD	オプション, 定位置 3
AUTL	権限リスト	名前	オプション
REFWSO	ワークステーション・オブジェクト参照	要素リスト	オプション
	要素 1:	*TPLWRKARA, *WRKARA, *TPLPRTOL, *PRTOL, *TPLPRTL, *PRTL, *TPLOUTQ, *TPLOUTQL, *OUTQL, *TPLJOBQ, *JOBQ, *TPLJOBQ, *TPLJOBLOG, *JOBLOG, *TPLJOBQL, *JOBQL, *TPLMSG, *MSG, *TPLMSGQ, *TPLMSGSD, *MSGSD, *TPLSGNUSL, *SGNUSL, *TPLOBJL, *OBJL, *TPLLIBSL, *LIBSL, *TPLLIB, *LAUNCH, *TPLLAUNCH, *PRSET	

トップ

ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)

権限を編集するワークステーション・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

*TPLWRKARA

作業域テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*WRKARA

作業域オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLPRTOL

印刷装置出力リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*PRTOL

印刷装置出力リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

*TPLPRTL

印刷装置リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

*PRTL

印刷装置リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOUTQ**

出力待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOUTQL**

出力待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***OUTQL**

出力待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBL**

ジョブ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***JOBL**

ジョブ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBQ**

ジョブ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBLOG**

ジョブ・ログ・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***JOBLOG**

ジョブ・ログ・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLJOBQL**

ジョブ待ち行列リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***JOBQL**

ジョブ待ち行列リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGL**

メッセージ・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***MSGL**

メッセージ・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGQ**

メッセージ待ち行列テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLMSGSND**

メッセージ送信元テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***MSGSND**

メッセージ送信元オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLSGNUSL**

サインオンしたユーザー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***SGNUSL**

サインオンしたユーザー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLOBJL**

オブジェクト・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***OBJL**

オブジェクト・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLIBSL**

ライブラリー・リスト・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***LIBSL**

ライブラリー・リスト・オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLIB**

ライブラリー・テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***TPLLAUNCH**

ジョブ送信者テンプレートは、ワークステーション・オブジェクトです。

***LAUNCH**

ジョブ送信者オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

***PRSSET**

個人設定オブジェクトは、ワークステーション・オブジェクトです。

トップ

ユーザー (USER)

指定されたオブジェクトに対する権限を付与する1つ以上のユーザーを指定します。ユーザー名を指定した場合には、権限はそれらのユーザーに個々に与えられます。このコマンドによって与えられた権限は、ワークステーション・オブジェクト取り消し(RVKWSOAUT)コマンドで個々に取り消すことができます。

ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)パラメーターまたは権限リスト (AUTL)パラメーターのいずれかが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

***PUBLIC**

オブジェクトに対する権限が個々に与えられていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループが権限を持っていないか、あるいはそのユーザー・グループが権限リストにないすべてのユーザーに、AUTパラメーターで指定されたオブジェクトを使用する権限が認可されます。

名前 1つ以上のユーザー・プロファイルの名前を指定してください。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

トップ

権限(AUT)

ユーザー (USER)パラメーターで指定されたユーザーに付与する権限を指定します。

単一値***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはワークステーション・オブジェクトをアクセスすることができません。

***AUTL**

オブジェクトに対する共通認可として、AUTLパラメーターで指定された権限リストの共通認可が使用されます。

注: AUT(*AUTL)を指定できるのは、USER(*PUBLIC)も指定されている場合だけです。

その他の値 (最大10個指定可能)

***OBJALTER**

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

***OBJMGT**

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

***OBJEXIST**

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。ユーザーに特別なシステム保管権限(*SAVSYS)がある場合には、オブジェクトに対して保管/復元操作を実行するのに、オブジェクト存在権限は必要ありません。

***OBJOPR**

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を見る権限、およびユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限で決められたオブジェクトを使用する権限を提供します。

***OBJREF**

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

***ADD** 追加権限は、オブジェクトに項目を（たとえば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限は、オブジェクトから項目を除去する権限を提供します。

***EXECUTE**

実行権限は、プログラムを実行するか、またはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

*READ

読み取り権限は、オブジェクトの項目の内容を表示し、あるいはプログラムを実行するために必要な権限を提供します。

*UPD 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

メンバーに **ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)**パラメーターに指定されたオブジェクトに対する権限を付与する権限リストの名前を指定します。指定された権限リストに対して権限リスト管理(*AUTLMGT)権限が必要です。

ユーザー (USER)パラメーターまたは **ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)**パラメーターが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ワークステーション・オブジェクト参照 (REFWSO)

権限について参照されるワークステーション・オブジェクトを指定します。これらの権限は、**ワークステーション・オブジェクト・タイプ (WSOTYPE)**パラメーターで指定されたオブジェクトに与えられます。参照オブジェクトに対して認可されたユーザーは、権限を付与するオブジェクトに対しても同様に権限を認可されます。参照オブジェクトが権限リストで保護されている場合には、その権限リストはWSOTYPEパラメーターで指定されたオブジェクトを保護します。

ユーザー (USER)パラメーターまたは**権限リスト(AUTL)**パラメーターのいずれかが指定されていない限り、これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

```
GRTWSOAUT WSOTYPE(*TPLWRKARA) AUTL(KLIST)
```

このコマンドは、ワークエリア・テンプレートに対する権限を、権限リストKLISTでユーザーに指定された権限をもつユーザーに付与します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

通信装置保留 (HLDCMNDEV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信装置保留(HLDCMNDEV)コマンドで、操作員は指定した装置を介する通信を保留することができます。通信は、通信装置解放(RLSCMNDEV)コマンドによって再開するか、あるいは構成変更(VRYCFG)コマンドで装置をオフに構成変更してから再びオンに構成変更することによって再開します。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*CNTRL, *IMMED	オプション, 定位置 2

トップ

装置 (DEV)

通信を保留する装置の名前を指定します。通信を保留する装置は次の通りです。

DEV値

装置

- 3180 表示装置
- 3277 表示装置
- 3278 表示装置
- 3279 表示装置
- 3287 印刷装置 (ワークステーション)
- 5219 印刷装置 (ワークステーション)
- 5224 印刷装置 (ワークステーション)
- 5225 印刷装置 (ワークステーション)
- 5251 表示装置
- 5252 表示装置
- 5256 印刷装置 (ワークステーション)

5291 表示装置
5292 表示装置
PLU1 1次論理装置, タイプ1 (SNA用)
BSC 2進データ同期装置 (基本およびRJE)
BSCT BSCマルチポイント従属端末としてのこの&SYS.システム
APPC 拡張プログラム間通信機能(APPC)ネットワーク内の論理装置

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

この装置との通信を保留する方法を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***CNTRLD**

指定した装置は次のOPENまたはACQUIRE操作時に通信が可能ではありません。制御オプションにより、通信装置を使用中のどのプログラムも入出力操作を続行することができますが、装置の新しい使用は開始されません。

***IMMED**

指定した装置は次のREAD, WRITE, OPEN, またはACQUIRE操作時に通信が可能ではありません。即時オプションにより、通信装置は即時に停止し、永続的入出力エラーがプログラムに送られます。

[トップ](#)

例

```
HLDCMNDEV  DEV(WSPR05)
```

このコマンドは、次のOPENまたはACQUIRE操作時に装置WSPR05の通信能力を保留します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF5920

装置&1がオフに構成変更されているか、あるいは診断モードになっている。

CPF5921

装置&1は通信装置でない。

CPF5922

装置&1はすでにオプション*IMMEDで保留されている。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5984

機能の実行が認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

配布待ち行列の保留 (HLDDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列保留(HLDDSTQ)コマンドは、配布待ち行列が送信されないようにします。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
PTY	優先順位	*NORMAL, *HIGH	必須, 定位置 2

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

保留される配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、前に、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

優先順位 (PTY)

指定された待ち行列の通常優先順位部分が保留されるか、高優先順位部分が保留されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NORMAL

通常優先順位待ち行列は、サービス・レベルがデータ低の配布用です。

*HIGH

高優先順位待ち行列は、サービス・レベルが高速、状況、またはデータ高の配布用です。

注: この値は、SYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)タイプの配布待ち行列には正しくありません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

例

例1: 待ち行列の通常の優先順位部分の保留

```
HLDDSTQ DSTQ(CHICAGO) PTY(*NORMAL)
```

このコマンドは、CHICAGO配布待ち行列の通常の優先順位部分を保留します。

例2: 待ち行列の高優先順位部分の保留

```
HLDDSTQ DSTQ(ATLANTA) PTY(*HIGH)
```

このコマンドは、ATLANTA配布待ち行列の優先順位の高い部分を保留します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名/グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF881C

*SVDS配布待ち行列&1に高優先順位待ち行列を使用することはできない。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8816

QSNADS通信サブシステムが活動していない。

CPF8817

配布待ち行列が保留中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ保留 (HLDJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドは、ジョブをシステムによる処理に不適格とします。ジョブは、次のことが行なわれるまで、保留されています。

- ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドによって保留解除される
- ジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ)コマンドによって消去される
- ジョブ終了 (ENDJOB)コマンドによって終了される
- サブシステム終了 (ENDSBS)コマンド、システム終了 (ENDSYS)コマンド、またはシステム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドによって (ジョブが活動中に) 終了される

ジョブを保留すると、そのジョブ中のすべてのスレッドが保留されます。

注: このコマンドを使用して、システム上の資源に排他的にアクセスできるジョブを保留すると、それらの資源は他のジョブでは使用できなくなります。それらの資源にアクセスする必要がある他のジョブは、失敗するか、無期限に待機することになります。

制約事項: コマンド発行側は、保留されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。あるいは、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLFILE	スプール・ファイルの保留	*NO, *YES	オプション, 定位置 2
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

保留するジョブの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 ジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しないと、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合は、修飾ジョブ名は明示的に、または選択表示を介して提供する必要があります。詳細については、**重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)**パラメーターを参照してください。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (SPLFILE)

保留されるジョブによって作成されたスプール出力ファイルも保留するかどうかを指定します。

***NO** このジョブによって作成されるスプール出力ファイルは保留されません。

***YES** このジョブによって作成されるスプール出力ファイルもまた保留されます。このコマンドを出すスレッドのライブラリー名スペース内の出力待ち行列にあるスプール出力ファイルだけが保留されます。**スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)**ジョブ属性が*DETACHで、スプール・ファイルの保留中にジョブが終了された場合は、**ジョブ解放 (RLSJOB)**コマンドを使用してそのスプール・ファイルを解放することはできません。ジョブをシステムから除去した後にスプール・ファイルを解放するには、**スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)**コマンドを使用してください。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

[トップ](#)

例

例1:ジョブを処理不適格にする

```
HLDJOB JOB(PAYROLL) SPLFILE(*YES)
```

このコマンドは、PAYROLLという名前のジョブを処理に不適格なジョブにします。このジョブのプール・ファイルもすべて保留されます。

例2:重複名をもつジョブを保留する

```
HLDJOB JOB(DEPTXYZ/PAYROLL)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルDEPTXYZのもとで活動しているユーザーによって投入された、PAYROLLという名前のジョブを保留します。システム内に重複名をもつジョブが存在する時は、ジョブ名の修飾形式が使用されます。プール・ファイルは保留されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1E52

ジョブ&1の保留は認可されていない。

CPF1E53

ジョブ&1は終了しているので保留することはできない。

CPF1E54

ジョブ&1を保留することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1342

このコマンドのジョブ名として現行ジョブを使用することはできない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1345

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1346

ジョブ&3/&2/&1はすでに保留されている。

CPF1347

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1348

ジョブ&3/&2/&1は保留されているが、そのファイルを保留することができない。

CPF1350

SPLFILE(*NO)が指定されたが、ジョブ&3/&2/&1はOUTQ上にある。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1378

現時点ではジョブ&3/&2/&1は保留されない。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列保留 (HLDJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列保留(HLDJOBQ)コマンドは、ジョブ待ち行列上で現在待機中のすべてのジョブおよびこのコマンドが出された後に待ち行列に追加されたすべてのジョブの処理を妨げます。このコマンドは実行中のジョブには影響を与えません。待ち行列が保留中に追加のジョブをジョブ待ち行列に入れることができますが、それらは処理されません。ジョブはジョブ待ち行列解放(RLSJOBQ)コマンドが出されるまで保留されています。ジョブ待ち行列が保留の時には、ジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドでジョブを消去するか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドによって特定のジョブを取り消すことができます。

制約事項: QLPINSTALLジョブ待ち行列を保留することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

現行の項目およびこれから追加される項目の処理を行わせないようにしたいジョブ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 保留するジョブ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

HLDJOBQ JOBQ(QBATCH)

このコマンドは、現在QBATCHジョブ待ち行列上にあるジョブおよびその待ち行列に追加されたすべてのジョブの処理をできなくします。それらは、待ち行列が解放または消去されるまで保留されます。ジョブをジョブ待ち行列から除去するENDJOBコマンドでは、個々のジョブを終了することもできます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2240

ユーザー&7には*&5 &6/&4の使用が認可されていない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3425

&2のジョブ待ち行列&1はすでに保留されている。

[トップ](#)

ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目保留 (HLDJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、すべての項目、または項目のセットを保留することができます。各ジョブ・スケジュール項目には、ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に投入するために必要な情報が入っています。

ジョブ・スケジュール項目は次の場合に保留されます。

- 項目がジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)またはジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して解放されるまで保留される場合
- 項目が保留されている時に、ジョブの投入がスケジュールされた日付および時刻を過ぎても、ジョブが解放された時に投入されない場合

制約事項:

1. 項目を保留するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。これがない場合は、保留できるのは追加した項目だけです。
2. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ライブラリーQUSRSYS中のオブジェクトQDFTJOBSCD,タイプ*JOBSCDに対する使用(*USE)権限、およびライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, *ONLY, *ALL	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ユーザーに権限があるすべてのジョブ・スケジュール項目が保留されます。JOB(*ALL)が指定された場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。

総称名 ジョブ・スケジュール項目を検索するために使用される総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前のすべての項目 (ユーザーに権限がある場合) が保留

されます。総称名を指定した場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 保留したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

[トップ](#)

項目番号 (ENTRYNBR)

保留したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するには、WRKJOBSCDE画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。

*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は保留されずに、エラー・メッセージも送信されません。

***ALL** 指定されたジョブ名を持つすべての項目が保留されます。

000001から999999

保留したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

[トップ](#)

例

例1:ジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(CLEANUP)
```

このコマンドは、ジョブ名CLEANUPを持つジョブ・スケジュール項目を保留します。

例2:すべてのジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(*ALL) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内のすべての項目を保留します。

例3:個々のジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(PAYROLL) ENTRYNBR(*ONLY)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の項目PAYROLLを保留します。

例4:総称ジョブ・スケジュール項目の保留

```
HLDJOBSCDE JOB(PAY*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の、名前に接頭部PAYを持つすべての項目を保留します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1632

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に損傷がある。

CPF1636

指定されたジョブ名の項目が複数検出された。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

CPF1645

指定された名前のジョブ・スケジュール項目が見つからない。

CPF1646

総称名が指定された時には項目番号は*ALLでなければならない。

CPF1647

&3個の項目が正常に保留され、&4個の項目が保留されていない。

CPF1649

項目番号は*ALLでなければならない。

[トップ](#)

出力待ち行列保留 (HLDOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列保留(HLDOUTQ)コマンドは、現在待機中のすべてのスプール・ファイルと、このコマンドが出された後に出力待ち行列に追加されたすべてのスプール・ファイルを、スプール書き出しプログラムが処理しないようにします。このコマンドは、現在実行中で出力待ち行列にスプール・ファイルを追加しているジョブには影響しません。また、このコマンドが出された時点でスプール書き出しプログラムによって作成中のスプール出力にも影響しません。スプール書き出しプログラムが現行出力ファイルのすべてのコピーを完了した時には、待ち行列が解放されるまで他のファイルの出力は開始できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

現在およびその後のスプール・ファイルのそれ以上の処理を行えないようにする出力待ち行列の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 保留する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

例

HLDOUTQ OUTQ(QPRINT)

このコマンドは、現在QPRINT待ち行列上にあるスプール・ファイルおよびその待ち行列に追加されたすべてのスプール・ファイルの処理をできなくします。それらは、待ち行列が解放または消去されるまで保留されます。スプール・ファイルを出力待ち行列から除去するENDJOBコマンドでは、特定のジョブ（スプール・ファイル付き）を終了することもできます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3426

ライブラリー&2の出力待ち行列&1はすでに保留されている。

[トップ](#)

読み取りプログラム保留 (HLDRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

読み取りプログラム保留(HLDRDR)コマンドは、指定されたスプール読み取りプログラムの活動を即時に停止します。読み取りプログラム自体は終了せず、その関連の入力装置もシステムに使用可能にはなりません。読み取りプログラムは、読み取りプログラム解放(RLSRDR)または読み取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドが出されるまで非活動状態になっています。読み取りプログラムが保留される時には、データは失われません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDR	読み取りプログラム	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

保留するスプール読み取りプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 保留する読み取りプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

HLDRDR RDR(QDKT)

このコマンドは、ディスク読み取りプログラムQDKTにデータの読み取りを即時に停止させます。データの読み取りを続行できるように読み取りプログラムを解放するには、読み取りプログラム解放(RLSRDR)コマンドを入力する必要があります。読み取りプログラム終了(ENDRDR)コマンドが使用されると、読み取りプログラムは停止され、ジョブ待ち行列にジョブ項目が追加されていないために、読み込まれていたジョブは失われます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1E52

ジョブ&1の保留は認可されていない。

CPF1E53

ジョブ&1は終了しているので保留することはできない。

CPF1E54

ジョブ&1を保留することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1345

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1347

ジョブ&3/&2/&1を保留することはできない。

CPF1350

SPLFILE(*NO)が指定されたが、ジョブ&3/&2/&1はOUTQ上にある。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF1378

現時点ではジョブ&3/&2/&1は保留されない。

CPF3312

読み取りプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3333

読み取りプログラム&3/&2/&1はすでに保留されている。

CPF3490

指定した読み取りプログラムに対して権限がない。

[トップ](#)

スプール・ファイルの保留 (HLDSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

スプール・ファイル保留(HLDSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルのスプール書き出しプログラムによる追加の処理を停止します。ファイルが出力装置上で作成中である場合には、書き出しプログラムはそのファイルの処理を停止して、次のファイルの処理を開始します。そのファイルが解放されて出力用に選択されると、再びファイルの先頭から処理が開始されます。保留時にそのファイルで複数のコピーが作成中であった場合には、未完了のコピーが再び始めから作成されて、残りのコピーが続けられます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: _ その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV		
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OPTION	ファイルの保留時期	*IMMED, *PAGEEND	オプション

トップ

スプール・ファイル (FILE)

保留するスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SELECT

ファイル選択 (SELECT)パラメーターで指定された選択値に合致するすべてのスプール・ファイルが保留されます。この値は、ジョブ名 (JOB)パラメーター、スプール・ファイル番号 (SPLNBR)パラメーター、ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)パラメーター、および作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)パラメーターに指定した値と相互に排他的です。

名前 保留するスプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

保留するファイルを作成したジョブを指定します。

単一値

*
- このスプール・ファイル保留(HLDSPLF)コマンドを出したジョブがこのファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 保留するファイルを作成したジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

指定されたジョブで作成されたスプール・ファイルの番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

*ANY 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプー

ル・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

1から999999

保留する指定されたファイル名のスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター)が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

[トップ](#)

ファイル選択 (SELECT)

保留するファイルのグループを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルと関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されます。

要素1: ユーザー

*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

名前 ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

要素2: 印刷装置

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

*OUTQ

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

名前 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

要素3: 用紙タイプ

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

要素4: ユーザー・データ

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

要素5: ASP

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

*ASPDEV

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

1から32

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

*
- 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2から32)で見つかったファイルが選択されます。

*CURASPGRP

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 補助記憶域プール装置記述の名前を指定してください。指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

[トップ](#)

ファイルの保留時期 (OPTION)

スプール・ファイルの保留時に使用するオプションを指定します。

注: ファイルが書き出し中でない時にオプションを指定しても意味がありません。

*IMMED

ファイルは可能な限り迅速に保留されます。

*PAGEEND

ファイルはページ境界で保留されます。

[トップ](#)

例

例1:別のジョブによって作成されたファイルの保留

```
HLDSPLF FILE(SHIPITEMS) JOB(00009/JONES/ORDER)
```

このコマンドは、ジョブORDERによって作成されたスプール・ファイルSHIPITEMSの追加処理を取り止めます。

例2:ページ境界でのファイルの保留

```
HLDSPLF FILE(QPJOBLOG) OPTION(*PAGEEND)
```

このコマンドは、スプール・ファイルQPJOBLOGをページ境界で保留します。

例3:ファイルの即時保留

```
HLDSPLF FILE(QPJOBLOG) OPTION(*IMMED)
```

このコマンドは、スプール・ファイルQPJOBLOGを即時に保留します。このオプションを指定することによってスプール・ファイルを保留すると、スプール・ファイルが現在スプール書き出しプログラムによって処理されている場合には、CHGSPLFAコマンドのRESTART(*NEXT)は正確でなくなります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2ではASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3337

ファイル&1番号&8はすでに保留または保管されている。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF34A4

ファイル&1番号&8は保留または削除されない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

書き出しプログラム保留 (HLDWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム保留(HLDWTR)コマンドは、指定された書き出しプログラムをレコードの終わり、スプール・ファイルの終わり、または印刷ページの終わりで停止します。ファイルの複数コピーが作成されている場合には、現在作成中のコピーの終わりで書き出しプログラムを保留することができます。書き出しプログラムは停止されず、装置はシステムに使用可能になりません。書き出しプログラムは、書き出しプログラム解放(RLSWTR)コマンドまたは書き出しプログラム終了(ENDWTR)コマンドが出されるまで、非活動状態になっています。書き出しプログラムが保留されている時には、データは失われません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WTR	書き出しプログラム	名前	必須, 定位置 1
OPTION	書き出しプログラムの保留時点	*IMMED, *CNTRLD, *PAGEEND	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

保留するスプール書き出しプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 保留する書き出しプログラムの名前を指定してください。

[トップ](#)

書き出しプログラムの保留時点 (OPTION)

スプーリング書き出しプログラムの出力の生成をいつ停止させるかを指定します。

***IMMED**

書き出しプログラムはレコードの現行ブロック中の最後のレコードを出力装置に書き出してしまわずにすぐに停止します。書き出しプログラムは装置に対するレコードのブロックの作成を修了するたびに、別の入出力要求を行って、スプール中のファイルから次のブロックを装置に読み取ります。***IMMED**を指定した場合には、書き出しプログラムが停止するのは、処理中のブロック（ディスクット出力の場合、これはディスクットに書き出し中の完全なディスクット・レコードです）内の最後のレコードを書き出してしまった後だけです。

印刷出力に*IMMEDを指定した場合には、書き出しプログラムは印刷行のどこかまたは終わり、あるいは完全なブロックの終わり（行の終わりとは限らない）で停止します。これは、一部のデータ・レコード（パフォーマンスを向上させるためにブロック化されている）が2つの部分（レコードの先頭部分はブロックの終わりにあり、レコードの最後の部分は次のブロックの先頭にある）に分割されていることがあるためです。ファイルのコピーが1つしか作成されない場合、あるいは最後のコピーを作成中の場合は、ファイルの項目は出力の完了時に出力待ち行列から除去されます。

*CNTRLD

書き出しプログラムは、ファイルの現行コピーの終わりで停止します。生成するファイルのコピーが1つだけの場合、または最後のコピーを生成中の場合には、出力が完了するとそのファイルの項目は出力待ち行列から除去されます。

*PAGEEND

書き出しプログラムはページの終わりで保留されます。この値は、スプーリング書き出しプログラムが印刷装置書出プログラムの場合のみ有効です。

[トップ](#)

例

```
HLDWTR WTR(PRINTER) OPTION(*CNTRLD)
```

このコマンドは、現在のファイルの終わりでPRINTERという名前の書き出しプログラムを停止します。書き出しプログラムは、RLSWTR（書き出しプログラム解放）またはENDWTR（書き出しプログラム終了）コマンドが出されるまで保留されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3332

書き出しプログラム&3/&2/&1はすでに保留されている。

CPF3334

書き出しプログラム&3/&2/&1に対する前の保留は未処理である。

CPF3438

*PAGEENDは書き出しプログラム&3/&2/&1の場合には正しくない。

[トップ](#)

IF (IF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IF (IF)コマンドは、論理式を評価し、式の評価にしたがってCLプロシージャーのコマンドを条件つきで処理します。論理式が真（論理1）の場合には、THENパラメーターに指定されたコマンド（またはDOグループ中の1グループのコマンド）が処理され、ELSEコマンドと関連したコマンドまたはDOグループは処理されません。論理式の結果が偽（論理0）である場合には、THENパラメーターに指定されたコマンドは処理されず、制御権は次のコマンドに移されます。そのコマンドがELSEコマンドである場合には、そのコマンドに指定されたコマンドまたはDOグループが処理されます。ELSEコマンドが指定されない場合には、制御権は次のコマンドに移されます。

DOコマンドが指定された時には、IFコマンドのTHENパラメーターで、あるいはELSEコマンドのCMDパラメーターでは、その式の結果が処理しているグループで不要なものである場合には、そのDOグループは迂回されます。すなわち、そのDOと関連したENDDOコマンドの後にあるコマンドに制御が移ります。

THENパラメーターによって指定されたコマンドまたはDOグループ、またはELSEコマンドが完了し（さらに、GOTOコマンドが処理されていない）場合には、ELSEコマンドによって指定されたコマンドまたはDOグループの後にある次のコマンドに制御が移ります。GOTOコマンドを処理すると、GOTOコマンドによって指定されたラベルをもつコマンドに制御が移り、そのコマンドから処理が続行されます。

次のコマンド順序はこのフローを示します。この例では、&TESTSWが論理変数です。

```
IF &TESTSW DO
  GROUP A (CLコマンドのグループ)
  .
  .
  ENDDO
ELSE DO
  GROUP B (CLコマンドのグループ)
  .
  .
  ENDDO
GROUP C (続行されるCLコマンド)
.
.
```

IFコマンドは論理変数&TESTSWをテストします。真の条件が存在する(&TESTSWに'1'の値が入っている)場合には、グループAのコマンドが処理された後に、グループCのコマンドに制御が移ります。偽の条件が存在する(&TESTWに0の値が入っている)場合には、グループAのコマンドが迂回されて、グループBのコマンドが処理された後に、グループCのコマンドに制御が移ります。

制約事項:

- IFコマンドはCLプロシージャー内でのみ有効です。
- 最大10レベルのネストされたIFおよびELSEコマンドを使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COND	条件	論理値	必須, 定位置 1
THEN	コマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 2

トップ

条件 (COND)

プログラム中の条件および次に実行される処置を決定するために評価される論理式を示します。論理式については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「論理式」を参照してください。式の中では変数、固定情報、そして%SUBSTRING、%SWITCH、および%BINARY組み込み関数を使用できることに注意してください。

これは必須パラメーターです。

論理値 CL論理変数または論理式の名前を指定してください。

トップ

コマンド (THEN)

論理式の評価結果が真の場合に処理されるコマンドまたはコマンドのグループ (DO グループで) を指定します。コマンドまたはDOグループが処理されると、このIFコマンドと関連したELSEコマンドの後にある次のコマンドに制御が移ります。結果が真の場合には、IFコマンドと関連したELSEコマンドは処理されません。このパラメーターで指定したコマンドがDOコマンドである場合には、DOグループ内のすべてのコマンドがパラメーターによって指定したコマンドと見なされます。

THENキーワードによって指定されたコマンドが、そのキーワードをコーディングする時の同じ行にコーディングされない場合には、THENキーワードの直後に左括弧、あるいはプラス符号(+)またはマイナス符号(-)を(その同じ行)に続けて、継続を示す必要があります。(キーワードの後にブランクを続けることはできません。)次に、そのコマンドと右括弧を次の行にコーディングすることができます。たとえば、次の通りです。

```
IF COND(&A *EQ &B) THEN(      +
    GOTO C)
```

THENパラメーターによって指定されたコマンドの任意の部分を次の行に続ける場合には、継続文字(+または-)を指定しなければなりません。

DOコマンドが指定された場合には、DOコマンドだけ(DOグループ中に指定されたコマンドではない)が括弧に入れられます。たとえば、次の通りです。

```
IF COND(&A *EQ &B) THEN(DO)
    CMD1
    CMD2
    .
    .
ENDDO
```

THENパラメーターにコマンドが指定されない（ヌルのTHEN）で、その直後にELSEコマンドがある場合には、IF式が偽の場合はELSEが処理され、その式が真の場合はこれがスキップされます。

CLコマンドはTHENパラメーターに指定することができますが、次のコマンドは例外です。

- ELSE
- PGM, ENDPGM
- ENDDO
- MONMSG
- DCL, DCLF
- WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT

ネストされたIFおよびELSEコマンドがまだ10レベルになっていないかぎり、コマンドを別のIFにすることができます。

トップ

例

```
IF COND(&A *EQ &B) THEN(GOTO X)
IF (&A *EQ &B) THEN(GOTO X)
IF (&A *EQ &B) (GOTO X)
IF COND(&A *EQ &B) THEN(GOTO X)
```

上記の例は、IFコマンドを指定して条件をテストし、ラベルに分岐できるさまざまな方法を示しています。これらの例では、&Aが&Bに等しいと、Xという名前のラベルを持つCLコマンドに制御権が移ります。

```
IF COND(&TESTSW) THEN(CHGVAR VAR(&A) VALUE(23))
```

&TESTSWが論理値1（真）であると、CHGVARコマンドが処理され、&Aが10進数23に設定されます。&TESTSWが論理値0（真でない）であると、変数変更(CHGVAR)コマンドは処理されません。

```
IF COND((&ALPHA *EQ &BETA) *AND *NOT &GAMMA)
THEN(RETURN)
```

&ALPHAの値が&BETAの値に等しく、&GAMMAが論理0の場合は、このCLプロシーチャーを呼び出したプログラムまたはプロシーチャーに戻ります。

```
IF &LOG1 THEN(IF (&A *GT 10) THEN(GOTO X))
ELSE(GOTO Y)
ELSE DO
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

これは、ネストされたIFコマンドの例です。&LOG1が論理値1（真）で、&Aが10より大きいと、ラベルXに分岐します。&LOG1が論理値1で、&Aが10以下であると、ラベルYに分岐します。&LOG1が論理値0（偽）であると、&Aは10と比較されません。代わりに、2番目のELSEコマンドのDOグループが処理されます。

```
IF &TEST THEN(DO)
CHGVAR &A (&A + 1)
GOTO X
ENDDO
ELSE DO
CHGVAR &B (&B + 1)
CALL EXTPGM (&B)
ENDDO
```

この例は、どのようにすればTHENパラメーターを次の行に継続できるかを示しています。&TESTが論理値1の場合は、THENパラメーターに指定されたDOグループが処理されます。そうでない場合は、ELSEコマンドに指定されたDOグループが処理されます。

```
IF (&A *EQ YES) DO
  CHGVAR &B 1
  CHGVAR &C 'Z'
ENDDO
```

この例は、DOグループをTHENパラメーターとして示しています。2つの変数変更(CHGVAR)コマンドが処理されるのは、関係式で&AがYESに等しい場合です。

```
IF %SWITCH(10XXX10) THEN(GOTO X)
```

この例は、組み込み関数%SWITCHを使用してジョブの8個のジョブ・スイッチをテストする方法を示しています。%SWITCHの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「CLの組み込み関数」のトピックを参照してください。この例では、ジョブ・スイッチ1, 2, 7, および8が、8文字のマスクに示された値であるかどうかをテストされます。スイッチ1と7が1で、スイッチ2と8が0であれば、ラベルXを持つコマンドに制御権が分岐します。4個のスイッチのうち、どれか1つでも示された値でないものがあると、分岐は行われません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0816

%SWITCHマスク&1が正しくない。

トップ

LINUXサーバーの導入 (INSLNXSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LINUXサーバーの導入 (INSLNXSVR)コマンドは、LINUXサーバー基本オペレーティング・システムを統合XSERIESサーバーに導入します。また、INSLNXSVRは、サーバー上に 統合サーバー・サポート コードも導入します。

LINUXサーバー導入は2つのステップで実行されます。最初のステップでは、INSLNXSVRコマンドがサーバーの管理に必要なすべてのオブジェクトを作成します。これには、ネットワーク・サーバー記述、メッセージ待ち行列、回線記述、記憶スペース、およびTCP/IPインターフェースが含まれます。

LINUXサーバー導入の2番目のステップでは、LINUXサーバー導入を開始するために統合XSERIESサーバーがオンに構成変更されます。

続くLINUXサーバー導入は、ファイル・サーバー・コンソールおよび通常のLINUXサーバー導入プロセスを使用して実行されます。

INSLNXSVRが正常に完了すると、LINUXサーバーはオンに構成変更された状態のままになります。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)、全オブジェクト(*ALLOBJ)およびジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
- ファイル・サーバーは最初はオフに構成変更されていなければなりません。
- また、LINUXサーバーを導入して、サーバーをリブートする必要があるため、導入の第2ステップでファイル・サーバーをオフに構成変更してからオンに戻します。

使用上の注意:

ファイル・サーバーを構成する最初のステップでなにかエラーが起こると、このコマンドは失敗することになります。

このコマンドの実行後に、作成された種々の資源を管理する必要がある場合には、以下のコマンドを使用します。

- LINUXサーバーの状況をチェックアウトするためには、構成状況処理コマンド、WRKCFGSTS CFGTYPE(*NWS)を使用してください。
- 導入したばかりのサーバーを管理するためには、ネットワーク・サーバー記述処理コマンドWRKNWSD NWSD(ネットワーク・サーバー名)を使用してください。
- このコマンドで作成された回線記述を管理するためには、回線記述処理コマンド、WRKLIND LIND(NWSD名*)を使用してください。回線記述は、INSLNXSVRコマンドに指定されたネットワーク・サーバー名(NWSDパラメーター)を使用して指定されます。
- このコマンドで作成されたTCP/IPインターフェースを管理するためには、TCP/IPネットワーク状況処理 (NETSTAT)コマンドのオプション1を使用します。もう1つの方法は、TCP/IP構成(CFGTCP)コマンドのオプション1を使用することです。

- このコマンドで作成したばかりのネットワーク・サーバー構成を管理するには、NWS構成処理コマンド、WRKNWSCFG NWSCFG(NWSDNAME*)を使用してください。ネットワーク・サーバー構成は、INSLNXSVRコマンドに指定されたネットワーク・サーバー名(NWSDパラメーター)を使用して指定されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *ISCSI	必須, 定位置 2
LNXSVRDST	LINUXサーバー配布版	文字値	必須, 定位置 3
LNXSRCDIR	LINUXソース・ディレクトリ	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
TCPPOPCFG	TCP/IPポート構成	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	1, 2, 3, 4	
	要素 2: LINUX IPアドレス	文字値	
	要素 3: LINUXサブネット・マスク	文字値	
	要素 4: LINUXゲートウェイ・アドレス	文字値	
VRTETHPORT	仮想イーサネット・ポート	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	*VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: LINUX IPアドレス	文字値	
	要素 3: LINUXサブネット・マスク	文字値	
	要素 4: 関連ポート	名前, <u>*NONE</u>	
TCPDMNNAME	TCP/IPローカル・ドメイン名	文字値, <u>*SYS</u>	オプション
TCPNAMSVR	TCP/IP NAME SERVERシステム	単一値: <u>*SYS</u> , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 文字値	オプション
SVRSTGSI	サーバー記憶スペースのサイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 導入ソース・サイズ	200-2047, <u>200</u>	
	要素 2: システム・サイズ	1024-1024000, <u>5000</u>	
SVRSTGASP	記憶スペースASP	要素リスト	オプション
	要素 1: 導入ソースASP	1-255, <u>1</u>	
	要素 2: システムASP	1-255, <u>1</u>	
STGASPDEV	サーバー記憶ASP装置	要素リスト	オプション
	要素 1: 導入ソースASP装置	名前	
	要素 2: システムASP装置	名前	
LNGVER	言語バージョン	整数, <u>*PRIMARY</u>	オプション
SYNCTIME	日付と時刻の同期化	<u>*YES</u> , *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RSTDDEVRSC	制約された装置資源	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *ALLTAPE, *ALLOPT	オプション
SHUTDTIMO	シャットダウン・タイムアウト	2-45, <u>15</u>	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	30-1800, <u>120</u>	オプション
CMNMSGQ	通信メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 通信メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
STGPTH	記憶域パス	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	通信名	
VRTETHPTH	仮想イーサネット・パス	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	*VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	通信名	
SHUTDPORT	TCPポートのシャットダウン	1024-65535, <u>8700</u>	オプション
VRTETHCTLP	仮想イーサネット制御ポート	1024-65535, <u>8800</u>	オプション
RMTNWSCFG	リモート・システムNWSCFG	名前, *DFT	オプション
SPNWSCFG	サービス・プロセッサ NWSCFG	名前, *DFT	オプション
CNNNWSCFG	接続機密保護NWSCFG	名前, *DFT	オプション
DFTSECRULE	省略時のIP機密保護規則	文字値, *NONE, *GEN	オプション
IPSECRULE	IP機密保護規則	1-16, *DFTSECRULE, *NONE	オプション
INZSP	サービス・プロセッサの初期化	*MANUAL, *SYNC, *AUTO, *NONE	オプション
ENBUNICAST	ユニキャストを使用可能にする	*NO, *YES	オプション
EID	格納装置ID	単一値: *AUTO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通し番号	文字値	
	要素 2: 製造元のタイプおよび型式	文字値	
SPNAME	サービス・プロセッサ名	文字値, *SPINTNETA	オプション
SPINTNETA	SP IPアドレス	文字値	オプション
SPAUT	SP認証	単一値: *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー名	文字値	
	要素 2: ユーザー・パスワード	文字値	
SPCERTID	SP証明書ID	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: コンポーネント	*COMMONNAME, *EMAIL, *ORGUNIT	
	要素 2: 値の比較	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYSID	リモート・システムID	単一値: *EID その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通し番号	文字値	
	要素 2: 製造元のタイプおよび型式	文字値	
DELIVERY	配送方式	文字値, *DYNAMIC , *MANUAL	オプション
CHAPAUT	CHAP認証	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CHAP名	文字値	
	要素 2: CHAP秘密	文字値	
BOOTDEVID	ブート装置ID	単一値: *SINGLE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: バス	0-255	
	要素 2: 装置	0-31	
	要素 3: 機能	0-7	
DYNBOOTOPT	動的ブート・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: ベンダーID	文字値, *DFT	
	要素 2: 代替クライアントID	文字値, *ADPT	
RMTIFC	リモート・インターフェース	要素リスト	オプション
	要素 1: SCSIインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター・アドレス	16 進値	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
	要素 5: iSCSI修飾名	文字値, *GEN	
	要素 2: LANインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター・アドレス	16 進値	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
	TEXT	テキスト'記述'	
CFGFILE	構成ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 構成ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
VRTPTPORT	仮想PTP イーサネット・ポート	要素リスト	オプション
	要素 1: IPアドレス	文字値, *GEN	
	要素 2: LINUX IPアドレス	文字値, *GEN	

トップ

ネットワーク・サーバー記述 (NWS D)

作成するネットワーク・サーバー記述を指定します。ネットワーク・サーバー記述は、このコマンドに指定された値を使用して作成されます。TYPE(*LINUX)の*NWS Dオブジェクトを作成するためには、ネットワーク・サーバー記述作成 (CRTNWS D)コマンドを使用します。また、この名前は、LINUXサーバーのTCPホスト名としてのみならず、導入されるLINUXサーバーのコンピューター名としても使用されます。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

名前 ネットワーク・サーバーの名前を指定します。ネットワーク・サーバー名は最大8文字とすることができます。NWS D名には、次の文字を使用することができます。

- 英字A-Z
- 数字0-9

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が使用するハードウェアを識別する資源名を指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

注: 資源名の判別に役立つには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。通信アダプターの資源名を指定してください。資源名はファイル・サーバーIOAを表します。

*ISCSI

このネットワーク・サーバー資源はISCSI接続サーバーです。

名前 資源名を指定します。資源名の最大長は10文字です。

[トップ](#)

LINUXサーバー配布版 (LNXSVRDST)

このネットワーク・サーバーに導入するLINUXサーバーのバージョンを指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

文字値 導入するLINUXサーバー配布版バージョンを指定します。コマンド・プロンプト中にF4を使用して、このパラメーターに使用できる値の完全なリストを表示することができます。

[トップ](#)

LINUXソース・ディレクトリー (LNXSRCDIR)

導入の際に、ソースとして使用されるLINUXサーバーのCD-ROMイメージと関連したディレクトリーを指定します。このディレクトリー名は、光ディスク・ボリューム('/QOPT/ボリューム'), フォルダー('/QDLS/フォルダー'),または統合ファイル・システム(IFS)ディレクトリー('/DIR1/DIR2')などと示されます。

CD-ROMボリュームのパス名の例は'/QOPT/NTSRV40A'です。

光ディスク装置上にあるボリュームの名前を検索するには、次のコマンド、DSOPT VOL(*MOUNTED) DEV(装置名)を使用します。光ディスク装置の名前が不明の場合、コマンドWRKCFGSTS CFGTYPE(*DEV) CFGD(*OPT)を使用してください。

IFSディレクトリーのパスの名前を検索するには、オブジェクト・リンクの処理(WRKLNK)コマンドを使用してください。WRKLNKは、システムのディレクトリー・オブジェクトのパス名を表示します。

***DFT** 使用する省略時のディレクトリー・パス名は、QOPTファイル・システム(IFSの/QOPTディレクトリー)を検索することによって決定されます。その中にLOADLIN.EXEファイルがあるDOSUTILSディレクトリーが入っているQOPTの最初のボリュームのパス名が省略時の値として使用されます。

注: 光ディスク媒体ライブラリーのあるシステム上で*DFTを使用することはお勧めできません。'/QOPT'パス中にあるすべてのボリュームで有効なLINUX導入ソースが検索されるので、その結果、それぞれのボリュームが検索されてマウントされることとなります。特定の光ディスク・ボリューム・パスを指定するようにしてください。

パス名 導入に使用するLINUXサーバー・ソース・ディレクトリーのパス名を指定してください。

注: 指定したディレクトリーには、その中にLOADLIN.EXEがあるDOSUTILSディレクトリーが入っていないなければなりません。

コマンド・プロンプトが出されているときにF4を使用して、このパラメーターに使用できる光ディスク・ボリュームのパス名のリストを表示することができます。光ディスク・ボリューム以外のフォルダーまたはIFSパス名も使用できますが、F4の使用時にはリストされません。

トップ

TCP/IPポート構成 (TCPPORTCFG)

ネットワーク・サーバー上のポートに固有のLINUX TCP/IP構成値を指定します。この情報は、ネットワーク・サーバー・ポートの識別、IPアドレス、サブネット・マスク、およびポートに割り当てられている省略時ゲートウェイを含む4つの部分から成っています。

単一値

***NONE**

LINUX TCP/IPポート構成がないことを指定します。

その他の値(4回までの反復)

要素1: ポート

構成するネットワーク・サーバー・ポート番号を指定します。次の値の1つを指定してください。

- 1 ネットワーク・サーバー・ポート番号1が構成されます。
- 2 ネットワーク・サーバー・ポート番号2が構成されます。
- 3 ネットワーク・サーバー・ポート番号3が構成されます。
- 4 ネットワーク・サーバー・ポート番号4が構成されます。

要素2: LINUX IPアドレス

文字値 ポートのLINUX IPアドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: 選択するIPアドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびそのシステムのTCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。

要素3: LINUXサブネット・マスク

文字値 LINUX IPアドレスのサブネット・マスクを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: LINUXゲートウェイ・アドレス

文字値 LINUX IPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

[トップ](#)

仮想イーサネット・ポート (VRTETHPORT)

ファイル・サーバーで使用する仮想イーサネットのTCP/IP構成を指定してください。

注: VRTETHPORTパラメーターが使用可能となるのは、統合XSERIESサーバーの場合のみです。

単一値

*NONE

LINUX TCP/IPポート構成がないことを指定します。

その他の値(4回までの反復)

要素1: ポート

構成されるネットワーク・サーバー仮想イーサネットのポート番号を指定します。次の値の1つを指定してください。

*VRTETHN

ネットワーク・サーバー仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の値とすることができます。

要素2: LINUX IPアドレス

文字値 ポートのLINUX IPアドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。選択するIPアドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびそのシステムのTCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。

要素3: LINUXサブネット・マスク

文字値 LINUX IPアドレスのサブネット・マスクを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: 関連ポート

LINUXネットワーク・サーバーとネットワークとの間の接続の確立に使用するポートを表す資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。この資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポート上のCMN01とすることができます。

***NONE**

関連したポート資源名は、回線とは関連していません。

名前 資源名を指定します。

[トップ](#)

TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)

ネットワーク・サーバーと対応したローカル・ドメイン名を指定します。

ドメイン名は2から255桁のテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切った1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには、最大63桁を入れることができます。ドメイン名には、次の文字を使用することができます。

- 英字A-Z
- 英小文字
- 数字0-9
- マイナス符号(-)
- ピリオド(.) . ピリオドは、ドメイン・スタイル名のラベルを区切る時にだけ使用することができます (RFC 1034を参照)。

大文字および小文字を使用できますが、その大/小文字の違いに意味はありません。大/小文字は入力された通り維持されます。ホスト名の最初および最後の文字は英字または数字としなければなりません。

***SYS** ネットワーク・サーバーのローカル・ドメイン名が、システムで構成されているのと同じ値でなければならないことを指定します。

文字値 ネットワーク・サーバーと対応したTCPドメイン名を指定してください。

[トップ](#)

TCP/IP NAME SERVERシステム (TCPNAMSVR)

ネットワーク・サーバーが使用するネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。通常、これはシステムと同じ値のままです。

単一値

***SYS** ネットワーク・サーバーで使用するネーム・サーバー・システムはシステムとのものと同じになります。

***NONE**

ネットワーク・サーバーはネーム・サーバーを使用しません。

その他の値(3回までの反復)

文字値 ネットワーク・サーバーが使用するネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。最大3つのリモート・ネーム・サーバー・システムを指定することができます。ネーム・サーバー・システムは、指定された順序で使用されます。

[トップ](#)

サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)

サーバー記憶スペースのサイズをメガバイトで指定します。

要素1: 導入ソース・サイズ

LINUXサーバーの導入に使用されるファイルを保持する記憶スペースのサイズを指定します。

注:

1. LINUXサーバー導入媒体のDOSUTILSディレクトリーの内容および 統合サーバー・サポート コードが導入ソース・ドライブにコピーされます。導入用ソース・ドライブに指定するサイズは、充分このデータを入れられる大きさでなければなりません。

200 200メガバイトの記憶スペースが導入ファイルに使用されます。

200から2047

導入ソース・サイズ値をメガバイトで指定します。

要素2: システム・サイズ

LINUXサーバー・オペレーティング・システムが導入される記憶スペースのサイズ（メガバイト数）を指定します。

5000 5000メガバイトの記憶スペースがシステム記憶に使用されます。

1024から1024000

システム・サイズ値をメガバイトで指定します。

[トップ](#)

記憶スペースASP (SVRSTGASP)

LINUXサーバーの導入に使用されるファイルが入る記憶スペースと、LINUXサーバー・オペレーティング・システムが入る記憶スペースの補助記憶域プール(ASP) IDを指定します。

注: SVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーターに値を指定することはできません。

注: NULL（省略）値は、文字*Nと指定しますが、これは値を指定しないことを意味します。対応するサーバー記憶ASP装置(STGASPDEV)に値が指定されていれば、その値が使用されます。そうでない場合には、省略時の値が使用されます。*Nが必要になるのは、省略した要素の後に別の値を指定する時だけです。

要素1: 導入ソースASP

LINUXサーバーの導入に使用されるファイルを保持する記憶スペースの補助記憶域プールを指定します。

- 1 記憶スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）内に作成されます。

1から255

導入ファイルを保持するためのASPのASP IDを指定します。有効値は、システムで定義されているASPの数によって異なります。

要素2: システムASP

LINUXサーバー・オペレーティング・システムを保持する記憶スペースの補助記憶域プールを指定します。

1 記憶スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）内に作成されます。

1から255

オペレーティング・システムを保持するためのASPのASP IDを指定します。有効値は、システムで定義されているASPの数によって異なります。

[トップ](#)

サーバー記憶ASP装置 (STGASPDEV)

LINUXサーバーの導入に使用されるファイルが入る記憶スペースと、LINUXサーバー・オペレーティング・システムが入る記憶スペースの補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

注: SVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーターに値を指定することはできません。

注: ASPは、(ASP装置をオンに構成変更することによって) 活動化されていて、「使用可能」の状況になっていなければなりません。

要素1: 導入ソースASP装置

LINUXサーバーの導入に使用されるファイルを保持する記憶スペースの独立補助記憶域プール装置名を指定します。

名前 ネットワーク・サーバー記憶スペースに使用するASPの装置名を指定します。

要素2: システムASP装置

LINUXサーバー・オペレーティング・システムを保持する記憶スペースの独立補助記憶域プール装置名を指定します。

名前 ネットワーク・サーバー記憶スペースに使用するASPの装置名を指定します。

[トップ](#)

言語バージョン (LNGVER)

統合サーバー・サポート テキストとメッセージを表示するために使用する導入済み言語環境を指定します。導入中に表示されるメッセージに使用可能な言語セットの方が、導入後に表示されるメッセージ用のものよりも少ないことに注意してください。

*PRIMARY

統合サーバー・サポート テキストおよびメッセージ用導入済み言語環境は、システムの1次言語の言語機能に基づいて決まります。

整数 統合サーバー・サポート テキストおよびメッセージの選択に使用される言語機構番号を指定します。

[トップ](#)

日付と時刻の同期化 (SYNCTIME)

システムがネットワーク・サーバーの日付と時刻を、ホスト・システムの日付と時刻に同期させる必要があるかどうかを指定します。

時刻の同期が正しく実行されるためには、QTIMZONシステム値が正しい値に設定されていなければなりません。

***YES** システムは、オンへの構成変更のたびに、さらに、その後少なくとも30分ごとに、ファイル・サーバーの日付と時刻をホスト・システムの日付と時刻に同期させます。

***NO** システムは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、ファイル・サーバーの日付と時刻をホスト・システムの日付と時刻に同期させますが、その後、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されている状態の間は日付と時刻の同期を保持しません。

[トップ](#)

制約された装置資源 (RSTDDEVRSC)

制限されて、LINUXサーバーで使用できないシステムの装置資源名を指定します。

注: テープおよび光ディスク装置資源だけを制限することができます。

単一値

***NONE**

どの装置資源もネットワーク・サーバーから制限されません。したがって、システム上に存在しているどのテープまたは光ディスク装置資源も使用することができます。

***ALL** すべてのテープおよび光ディスク資源が、ネットワーク・サーバーによる使用を制約されます。

その他の値(10回までの反復)

***ALLOPT**

すべての光ディスク資源が、ネットワーク・サーバーによる使用を制約されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

***ALLTAPE**

すべてのテープ資源が、ネットワーク・サーバーによる使用を制約されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

名前 ネットワーク・サーバーで使用できない制限付き装置資源名を指定してください。

[トップ](#)

シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)

サーバーのシャットダウン・タイムアウト値（分数）を指定します。これは、サーバーがオフラインに変更される前に、サーバーのオペレーティング・システムのシャットダウンに許可される時間の長さを制限するために使用されます。

15 ネットワーク・サーバーの省略時のシャットダウン・タイムアウト値が使用されます。

2から45

待機する時間（分数）を指定してください。システムは、ネットワーク・サーバーのオペレーティング・システムが正常にシャットダウンするまで、あるいはネットワーク・サーバーがオフラインに変更される前に指定した時間が経過するまで、待機します。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

リモート・サーバーのサービス・プロセッサへの接続の確立、およびリモート・サーバーでの電源オンの場合にシステムが待機する時間（秒数）を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

120 120秒の活動化時間が使用されます。

30から1800

待機する秒数を指定します。

[トップ](#)

通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)

通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

単一値

***SYSOPR**

ライブラリーQSYS中のシステム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)にメッセージを入れることになります。

修飾子1: 通信メッセージ待ち行列

名前 通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

記憶域パス (STGPTH)

記憶スペースで使用できる記憶パスを指定します。この情報はネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)記述から成ります。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

要素1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

通信名 既存のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)記述の名前を指定します。

[トップ](#)

仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)

イーサネット回線記述で使用できる仮想イーサネット・パスを指定します。この情報は、仮想イーサネット・ポートとネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)記述を含む2つの部分から成ります。このパラメーターには、5つまでの値を入力することができます。*VRTETHPTP回線記述で使用されるパスの仮想イーサネット・パスを少なくとも1つ入力する必要があります。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

このパラメーターには、5つまでの値を指定することができます。

要素1: ポート

*VRTETHPTP

ネットワーク・サーバー仮想イーサネットPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

*VRTETHN

仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の値とすることができます。

要素2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

通信名 既存のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)記述の名前を指定します。ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名は、このNWSH上の各VRTETHPTHパラメーターで固有にする必要はありません。

[トップ](#)

TCPポートのシャットダウン (SHUTDPORT)

シャットダウンで使用するTCPポートを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

8700 8700のTCPポート番号を指定します。

1024から65535

シャットダウンで使用するポートを識別するポート番号を指定します。

[トップ](#)

仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)

仮想イーサネットの制御で使用するTCPポートを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

8800 8800のTCPポート番号を使用します。

1024から65535

仮想イーサネットの制御で使用するポートを識別するポート番号を指定します。

[トップ](#)

リモート・システムNWSCFG (RMTNWSCFG)

このサーバーで使用するリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFT** '(NWSDDNAME)RM'というシステム生成の省略時のリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成名を使用します。ここの(NWSDDNAME)はネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存のリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

[トップ](#)

サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)

このサーバーで使用するサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFT** '(NWSDDNAME)SP'というシステム生成の省略時のサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成名を使用します。ここの(NWSDDNAME)はネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存のサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

[トップ](#)

接続機密保護NWSCFG (CANNWSCFG)

このサーバーで使用する接続機密保護ネットワーク・サーバー構成を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFT** '(NWSDDNAME)CN' というシステム生成の省略時の接続機密保護ネットワーク・サーバー構成名を使用します。ここの(NWSDDNAME)はネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存の接続機密保護ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

トップ

省略時のIP機密保護規則 (DFTSECRULE)

ホスト側とリモート・システム間で使用する省略時のIP機密保護(IPSEC)規則を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **接続機密保護NWSCFG (CNNDWSCFG)**パラメーターに指定された接続機密保護ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

この場合、*DFTSECRULE以外の値をIP機密保護規則 (IPSECRULE)パラメーターに指定する必要があります。

***NONE**

IP機密保護規則が構成されていません。

***GEN** システムがランダム事前共用キーを自動的に生成します。

文字値 事前共用キーを指定します。事前共用キーは、大文字小文字のAからZ 0から9 + = % & () , _ - . : ;の文字のみを使用する32文字までの長さの非単純ストリングです。これらの文字は、構文文字セット (文字セット番号640)の一部です。

トップ

IP機密保護規則 (IPSECRULE)

既存の接続機密保護ネットワーク・サーバー構成に定義され、ホスト側とリモート・システム間の初期IP機密保護設定として使用されるIP機密保護規則(IPSECRULE)パラメーターの相対項目を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFTSECRULE**

省略時のIP機密保護規則 (DFTSECRULE)パラメーターに指定された値を使用します。

注: 指定された**接続機密保護NWSCFG**がすでに存在する場合は、この値は無効です。

***NONE**

リモート・インターフェースでは、機密保護規則は使用されません。

1から16

リモート・インターフェースでは、指定された機密保護規則が使用されます。

トップ

サービス・プロセッサの初期化 (INZSP)

リモート・システムのサービス・プロセッサの保護方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: 一部のサービス・プロセッサでは、セキュア接続はサポートされていません。これらのサービス・プロセッサの場合は、*NONEを使用してください。追加情報は、

[HTTP://WWW.IBM.COM/SERVERS/ESERVER/ISERIES/INTEGRATEDXSERIES](http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/integratedxseries)にあるINTEGRATED XSERIESソリューションで調べることができます。

*MANUAL

機密保護パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサに手動で構成されます。*MANUALは最高位の機密保護を提供します。このオプションを使用するには、リモート・システムのサービス・プロセッサがユーザー名、パスワードおよび証明書を備えて事前構成されていなければなりません。証明書管理が必要となります。パスワードの保護のために、公衆ネットワーク経由でサービス・プロセッサに接続する時には、この方式が適切です。

注: サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されません。

*AUTO

パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサに自動的に構成されます。*AUTOは、リモート・システムのサービス・プロセッサの事前構成なしで機密保護を提供します。リモート・システムのサービス・プロセッサが証明書を自動的に生成します。この接続は、いったん初期化されれば保護されます。相互接続ネットワークが物理的に保護されているか、あるいはファイアウォールによって保護される場合には、このオプションが適切です。

注: サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されません。

*SYNC

このネットワーク・サーバー構成は、自己署名証明書とサービス・プロセッサを同期します。

注: この値が有効となるのは、サービス・プロセッサの初期化 (INZSP)パラメーターに*AUTOが指定された別のネットワーク・サーバー構成によってサービス・プロセッサがすでに構成されている場合のみです。このオプションを実行するには、サービス・プロセッサの現行のユーザー名およびパスワードがSP認証 (SPAUT)パラメーターに指定されていなければなりません。

*NONE

パスワードは平文で送信されます。これを使用するのは、相互接続ネットワークが物理的に保護された場合のみです。

注: サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されません。

トップ

ユニキャストを使用可能にする (ENBUNICAST)

ユニキャスト・パケット配布を使用するかどうかを指定します。ユニキャストとは、パケットが指定されたサービス・プロセッサ名 (SPNAME) または SP IP アドレス (SPINTNETA) パラメーターに直接送信される送信方式です。*AUTO が指定されて、システム・ハードウェアがそれをサポートしている場合には、格納装置 ID (EID) パラメーターのシステム識別が自動的に検索されます。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME) パラメーターに *ISCSI が指定された場合のみです。

注: サービス・プロセッサ NWSCFG (SPNWSCFG) パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

***NO** ユニキャストを使用不可にします

***YES** ユニキャストを使用可能にします

[トップ](#)

格納装置 ID (EID)

サービス・プロセッサが入っている格納装置の識別通し番号、タイプおよび型式を指定します。ENBUNICAST(*NO) が指定された場合には、ネットワーク上のリモート・システムの場所を探索するために、これが必要となります。システムのラベルにあるこれらの値を調べてください。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (RSRCNAME) パラメーターに *ISCSI が指定された場合のみです。

注: サービス・プロセッサ NWSCFG (SPNWSCFG) パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***AUTO**

ENBUNICAST(*YES) が指定された場合には、自動的に ID を検索します。

要素1: 通し番号

文字値 リモート・システムのマシン通し番号を指定します。

要素2: 製造元のタイプおよび型式

文字値 リモート・システムのマシン・タイプおよび型式を TTTTMMM の形式で指定します。この TTTT はマシン・タイプであり、MMM はマシン型式番号です。

注: システム通し番号がネットワーク上で固有の場合は、リモート・システムのマシン・タイプおよび型式を省略することができます。

[トップ](#)

サービス・プロセッサ名 (SPNAME)

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

注: ENBUNICAST(*YES)が指定された場合には、このパラメーターが必要です。

***SPINTNETA**

リモート・システムは、**SP IPアドレス (SPINTNETA)**パラメーターに指定された値によって識別されます。

ホスト名

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定します。

[トップ](#)

SP IPアドレス (SPINTNETA)

リモート・システムのサービス・プロセッサIPアドレスを指定します。IPアドレスは NNN.NNN.NNN.NNN の10進数形式で表現され、ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

SPNAME(*SPINTNETA)が指定された場合には、このパラメーターが必要です。

注: ENBUNICAST(*NO)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

文字値 サービス・プロセッサのIPアドレスを指定します。

[トップ](#)

SP認証 (SPAUT)

サービス・プロセッサのユーザー名およびパスワードを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***DFT** 省略時のサービス・プロセッサのユーザーIDおよびパスワードが使用されます。

注: この値が有効となるのは、**INZSP(*NONE)**がこのコマンドまたは既存のネットワーク・サーバー構成に指定された場合のみです。

要素1: ユーザー名

ユーザー名

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ユーザー名を指定します。

要素2: ユーザー・パスワード

パスワード値

リモート・システムのサービス・プロセッサ・パスワードを指定します。パスワードは少なくとも5文字の長さで、少なくとも1つの英字と1つの数値またはシンボリック文字が含まれていなければなりません。

[トップ](#)

SP証明書ID (SPCERTID)

SP証明書IDは、サービス・プロセッサの証明書を識別する可能な3つのフィールドの1つを指定します。このパラメーターを指定して、証明書がサービス・プロセッサからのものであることの追加検証を提供します。選択したフィールドの内容は、証明書が生成されたか、あるいは認証局から要求された時に入力したフィールドの値と正確に一致していなければなりません。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

INZSP(*MANUAL)が指定された場合には、このパラメーターが必要です。

単一値

*NONE

サービス・プロセッサ証明書が構成されていません。

要素1: コンポーネント

*COMMONNAME

証明書が生成されたか、あるいは認証局から要求された時に指定した証明書共通名を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これを自己署名証明書の生成または証明書署名要求の生成に使用される「ASMドメイン名」フィールドに相互に関連付けます。

*EMAIL

証明書が生成されたか、あるいは認証局から要求された時に指定した証明書のEメール・アドレスを選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これを自己署名証明書の生成または証明書署名要求の生成に使用される「Eメール・アドレス」フィールドに相互に関連付けます。

*ORGUNIT

証明書が生成されたか、あるいは認証局から要求された時に指定した証明書の組織単位を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これを自己署名証明書の生成または証明書署名要求の生成に使用される「組織単位」フィールドに相互に関連付けます。

要素2: 値の比較

文字値 証明書コンポーネント比較値を指定します。255文字以内のテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

リモート・システムID (RMTSYSID)

リモート・システムの識別通し番号、タイプおよび型式を指定します。指定された場合には、これは、ネットワーク上のリモート・システムの場所を探索するために使用されます。リモート・システムのラベルにあるこれらの値を調べてください。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **リモート・システムNWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***EID** サービス・プロセッサIDを使用します。

要素1: 通し番号

文字値 リモート・システムのマシン通し番号を指定します。

要素2: 製造元のタイプおよび型式

文字値 リモート・システムのマシン・タイプおよび型式を TTTTMMM の形式で指定します。この TTTT はマシン・タイプであり、MMM はマシン型式番号です。

注: システム通し番号がネットワーク上で固有の場合は、リモート・システムのマシン・タイプおよび型式を省略することができます。

配送方式 (DELIVERY)

リモート・システムの構成に必要なパラメーターの配信方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **リモート・システムNWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

***DYNAMIC**

パラメーターは、DHCPを使用してリモート・システムに動的に配信されます。

***MANUAL**

パラメーターは、BIOSユーティリティー (システムBIOSまたはアダプターBIOS - ALT-Q)を使用してリモート・システム上に手動で構成されます。

CHAP認証 (CHAPAUT)

リモート・システムの起動側ノードを認証するための、ホスト・システムISCSIターゲットのCHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOL (CHAP)を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: リモート・システム**NWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***NONE**

CHAP認証は使用可能ではありません。

要素1: CHAP名

名前 CHAP名を指定します。CHAP名は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)を使用してASCIIコード・ページ850に変換されます。

要素2: CHAP秘密

文字ストリング

CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLで使用したい機密事項を、大文字小文字のAからZ 0から9 + = % & () , _ - . : ;のインバリエント文字のみの24文字までの長さの値として指定します。これらの文字は、構文文字セット (文字セット番号640)の一部です。

[トップ](#)

ブート装置ID (BOOTDEVID)

ブート元に使用するリモート・システム中のISCSIのPCI機能アドレス (バス/装置/機能) を指定します。この情報は、BIOSユーティリティ (システムBIOSまたはアダプターBIOS - ALT-Q)を使用してアクセスすることができます。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: リモート・システム**NWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***SINGLE**

単一のISCSIアダプターがリモート・システムで使用されます。

注: サーバーに複数のISCSIアダプターが導入されているリモート・システムでは、どのアダプターをブート元に使用を指定するかを指定する必要があります。

要素1: バス

0から255

ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターのバス番号を指定します。

要素2: 装置

0から31

ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターの装置番号を指定します。

要素3: 機能

0から7 ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターの機能番号を指定します。

[トップ](#)

動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)

内部DHCPサーバーの構成を指定します。

これは拡張機能です。

このパラメーターは、ISCSIターゲット・ホスト・バス・アダプターのファームウェアの一部である内部DHCPサーバーを構成するために使用され、リモートISCSI起動側のIPアドレスおよびディスクレス・ブート・パラメーターの指定が必要となります。

注: このパラメーターが有効なのは、資源名 (**RSRCNAME**)パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: リモート・システム**NWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターが有効なのは、**DELIVERY(*DYNAMIC)**が指定されている場合のみです。

要素1: ベンダーID

クライアントおよびサーバーは固定されたベンダーID (**IBM_ISAN**)に対して事前構成されます。ネットワーク管理者はクライアントを構成して、ハードウェア、オペレーティング・システムまたはその他の識別情報を伝達するためのそれぞれに固有の識別値を定義することができます。IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション60がこの機能で使用されます。

IBM_ISAN

IBM_ISANの省略時のベンダーIDが使用されます。

文字値 使用するリモート・システムのISCSIアダプターのベンダーIDを指定します。

要素2: 代替クライアントID

それぞれの固有IDをサーバーに対して指定するためにクライアントで使用されます。各クライアントのIDは、そのクライアントの接続先（すなわち、クライアントのローカル・サブネットおよびDHCPリレーを使用して到達可能なリモート・サブネット）の、有効DHCPネットワーク上で使用される他のすべてのクライアントID内で固有のものでなければなりません。固有性についてのこの要件を満たすクライアントIDの選択については、ベンダーおよびシステム管理者が責任を持ちます。IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション61がこの機能で使用されます。

*ADPT

省略時のクライアントIDは、リモート・システムのISCSIアダプターのアダプター・アドレスで構成されます。この値は、リモート・システムの識別に使用されます。

文字値 ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターのクライアントIDを指定します。

リモート・インターフェース (RMTIFC)

リモート・システムのインターフェースを指定します。この情報は、リモート・システムのインターフェースを識別して構成するために使用されます。各アダプターには、SCSIおよびLANインターフェースをサポートするための2つの機能があります。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: リモート・システム**NWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

要素1: SCSIインターフェース

要素1: アダプター・アドレス

16進値 リモート・システムのSCSIインターフェースの12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

要素2: IPアドレス

文字値 リモート・システムのSCSIインターフェースのIPアドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

文字値 リモート・システムのSCSIインターフェースのサブネット・マスクを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

文字値 リモート・システムのSCSIインターフェースのゲートウェイ・アドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素5: ISCSI修飾名

***GEN** システムがISCSI修飾名を自動的に生成します。

名前 リモート・システムのSCSIインターフェースのISCSI修飾名を指定します。ISCSI修飾名

は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)を使用してUTF-8に変換されます。ISCSI修飾名には、次の文字を使用することができます。

- 小文字に変換された英字AからZ (RFC 3722を参照のこと)
- 英小文字
- 数字0-9
- ピリオド(.)
- ダッシュ(-)
- コロン(:)

要素2: LANインターフェース

要素1: アダプター・アドレス

16進値 リモート・システムのLANインターフェースの12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

要素2: IPアドレス

文字値 リモート・システムのLANインターフェースのIPアドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

文字値 リモート・システムのLANインターフェースのサブネット・マスクを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

文字値 リモート・システムのLANインターフェースのゲートウェイ・アドレスを NNN.NNN.NNN.NNN の形式で指定します。ここで NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素3: TCP/IP NAME SERVERシステム

文字値 リモート・システムのアダプターで使用するドメイン・ネーム・サーバーのIPアドレスを指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

このコマンドによって作成されたオブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50桁を超えないテキストをアポストロフィで囲んで指定します。

[トップ](#)

構成ファイル (CFGFILE)

サーバーの活動化または詳細定義に使用する、構成データが入っているソース・ファイルを指定します。

単一値

***NONE**

構成ファイルは指定されません。

修飾子1: 構成ファイル

名前 サーバーの構成データ・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。サーバーが活動化されると、このファイルのすべてのメンバーが処理されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

仮想PTP イーサネット・ポート (VRTPTPPORT)

仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのTCP/IP構成を指定します。

注:

1. ホスト・システムで実行中の統合XSERIESサーバーの場合には、VRTPTPPORTパラメーターを使用しなければなりません。
2. 仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートの両側で使用されるサブネット・マスクは255.255.255.0 (省略時の値) です。したがって、仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートの両サイドに選択されるIPアドレスは、IPアドレスの最初の3つの部分が同じ値でなければなりません。

要素1: IPアドレス

仮想POINT-TO-POINTイーサネット接続のホスト側のIPアドレスを指定します。次の値の1つを指定してください。

***GEN** 生成されたIPアドレスで仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートを、INSLNXSVRコマンドに構成させるには、*GENを指定してください。

文字値 仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのホストIPアドレスは XXX.YYY.ZZZ.NNN の形式で指定してください。ここで XXX, YYY, ZZZ, および NNN は、0から255の範囲の10進数です。選択するIPアドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびホストTCP/IP構成を通して固有でなければなりません。IPアドレスの XXX.YYY.ZZZ という値は、POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのLINUXサーバー側のIPアドレスの XXX.YYY.ZZZ の値と一致しなければなりません。

要素2: LINUX IPアドレス

仮想POINT-TO-POINTイーサネット接続のLINUX側のIPアドレスを指定します。次の値の1つを指定してください。

***GEN** 生成されたIPアドレスで仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートを、INSLNXSVRコマンドに構成させるには、*GENを指定してください。

文字値 仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのLINUX側のIPアドレスは XXX.YYY.ZZZ.NNN の形式で指定してください。ここで XXX, YYY, ZZZ, および NNN は、0から255の範囲の10進数です。選択するIPアドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびホストTCP/IP構成を通して固有でなければなりません。IPアドレスの XXX.YYY.ZZZ という値は、POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのホスト側のIPアドレスの XXX.YYY.ZZZ の値と一致しなければなりません。

[トップ](#)

例

例1: ISCSI以外のハードウェアを使用したLINUXの導入

```
INSLNXSVR  NWSR(RHEL3MAR)  RSRNAME(LIN03)  LNXSVDST(*RHEL4)
            SVRSTGSI(200 12000)  LNGVER(2920)
            TEXT('REDHAT 4 SERVER')
```

このコマンドは、ISCSI以外のハードウェア上のRED HAT 4配布によってLINUXサーバーを導入します。これは12ギガバイトのシステム・ドライブが含まれていて、資源名LIN03上に存在します。名前RHEL3MARは、ISERIES側のネットワーク・サーバー記述と関連付けられます。使用される言語バージョンは2920です。

例2: ISCSIハードウェアを使用したLINUXの導入

```
INSLNXSVR  NWSR(RHEL3MAR)  RSRNAME(*ISCSI)  LNXSVDST(*SLES8)
            SVRSTGSI(200 12000)  SVRSTGASP(2)  LNGVER(2920)
            SHUTDIMO(2)  ACTTMR(300)  ENBUNICAST(*YES)
            SPINTNETA('9.5.2.32')  SPAUT(JSMITH ())
            TEXT('REDHAT 4 SERVER')
```

このコマンドは、ISCSIハードウェア上のSUSE 8配布によってLINUXサーバーを導入します。これは12ギガバイトが入れられ、ユーザーASP 2上に常駐します。名前RHEL3MARは、ISERIES側のネットワーク・サーバー記述と関連付けられます。使用される言語バージョンは2920です。シャットダウン・タイムアウトは2分に設定されます。システムは、リモート・サーバーのサービス・プロセッサに対して実行される接続を300秒間待ちます。ユニキャスト・パケット配布がISCSIで使用されます。リモート・サーバーのサービス・プロセッサのIPアドレスは9.5.2.32に設定されます。SP認証は、JSMITHのユーザー名で行われます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

NTA1007

ネットワーク・サーバー&1はオフに構成変更されていなければなりません。

NTA1199

LINUXサーバーのオンまたはオフへの構成変更が正常に行われていません。

NTA119A

LINUXサーバーの導入が成功していません。

NTA1024

サーバー&1に割り当てられた記憶スペースが抜けているか、損傷しているか、あるいは無効です。

NTA1030

内部エラーが起こった。

[トップ](#)

プログラム一時修正の導入 (INSPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正導入(INSPTF)コマンドにより、ユーザーはただ1つのコマンドで複数のプロダクトのPTFをロードして適用することができます。PTFグループは、システム上にまだ存在していない時、または媒体上のPTFグループのレベルがシステム上に存在するPTFグループのレベルより高い時にシステムにコピーされます。LICPGM(*ALL)を指定した場合には、媒体上のPTFグループにリストされた特殊処理PTFが導入中に使用されます。

OMITおよびHIPERパラメーターは、INSPTFコマンドのユーザーがさらに選択できるようにするために、提供されています。これらのパラメーターは、PTFのロード活動に対してだけ適用されます。システムにすでにロードされたPTFは適用されます。

INSTYPパラメーターはPTFの適用を制御します。異なった特殊値の使用によって、IPLの開始と同様に即時および遅延適用の組み合わせが可能です。

INSPTFは、システムに複数リリースの基本オプションが導入されているプロダクト用にテープからのPTFのロードをサポートしていません。このようなプロダクトのPTFがテープ上に存在している場合には、INSPTFはこれらのPTFをロードせず、エラーを戻します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクトの説明	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: プロダクト	文字値, *ALL	
	要素 2: リリース	文字値, *ONLY	
DEV	装置	名前, *SERVICE, *NONE	オプション
INSTYP	PTF適用タイプ	*SRVATT, *DLYIPL, *DLYALL, *IMMONLY, *IMMDLY	オプション
OMIT	PTF省略リスト	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プロダクト	文字値	
	要素 2: PTF識別コード	文字値	
	要素 3: リリース	文字値, *ONLY	
HIPER	HIPER PTFのみ	*YES, *NO	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
RESTART	再始動タイプ	*IPLA, *SYS, *FULL	オプション
PMTMED	媒体のプロンプト	*SNGVOLSET, *MLTVOLSET, *MLTSRV	オプション
CPYPTF	PTFのコピー	*SRVATT, *YES, *NO	オプション

[トップ](#)

プロダクトの説明 (LICPGM)

PTFを導入しなければならないプロダクトのプロダクトID,バージョン, リリース, およびモディフィケーション・レベルを指定します。

考えられる値は, 次の通りです。

***ALL** すべての導入済みプロダクトに使用可能なPTFが導入されます。これは, 最初の値であり, かつ指定する場合には唯一の値でなければなりません。この後に指定された値はすべて無視されます。

指定できるライセンス・プログラム値は次の通りです。

ライセンス・プログラム

導入するPTFのプロダクトIDを指定してください。最大300のプロダクトIDを指定することができます。

指定できるライセンス・プログラムのリリース・レベル値は次の通りです。

リリース・レベル

基本プロダクト・オプションのリリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。ここで, VXはバージョン番号, RYはリリース番号, およびMZはモディフィケーション・レベルです。

*ONLY

この値が有効なのは, システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは, オプションのリリース・レベルとは無関係にロードされて適用されます。

[トップ](#)

装置 (DEV)

PTFのロードが開始される装置を指定します。この装置名は, 装置記述によってシステム上ですでに認識されていないければなりません。

考えられる値は, 次の通りです。

*SERVICE

保守サポート・システムから送られてきたPTFが導入されます。

*NONE

PTFはロードされません。システムにすでにロードされたPTFは適用されます。この特殊値は, 不完全なPTF導入に続くIPLの後に使用されます。導入されているPTFグループの特殊処理PTFは, このPTFグループの残りのPTFを適用する前に適用され, 活動化されなければなりません。

テープ装置名

PTFを導入する元のテープ装置の名前を指定します。

光ディスク装置名

PTFの導入元である光ディスク装置の名前を指定します。

[トップ](#)

PTF適用タイプ (INSTYP)

実行する導入のタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SRVATT**

導入のタイプはサービス属性の設定によって決まります。

重要:

サービス属性は、省略時の値としての*DLYIPLで出荷されます。サービス属性の変更 (CHGSRVA) コマンドを使用して、省略時の値を変更してください。

***DLYIPL**

すべてのPTFに遅延適用のマークが付けられ、システムの初期プログラム・ロード(IPL)が実行されます。

***DLYALL**

すべてのPTFに遅延適用のマークが付けられ、システムの初期プログラム・ロード(IPL)は実行されません。

***IMMDLY**

即時PTFが適用され、遅延PTFには次回の初期プログラム・ロード(IPL)時に適用のマークが付けられます。

***IMMONLY**

すべてのPTFがロードされますが、即時PTFのみが適用され、システムの初期プログラム・ロード(IPL)は実行されません。

[トップ](#)

PTF省略リスト (OMIT)

ロードしてはならないPTFのプロダクトID、バージョン、リリース、モディフィケーション・レベル、およびPTF IDを指定します。PTFの現在の状態はLODPTFに渡す前に検査されません。PTFがすでにロードされている場合には、適用されます。最大50のPTFを省略することができます。

指定できるライセンス・プログラム値は次の通りです。

ライセンス・プログラム

ロードしてはならないPTFのプロダクトIDを指定してください。

指定できるPTF番号値は次の通りです。

PTF番号

導入してはならないPTFのPTF IDを指定してください。

指定できるリリース・レベル値は次の通りです。

リリース・レベル

ロードしてはならないPTFについて基本プロダクト・オプションのリリース・レベルまたはPTFのリリース・レベルを指定してください。リリース・レベルは、VXRYMZの形式で指定しなければなりません。ここで、VXはバージョン番号、RYはリリース番号、およびMZはモディフィケーション・レベルです。

***ONLY**

LICPGMパラメーターで選択したプロダクトのリリースのみ。

[トップ](#)

HIPER PTFのみ (HIPER)

媒体からの導入時に高影響普及(HIPER) PTFのみをロードするかどうかを指定します。

注: DEV(*SERVICE)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。これは、IBM累積/予防PTFパッケージの導入時のみ有効です。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 除外リストにリストされているPTF以外のすべてのPTFをロードする必要があります。

***YES** 除外リストに載っていないHIPER PTFのみをロードする必要があります。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

PTF操作が終了した後にテープ・ボリュームまたは光ディスク・ボリュームで自動的に実行される操作を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

再始動タイプ (RESTART)

PTF適用タイプ(INSTYP)パラメーターでIPLを実行するように指定されている場合は、初期プログラム・ロード(IPL)を再始動する点を指定します。

注: これが有効なのは、INSTYP(*DLYIPL)が指定されている場合、あるいはINSTYP(*SRVATT)が指定されていて、PTF導入タイプ(PTFINSTYP)サービス属性が*DLYIPLに設定されている場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***IPLA** IPL属性の変更 (CHGIPLA)コマンドで指定された値が使用されます。この値の現在の設定値を判別するためには、IPL属性の表示 (DSPIPLA)コマンドを使用します。

***SYS** システムが再始動するシステムの数とを判別することを指定します。

オペレーティング・システムは常に再始動されます。ハードウェアが再始動されるのは、再始動を必要とするPTFが適用された場合だけです。***FULL** IPL時に実行される一部の構成変更のような他のハードウェア機能は処理されません。

IPL時間は***SYS**の方が***FULL**を指定した場合より短くすることができます。

***FULL**

ハードウェアを含むシステムのすべての部分が再始動されます。

トップ

媒体のプロンプト (PMTMED)

追加のPTFボリューム・セットにプロンプトを出し、装置からのPTFのロード後に***SERVICE**からPTFをロードするかどうかを指定します。

注: DEV(***SERVICE**)またはDEV(***NONE**)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***SNGVOLSET**

PTFのロード時に単一ボリューム・セットのボリュームごとにマウントするようプロンプトを出します。DEVパラメーターに仮想光ディスク装置を指定した場合には、マウントされたすべてのPTFボリュームが処理されます。

***MLTVOLSET**

PTFのロード時に複数のボリューム・セットのボリュームにプロンプトを出します。

***MLTSRV**

PTFのロード時に複数のボリューム・セットのボリュームにプロンプトを出します。PTFが最後のボリューム・セットからロードされた後に、PTFは保守サポート・システム(***SERVICE**)からロードされます。

トップ

PTFのコピー (CPYPTF)

PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターを***SERVICE**中にコピーするかどうかを指定します。PTFを他のシステムに配布する時、あるいはシステム情報保管(SAVSYSINF)コマンドを使用する時には、PTF保管ファイルが***SERVICE**中になければなりません。

注: DEV(***SERVICE**)またはDEV(***NONE**)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

***SRVATT**

PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターを***SERVICE**中にコピーするかどうかを判別するには、PTFコピー(CPYPTF)サービス属性を使用します。サービス属性表示(DSPSRVA)コマンドはシステムのセットアップ方法についての情報を表示します。これには、PTF

がロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターを*SERVICE中にコピーするかどうかが含まれます。サービス属性変更(CHGSRVA)コマンドを使用して、CPYPTFサービス属性を変更することができます。

***YES** PTFがロードされる時に、まだ存在していないPTF保管ファイルおよびカバー・レターが*SERVICE中にコピーされます。

***NO** PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターは*SERVICE中にコピーされません。

トップ

例

例1: PTFの省略

```
INSPTF LICPGM((*ALL)) DEV(*SERVICE) INSTYP(*IMMDLY)
      OMIT((5722999 MF12345 V5R4M0) (5722SS1 SI12345 V5R4M0))
```

このコマンドは、MF12345とSI12345以外のシステムに導入されたすべての製品で*SERVICEであるすべてのPTFをロードします。これはその後、即時に適用できるロード済み状況のすべてのPTFを適用し、残りのPTFに遅延適用のマークを付けます。

例2: HIPERのみの導入

```
INSPTF LICPGM((5722PT1 V5R4M0)) DEV(TAP01) INSTYP(*IMMONLY)
      HIPER(*YES)
```

このコマンドは、HIPERセクションにあるV5R4M0パフォーマンス・ツールのPTFを媒体で検索します。即時に適用できる各PTFは適用が行われます。遅延PTFはロードされますが、適用のマークは付けられません。

例3: 即時PTFのみの導入

```
INSPTF LICPGM((*ALL)) DEV(TAP01) INSTYP(*IMMONLY)
      ENDOPT(*LEAVE)
```

このコマンドは、装置TAP01からシステムに導入された製品のすべてのPTFをロードします。システムでロード済みの状況にあり、即時に適用できる各PTFは適用が行われます。遅延PTFは適用には設定されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF358F

LICPGMパラメーターに重複項目が入っている。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF36B7

PTF導入処理が完了していない。IPLが必要です。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361A

PTFが正常に導入されたが、処置が保留中。

CPF361B

PTF導入処理が正常に実行されず、処置が保留されている。

CPF361C

PTFが導入されなかった。

CPF3615

PTF導入処理が正常に実行されなかった。

CPF3618

モードが通常位置になっていない。

[トップ](#)

WINDOWSサーバーの導入 (INSWNTSVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

WINDOWSサーバーの導入 (INSWNTSVR)コマンドは、WINDOWSサーバー基本オペレーティング・システムを統合XSERIESサーバーに導入します。また、INSWNTSVRは、サーバーに統合サーバー・サポートコードも導入します。

WINDOWSサーバー導入は2つのステップで実行されます。最初のステップでは、INSWNTSVRコマンドがサーバーの管理に必要なすべてのオブジェクトを作成します。これには、ネットワーク・サーバー記述、メッセージ待ち行列、回線記述、記憶スペース、およびTCP/IPインターフェースが含まれます。

INSTYPEが*FULLの場合は、WINDOWSサーバー基本オペレーティング・システム用コードもWINDOWSサーバー導入媒体イメージからコピーされます。

WINDOWSサーバー導入の2番目のステップでは、WINDOWSサーバー導入を開始するために統合XSERIESサーバーがオンに構成変更されます。

INSTYPEが*BASICの場合、SERVERGUIDE CDが外部サーバーのローカル接続されたCD-ROMまたはDVDドライブに挿入され、そのサーバーがオンに構成変更されます。ここでINSWNTSVRコマンドは終了します。サーバーのSERVERGUIDE CDがサーバーからブートされ、そのサーバーを構成するプロセスを続行しますが、これには、すべての装置またはアダプターの検出と構成、およびWINDOWS導入のためのシステムの準備が含まれています。

続くWINDOWSサーバー導入は、ファイル・サーバー・コンソールおよび通常のWINDOWSサーバー導入プロセスを使用して実行されます。

INSWNTSVRが正常完了すると、WINDOWSサーバーはオンに構成変更された状態のままになります。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)、全オブジェクト(*ALLOBJ)およびジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。
2. このコマンドでは、ファイル・サーバーのコンソールを使用した対話式入力が必要となる場合があります。
3. ファイル・サーバーは最初はオフに構成変更されていなければなりません。
4. またファイル・サーバーは、WINDOWSサーバーが導入され、サーバーをリポートする必要があるため、導入の第2ステップでオフに構成変更されてからオンに戻されます。

ファイル・サーバーを構成する最初のステップでなにかエラーが起こると、このコマンドは失敗することになります。

このコマンドの実行後に、作成された種々の資源を管理する必要がある場合には、以下のコマンドを使用します。

- WINDOWSサーバーの状況をチェックアウトするためには、構成状況処理コマンドWRKCFGSTS CFGTYPE(*NWS)を使用してください。

- 導入したばかりのサーバーを管理するには、ネットワーク・サーバー記述処理コマンド、WRKNWSD NWSD(NWSD名)を使用してください。
- このコマンドで作成された回線記述を管理するためには、回線記述処理コマンド、WRKLIND LIND(NWSD名*)を使用してください。回線記述は、INSWNTSVRコマンドのNWSDパラメーターに指定されたネットワーク・サーバー名を使用して名前付けられます。
- このコマンドで作成されたTCP/IPインターフェースを管理するためには、TCP/IPネットワーク状況処理(NETSTAT)コマンドのオプション1を使用します。もう1つの方法は、TCP/IP構成(CFGT TCP)コマンドのオプション1を使用することです。
- このコマンドで作成したばかりのネットワーク・サーバー構成を管理するには、NWS構成処理コマンド、WRKNWSCFG NWSCFG(NWSDNAME*)を使用してください。ネットワーク・サーバー構成は、INSWNTSVRコマンドのNWSDパラメーターに指定されたネットワーク・サーバー名を使用して名前付けられます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSD	ネットワーク・サーバー記述	名前	必須, キー, 定位置 1
INSTYPE	導入タイプ	*FULL, *BASIC	必須, 定位置 2
RSRCNAME	資源名	名前, *ISCSI	必須, 定位置 3
WNTVER	WINDOWSサーバー・バージョン	文字値	必須, 定位置 4
WNTSRCDIR	WINDOWS ソース・ディレクトリ	パス名, <u>*DFT</u>	オプション
OPTION	導入オプション	文字値	オプション
TCPPTCFG	TCP/IPポート構成	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	1, 2, 3, 4	
	要素 2: WINDOWS IPアドレス	文字値	
	要素 3: WINDOWSサブネット・マスク	文字値	
	要素 4: WINDOWS GATEWAYアドレス	文字値	
VRTETHPORT	仮想イーサネット・ポート	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	*VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: WINDOWS IPアドレス	文字値	
	要素 3: WINDOWSサブネット・マスク	文字値	
	要素 4: 関連ポート	名前, <u>*NONE</u>	
TCPDMNAME	TCP/IPローカル・ドメイン名	文字値, <u>*SYS</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
TCPNAMSVR	TCP/IP NAME SERVERシステム	単一値: <u>*SYS</u> , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): 文字値	オプション
MSGQ	サーバー・メッセージ待ち行列	単一値: <u>*JOBLOG</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: サーバー・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
EVTLOG	イベント・ログ	単一値: <u>*ALL</u> , *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SYS, *SEC, *APP	オプション
SVRSTGSIZE	サーバー記憶スペースのサイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 導入ソース・サイズ	500-2047, <u>*CALC</u>	
	要素 2: システム・サイズ	1024-1024000, <u>*CALC</u>	
SVRSTGASP	記憶スペースASP	要素リスト	オプション
	要素 1: 導入ソースASP	1-255, <u>1</u>	
	要素 2: システムASP	1-255, <u>1</u>	
STGASPDEV	サーバー記憶ASP装置	要素リスト	オプション
	要素 1: 導入ソースASP装置	名前	
	要素 2: システムASP装置	名前	
CVTNTFS	NTFSへの変換	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TOWRKGRP	ワークグループ	文字値	オプション
TODMN	ドメイン	文字値	オプション
FULNAM	フルネーム	文字値	オプション
ORG	組織名	文字値	オプション
LNGVER	言語バージョン	整数, <u>*PRIMARY</u>	オプション
SYNCTIME	日付と時刻の同期化	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PRPDMUSR	ドメイン・ユーザーの伝搬	<u>*YES</u> , *NO	オプション
WNTLICKEY	WINDOWSライセンス・キー	文字値	オプション
LICMODE	ライセンス・モード	要素リスト	オプション
	要素 1: ライセンス・タイプ	<u>*PERSEAT</u> , *PERSERVER	
	要素 2: クライアント・ライセンス	5-9999, <u>*NONE</u>	
	要素 3: ターミナル・サービス	文字値	
RSTDDEVRSC	制約された装置資源	単一値: <u>*NONE</u> , *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前, *ALLTAPE, *ALLOPT	オプション
SHUTDTIMO	シャットダウン・タイムアウト	2-45, <u>15</u>	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	30-1800, <u>120</u>	オプション
CMNMSGQ	通信メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SYSOPR</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 通信メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
STGPTH	記憶域パス	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	通信名	

キーワード	記述	選択項目	注
VRTETHPTH	仮想イーサネット・パス	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ポート	*VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター	通信名	
SHUTDPORT	TCPポートのシャットダウン	1024-65535, 8700	オプション
VRTETHCTLP	仮想イーサネット制御ポート	1024-65535, 8800	オプション
RMTNWSCFG	リモート・システムNWSCFG	名前, *DFT	オプション
SPNWSCFG	サービス・プロセッサNWSCFG	名前, *DFT	オプション
CNNNWSCFG	接続機密保護NWSCFG	名前, *DFT	オプション
DFTSECRULE	省略時のIP機密保護規則	文字値, *NONE , *GEN	オプション
IPSECRULE	IP機密保護規則	1-16, *DFTSECRULE , *NONE	オプション
INZSP	サービス・プロセッサの初期化	*MANUAL , *SYNC, *AUTO, *NONE	オプション
ENBUNICAST	ユニキャストを使用可能にする	*NO , *YES	オプション
EID	格納装置ID	単一値: *AUTO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通し番号	文字値	
	要素 2: 製造元のタイプおよび型式	文字値	
SPNAME	サービス・プロセッサ名	文字値, *SPINTNETA	オプション
SPINTNETA	SP IPアドレス	文字値	オプション
SPAUT	SP認証	単一値: *DFT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー名	文字値	
	要素 2: ユーザー・パスワード	文字値	
SPCERTID	SP証明書ID	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: コンポーネント	*COMMONNAME, *EMAIL, *ORGUNIT	
	要素 2: 値の比較	文字値	
RMTSYSID	リモート・システムID	単一値: *EID その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 通し番号	文字値	
	要素 2: 製造元のタイプおよび型式	文字値	
DELIVERY	配送方式	文字値, *DYNAMIC , *MANUAL	オプション
CHAPAUT	CHAP認証	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: CHAP名	文字値	
	要素 2: CHAP秘密	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
BOOTDEVID	ブート装置ID	単一値: <u>*SINGLE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: バス	0-255	
	要素 2: 装置	0-31	
	要素 3: 機能	0-7	
DYNBOOTOPT	動的ブート・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: ベンダーID	文字値, <u>*DFT</u>	
	要素 2: 代替クライアントID	文字値, <u>*ADPT</u>	
RMTIFC	リモート・インターフェース	要素リスト	オプション
	要素 1: SCSIインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター・アドレス	16 進値	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
	要素 5: ISCSI修飾名	文字値, <u>*GEN</u>	
	要素 2: LANインターフェース	要素リスト	
	要素 1: アダプター・アドレス	16 進値	
	要素 2: IPアドレス	文字値	
	要素 3: サブネット・マスク	文字値	
	要素 4: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
	TEXT	テキスト'記述'	
KBDTYPE	キーボードのレイアウト	16 進値, <u>*DEFAULT</u>	オプション
CFGFILE	構成ファイル	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 構成ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLU	クラスター名	名前, <u>*NONE</u>	オプション
CLUCFG	クラスター構成	単一値: <u>*CLU</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: クラスター・ドメイン名	文字値	
	要素 2: クォーラム資源サイズ	550-1024000, <u>*CALC</u>	
	要素 3: クォーラム資源ASP	1-255, <u>1</u>	
	要素 4: クォーラムASP装置	名前	
	要素 5: 接続ポート	*VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
	要素 6: クラスターIPアドレス	文字値	
	要素 7: クラスター・サブネット・マスク	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
VRTPTPORT	仮想PTP イーサネット・ポート	要素リスト	オプション
	要素 1: IPアドレス	文字値, *GEN	
	要素 2: WINDOWS IPアドレス	文字値, *GEN	

トップ

ネットワーク・サーバー記述 (NWS D)

導入するネットワーク・サーバーの名前を指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

ネットワーク・サーバー名は最大8文字とすることができます。NWS D名には、次の文字を使用することができます。

- 英字A-Z
- 数字0-9

指定されたネットワーク・サーバー記述は、このコマンドに指定された値を使用して作成されます。NWS Dを作成するには、ネットワーク・サーバー記述作成(CRTNWS D)コマンドを使用します。また、この名前は、WINDOWSサーバーのTCPホスト名としてだけでなく、コンピューター名としても使用されます。

通信名 ネットワーク・サーバー記述の名前を指定します。

トップ

導入タイプ (INSTYPE)

実行する導入のタイプを指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

*FULL

ファイル・サーバーのフル導入は、システムによって制御されます。

注: WINDOWSの新規バージョンにアップグレード(OPTION(*UPGRADE))しようとしているどのファイル・サーバーにも*FULLを指定しなければなりません。

*BASIC

外部ファイル・サーバーの基本導入は、システムによって開始されて、SERVERGUIDE CDを使用して完了されます。

トップ

資源名 (R SRCNAME)

この記述が使用するハードウェアを識別する資源名を指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

*ISCSI

このネットワーク・サーバー資源は、ネットワーク・サーバーのホスト・アダプター装置を使用するISCSI接続サーバーです。DEVDPARAMETERに*NWSHが指定された装置記述処理(WRKDEVDP)を使用して、どのネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターを構成するかの判別に役立てます。

名前 使用するファイル・サーバーIOA通信アダプターの資源名を指定します。資源名の判別に役立てるには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

トップ

WINDOWSサーバー・バージョン (WNTVER)

このネットワーク・サーバーに導入するWINDOWSサーバーのバージョンを指定します。コマンド・プロンプト中にF4を使用して、このパラメーターに使用できる値の完全なリストを表示することができます。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

*WIN2000

WINDOWS 2000 SERVERおよびADVANCED SERVERバージョンをサポートします。

*WIN2003

WINDOWS SERVER 2003 WEB, STANDARDおよびENTERPRISEバージョンをサポートします。

トップ

WINDOWS ソース・ディレクトリー (WNTSRCDIR)

導入の際に、ソースとして使用されるWINDOWSサーバーのCD-ROMイメージと関連したディレクトリーのパス名を指定します。このディレクトリー名は、光ディスク・ボリュームなら(/QOPT/ボリューム名'),フォルダーなら(/QDLS/フォルダー名'),またはIFSディレクトリーなら(/ディレクトリー1/ディレクトリー2')を参照します。CD-ROMボリュームのパス名の例は'/QOPT/W2ASEL_EN'です。

光ディスク装置上にあるボリュームの名前を検索するには、次のコマンド、DSPOPT VOL(*MOUNTED) DEV(装置名)を使用します。光ディスク装置の名前が不明の場合、コマンドWRKCFGSTS CFGTYPE(*DEV) CFGD(*OPT)を使用してください。

IFSディレクトリーのパスの名前を検索するには、オブジェクト・リンクの処理(WRKLNK)コマンドを使用してください。WRKLNKは、システムのディレクトリー・オブジェクトのパス名を表示します。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

***DFT** 使用する省略時のディレクトリー・パス名は、QOPTファイル・システム(IFSの/QOPTディレクトリー)を検索することによって決定されます。中にWINNT.EXEファイルがあるI386ディレクトリーが入っているQOPTの最初のボリュームのパス名が省略時の値として使用されます。

注: 光ディスク媒体ライブラリーのあるシステム上で*DFTを使用することはお勧めできません。'/QOPT'パス中にあるすべてのボリュームで有効なWINDOWS導入ソースが検索されるので、その結果、それぞれのボリュームが検索されてマウントされることとなります。特定の光ディスク・ボリューム・パスを指定するようにしてください。

パス名 導入に使用するWINDOWSサーバー・ソース・パス名を指定してください。

注: 指定したディレクトリーには、中にWINNT.EXEがあるI386ディレクトリーが入っていないければなりません。

コマンド・プロンプトが出されているときにF4を使用して、このパラメーターに使用できる光ディスク・ボリュームのパス名のリストを表示することができます。光ディスク・ボリューム以外のフォルダーまたはIFSパス名も使用できますが、F4の使用時にはリストされません。

トップ

導入オプション (OPTION)

WINDOWSサーバー導入方式を指定します。導入のタイプのそれぞれの詳細情報は、WINDOWSサーバーの資料およびSETUP.TXTファイルをご覧ください。WINDOWSサーバーのアップグレードの前に、この情報を調べておく必要があります。

***INSTALL**

新規WINDOWSサーバーおよび統合サーバー・サポート コードを導入します。

これにより、新規ネットワーク・サーバー記述、記憶スペース、メッセージ待ち行列、回線記述、およびTCPインターフェースが作成されます。

***UPGRADE**

既存のWINDOWSサーバーおよび統合サーバー・サポート コードをより新しいリリースのWINDOWSサーバーにアップグレードします。

これにより、既存のネットワーク・サーバー記述、システム記憶スペース、メッセージ待ち行列、回線記述、およびTCPインターフェースが使用されることとなります。

注:

1. *UPGRADE導入の実行前に、ネットワーク・サーバーにリンクされたすべてのドライブのバックアップを強くお勧めします。
2. 導入ソース・ドライブ (通常はD:ドライブ) が削除されて、**サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)**パラメーターの**導入ソース・サイズ**要素に指定された導入ソース・サイズで再作成されます。このドライブ上のすべてのユーザー・データが逸失することとなります。
3. *UPGRADE導入は、唯一サポートされたWINDOWSサーバーの新規リリースへのアップグレード・パスです。WINDOWSサーバーを導入CD-ROMから直接アップグレードすると、ファイル・サーバーが使用できなくなり、バックアップから復元することが必要になる場合があります。

トップ

TCP/IPポート構成 (TCPPOPTCFG)

ネットワーク・サーバーでポートに固有のWINDOWS TCP/IP構成値を指定します。この情報は、ネットワーク・サーバー・ポートの識別、IPアドレス、サブネット・マスク、およびポートに割り当てられている省略時ゲートウェイを含む4つの部分から成っています。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

単一値

*NONE

WINDOWS TCP/IPポート構成がないことを指定します。

その他の値(4回までの反復)

要素1: ポート

構成するネットワーク・サーバー・ポート番号を指定します。次の値の1つを指定してください。

- 1 ネットワーク・サーバー・ポート番号1が構成されます。
- 2 ネットワーク・サーバー・ポート番号2が構成されます。
- 3 ネットワーク・サーバー・ポート番号3が構成されます。
- 4 ネットワーク・サーバー・ポート番号4が構成されます。

要素2: WINDOWS IPアドレス

IPアドレス

ポートのWINDOWS IPアドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: 選択するインターネット・アドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびシステムのTCP/IP構成の間で固有でなければなりません。

要素3: WINDOWSサブネット・マスク

サブネット・マスク

WINDOWS IPアドレスのサブネット・マスクを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: WINDOWS GATEWAYアドレス

ゲートウェイ・アドレス

WINDOWS IPアドレスの省略時のゲートウェイ・アドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

[トップ](#)

仮想イーサネット・ポート (VRTETHPORT)

ファイル・サーバーで使用する仮想イーサネットのTCP/IP構成を指定してください。

単一値

*NONE

WINDOWS TCP/IPポート構成がないことを指定します。

その他の値(4回までの反復)

要素1: ポート

構成されるネットワーク・サーバー仮想イーサネットのポート番号を指定します。次の値の1つを指定してください。

*VRTETHN

ネットワーク・サーバー仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の値です。

要素2: WINDOWS IPアドレス

IPアドレス

ポートのWINDOWS IPアドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: 選択するインターネット・アドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびシステムのTCP/IP構成の間で固有でなければなりません。

要素3: WINDOWSサブネット・マスク

サブネット・マスク

WINDOWS IPアドレスのサブネット・マスクを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: 関連ポート

WINDOWSネットワーク・サーバーとネットワークとの間の接続の確立に使用するポートを表す資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。この資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポート上のCMN01とすることができます。

*NONE

関連したポート資源名は、回線とは関連していません。

名前 関連したポート資源名を指定します。

[トップ](#)

TCP/IPローカル・ドメイン名 (TCPDMNNAME)

ネットワーク・サーバーと対応したローカル・ドメイン名を指定します。

ドメイン名は2から255桁のテキスト・ストリングとすることができます。ドメイン名はピリオドで区切った1つまたは複数のラベルから構成されます。各ラベルには、最大63桁を入れることができます。ドメイン名には、次の文字を使用することができます。

- 英字A-Z
- 英小文字
- 数字0-9

- マイナス符号(-)
- ピリオド(.) . ピリオドは、ドメイン・スタイル名のラベルを区切る時にだけ使用することができます (RFC 1034を参照)。

大文字および小文字を使用できますが、そのケースの違いに意味はありません。大/小文字は入力された通り維持されます。ホスト名の最初および最後の文字は英字または数字としなければなりません。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

***SYS** ネットワーク・サーバーのローカル・ドメイン名が、システムで構成されているのと同じ値でなければならないことを指定します。

文字ストリング

ネットワーク・サーバーと対応したTCPドメイン名を指定してください。

トップ

TCP/IP NAME SERVERシステム (TCPNAMSVR)

ネットワーク・サーバーが使用するネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。通常、これはシステムと同じ値のままです。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

単一値

***SYS** ネットワーク・サーバーで使用するネーム・サーバー・システムはシステムとのものと同じになります。

*NONE

ネットワーク・サーバーはネーム・サーバーを使用しません。

その他の値(3回までの反復)

IPアドレス

ネットワーク・サーバーが使用するネーム・サーバー・システムのIPアドレスを指定します。最大3つのリモート・ネーム・サーバー・システムを指定することができます。ネーム・サーバー・システムは、指定された順序で使用されます。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

トップ

サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

サーバー・メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

単一値

***JOBLOG**

サーバーからのWINDOWSサーバー・イベント・ログ・メッセージおよび通知メッセージがユーザー管理モニター・ジョブのジョブ・ログに入れられます。操作員の介入が必要なエラーはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

***NONE**

WINDOWSサーバー・イベント・ログ・メッセージおよび通知メッセージは、どのメッセージ待ち行列にも入れられません。操作員の介入が必要なエラーはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

修飾子1: サーバー・メッセージ待ち行列

メッセージ待ち行列名

サーバーが出すメッセージ、通知メッセージ、および操作員の介入が必要なメッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

このメッセージ待ち行列は、いっぱいにならないようモニターしている必要があります。いっぱいになると、メッセージはユーザー管理ジョブのジョブ・ログに再経路指定されます。

WINDOWSサーバーのイベント・ログ・メッセージのボリュームが予測不能なので、統合XSERIESサーバーで実行中のWINDOWSサーバーと関連したすべてのメッセージを受け取るメッセージ待ち行列としてQSYSOPRを指定する場合には、注意する必要があります。

メッセージ待ち行列名とライブラリー名の両方を指定し、そのメッセージ待ち行列が存在していない場合には、メッセージ待ち行列が*EXCLUDE権限つきで自動的に作成されます。メッセージ待ち行列用に指定されたライブラリーが存在していない場合には、コマンドは失敗します。

メッセージ待ち行列の名前は、次のライブラリー値のいずれかで修飾することができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

イベント・ログ (EVTLOG)

サーバーからイベント・ログのメッセージを受信するかどうかを指定します。

注: イベント・ログのメッセージは、サーバー・メッセージ待ち行列 (MSGQ)パラメーターで識別されたメッセージ待ち行列に入れられます。MSGQの値を*NONEにすることはできません。詳細については、MSGQパラメーターを参照してください。

単一値

***ALL** すべてのイベント・ログ・メッセージが受信されます。

***NONE**

イベント・ログ・メッセージは受信されません。

その他の値(3回までの反復)

***SYS** システム・イベント・ログ・メッセージが受信されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

***SEC** 機密保護イベント・ログ・メッセージが受信されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

***APP** アプリケーションのイベント・ログ・メッセージが受信されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

[トップ](#)

サーバー記憶スペースのサイズ (SVRSTGSIZE)

サーバー記憶スペースのサイズをメガバイトで指定します。

要素1: 導入ソース・サイズ

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルを保持する記憶スペースのサイズを指定します。

注:

1. WINDOWSサーバーの導入媒体のI386ディレクトリーの内容、および統合サーバー・サポート コードが導入ソース・ドライブにコピーされます。導入用ソース・ドライブに指定するサイズは、充分このデータを入れられる大きさでなければなりません。
2. OPTION(*UPGRADE)の導入の場合は、新規導入ソース・ドライブ・サイズを指定することができます。作成される新規ドライブは、既存導入ソース・ドライブ（一般にはD:ドライブ）を置き換えます。結果として、このドライブ上のすべてのユーザー・データが失われます。このネットワーク・サーバーと関連したすべてのドライブのバックアップをお勧めします。

*CALC

サイズは、**WINDOWS ソース・ディレクトリー (WNTSRCDIR)**パラメーターによって配置される導入ソースを保持するために必要なスペースを基にして計算することを指定します。

整数 導入ソース・サイズ値をメガバイトで指定します。このサイズは最低でも500 MBで、2047 MBより大きくすることはできません。

要素2: システム・サイズ

WINDOWSサーバー・オペレーティング・システムが導入される記憶スペースのサイズ(MB数) を指定します。

注:

1. 許される最小サイズは、WNTVERパラメーターに指定されたWINDOWSサーバー・バージョンによって決定されます。
2. OPTIONが*UPGRADEの場合には、省略時値以外の値をシステム・サイズに指定することができません。

*CALC

このサイズが統合XSERIESサーバーの導入済みメモリー（ここで、これを判別できる）と、WINDOWSバージョン要件などの他の要素を基にして計算されることを指定します。

整数 システム・サイズ値を（最大1024000の）メガバイトで指定します。

[トップ](#)

記憶スペースASP (SVRSTGASP)

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルが入る記憶スペースと、WINDOWSサーバー・オペレーティング・システムが入る記憶スペースの補助記憶域プール(ASP) IDを指定します。

注: 同じ要素についてSVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーター値を指定することはできません。

注: NULL（省略）値は、文字*Nと指定しますが、これは値を指定しないことを意味します。対応するサーバー記憶ASP装置(STGASPDEV)に値が指定されていれば、その値が使用されます。そうでない場合には、省略時の値が使用されます。*Nが必要になるのは、省略した要素の後に別の値を指定する時だけです。

要素1: 導入ソースASP

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルを保持する記憶スペースの補助記憶域プールを指定します。

1 記憶スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）内に作成されます。

整数 ASP識別コードに2から255の範囲の値を指定してください。有効値は、システムで定義されているASPの数によって異なります。

要素2: システムASP

WINDOWSサーバー・オペレーティング・システムを保持する記憶スペースの補助記憶域プールを指定します。

注: OPTIONが*UPGRADEの場合には、省略時値以外の値をシステム・サイズに指定することができません。

1 記憶スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）内に作成されます。

整数 ASP識別コードに2から255の範囲の値を指定してください。有効値は、システムで定義されているASPの数によって異なります。

[トップ](#)

サーバー記憶ASP装置 (STGASPDEV)

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルが入る記憶スペースと、WINDOWSサーバー・オペレーティング・システムが入る記憶スペースの補助記憶域プール(ASP)装置名を指定します。

注: 同じ要素についてSVRSTGASPとSTGASPDEVの両方のパラメーター値を指定することはできません。

注: ASPは、(ASP装置をオンに構成変更することによって) 活動化されていて、「使用可能」の状況になっていなければなりません。

要素1: 導入ソースASP装置

WINDOWSサーバーを導入するために使用されるファイルを保持する記憶スペースの独立補助記憶域プール装置名を指定します。

名前 ネットワーク・サーバー記憶スペースに使用するASPの装置名。

要素2: システムASP装置

WINDOWSサーバー・オペレーティング・システムを保持する記憶スペースの独立補助記憶域プール装置名を指定します。

名前 ネットワーク・サーバー記憶スペースに使用するASPの装置名。

[トップ](#)

NTFSへの変換 (CVTNTFS)

システム・ドライブの基本区画をNTファイル・システム(NTFS)に変換するかどうかを指定します。

注: システム・ドライブのファイル・システム制限が32000メガバイトより大きいなどの特定の状態のもとでは、NTFSへの変換は自動的に実行されることがあります。これらの条件の1つが存在する場合には、NTFSへの変換 (CVTNTFS)パラメーターはこのコマンドによって自動的に*YESに設定されます。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

***YES** 導入中に、WINDOWSサーバーはシステム・ドライブをNTFSに変換します。

***NO** 導入中に、WINDOWSサーバーはシステム・ドライブをNTFSに変換しません。

[トップ](#)

ワークグループ (TOWRKGRP)

このコンピューターが関係するワークグループを指定します。パラメーター値が指定されていない場合には、導入時にWINDOWSサーバーがプロンプトを出して値をたずねます。

このパラメーターで有効な文字は、英字A-Z,数字0-9,およびASCIIコード・ページ850内の（次のものを除く）文字です。

- スペース()
- 引用符(")
- アスタリスク(*)
- プラス(+)
- コンマ(,)
- ピリオド(.)
- スラッシュ(/)
- コロン(:)
- セミコロン(;)
- より小(<)
- 等しい(=)

- より大(>)
- 疑問符(?)
- 左大括弧(l)
- ドル記号（または円記号）(¥)
- 右大括弧 (j)
- 縦線(l)

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

文字ストリング

このコンピューターが加わるワークグループを指定してください。コンピューターはワークグループまたはドメインの一部となることができます。

[トップ](#)

ドメイン (TODMN)

コンピューターが加わることになる既存のサーバー・ドメインの名前を指定します。パラメーター値が指定されていない場合には、導入時にWINDOWSサーバーがプロンプトを出して値をたずねます。

このパラメーターで有効な文字は、英字A-Z,数字0-9,およびASCIIコード・ページ850内の（次のものを除く）文字です。

- スペース()
- 引用符(")
- アスタリスク(*)
- プラス(+)
- コンマ(,)
- ピリオド(.)
- スラッシュ(/)
- コロン(:)
- セミコロン(;)
- より小(<)
- 等しい(=)
- より大(>)
- 疑問符(?)
- 左大括弧(l)
- ドル記号（または円記号）(¥)
- 右大括弧 (j)
- 縦線(l)

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

文字ストリング

コンピューターが加わることになるサーバー・ドメインの名前を指定してください。コンピューターはワークグループまたはドメインの一部となることができます。

[トップ](#)

フルネーム (FULNAM)

WINDOWSサーバーを導入するためのユーザーのフルネームを指定します。パラメーター値が指定されていない場合には、導入時にWINDOWSサーバーがプロンプトを出して値をたずねます。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

文字ストリング

WINDOWSサーバーを導入中の、ライセンスを保有しているユーザーの名前を指定してください。

[トップ](#)

組織名 (ORG)

WINDOWSサーバーを導入するための組織名を指定します。パラメーター値が指定されていない場合には、導入時にWINDOWSサーバーがプロンプトを出して値をたずねます。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

文字ストリング

WINDOWSサーバーを導入中の、ライセンスを保有している組織の名前を指定してください。

[トップ](#)

言語バージョン (LNGVER)

統合サーバー・サポート テキストとメッセージを表示するために使用する導入済み言語環境を指定します。導入中に表示されるメッセージに使用可能な言語セットの方が、導入後に表示されるメッセージ用のものよりも少ないことに注意してください。

***PRIMARY**

統合サーバー・サポート テキストおよびメッセージ用導入済み言語環境は、システムの1次言語の言語機能に基づいて決まります。

言語バージョン

統合サーバー・サポート テキストおよびメッセージの選択に使用される言語機能を指定します。

[トップ](#)

日付と時刻の同期化 (SYNCTIME)

システムがネットワーク・サーバーの日付と時刻を、ホスト・システムの日付と時刻に同期させる必要があるかどうかを指定します。

***YES** システムは、オンへの構成変更のたびに、さらに、その後少なくとも30分ごとに、ファイル・サーバーの日付と時刻をホスト・システムの日付と時刻に同期させます。

時刻の同期が正しく実行されるためには、QTIMZONシステム値が正しい値に設定されていなければなりません。

***NO** システムは、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されると、ファイル・サーバーの日付と時刻をホスト・システムの日付と時刻に同期させますが、その後、ネットワーク・サーバー記述がオンに構成変更されている間は日付と時刻を同期しません。

トップ

ドメイン・ユーザーの伝搬 (PRPDMNUSR)

このサーバーがユーザーをWINDOWSドメインまたは活動ディレクトリーに伝搬し、同期させるために使用されるかどうかを指定します。

注: 複数のネットワーク・サーバーが同じWINDOWSドメインに属している場合には、そのうちの1つだけがユーザーをドメインに伝搬する必要があります。*DMNCTLというドメインの役割をもつネットワーク・サーバーを選択すると、最高速のパフォーマンスが得られ、特殊なQAS400NTユーザーIDが必要でなくなります。少なくとも1つのネットワーク・サーバーには、ユーザーを伝搬したい各WINDOWSドメインに対して*YESを指定してください。

***YES** このサーバーを介してユーザー更新をWINDOWSドメインまたは活動ディレクトリーに送ります。

***NO** このサーバーを介してユーザー更新をWINDOWSドメインまたは活動ディレクトリーに送りません。

トップ

WINDOWSライセンス・キー (WNTLICKEY)

WINDOWSサーバーのライセンス・キーを指定します。パラメーター値が指定されていない場合には、導入時にWINDOWSサーバーがプロンプトを出して値をたずねます。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

文字ストリング

WINDOWSサーバーCDが入ってきたジュエル・ケースの裏面にあるライセンス・キーを、ダッシュ(・)も含めて指定してください。WINDOWSライセンス・キー(WNTLICKEY)の長さは34文字に制限されています。

トップ

ライセンス・モード (LICMODE)

WINDOWSサーバーを導入するライセンス・モードを判別します。

注: INSTYPEが*BASICの場合, このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

要素1: ライセンス・タイプ

*PERSEAT

エンド・ユーザーが, サーバーにアクセスする各コンピューターのクライアント・アクセス・ライセンスを購入したことを示します。

*PERSERVER

エンド・ユーザーが, 各サーバーのクライアント・アクセス・ライセンスを購入し, これによりサーバーに対する一定数の同時接続が可能であることを示します。

要素2: クライアント・ライセンス

*NONE

クライアント・ライセンスを導入しないことを示します。*PERSEATが指定されている場合には, *NONEが指定されていなければなりません。

整数 導入中のサーバー用に購入されたクライアント・ライセンスの数。ライセンス・タイプとして *PERSERVERが指定されている時には, 5より大きい数値を指定しなければなりません。有効範囲は5から9999です。

要素3: ターミナル・サービス

*NONE

このサーバーのターミナル・サーバー構成装置を導入しません。

*TSENABLE

WINDOWS 2000にターミナル・サービスを導入します。

*PERDEVICE

接続された各装置が有効なターミナル・サーバー・クライアント・アクセス・ライセンス(CAL)を持っていることを要求するように, WINDOWS SERVER 2003ターミナル・サービスを導入して構成します。クライアントがターミナル・サーバーCALを持っている場合には, 複数のターミナル・サーバーにアクセスできます。

*PERUSER

各活動ユーザーに1つのターミナル・サーバーCALを提供するように, WINDOWS SERVER 2003ターミナル・サーバーを導入して構成します。

トップ

制約された装置資源 (RSTDDEVRSC)

制限されていて, WINDOWSサーバーでは使用できないシステムの光ディスクおよびテープ装置の資源名を指定します。

注: テープおよび光ディスク装置資源だけを制限することができます。

単一値

*NONE

どの装置資源もネットワーク・サーバーから制限されません。したがって, システム上に存在しているどのテープまたは光ディスク装置資源も使用することができます。

***ALL** すべてのテープおよび光ディスク資源が、ネットワーク・サーバーによる使用を制約されます。

その他の値(10回までの反復)

***ALLOPT**

すべての光ディスク資源が、ネットワーク・サーバーによる使用を制約されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

***ALLTAPE**

すべてのテープ資源が、ネットワーク・サーバーによる使用を制約されます。

注: この値を指定できるのは一度だけです。

名前 ネットワーク・サーバーで使用できない制限付き装置資源名を指定してください。

[トップ](#)

シャットダウン・タイムアウト (SHUTDTIMO)

サーバーのシャットダウン・タイムアウト値 (分数) を指定します。これは、サーバーがオフラインに変更される前に、サーバーのオペレーティング・システムのシャットダウンに許可される時間の長さを制限するために使用されます。

15 ネットワーク・サーバーの省略時のシャットダウン・タイムアウト値が使用されます。

整数 待機する時間 (分数) を指定してください。有効な値は2から45の範囲です。システムは、ネットワーク・サーバーのオペレーティング・システムが正常にシャットダウンするまで、あるいはネットワーク・サーバーがオフラインに変更される前に指定した時間が経過するまで、待機します。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

リモート・サーバーのサービス・プロセッサへの接続の確立、およびリモート・サーバーでの電源オンの場合にシステムが待機する時間 (秒数) を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

120 120秒の活動化時間が使用されます。

整数 30から1800の範囲内の値 (秒数) を指定します。

[トップ](#)

通信メッセージ待ち行列 (CMNMSGQ)

通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

単一値

***SYSOPR**

システム操作員のメッセージ待ち行列（ライブラリーQSYS中のQSYSOPRメッセージ待ち行列）にメッセージを入れることとなります。

修飾子1: 通信メッセージ待ち行列

名前 通信状況メッセージを受け取るメッセージ待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

記憶域パス (STGPTH)

記憶スペースで使用できる記憶パスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

要素1: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

通信名 既存のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)装置の名前を指定します。

トップ

仮想イーサネット・パス (VRTETHPTH)

イーサネット回線記述で使用できる仮想イーサネット・パスを指定します。この情報は、仮想イーサネット・ホストとネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)装置を含む2つの部分から構成されます。*VRTETHPTH回線記述で使用されるパスの仮想イーサネット・パスを少なくとも1つ入力する必要があります。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

このパラメーターには、5つまでの値を指定することができます。

要素1: ポート

***VRTETHPTP**

ネットワーク・サーバー仮想イーサネットPOINT-TO-POINTポートが構成されます。

***VRTETH0**

仮想イーサネット・ポート0が構成されます。

***VRTETH1**

仮想イーサネット・ポート1が構成されます。

***VRTETH2**

仮想イーサネット・ポート2が構成されます。

***VRTETH3**

仮想イーサネット・ポート3が構成されます。

***VRTETH4**

仮想イーサネット・ポート4が構成されます。

***VRTETH5**

仮想イーサネット・ポート5が構成されます。

***VRTETH6**

仮想イーサネット・ポート6が構成されます。

***VRTETH7**

仮想イーサネット・ポート7が構成されます。

***VRTETH8**

仮想イーサネット・ポート8が構成されます。

***VRTETH9**

仮想イーサネット・ポート9が構成されます。

要素2: ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター

通信名 既存のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)装置の名前を指定します。ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター名は、このNWSH上の各VRTETHPTHパラメーターで固有にする必要はありません。

[トップ](#)

TCPポートのシャットダウン (SHUTDPORT)

シャットダウンで使用するTCPポートを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

8700 8700のTCPポート番号を指定します。

整数 シャットダウンで使用するポートを識別するポート番号を指定します。有効な値の範囲は1024から65,535です。

[トップ](#)

仮想イーサネット制御ポート (VRTETHCTLP)

仮想イーサネットの制御で使用するTCPポートを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

8800 8800のTCPポート番号を使用します。

整数 仮想イーサネットの制御で使用するポートを識別するポート番号を指定します。有効な値の範囲は1024から65,535です。

[トップ](#)

リモート・システムNWSCFG (RMTNWSCFG)

このサーバーで使用するリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFT** `(NWSDDNAME)RM`というシステム生成の省略時のリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成名を使用します。ここの(NWSDDNAME)はネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存のリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

[トップ](#)

サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)

このサーバーで使用するサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFT** `(NWSDDNAME)SP`というシステム生成の省略時のサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成名を使用します。ここの(NWSDDNAME)はネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存のサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

[トップ](#)

接続機密保護NWSCFG (CANNWSCFG)

このサーバーで使用する接続機密保護ネットワーク・サーバー構成を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFT** `(NWSDDNAME)CN`というシステム生成の省略時の接続機密保護ネットワーク・サーバー構成名を使用します。ここの(NWSDDNAME)はネットワーク・サーバー記述の名前です。

名前 既存の接続機密保護ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

[トップ](#)

省略時のIP機密保護規則 (DFTSECRULE)

ホスト側とリモート・システム間で使用する省略時のIP機密保護(IPSEC)規則を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **接続機密保護NWSCFG (CNNNWSCFG)**パラメーターに指定された接続機密保護ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

この場合、*DFTSECRULE以外の値を**IP機密保護規則 (IPSECRULE)**パラメーターに指定する必要があります。

***NONE**

IPセキュリティー(IPSEC)プロトコルのセキュリティー設定は構成されません。

***GEN** ランダム事前共用キーを生成します。

文字ストリング

事前共用キーを指定してください。

事前共用キーは32文字までの長さの有効ストリングです。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

[トップ](#)

IP機密保護規則 (IPSECRULE)

既存の接続機密保護ネットワーク・サーバー構成に定義され、ホスト側とリモート・システム間の初期IP機密保護設定として使用される既存の**IP機密保護規則(IPSECRULE)**パラメーターの相対項目を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

***DFTSECRULE**

省略時の**IP機密保護規則 (DFTSECRULE)**パラメーターに指定された値を使用します。

注: CNNNWSCFGパラメーターに指定された**接続機密保護NWSCFG**がすでに存在する場合は、この値は無効です。

***NONE**

リモート・インターフェースでは、機密保護規則は使用されません。

リモート・インターフェースでは、指定された機密保護規則が使用されます。

サービス・プロセッサの初期化 (INZSP)

リモート・システムのサービス・プロセッサを保護する方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

これは、相互接続ネットワークが物理的に安全である場合にのみ使用してください。

注: 一部のサービス・プロセッサはセキュア接続をサポートしていません。これらのサービス・プロセッサには*NONEを使用してください。追加情報は、

[HTTP://WWW.IBM.COM/SERVERS/ESERVER/ISERIES/INTEGRATEDXSERIES](http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/integratedxseries)の「INTEGRATED XSERIES SOLUTIONS」にあります。

*MANUAL

セキュリティ・パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサ上に手動で構成されます。*MANUALは最高のセキュリティを提供します。

このオプションを使用するためには、リモート・システムのサービス・プロセッサがユーザー名、パスワードおよび証明書によって事前に構成されていることが必要です。証明書管理が必須です。公衆ネットワークを介してサービス・プロセッサに接続する場合は、パスワードを保護するためにこの方式が最適です。

注: サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

*AUTO

パラメーターは、リモート・システムのサービス・プロセッサ上に自動的に構成されます。

*AUTOは、リモート・システムのサービス・プロセッサの事前構成を必要としないセキュリティを提供します。リモート・システムのサービス・プロセッサでは、証明書が有効期限に近づいた時に、証明書が自動的に再生成されます。このオプションは、相互接続ネットワークが物理的に安全であるか、あるいはファイアウォールによって保護される場合に最適です。

注: 管理者は、サービス・プロセッサ証明書が失効した場合、あるいは証明書の有効期限前に新規証明書またはパスワードが必要になった場合に、NWS構成の初期設定 (INZNWSCFG)コマンドを使用して証明書を再生成することが必要になります。

注: サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

*SYNC

サービス・プロセッサからの自己署名証明書を同期化します。このオプションは、複数のサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成が同じシステムに使用されているか、あるいはサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成がバックアップから復元されて、サービス・

プロセッサの証明書を同期化する必要がある場合に使用されます。このオプションを実行するためには、サービス・プロセッサの現行ユーザー名およびパスワードを**SP認証(SPAUT)**パラメーターに指定しなければなりません。

***NONE**

セキュリティは提供されません。

これは、相互接続ネットワークが物理的に安全である場合にのみ使用してください。

注: 一部のサービス・プロセッサはセキュア接続をサポートしていません。これらのサービス・プロセッサには***NONE**を使用してください。追加情報は、[HTTP://WWW.IBM.COM/SERVERS/ESERVER/ISERIES/INTEGRATEDXSERIES](http://www.ibm.com/servers/eserver/iseries/integratedxseries)の「INTEGRATED XSERIES SOLUTIONS」にあります。

注: サービス・プロセッサ**NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

トップ

ユニキャストを使用可能にする (ENBUNICAST)

ユニキャスト・パケット配布を使用するかどうかを指定します。ユニキャストとは、パケットが指定されたサービス・プロセッサ名 (**SPNAME**)または**SP IP アドレス (SPINTNETA)**パラメーターに直接送られる伝送方式です。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに***ISCSI**が指定された場合のみです。

注: サービス・プロセッサ**NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

***NO** ユニキャストを使用不可にします。

***YES** ユニキャストを使用可能にします。

トップ

格納装置ID (EID)

サービス・プロセッサを収容する格納装置を識別する製造番号、機種および型式を指定します。

指定された場合は、ネットワーク上のシステムを見つけるために使用されます。

これらの値をシステムのラベルで探します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに***ISCSI**が指定された場合のみです。

注: サービス・プロセッサ**NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

*AUTO

ENBUNICAST(*YES)が指定されている場合に、自動的にIDを検索します。

要素1: 製造番号

文字ストリング

マシンの製造番号を指定してください。

要素2: 製造タイプおよび型式

文字ストリング

マシンの機種および型式を指定してください。

値は TTTTMMM の形式で入力されます。ここで、TTTT はマシンの機種、MMM はマシンの型式番号です。

[トップ](#)

サービス・プロセッサ名 (SPNAME)

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定します。

注: ENBUNICAST(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターが必須です。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

*SPINTNETA

リモート・システムは、**SP IP アドレス (SPINTNETA)**パラメーターに指定された値によって識別されます。

ホスト名

リモート・システムのサービス・プロセッサ・ホスト名を指定してください。

[トップ](#)

SP IPアドレス (SPINTNETA)

リモート・システムのサービス・プロセッサ・インターネット・アドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

注:

1. ENBUNICAST(*NO)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

2. SPNAME(*SPINTNETA)が指定されている場合には、このパラメーターが必須です。

インターネット・アドレス

サービス・プロセッサのインターネット・アドレスを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

[トップ](#)

SP認証 (SPAUT)

サービス・プロセッサのユーザー名およびパスワードを指定します。これは、サービス・プロセッサを認証および保護するために使用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサ-NWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

注: この値が有効となるのは、**INZSP(*NONE)**がこのコマンドまたは既存のネットワーク・サーバー構成に指定された場合のみです。

単一値

***DFT** 省略時のサービス・プロセッサのユーザーIDおよびパスワードが使用されます。

要素1: ユーザー名

文字ストリング

サービス・プロセッサを所有するホスト構成を表す名前を指定してください。リモート・システムのネットワーク・サーバー構成名を使用することをお勧めします。複数のリモート・システムのネットワーク・サーバー構成が同じサービス・プロセッサを異なる時間に使用する場合は、それぞれの構成に同じユーザー名およびパスワードの含まれていることが必要です。

要素2: ユーザー・パスワード

文字ストリング

サービス・プロセッサのパスワードを指定してください。パスワードは、少なくとも5文字の長さで、少なくとも1つの英字と1つの数字またはシンボリック文字が含まれていなければなりません。

[トップ](#)

SP証明書ID (SPCERTID)

SP証明書IDは、サービス・プロセッサの証明書を識別する3つの可能なフィールドの1つを指定します。

このパラメーターは、証明書がサービス・プロセッサからのものであることの追加の検証を行うために指定されます。選択されたフィールドの内容は、証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に入力されたフィールドの値と正確に一致していなければなりません。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **サービス・プロセッサNWSCFG (SPNWSCFG)**パラメーターに指定されたサービス・プロセッサ・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターは、**INZSP(*MANUAL)**が指定された場合に必須であり、*NONEの値とすることはできません。

単一値

*NONE

サービス・プロセッサ証明書は構成されません。

要素1: 構成要素

***COMMONNAME**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の共通名を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「ASMドメイン・ネーム」フィールドと相互に関連します。

***EMAIL**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の電子メール・アドレスを選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「電子メール・アドレス」フィールドと相互に関連します。

***ORGUNIT**

証明書が生成されるかまたは認証局から要求された時に指定された証明書の組織単位を選択します。リモート監視プログラム・アダプターIIでは、これは自己署名証明書または証明書署名要求の生成に使用される「組織単位」フィールドと相互に関連します。

要素2: 比較値

文字ストリング

証明書コンポーネントの比較値を指定してください。255文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで入力します。

[トップ](#)

リモート・システムID (RMTSYSID)

リモート・システムを識別する製造番号、機種および型式を指定します。指定された場合は、ネットワーク上のリモート・システムを見つけるために使用されます。

これらの値をシステムのラベルで探します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **リモート・システムNWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***EID** サービス・プロセッサIDを使用します。

要素1: 製造番号

文字ストリング

マシンの製造番号を指定してください。

要素2: 製造タイプおよび型式

文字ストリング

マシンの機種および型式を指定してください。

[トップ](#)

配送方式 (DELIVERY)

リモート・システムを構成するために必要なパラメーターを配布する方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **リモート・システムNWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

***DYNAMIC**

パラメーターは、動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を使用して、リモート・システムに動的に配布されます。

***MANUAL**

パラメーターは、BIOSユーティリティー (システムBIOSまたはアダプターBIOS - CTRL-Q)を使用して、リモート・システムに手動で構成されます。

[トップ](#)

CHAP認証 (CHAPAUT)

リモート・システムのイニシエーター・ノードを認証するために、ホスト・システムのISCSIターゲットに対するCHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOL (CHAP)を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **リモート・システムNWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***NONE**

CHAP認証は使用可能になりません。

要素1: CHAP名

***NWSCFG**

システムは、ネットワーク・サーバー構成名を使用して、CHAPの名前を自動的に生成します。

文字ストリング

CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい名前を指定してください。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

要素2: CHAP機密事項

***GEN** システムはランダムCHAP機密事項を自動的に生成します。

文字ストリング

CHALLENGE HANDSHAKE AUTHENTICATION PROTOCOLに使用したい機密事項を指定してください。

有効な文字は、大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

- プラス符号
- 等号
- パーセント
- アンパーサンド
- 左括弧
- 右括弧
- コンマ
- 下線
- マイナス符号
- ピリオド
- コロン
- セミコロン

[トップ](#)

ブート装置ID (BOOTDEVID)

ブート元に使用するリモート・システムのISCSIアダプターのPCI機能アドレス（バス／装置／機能）を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: リモート・システム**NWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

単一値

***SINGLE**

単一のISCSIアダプターがリモート・システム上で使用されます。

要素1: バス

番号 ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターのバス番号を指定してください。
有効な値の範囲は0から255です。

要素2: 装置

番号 ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターの装置番号を指定してください。
有効な値の範囲は0から31です。

要素3: 機能

番号 ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターの機能番号を指定してください。
有効な値の範囲は0から7です。

[トップ](#)

動的ブート・オプション (DYNBOOTOPT)

内部動的ホスト構成プロトコル(DHCP)サーバー構成を指定します。

注: これは拡張構成機能です。

このパラメーターは、ISCSIターゲット・ホスト・バス・アダプター・ファームウェアの一部である内部DHCPサーバーを構成するために使用されます。これは、リモートISCSIイニシエーターのIPアドレスおよびディスクレス・ブート・パラメーターを指定するために使用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: リモート・システム**NWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターが有効なのは、**DELIVERY(*DYNAMIC)**が指定されている場合のみです。

要素1: ベンダー ID

クライアントおよびサーバーは、省略時のベンダーIDに事前構成されます。ネットワーク管理者は、クライアントがハードウェア、オペレーティング・システムまたはその他の識別情報を伝えるために、その固有の識別値を定義するようにクライアントを構成することができます。この機能には、IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション60が使用されます。

***DFT** 省略時のベンダーIDが使用されます。

文字ストリング

リモート・システムのISCSIアダプターのベンダーIDが使用されます。

要素2: 代替クライアントID

サーバーに対して固有のIDを指定するためにクライアントによって使用されます。それぞれのクライアントのIDは、クライアントの接続先である有効なDHCPネットワーク（すなわち、クライアントのローカル・サブネットおよびDHCPリレーを使用して到達可能なリモート・サブネット）で使用されるその他すべてのクライアントIDの間で固有のものでなければなりません。この固有性の要件を満たすクライアントIDを選択する責任は、ベンダーおよびシステム管理者にあります。この機能には、IETF RFC 2132に記述されたDHCPオプション61が使用されます。

***ADPT**

省略時のクライアントIDは、リモート・システムのISCSIアダプターのアダプター・アドレスから構成されます。この値はリモート・システムを識別するために使用されます。

文字ストリング

ブートに使用するリモート・システムのISCSIアダプターのクライアントIDを指定してください。

[トップ](#)

リモート・インターフェース (RMTIFC)

リモート・システムのインターフェースを指定します。この情報は、リモート・システムのインターフェースを識別および構成するために使用されます。それぞれのアダプターには、SCSIインターフェースとLANインターフェースをサポートする2つの機能があります。

注: このパラメーターが有効なのは、**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに*ISCSIが指定された場合のみです。

注: **リモート・システムNWSCFG (NWSCFG)**パラメーターに指定されたりリモート・システム・ネットワーク・サーバー構成がすでに存在する場合は、このパラメーターは無視されます。

要素1: SCSIインターフェース

リモート・システムのSCSIインターフェースを指定します。

要素1: アダプターアドレス

***NONE**

このアダプターにSCSIインターフェースは構成されません。

アダプター・アドレス

リモート・システムのISCSIインターフェースの12文字の16進アダプター・アドレスを指定してください。

要素2: インターネット・アドレス

インターネット・アドレス

リモート・システムのSCSIインターフェースのインターネット・アドレスを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

サブネット・マスク

リモート・システムのSCSIインターフェースのサブネット・マスクを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

ゲートウェイ・アドレス

リモート・システムのSCSIインターフェースのゲートウェイ・アドレスを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素5: ISCSI修飾名

***GEN** システムはISCSI修飾名を自動的に生成します。

名前 リモート・システムのSCSIインターフェースのISCSI修飾名を指定してください。

ISCSI修飾名には次の文字を使用できます。

- 小文字に変換される英字の大文字のAからZ (RFC 3722を参照)
- 英字の小文字のAからZ
- 数字0から9
- ピリオド(.)
- ダッシュ(-)
- コロン(:)

要素2: LANインターフェース

リモート・システムのLANインターフェースを指定します。

要素1: アダプターアドレス

***NONE**

このアダプターにLANインターフェースは構成されません。

アダプター・アドレス

リモート・システムのLANまたはTCP OFFLOAD ENGINE (TOE)インターフェースの12文字の16進アダプター・アドレスを指定してください。

要素2: インターネット・アドレス

インターネット・アドレス

リモート・システムのLANインターフェースのインターネット・アドレスを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素3: サブネット・マスク

サブネット・マスク

リモート・システムのLANインターフェースのサブネット・マスクを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

要素4: ゲートウェイ・アドレス

ゲートウェイ・アドレス

リモート・システムのLANインターフェースのゲートウェイ・アドレスを指定してください。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

ネットワーク・サーバー構成を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

CHARACTER-VALUE

SPECIFY NO MORE THAN 50 CHARACTERS OF TEXT, ENCLOSED IN APOSTROPHES.

トップ

キーボードのレイアウト (KBDTYPE)

WINDOWSサーバーに導入するキーボード・レイアウト識別コードを指定します。有効なキーボード・レイアウト識別コードは、WINDOWSサーバー導入媒体のI386ディレクトリーに入っているTXTSETUP.SIFファイルにリストされています。

注: INSTYPEが*BASICの場合、このパラメーターはSERVERGUIDEを使用して構成されます。この値に入力される値はすべて廃棄されます。

*DEFAULT

導入中のWINDOWSサーバーのバージョンの省略時のキーボード・レイアウトが使用されます。

キーボード・タイプ

WINDOWSサーバーによって使用されるキーボード・レイアウト識別コードを指定してください。

[トップ](#)

構成ファイル (CFGFILE)

サーバーを活動化したり詳細に定義する際に使用する構成データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

単一値

*NONE

構成ファイルは指定されません。

修飾子1: 構成ファイル

構成ファイル名

サーバーの構成データ・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。サーバーが活動化されると、このファイルのすべてのメンバーが処理されます。

構成ファイルの名前は、次のライブラリーの値の1つで修飾することができます。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初的一致が見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター名 (CLU)

クラスターの名前を指定します。

*NONE

WINDOWSクラスターを形成または結合しません。

名前 クラスターの名前を指定してください。管理者は、クラスターとの接続にこの名前を使用します。クラスター名は、ドメイン名とも、ドメイン上のすべてのコンピューター名とも、ドメイン上の他のクラスター名とも異なったものでなければなりません。

[トップ](#)

クラスター構成 (CLUCFG)

新規WINDOWSクラスターを構成するために必要なパラメーターを指定します。

注: このパラメーターが必要となるのは、**クラスター名 (CLU)**パラメーターを使用して新規WINDOWSクラスターを形成する時のみです。

単一値

***CLU** WINDOWSクラスター・サービスの前の導入ですでに定義されている値を使用して、既存のクラスター名と結合します。

要素1: クラスター・ドメイン名

クラスターが属するドメインを指定します。このクラスターがすでに存在する場合には、クラスターが結合されます。そうでない場合には、形成されます。クラスターを形成する場合には、**クラスター構成 (CLUCFG)**パラメーターを指定しなければなりません。

文字ストリング

新規クラスターを形成する時に、クラスターが属するドメインの名前を指定してください。

要素2: クォーラム資源サイズ

WINDOWSクォーラム資源として使用される記憶スペースのサイズ（メガバイト数）を指定します。

***CALC**

WINDOWSサーバー・バージョン (WNTVER)パラメーターに基づいて省略時の値となるサイズを計算する必要があることを指定します。

整数 WINDOWSクォーラム資源サイズをメガバイトで指定します。このサイズは最低550 MB以上で1024000 MB以下としなければなりません。

要素3: クォーラム資源ASP

WINDOWSクォーラム資源として使用される記憶スペースの補助記憶域プールを指定します。

注: クォーラム資源ASPとクォーラムASP装置の両方の値を指定することはできません。

1 記憶スペースは補助記憶域プール1（システム補助記憶域プール）内に作成されます。

整数 ASP識別コードに2から255の範囲の値を指定してください。有効値は、システムで定義されているASPの数によって異なります。

要素4: クォーラムASP装置

WINDOWSクォーラム資源として使用される記憶スペースの独立補助記憶域プール装置名を指定します。

注: クォーラム資源ASPとクォーラムASP装置の両方の値を指定することはできません。

名前 独立補助記憶域プール装置の名前を指定してください。有効な値は、システムで定義されている IASPによって異なります。

要素5: 接続ポート

クラスター・サービス通信に使用される接続ポートを指定します。

*VRTETHN

ネットワーク・サーバー仮想イーサネット・ポート'N'が構成されます。ここで'N'は0から9の値です。

要素6: クラスターIPアドレス

クラスターのIPアドレスを指定します。

IPアドレス

クラスターIPアドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: 選択するインターネット・アドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびシステムのTCP/IP構成の間で固有でなければなりません。

要素7: クラスター・サブネット・マスク

サブネット・マスク

クラスターIPアドレスのサブネット・マスクを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

[トップ](#)

仮想PTP イーサネット・ポート (VRTPTPPORT)

仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのTCP/IP構成を指定します。

注:

1. ホスト・システムで実行中の統合XSERIESサーバーの場合には、VRTPTPPORTパラメーターを使用しなければなりません。
2. 仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートの両側で使用されるサブネット・マスクは255.255.255.0 (省略時の値) です。したがって、仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートの両サイドに選択されるIPアドレスは、IPアドレスの最初の3つの部分が同じ値でなければなりません。

要素1: IPアドレス

仮想POINT-TO-POINTイーサネット接続のホスト側のIPアドレスを指定します。次の値の1つを指定してください。

***GEN** 生成されたIPアドレスをもつ仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートを、INSWNTSVRコマンドに構成させるには、*GENを指定してください。

IPアドレス

仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのホストIPアドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: 選択するインターネット・アドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびシステムのTCP/IP構成の間で固有でなければなりません。

要素2: WINDOWS IPアドレス

仮想POINT-TO-POINTイーサネット接続のWINDOWS側のIPアドレスを指定します。次の値の1つを指定してください。

***GEN** 生成されたIPアドレスをもつ仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートを、INSWNTSVRコマンドに構成させるには、*GENを指定してください。

IPアドレス

仮想POINT-TO-POINTイーサネット・ポートのWINDOWSサーバーIPアドレスを指定します。

値は NNN.NNN.NNN.NNN の10進形式で入力されます。ここで、NNN は0から255の範囲の10進数です。

注: 選択するインターネット・アドレスは、すべてのNWSDオブジェクトおよびシステムのTCP/IP構成の間で固有でなければなりません。

トップ

例

例1:WINDOWSターミナル・サーバーの導入

```
INSWNTSVR NWSD(W2KSERV) INSTYPE(*FULL)
           RSRNAME(LIN09) DMNROLE(*SERVER)
           WNTVER(*WIN2000) WNTSRCDIR(*DFT) OPTION(*INSTALL)
           TCPPORTCFG((1 '206.5.8.48' '255.255.255.128'
                        '206.5.8.1'))
           SVRSTGSIIZE(*CALC 2500) SVRSTGASP(1 1)
           CVTNTFS(*YES) TOWRKGRP(XYZGROUP)
           FULNAM('JOHN SMITH') ORG('XYZ CORPORATION')
           WNTLICENSE('VVVVV-WWWW-XXXX-YYYY-ZZZZ')
           LICMODE(*PERSEAT *NONE *TSENABLE)
           TEXT('WINDOWS 2000 TERMINAL SERVER')
```

このコマンドはW2KSERVという名前のWINDOWSサーバーを導入します。W2KSERVは、統合XSERIESサーバー資源LIN09上に導入されるWINDOWS 2000 SERVERオペレーティング・システムと関連したネットワーク・サーバー記述です。

導入時に自動的にNTFSに変換される2500 MBのサイズのシステム・ドライブで、完全に制御された導入が実行されることとなります。WINDOWS 2000 SERVER はXYZGROUPワークグループに結合されます。PER SEAT (接続クライアント数) ライセンス・モードが構成され、ターミナル・サービスがサーバー上に導入されます。

TCP/IPローカル・ホスト名はサーバー記述名と同じになります。TCP/IPローカル・ドメイン名はOS/400システムと同じで、同じネーム・サーバーが使用されることとなります。統合XSERIESサーバーで検出される最初のLANアダプターに、TCP/IPアドレス206.5.8.48が自動的に構成されます。

例2: WINDOWSクラスター・ノードの導入

```

INSWNTSVR  NWSD(W2KNODE1) INSTYPE(*FULL)
            RSRNAME(LIN03) DMNROLE(*SERVER)
            WNTVER(*WIN2000) WNTSRCDIR(*DFT) OPTION(*INSTALL)
            TCPPORTCFG((1 '206.5.8.60' '255.255.255.128'
                          '206.5.8.1'))
            VRTETHPORT(((*VRTETH5 '192.168.9.3'
                          '255.255.255.0'))
            TCPDMNNAME(XYZDOMAIN.XYZCORP.COM)
            TCPNAMSVR('206.5.69.165' '206.5.8.8'
                      '206.10.244.100')
            SVRSTGSIIZE(*CALC 4000) SVRSTGASP(1 1)
            CVTNTFS(*YES) TODMN(XYZDOMAIN)
            FULNAM('JOHN SMITH') ORG('XYZ CORPORATION')
            WNTLICENSE('VVVVV-WWWW-XXXX-YYYY-ZZZZ')
            LICMODE(*PERSEAT *NONE *NONE)
            TEXT('WINDOWS 2000クラスター・ノード1')
            CLU(CLU1XYZ)
            CLUCFG(XYZDOMAIN 600 1 *N *VRTETH5 '206.5.8.65'
                  '255.255.255.128')

```

このコマンドはW2KNODE1という名前のWINDOWSサーバーを導入します。W2KNODE1は、統合XSERIESサーバー資源LIN03上に導入されるWINDOWS 2000 SERVERオペレーティング・システムと関連したネットワーク・サーバー記述です。

導入時に自動的にNTFSに変換される4000 MBのサイズのシステム・ドライブで、完全に制御された導入が実行されることとなります。WINDOWS 2000 SERVER はXYZDOMAINドメインに結合されます。PERSEAT（接続クライアント数）ライセンス・モードがサーバー上に構成されます。統合XSERIESサーバーで検出される最初のLANアダプターに、TCP/IPアドレス206.5.8.60が自動的に構成されます。仮想イーサネットLANは、TCP/IPアドレス192.168.9.3で構成された仮想イーサネット5に作成されます。

TCP/IPローカル・ホスト名はサーバー記述名と同じになります。TCP/IPローカル・ドメイン名はXYZDOMAIN.XYZCORP.COMです。TCP/IPネーム・サーバーは206.5.69.165、206.5.8.8、および206.10.244.100を使用します。

サイズが600 MBの名前XYZDOMAINのクォーラム資源ドライブを作成することによって、新しいMICROSOFTクラスターが使用可能になります。クラスター・ノード間のプライベート通信には仮想イーサネット5が使用されます。

例3: ISCSI接続サーバーでのWINDOWS SERVER 2003の導入

```

INSWNTSVR  NWSD(WS03LAN) INSTYPE(*FULL)
            RSRNAME(*ISCSI) DMNROLE(*SERVER)
            WNTVER(*WIN2003) WNTSRCDIR(*DFT) OPTION(*INSTALL)
            TCPPORTCFG((1 '206.5.8.68' '255.255.255.128'
                          '206.5.8.1'))
            SVRSTGSIIZE(*CALC 2500) SVRSTGASP(1 1)
            CVTNTFS(*YES) TOWRKGRP(XYZGROUP)
            FULNAM('JOHN SMITH') ORG('XYZ CORPORATION')
            WNTLICENSE('VVVVV-WWWW-XXXX-YYYY-ZZZZ')
            STGPTH(NWSHRG1)
            VRTETHPTH(((*VRTETHPTP NWSHRG1))
            DFTSECRULE(*GEN)
            INZSP(*AUTO)
            ENBUNICAST(*NO)
            EID(1234567 418477U)
            SPAUT(SPADMIN SPUID)
            RMTSYSID(*EID)
            DELIVERY(*DYNAMIC)
            CHAPAUT(MYCHAPID MYCHAPSECRET)
            RMTIFC((020134304760 '206.5.8.92' '255.255.255.128')

```

```
'6.5.8.1')
(020134604750 '206.5.8.96' '255.255.255.128'
'6.5.8.1'))
TEXT('WINDOWS SERVER 2003 ISCSI SERVER')
```

このコマンドは、WS03LANという名前のWINDOWSサーバーを導入します。WS03LANは、WINDOWS SERVER 2003を使用するISCSI接続サーバーです。ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター(NWSH)の装置NWSHRG1は、記憶および仮想イーサネット・バス用に構成されます。

*AUTO IP機密保護モードおよび生成された事前共有キーを使用する省略時の機密保護規則。サービス・プロセッサは自動的に構成されて、格納装置通し番号1234567およびタイプ/型式418477Uを使用して配置されます。

リモート・システムは自動的に構成されて、生成されたCHAP名および秘密を使用して保護されます。リモート・システムISCSIアダプターのリモートSCSIおよびLANインターフェースが構成されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

NTA1007

ネットワーク・サーバー&1はオフに構成変更されていなければなりません。

NTA100E

WINDOWSのオンまたはオフへの構成変更が正常に行なわれていません。

NTA1013

ネットワーク・サーバー導入が成功していません。

NTA1024

サーバー&1に割り当てられた記憶スペースが抜けているか、損傷しているか、あるいは無効です。

NTA1030

内部エラーが起こった。

トップ

DLFMの初期化 (INZDLFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DLFM初期設定(INZDLFM)コマンドは、開始されるデータ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)を準備し、DLFMによって使用されるデータベース・ファイルから情報を消去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLEARDB	既存のデータベースの消去	<u>*LNKSTS</u> , *ALL	オプション、位置 1

[トップ](#)

既存のデータベースの消去 (CLEARDB)

消去するデータベースを指定します。

*LNKSTS

データ・リンクのリンク状況が入っているデータベース・ファイルが消去されます。登録済み接頭部およびホスト・データベース名が入っているデータベース・ファイルは消去されません。

- *ALL** データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)によって使用されるすべてのデータベース・ファイルが消去されます。

[トップ](#)

例

データ・リンク・ファイル・マネージャーの初期設定および消去

```
INZDLFM CLEARDB(*ALL)
```

このコマンドは、データ・リンク・ファイル・マネージャーを初期設定し、既存のデータのすべてのデータベース・ファイルを消去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3168

データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)コマンドが正しく実行されませんでした。

[トップ](#)

配布待ち行列の初期設定 (INZDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列初期設定(INZDSTQ)コマンドは、配布待ち行列およびその待ち行列上の項目の状況をリセットします。このコマンドでは、また、オプションで待ち行列上のすべての配布が消去されます。このコマンドは、指定された待ち行列の通常部分と高優先順位部分の両方に適用されます。

重要:配布待ち行列を初期化すると、このコマンドの実行時に行われていた配布の状況によって、ネットワーク内で配布が失われたり、重複したりすることがあります。

配布待ち行列の初期設定では、次のことが行なわれます。

- SNADS (システム・ネットワーク体系(SNA)配布サービス) 送信機能のジョブが待ち行列について活動状態であった場合には、そのジョブは終了させられます。このジョブの取り消しは即時に有効となります。送信されていた配布待ち行列は中断されます。
- 待ち行列タイプがSYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)待ち行列タイプであり、受信先のジョブがこの接続について活動状態であった場合には、そのジョブは終了させられます。このジョブの取り消しは即時に有効となります。部分的に受信された配布は、すべて破棄されます。
- 配布待ち行列が消去される場合に、その待ち行列上のすべての配布は、**待ち行列項目の消去プロンプト** (CLEARパラメーター) に指定された通りに削除されます。
- 待ち行列が消去されない場合には、その待ち行列上の状況が「保留中」でない配布は「作動可能」にセットされます。状況が「保留中」である配布は、保留中のまま残されます。
- 待ち行列状況は、待ち行列が「保留中」状況でないかぎり「作動可能」にセットされます。
- QSNADSシステムが活動状態である場合には、QSNADSサブシステムを開始するために使用されるのと同じ規則に従って、待ち行列についてSNADS送信側機能のジョブが投入されます。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。**配布待ち行列プロンプト** (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
CLEAR	待ち行列項目の消去	*NO, *YES, *PURGE	オプションル

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

初期設定する配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、配布サービス構成(CFGDSTSRV)または配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して、前に構成されていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

待ち行列項目の消去 (CLEAR)

待ち行列上の配布が削除されるかどうかを指定します。

重要: *PURGEの値を使用すると、配布が失われて追跡できなくなります。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 待ち行列上の配布は削除されません。

***YES** 待ち行列上の配布が削除されます。削除された各配布が記録され、配布の発信元から通知が要求されていた場合には、その発信元または配布に指定された報告書の宛先に通知が送られます。

注: 配布についての情報を発信元へ報告し戻すためには、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)の状況配布および配布報告書が使用されます。状況報告書の配布の結果として別の状況報告書が配布されることはありません。状況報告書の配布が削除された場合には、通知は送られません。

***PURGE**

待ち行列上の配布が削除されます。削除された配布は記録されず、発信元または配布に指定された報告書の宛先に通知は送られません。

トップ

例

例1: 配布待ち行列の初期化

```
INZDSTQ DSTQ('SYSTEMA APPN')
```

セントラル・サイトの管理者がシステム'SYSTEMA APPN'の接続情報を変更しようとしています。このコマンドは、配布待ち行列変更(CHGDSTQ) コマンドで検出されるエラー条件を避けるように待ち行列を初期化します。待ち行列上の配布は削除されません。

例2: 配布待ち行列の初期化および消去

344 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド ENDJOB (ジョブ終了) での開始

```
INZDSTQ DSTQ('ERRORQ') CLEAR(*YES)
```

このコマンドは、経路指定エラーとなった配布のリポジトリとして使用される配布待ち行列ERRORQを消去します。削除される配布がログされて、配布の発信元に通知されます。

例3: 配布待ち行列の初期化およびパージ

```
INZDSTQ DSTQ('TESTQ') CLEAR(*PURGE)
```

このコマンドは、新しいバッチ・アプリケーションのテストに使用される配布待ち行列TESTQを消去します。配布は削除されますがログされず、発信元にも通知されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

NWS構成の初期設定 (INZNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NWS構成の初期設定 (INZNWSCFG)コマンドは、各種のサービス・プロセッサ・パラメーターが変更されるか、あるいは使用不可とする必要がある場合に、サービス・プロセッサ(*SRVPRC)のネットワーク・サーバー構成を初期化またはリセットします。

制約事項:

- このコマンドは、共通認可(*EXCLUDE)付きで出荷されます。このコマンドの出荷時には、権限が機密保護担当者だけに与えられます。機密保護担当者は、このコマンドの使用を他のユーザーに認可することができます。
- このコマンドを使用するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, 定位置 1
OPTION	処理オプション	*INIT, *CHGSPAUT, *REGEN, *SYNC	必須, 定位置 2
SPAUT	SP認証	単一値: *DFT その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: ユーザー名	文字値	
	要素 2: ユーザー・パスワード	文字値	

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

この*NWSCFGオブジェクトは、NWS構成の作成 (CRTNWSCFG)コマンドの**構成タイプ (TYPE)**パラメーターに*SRVPRCを指定して作成されていなければなりません。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

名前 処理するサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成を指定してください。

[トップ](#)

処理オプション (OPTION)

サービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成で実行するオプションを指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

***INIT** 新規サービス・プロセッサを初期化します。

注: このオプションは、新規システムにサービスの提供が開始されるような時までを決して構成されていないサービス・プロセッサ、あるいはサービス・プロセッサのフィールドの置き換えが行われていたサービス・プロセッサを構成するために使用されます。

注: 対応するCRTNWSCFGコマンドにINZSP(*NONE)が指定されていない限り、**SP認証 (SPAUT)**パラメーターに新規ユーザー名およびパスワードを指定しなければなりません。

***CHGSPAUT**

サービス・プロセッサのユーザー名およびパスワードを、**SP認証 (SPAUT)**パラメーターに指定された新規の値に変更します。

***REGEN**

サービス・プロセッサが自己署名証明書を再生成するように要求します。このオプションは、サービス・プロセッサの証明書が失効した場合、あるいは証明書の有効期限前に新規証明書またはパスワードが必要になった場合に使用されます。

注: このオプションが有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにINZSP(*AUTO)が指定されている場合だけです。

注: 対応するCRTNWSCFGコマンドにINZSP(*NONE)が指定されていない限り、**SP認証 (SPAUT)**パラメーターに新規パスワードを指定しなければなりません。

***SYNC**

サービス・プロセッサからの自己署名証明書を同期化します。このオプションは、複数のサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成が同じシステムに使用されているか、あるいはサービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成がバックアップから復元されて、サービス・プロセッサの証明書を同期化する必要がある場合に使用されます。このオプションを実行するためには、サービス・プロセッサの現行ユーザー名およびパスワードを**SP認証(SPAUT)**パラメーターに指定しなければなりません。

トップ

SP認証 (SPAUT)

サービス・プロセッサのユーザー名およびパスワードを指定します。これは、サービス・プロセッサを認証および保護するために使用されます。

注: *DFT値が有効なのは、対応するCRTNWSCFGコマンドにINZSP(*NONE)が指定された場合だけです。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

単一値

***DFT** 省略時のサービス・プロセッサのユーザーIDおよびパスワードが使用されます。

要素1: ユーザー名

文字ストリング

サービス・プロセッサを所有するホスト構成を表す名前を指定してください。リモート・システムのネットワーク・サーバー構成名を使用することをお勧めします。複数のリモート・システムのネットワーク・サーバー構成が同じサービス・プロセッサを異なる時間に使用する場合は、それぞれの構成に同じユーザー名およびパスワードの含まれている必要があります。

要素2: ユーザー・パスワード

文字ストリング

サービス・プロセッサのパスワードを指定してください。パスワードは、少なくとも5文字の長さで、少なくとも1つの英字と1つの数字またはシンボリック文字が含まれていなければなりません。

[トップ](#)

例

例1: サービス・プロセッサ証明書の再生成

```
INZNWSCFG NWSCFG(MYCONFIG)
          OPTION(*REGEN)
          SPAUT(USERNAME PASSWORD)
```

このコマンドは、リモート・システムのサービス・プロセッサ証明書を再生成してから、ユーザー名およびパスワードを変更します。

例2: サービス・プロセッサのユーザー名およびパスワードの変更

```
INZNWSCFG NWSCFG(MYCONFIG)
          OPTION(*CHGSPAUT)
          SPAUT(USERNAME PASSWORD)
```

このコマンドは、サービス・プロセッサを保護するために使用されるユーザー名およびパスワードを変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF0910

システムに対してパスワードが正しくない。

CPF96CB

ネットワーク・サーバー構成&1が見つかりません。

CPF96CD

ネットワーク・サーバー構成タイプ&2が無効です。

CPF96CE

パスワードが前の値と一致しています。

CPF96CF

ネットワーク・サーバー構成&1の処理中にエラー。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

光ディスク初期設定 (INZOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク初期設定(INZOPT)コマンドは光ディスク・ボリュームを初期設定します。初期設定される光ディスク・ボリュームのタイプによっては、この操作の完了に30分を要する場合があります。既存の光ディスク・ボリュームが再び初期設定されると、既存のすべての情報が失われます。

制約事項:ボリュームを保護している権限リストが光ディスク媒体ライブラリー装置に入っている場合には、それに対する*ALL 権限が必要です。ボリュームを保護している権限リストが光ディスク装置に入っている場合には、それに対する *CHANGE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム識別コード	文字値, <u>*MOUNTED</u>	オプションル, キー, 定位置 1
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, <u>*VOL</u>	オプションル, 定位置 2
DEV	装置	名前	オプションル
THRESHOLD	ボリューム満杯しきい値	1-100, <u>*CALC</u>	オプションル
CHECK	活動ボリューム検査	<u>*NO</u> , <u>*YES</u>	オプションル
ENDOPT	媒体の終わりオプション	<u>*LEAVE</u> , <u>*UNLOAD</u>	オプションル
CLEAR	消去	<u>*NO</u> , <u>*YES</u>	オプションル
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプションル
TYPE	ボリューム・タイプ	<u>*PRIMARY</u> , <u>*BACKUP</u>	オプションル
CCSID	コード化文字セットID	<u>*CALC</u> , 500, 850	オプションル
MEDFMT	媒体の形式	<u>*MEDTYPE</u> , *HPOFS, *UDF	オプションル

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

初期設定しようとしている光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

*MOUNTED

指定された装置 (DEVパラメーター) にマウントされたボリュームが初期設定されます。

ボリュームID

初期設定する光ディスク・ボリュームのIDを指定してください。

[トップ](#)

新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

光ディスク・ボリュームが初期設定された後でそのボリュームのIDを指定します。このIDには、英字(AからZ),数字(0から9),ハイフン(-),下線(_)またはピリオド (.)のみ含まれていなければなりません。最初の文字は英字または数字でなければならず、IDはブランクを含むことができません。

***VOL** 新しいボリュームIDは古いボリュームIDと同じになります。

新しいボリュームID

新しいボリュームIDを指定してください。

[トップ](#)

装置 (DEV)

初期化するボリュームが入っている光ディスク装置を指定します。このパラメーターは、VOL(*MOUNTED)が指定された時だけ必要です。装置を光ディスク媒体ライブラリー装置とすることはできません。

光ディスク装置

初期設定されるボリュームが入っている光ディスク装置の名前。

[トップ](#)

ボリューム満杯しきい値 (THRESHOLD)

ボリュームが満杯と見なされるまで使用するボリューム上のスペースのパーセンテージを指定します。このフィールドは、媒体形式が*HPOFSの場合にのみ使用されます。その他の媒体形式の場合には、このフィールドは無視され、しきい値は省略時の値として100パーセントが使用されます。

*CALC

システムは、媒体形式およびボリューム・タイプに基づいて、使用するボリュームのパーセンテージを計算します。

- 媒体形式が*HPOFSでボリューム・タイプが*PRIMARYの場合、しきい値は95パーセントです。
- 媒体形式が*HPOFSでボリューム・タイプが*BACKUPの場合、しきい値は99パーセントです。
- 媒体形式が*UDFの場合、しきい値は100パーセントです。

ボリューム全体のしきい値

ボリュームのしきい値パーセントを指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

注: ボリューム・タイプが*BACKUPの場合には、このパラメーターは無視され、ボリューム全体のしきい値は99パーセントに設定されます。

媒体形式が*UDFの場合には、このパラメーターは無視され、ボリューム全体のしきい値は100パーセントに設定されます。

[トップ](#)

活動ボリューム検査 (CHECK)

光ディスク・ボリュームが初期設定されたかをシステムが検査するかどうかを指定します。

- *YES** システムは光ディスク・ボリュームが初期設定されたかどうかを検査します。ボリュームが初期設定されている場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。
- *NO** システムは光ディスク・ボリュームが初期設定されたかどうかを検査しません。ボリュームは初期設定され、既存のデータはすべて失われます。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

初期設定コマンドの完了後に媒体を装置からアンロードするかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、媒体が光ディスク・ライブラリー装置の場合には無視されます。

***LEAVE**

初期設定が完了すると、媒体は装置に残されます。

***UNLOAD**

初期設定が完了すると、媒体は装置からアンロードされます。

トップ

消去 (CLEAR)

初期設定プロセス時にボリューム上の既存のデータが消去されるかどうかを指定します。このパラメーターは、ボリューム媒体タイプが*DVD-RAMの時にだけ適用されます。

注: ボリューム媒体タイプが*WORMの場合には、パラメーターの設定にかかわらずボリュームは絶対に消去されません。

ボリューム媒体タイプが*ERASEの場合には、パラメーターの設定にかかわらずボリュームは常に消去されます。

***NO** ボリュームは消去されません。

***YES** 初期設定に先立って、ボリュームから既存のデータが消去されます。

注: このオプションが選択されている場合には、INZOPTコマンドが完了するまで媒体容量によっては、数時間かそれ以上かかります。

トップ

ボリューム・タイプ (TEXT)

光ディスク・ボリュームについて簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ボリューム・タイプ (TYPE)

初期設定される光ディスク・ボリュームのタイプを指定します。ユーザー・アプリケーションの光ディスク・ボリュームは基本ボリュームとして初期設定されます。バックアップ光ディスク・ボリュームには、次の光ディスク・バックアップ・コマンドを使用してのみ書き込むことができます。すなわち、CVTOPTBKU, CPYOPT,およびDUPOPT です。

*PRIMARY

光ディスク・ボリュームは基本ボリュームとして使用されます。

*BACKUP

光ディスク・ボリュームはバックアップ・ボリュームとして使用されます。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

光ディスク・ボリューム、ディレクトリー、ファイル名、およびボリューム記述が書かれる文字セットを指定します。このパラメーターはユーザー・データの書かれる方法には影響しません。ユーザー・アプリケーションは、ファイル・データが書かれる文字セットを決めなければなりません。

*CALC

システムは、媒体形式に基づいての省略時の文字セットを選択します。

500 EBCDIC文字セットおよびコード・ページ500が使用されます。

850 ASCII文字セットおよびコード・ページ850が使用されます。

[トップ](#)

媒体の形式 (MEDFMT)

光ディスク媒体への書き込み時に使用する媒体形式を指示します。2つの媒体形式、すなわち*HPOFS（ハイパフォーマンス光ディスク・ファイル・システム）と*UDF（汎用ディスク形式）があります。2つの媒体形式の完全な比較については、AS/400オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

*MEDTYPE

ボリュームの初期設定に使用する媒体形式をオペレーティング・システムが決定することを指定します。媒体形式は媒体タイプによって決定されます。

- 媒体タイプが*WORMまたは*UNKNOWNの場合には、媒体は*HPOFS形式を使用して初期設定されます。
- 媒体タイプが*ERASEで、以前に初期設定されていない場合には、媒体は*HPOFS形式を使用して初期設定されます。
- 媒体タイプが*ERASEで、以前に初期設定されていない場合には、媒体は以前の媒体形式を使用して初期設定されます。
- 媒体タイプが*DVD-RAMの場合には、媒体は*UDF形式を使用して初期設定されます。

*HPOFS

ボリュームを初期設定するために、ハイパフォーマンス光ディスク・ファイル・システムが使用されます。HPOFSの特性の1つは、削除済みファイルが占有しているスペースが再利用されないことです。削除されたファイルのスペースを回復できる唯一の方法は、媒体を再初期化することです。ただし、媒体を再初期化すると、それ以前に媒体に記録されたデータはすべて失われます。

*UDF 汎用ディスク形式（これはISO 13346標準のサブセット）が、ボリュームを初期設定するために使用されます。UDFの特性の1つは、新規ファイルの作成または既存ファイルの拡張のいずれかに必要なときに、削除済みファイルによって占有されているスペースが再利用される点です。また、UDF媒体形式は許可の使用によるファイルおよびディレクトリー・レベルの機密保護も提供します。

トップ

例

```
INZOPT VOL(VOL01) THRESHOLD(99) CHECK(*N0)
```

このコマンドは、ボリューム・フルしきい値が99%になっている光ディスク・ボリュームVOL01を初期化します。システムはそのボリュームが初期化されているかどうかを調べません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1305

光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。

OPT1315

光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1335

ボリューム&1はすでに初期設定されている。

OPT1342

無効なボリューム識別コードが指定されました。

OPT1345

媒体上に使用可能なフリー・スペースがありません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗した。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1375

光ディスク・ボリューム&1はすでに存在している。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1485

光ディスク・ボリュームの初期設定または名前変更が正常に実行されなかった。

OPT1489

装置&1ではボリューム・パラメーターは使用できない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1540

無効なパラメーターが指定されました。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT2420

光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。

OPT2422

ファイルまたはディレクトリーに対して許可されていません。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

ISERIES ACCESSの初期設定 (INZPCS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ISERIES ACCESS初期設定(INZPCS)コマンドでは、ISERIES ACCESSフォルダーに関する各種の制御文書を作成して、ISERIES ACCESSアプリケーションの操作環境を確立することができます。これらの制御文書には、パーソナル・コンピューター画面に情報を表示するために使用されるコード・ページ・マッピング・テーブル、キーボード・テーブル、およびフォント・ファイルが含まれます。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: INZPCS

*ESCAPE メッセージ

IWS16D0

ISERIES ACCESSの初期設定(INZPCSコマンド) が失敗しました。

IWS16DD

ライブラリー&3のメッセージ・ファイル&2からメッセージ&1を受け取ろうとした時にエラーが起こった。

IWS16E1

INZPCSコマンドが正常に完了した。

IWS16E2

ライブラリー&2のデータ域&1の検索中にエラー。

IWS16E3

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAを作成中にエラー。

IWS16E4

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAの更新中にエラー。

IWS16EE

ライブラリー&2のデータ域&1の削除は正常に実行されなかった。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
KBDTYPE	キーボード・タイプ	*DFT , AGB, AGI, ALI, BGB, BLI, BRB, CAB, CAI, CLB, CSB, DMB, DMI, ESB, FNB, FNI, FAB, FAI, FQB, FQI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICI, INB, INI, IRB, ITB, ITI, JEB, JEI, JKB, JPB, JUB, KAB, KOB, LAB, LTB, LVB, MKB, NCB, NEB, NEI, NWB, NWI, PKB, PLB, PRB, PRI, RCB, RMB, RUB, SKB, SPB, SPI, SQB, SSB, SSI, SWB, SWI, SFI, SGI, TAB, THB, TKB, TRB, UAB, UKB, UKI, USB, USI, VNB, YGI	オプションナル, 定位置 1
ASCII	ASCIIコード・ページ番号	*DFT , 437, 720, 737, 775, 813, 819, 850, 851, 852, 855, 856, 857, 860, 861, 862, 863, 864, 865, 866, 868, 869, 874, 891, 897, 903, 904, 912, 915, 916, 920, 921, 922, 1004, 1006, 1008, 1040, 1041, 1042, 1043, 1046, 1088, 1089, 1098, 1114, 1115, 1124, 1125, 1127, 1129, 1131, 1133	オプションナル
EBCDIC	EBCDICコード・ページ番号	*DFT , 037, 256, 273, 277, 278, 280, 284, 285, 290, 297, 420, 423, 424, 500, 833, 836, 838, 870, 871, 875, 880, 918, 1025, 1026, 1027, 1047, 1097, 1112, 1122, 1123, 1130, 1132	オプションナル
LANGUAGE	言語機能コード	*DFT , *ALL, 2902, 2903, 2904, 2905, 2906, 2909, 2911, 2912, 2913, 2914, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2928, 2929, 2931, 2932, 2933, 2937, 2938, 2939, 2940, 2942, 2950, 2954, 2956, 2957, 2958, 2961, 2962, 2963, 2966, 2972, 2974, 2975, 2976, 2978, 2979, 2980, 2981, 2984, 2986, 2987, 2989, 2992, 2994, 2995, 2996, 2998	オプションナル

[トップ](#)

キーボード・タイプ (KBDTYPE)

使用するキーボード・タイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DFT** 省略時のキーボード・タイプが使用されます。このコマンドが最初に実行される時には、省略時の値はシステム値QKBDTYPEから取られます。このコマンドが2回目以降に実行される時には、省略時の値はこのコマンドの前の実行で指定した値が取られます。

キーボード・タイプ

使用する3文字のキーボード・タイプを指定してください。値は文字変換テーブルにリストされます。

文字変換テーブル

ID 言語

AGB オーストリア/ドイツ

AGI オーストリア/ドイツ多国語

ALI アルバニア

BGB ブルガリア

BLI	ベルギー多国語
BRB	ブラジル
CAB	カナダ／フランス語
CAI	カナダ／フランス多国語
CLB	アラビア語 X／基本語
CSB	チェコ共和国
DMB	デンマーク
DMI	デンマーク多国語
ESB	エストニア語
FNB	フィンランド／スウェーデン
FNI	フィンランド／スウェーデン多国語
FAB	フランス(AZERTY)
FAI	フランス(AZERTY)多国語
FQB	フランス(QWERTY)
FQI	フランス(QWERTY)多国語
GKB	ギリシャ語
GNB	ギリシャ語
HNB	ハンガリー
ICB	アイスランド
ICI	アイスランド多国語
INB	インターナショナル
INI	インターナショナル多国語
IRB	イラン（ペルシャ語）
ITB	イタリア
ITI	イタリア多国語
JEB	日本語（英語）
JEI	日本語（英語）多国語
JKB	日本語（漢字）
JPB	日本語英数小文字拡張
JUB	日本語（米語基本）
KAB	日本語（カタカナ）
KOB	韓国
LAB	ラオス語
LTB	リトアニア語
LVB	ラトビア語
MKB	マケドニア

NCB	ヘブライ語
NEB	オランダ
NEI	オランダ多国語
NWB	ノルウェー
NWI	ノルウェー多国語
PKB	パキスタン語(URDU)
PLB	ポーランド
PRB	ポルトガル
PRI	ポルトガル多国語
RCB	中国語（簡体字）
RMB	ルーマニア
RUB	ロシア
SKB	スロバキア
SPB	スペイン
SPI	スペイン多国語
SQB	セルビア（キリル語）
SSB	スペイン語圏
SSI	スペイン語圏多国語
SWB	スウェーデン
SWI	スウェーデン多国語
SFI	スイス／フランス多国語
SGI	スイス／ドイツ多国語
TAB	中国語（繁体字）
THB	タイ（言語2924と一緒にのみ使用される）
TKB	トルコ（QWERTY）
TRB	トルコ(F)
UAB	ウクライナ語
UKB	英国
UKI	英国多国語
USB	米国／カナダ
USI	米国／カナダ多国語
VNB	ベトナム語
YGI	前ユーゴスラビアの言語（ラテン語）

[トップ](#)

ASCIIコード・ページ番号 (ASCII)

使用するASCIIコード・ページ番号を指定します。

注：2バイト言語に対してINZPCSコマンドを実行している場合には、この言語の1バイト・コード・ページを使用してください。INZPCSは1バイト・コード・ページを処理しさえすればよいことになります。2バイト・コード・ページ・サポートは、INZPCSを使用しなくても使用可能です。

考えられる値は、次の通りです。

***DFT** 省略時のコード・ページ番号が使用されます。このコマンドが最初に実行される時には、キーボード・タイプUSBおよびUSIの省略時の値は437で、その他のキーボード・タイプの省略時の値はほとんどが850です。このコマンドが2回目以降に実行される時には、省略時の値はこのコマンドの前の実行で指定した値が取られます。

コード・ページ番号

使用するASCIIコード・ページ番号を指定してください。

[トップ](#)

EBCDICコード・ページ番号 (EBCDIC)

使用するEBCDIC（またはホスト）コード・ページ番号を指定します。

注：2バイト言語に対してINZPCSコマンドを実行している場合には、この言語の1バイト・コード・ページを使用してください。INZPCSは1バイト・コード・ページを処理しさえすればよいことになります。2バイト・コード・ページ・サポートは、INZPCSを使用しなくても使用可能です。

***DFT** 省略時のシステム・コード・ページ番号が使用されます。このコマンドが最初に実行される時には、省略時の値はシステム値QCHRIDのコード・ページ部分から取り出されます。このコマンドが2回目以降に実行される時には、省略時の値はこのコマンドの前の実行で指定した値が取られません。

コード・ページ番号

使用するEBCDIC（またはホスト）ページ番号を指定してください。

[トップ](#)

言語機能コード (LANGUAGE)

処理する2次言語の言語機能識別コード(ID)を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DFT** ISERIES ACCESSの1次言語が処理されます。

言語機能コード

処理する言語の言語機能コードを指定します。言語機能識別名テーブルに値がリストされます。

言語機能識別コード・テーブル

ID	言語
2902	エストニア語

- 2903 リトアニア語
- 2904 ラトビア語
- 2905 ベトナム語
- 2906 ラオ語
- 2909 ベルギー英語
- 2911 スロベニア語
- 2912 クロアチア語
- 2913 マケドニア語
- 2914 セルビア語
- 2922 ポルトガル語
- 2923 オランダ語
- 2924 英語
- 2925 フィンランド語
- 2926 デンマーク語
- 2928 フランス語
- 2929 ドイツ語
- 2931 スペイン語
- 2932 イタリア語
- 2933 ノルウェー語
- 2937 スウェーデン語
- 2938 英語大文字/DBCS
- 2939 ドイツ語-MNCS
- 2940 フランス語-MNCS
- 2942 イタリア語-MNCS
- 2950 英語大文字
- 2954 アラビア語
- 2956 トルコ語
- 2957 ギリシャ語
- 2958 アイスランド語
- 2961 ヘブライ語
- 2962 日本語(DBCS)
- 2963 ベルギー・オランダ語
- 2966 ベルギー・フランス語
- 2972 タイ語
- 2974 ブルガリア語
- 2975 チェコ語
- 364 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド ENDJOB (ジョブ終了) での開始

- 2976 ハンガリー語
- 2978 ポーランド語
- 2979 ロシア語
- 2980 ブラジル・ポルトガル語
- 2981 カナダ・フランス語
- 2984 英語U/L (DBCS)
- 2986 韓国語(DBCS)
- 2987 中国語 (繁体字) (DBCS)
- 2989 中国語 (簡体字) (DBCS)
- 2992 ルーマニア語
- 2994 スロバキア語
- 2995 アルバニア語
- 2996 ポルトガル語-MNCS
- 2998 ペルシャ語

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

IWS16D0

ISERIES ACCESSの初期設定(INZPCSコマンド) が失敗しました。

IWS16DD

ライブラリー&3のメッセージ・ファイル&2からメッセージ&1を受け取ろうとした時にエラーが起こった。

IWS16E1

INZPCSコマンドが正常に完了した。

IWS16E2

ライブラリー&2のデータ域&1の検索中にエラー。

IWS16E3

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAを作成中にエラー。

IWS16E4

ライブラリーQUSRSYSのデータ域QINZPCSDAの更新中にエラー。

IWS16EE

ライブラリー&2のデータ域&1の削除は正常に実行されなかった。

[トップ](#)

物理ファイル・メンバー初期設定 (INZPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー初期設定(INZPFM)コマンドは、物理ファイルのメンバー内のレコードを、指定されたタイプのレコード（省略時のレコードまたは削除済みレコード）に初期設定します。初期設定されたメンバーが空である場合には、レコードが追加され、指定されたタイプに初期設定されます。メンバーが空でない場合には、指定されたタイプのレコードがメンバーに追加されます。指定された合計レコード数に達するまで、必要な数だけレコードが追加されます。

制約事項

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブでは、このコマンドは*SNAタイプの分散データ管理機能(DDM)ファイルに対してスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	物理ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 物理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST, *LAST	オプション, 定位置 2
RECORDS	レコードの初期設定	*DFT, *DLT	オプション, 定位置 3
TOTRCDS	レコードの合計数	1-4294967288, *NXTINCR	オプション

[トップ](#)

物理ファイル (FILE)

初期設定されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 物理ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

初期設定されるファイル・メンバーを指定します。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

***LAST**

指定された物理ファイルの最後のメンバーが初期設定されます。

名前 初期設定される物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

レコードの初期設定 (RECORDS)

指定されたメンバーに初期設定または追加するレコードのタイプを指定します。そのメンバー内のレコードは、省略時のレコードまたは削除済みレコードとして初期設定されます。

***DFT** メンバー内のレコードは省略時のレコードとして初期設定されます。DDS (DFTキーワード) に省略時の値が指定されているフィールドがあった場合には、そのフィールドは指定された省略時の値に初期設定されます。そうでない場合には、数値フィールドはすべてゼロに初期設定され、文字フィールドはすべてブランクに初期設定されます。

***DLT** メンバー内のレコードは削除済みレコードとして初期設定されます。これらのレコードはアクセスすることはできず、単にファイル内に位置を占めるだけです。削除済みレコードは、削除されたスペースを再使用するために変更されます。

[トップ](#)

レコードの合計数 (TOTRCDS)

初期設定後のメンバー内のレコードの合計数を指定します。このパラメーターに指定した値により、ファイルのサイズがファイルの作成時に指定されたサイズより大きくなる場合には、メッセージがシステム操作員のメッセージ待ち行列(QSYSOPR)に送られます。操作員は操作を続行または取り消すことができます。

***NXTINCR**

メンバー中のレコード数は、ファイルを次に追加される割り振り量まで拡張するために増やされます。メンバーが空である場合には、そのメンバーについて指定された初期割り振り量を満たせるだけレコードが追加されます。ファイルの作成時に**メンバー・サイズ(SIZE)**パラメーターに***NOMAX**が指定された場合には、***NXTINCR**は無効です。

1から4294967288

メンバーにもたせたいレコードの合計数を指定してください。メンバー中の既存のレコードの数がすでにこの数を満たしているか、あるいはこの数より大きい場合には、レコードは初期設定されません。その数が指定された数より小さい場合には、指定された合計数と等しくなる十分な数のレコードが初期設定されます。

[トップ](#)

例

```
INZPFM FILE(*CURLIB/INV) TOTRCDS(12000)
```

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー***CURLIB**内の**INV**という名前の物理ファイルの最初のメンバー内に最大12,000個のレコードを初期設定します。メンバー中のレコードの合計数を12,000レコードにする数のレコードだけが追加されます。追加されるレコードは、省略時の様式に初期設定されます。DDS (DFTキーワード) に省略時の値が指定されているフィールドがあった場合には、そのフィールドは指定された省略時の値に初期設定されます。そうでない場合には、数値フィールドはすべてゼロに初期設定され、文字フィールドはすべてブランクに初期設定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3130

メンバー&2はすでに使用中である。

CPF3131

省略時のレコードでメンバー&2を初期設定することはできない。

CPF3132

TOTRCDSパラメーターの値が抜けているか、あるいは小さすぎる。

CPF3133

ライブラリー&3のファイル&1にメンバーがない。

CPF3134

メンバー&2の処理中に参照制約エラー。

CPF3136

コマンドで&3のファイル&1を使用することはできない。

CPF3137

メンバー&2の消去、初期設定、またはコピーの権限がない。

CPF3138

メンバー&2処理中の検査制約エラー。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3141

メンバー&2が見つかりません。

CPF3142

ライブラリー&3にファイル&1が見つからない。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3144

メンバー&2は消去または初期設定されなかった。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3156

ライブラリー&3のファイル&1が使用中である。

CPF3157

トリガーによって要求した操作が妨げられた。

CPF3159

メンバー&2がSTG(*FREE)で保管された。

CPF3160

メンバー&2に対する操作が終了した。項目をジャーナル処理することができません。

CPF3179

&3のDDMファイル&1を消去または初期設定することはできなかった。

CPF3180

メンバー&2は初期設定されなかった。

CPF32CF

分散ファイル・エラー。理由コードは&3です。

CPF32C3

分散ファイル・エラー，レベルIDが一致していない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

トップ

システムの初期設定 (INZSYS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム初期設定(INZSYS)コマンドは、導入プロシージャラーの間に実行される変換を初期設定します。この処理は、ソフトウェア・パッケージが導入された後の最初のIPLの実行中に開始されます。

詳細については、INSTALL, UPGRADE, OR DELETE I5/OS AND RELATED SOFTWARE BOOK (SC41-5120)で入手することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られ、そこからメッセージを表示されるメッセージ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージがシステム操作員に送られます。

メッセージ待ち行列名

メッセージが示されるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** メッセージ待ち行列を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

例

INZSYS

このコマンドは、導入プロシージャー中に実行される変換を初期化します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF372A

INZSYSまたはGO LICPGMが現在別のジョブで実行中である。

CPF90E2

ライブラリー&2の前のリリースのファイル&1にエラーが起こった。

CPF90E3

ライブラリー&2のファイル&1でエラーが起こった。

CPF90E4

システム機能が使用中である。理由コードは&1です。

CPF90E8

ライブラリー&2のファイル&1でエラーが起こった。

CPF90E9

複数の、前のリリースのデータが存在している。

トップ

テープ初期設定 (INZTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

テープ初期設定(INZTAP)コマンドは、テープをシステムで使用できるように初期設定するために使用されます。このコマンドは、標準ラベル・テープ処理のために標準ボリューム・ラベルのテープを初期設定するか、あるいはラベルなしテープ処理のためにラベルのないテープを初期設定するために使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
NEWVOL	新しいボリューム識別コード	文字値, *NONE, *CTGID	オプション, 定位置 2
NEWOWNID	新しい所有者識別コード	文字値, *BLANK	オプション, 定位置 3
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
CHECK	活動ファイルの検査	*YES, *NO, *FIRST	オプション
DENSITY	テープ密度	文字値, *DEVTYPE, *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *FMT3590H, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, *ULTRIUM2, *VXA1, *VXA2, 1600, 3200, 6250	オプション
CODE	コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *UNLOAD	オプション
CLEAR	消去	*NO, *YES	オプション

[トップ](#)

装置 (DEV)

使用するために初期設定するボリュームが入っている装置の名前を指定します。テープまたは媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

新しいボリューム識別コード (NEWVOL)

標準ラベル付きテープとして使用するために初期設定するテープのボリュームIDを指定します。ボリュームIDを指定しなかった場合には、テープはラベルなしテープとして使用されるように初期設定されます。

***NONE**

テープはラベルなしテープとして使用されるように初期設定されます。テープ上の各データ・ファイルの始めと終わり、およびボリューム自身の始めと終わりを示すためにテープ・マークだけが使用されます。

***CTGID**

テープは、標準ラベルつきテープとして初期設定されます。新しい論理ボリュームIDはテープ・カートリッジの外部IDと同じです。ライブラリー装置内の各テープは固有の外部IDを持っていない限りなりません。

文字値 新しいボリュームを識別するために最大6文字を指定してください。IDには英数字(AからZ, ¥, #, @, および0から9)だけを入れなければならず、接頭部または組み込みブランクを持つことはできません。

[トップ](#)

新しい所有者識別コード (NEWOWNID)

ボリューム・ラベルに書き込むテープ所有者のIDを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 テープの所有者を識別する14文字以下を指定してください。14文字より少ない文字が指定された場合には、フィールドが左寄せされ、右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

初期設定するテープの既存のボリュームIDを指定するか、あるいは磁気テープ装置上に現在あるテープを初期設定するように指示します。

注: 指定した装置が媒体ライブラリー装置または仮想テープ装置である場合には、指定するボリュームは、取り付けて使用するカートリッジIDまたは仮想テープ・ボリューム名とする必要があります。

***MOUNTED**

指定されたテープ装置に入っているラベル付きまたはラベルなしのすべてのボリュームが使用できるように初期設定されます。新しいボリュームまたは空のボリュームを使用できるように初期設定するためには、ここに***MOUNTED**を指定し、**活動ファイルの検査プロンプト(CHECK)**パラメーターに***NO**を指定しなければなりません。媒体ライブラリー装置の場合は、使用されるボリュームは、テープ・カテゴリ設定(**SETTAPCGY**)コマンドによってマウントされたカテゴリの次のカートリッジです。仮想テープ装置の場合、使用されるボリュームは現在取り付けられているボリュームであるか、現在取り付けられているボリュームがなければ、イメージ・カタログ内でロード状況になっている次のボリュームが使用されます。

文字値 使用できるように初期設定するラベル付きボリュームのIDを指定してください。このパラメーター値は、すでにラベル付きボリュームであるテープを初期設定するためにしか使用できません。指定

した装置上のテープにここで指定したものと異なるボリュームIDがある場合、あるいはそのテープがラベルなしボリュームの場合には、エラー・メッセージが送られます。

トップ

活動ファイルの検査 (CHECK)

ラベル付きテープ・ボリュームを使用できるように初期設定する前に、活動状態のデータ・ファイルについて検査するかどうかを指定します。指定した装置にラベルなしボリュームがある場合には、このパラメータは無視されます。

***YES** テープ上のすべてのデータ・ファイル・ラベルが検査されます。活動ファイルが見つかった場合には、操作は終了し、エラー・メッセージが送られます。

NO** テープの初期設定は活動ファイルの検査なしで続行されます。新しいボリュームまたは空のボリュームを初期設定するためには、ここにNO**を指定し、**ボリューム識別コードプロンプト**(VOLパラメータ)に***MOUNTED**を指定しなければなりません。

***FIRST**

テープ上の最初のデータ・ファイル・ラベルだけが検査されます。ボリューム上にデータ・ファイルがない場合、あるいは最初のデータ・ファイルが満了している場合には、テープ上の他のファイルの検査は行わずにボリュームが使用のために初期設定されます。最初のデータ・ファイルが満了していない場合には、操作が終了され、エラー・メッセージが送られます。

トップ

テープ密度 (DENSITY)

テープに書き出されるデータの記録形式を指定します。

***DEVTYPE**

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
*FMT3570

3570-CXX
*FMT3570E

3580-001
*ULTRIUM1

3580-002
*ULTRIUM2

3580-003
*ULTRIUM3

3590-BXX
*FMT3590

3590-EXX
*FMT3590E

3590-HXX
*FMT3590H

3592-J1A
*FMT3592A1

4685-001
*VXA2

6335 *QIC3040

6343 *QIC1000

6344 *QIC2GB

6348 *QIC1000

6349 *QIC2GB

6368 *QIC1000

6369 *QIC2GB

6379 *QIC1000

6380 *QIC2GB

6381 *QIC2DC

6382 *QIC4DC

6383 *QIC5010

6384 *SLR60

6385 *QIC5010

6386 *MLR3

6387 *SLR100

6390 *FMT7GB

63B0 *VRT256K

7207-122
*QIC4DC

7208-002
*FMT2GB

7208-012
*FMT5GB

7208-222
*FMT7GB

7208-342
*FMT20GB

7208-345

*FMT60GB

9348 6250

*CTGTYPE

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

文字値 使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット/インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

*FMT3480

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3490E

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3570

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

*FMT3570E

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

*FMT3590

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3590E

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3590H

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

*FMT3592A1

このテープの形式はFMT3592A1です。このデータ形式は3592装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM3**

このテープの形式ULTRIUM3です。これは、標準長のカートリッジに400ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VRT32K**

ボリュームの形式はVRT32Kです。これは、32KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、サポートされるすべてのテープ装置に複製することができます。

***VRT64K**

ボリュームの形式はVRT64Kです。これは、64KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、64KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT240K**

ボリュームの形式はVRT240Kです。これは、240KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、240KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VRT256K**

ボリュームの形式はVRT256Kです。これは、256KBの最大データ・ブロック・サイズを使用して仮想ボリュームにデータを書き込むために使用されます。この形式を使用して書き出されたボリュームは、256KB以上の最大ブロック・サイズをサポートするテープ装置にのみ複製できます。

***VXA1**

このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA2**

このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、ISERIESナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

トップ

コード (CODE)

ボリューム・ラベルが書き出される文字コードを指定します。ラベルの後に書き出される保管データ以外のデータは、すべて同じコードでなければなりません。保管テープ以外のテープ上でコードを混用することはできません。新しいボリューム識別コードプロンプト(NEWVOLパラメーター)で*NONEを指定するか、あるいはボリュームIDを指定しないで、テープをラベルなしテープとして使用するために初期設定しようとする、このパラメーターは無視されます。

*EBCDIC

ボリューム・ラベルは、EBCDICで書き出され、IBM標準ラベルです。追加のデータもすべてEBCDICで書き出さなければなりません。

*ASCII

ボリューム・ラベルは、ASCIIで書き出され、ANSI標準ラベルです。追加のデータもすべてASCIIで書き出さなければなりません。

トップ

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作が終了した後にテープが巻き戻されるだけか、あるいは巻き戻されアンロードされるかどうかを指定します。

*REWIND

操作の終了後にテープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*UNLOAD

テープは、操作の終了後に自動的に巻き戻されてアンロードされます。

トップ

消去 (CLEAR)

初期設定時に、テープから前のすべてのラベルおよびデータが削除されるかどうかを指定します。ボリュームからすべてのデータを消去する必要がある場合には、初期設定ボリューム・ラベルまたはテープ・マーカ一の位置からテープ・マーカの終わりまでスペースが取られます。

***NO** 既存のデータは削除されません。既存のデータが削除されなくても、ボリュームが初期設定された後は、ボリューム上のデータにアクセスすることはできません。

***YES** テープの始めが使用のために初期設定された後、そのテープ上の残りのデータは削除されます。

*YES値が必要なのは、旧データに関する機密保護がある場合だけです。*YESが選択された場合には、初期設定の操作に長い時間かかることがあります。

トップ

例

```
INZTAP  DEV(TAPE1) NEWVOL(T00100) CHECK(*NO) CODE(*ASCII)
        ENDOPT(*UNLOAD)
```

このコマンドは、ASCII文字コードを使用して、TAPE1という名前のテープ装置上のボリュームを初期設定します。その新規ボリュームIDは、そこに有効なボリュームIDまたは終了していないファイル（活動ワールド）が含まれているかどうかにかかわらず、T00100になります。ボリュームが初期設定されると、テープは巻き戻されて、アンロードされます。この新規ボリューム・ラベルより前のデータは、いずれも削除されませんが、アクセスできなくなります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF67A0

ボリュームIDがカートリッジIDと一致しない。

CPF6702

装置&1のボリュームの処理中にエラーが起こった。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6715

装置&1のテープの始めにエラーが起こった。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6720

装置&1で間違ったボリューム&2が見つかった。

CPF6721

装置&1はテープ装置でない。

CPF6722

装置&1にテープの終わりが見つかった。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF6750

装置&1でNEWVOL(*NONE)は正しくない。

CPF6751

装置&4でロードの障害が起こった。

CPF6754

ボリューム&2に活動ファイル&4が見つかった。

CPF6760

装置&1の準備ができていない。

CPF6762

装置&1のカートリッジが正しくないタイプである。

CPF6763

装置&1のカートリッジが正しくないタイプである。

CPF6768

装置&1のボリュームは書き込み保護されている。

CPF676B

装置&4のボリュームは書き込み保護されている。

CPF6772

装置&1のボリュームを処理することができない。

CPF6774

新しいボリューム&2は標準外ラベル・テープである。ボリュームは準備されません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

繰り返し (ITERATE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

反復(ITERATE)コマンドは、関連したDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORループ内のコマンドの処理を中断し、関連したENDDOコマンドに制御を渡します。DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORの条件付き部分が評価され、それに従って処理が再開されます。

オプションのコマンド・ラベルを指定すると、処理は関連したDOコマンド・グループのENDDOにスキップします。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンド・グループ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDLBL	コマンド・ラベル	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション, 定位置 1

トップ

コマンド・ラベル (CMDLBL)

ラベルはITERATEコマンドと同じプログラム内にあり、しかも活動状態のDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORグループのラベルでなければなりません。ラベル名を指定するために、CL変数名を使用することはできません。

*CURRENT

このITERATEコマンドを囲む最も内側のループで繰り返します。

単純名 繰り返す囲んでいるDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドのラベル名を指定してください。

トップ

例

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
:
DOUNTIL COND(&INT *GT 100)
: (CLコマンドのグループ)
IF COND(&NAME *EQ *NONE) THEN(ITERATE)
CHGVAR VAR(&INT) VALUE(&INT + 1)
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO /* ITERATEがここに制御権を渡す*/
```

IFコマンドが&NAMEの値を*NONEに等しいと評価するたびに、ITERATEが処理されます。制御権はENDDOコマンドに移り、関連したDOUNTILに指定された条件が評価されます。&INTの値が100以下であれば、再びループが処理されます。&INTの値が101以上であると、制御権は関連したENDDOに移ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

LEAVE (LEAVE)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

LEAVE (LEAVE)コマンドは、関連したDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORループ内のコマンドの処理を終了し、関連したENDDOコマンドの後にある最初のコマンドに制御を渡します。

次のコマンド順序はこのフローを示します。

```
L1:    DOWHILE &LGL1
      ...
L2:    DOWHILE &LGL2
      ...
      IF &LGL3 (LEAVE CMDLBL(L1))
      IF &LGL4 LEAVE
      ...
ENDDO  /* &LGL4が真に評価された場合はここに*/
      ...
ENDDO  /* &LGL3が真に評価された場合はここに*/
      ...
```

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは、DOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンド・グループ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMDLBL	コマンド・ラベル	単純名, <u>*CURRENT</u>	オプション, 位置 1

トップ

コマンド・ラベル (CMDLBL)

ラベルはLEAVEコマンドと同じプログラム内にあり、しかも活動状態のDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORグループのラベルでなければなりません。ラベル名を指定するために、CL変数名を使用することはできません。

*CURRENT

このLEAVEコマンドを囲む最も内側のループをそのままにします。

単純名 終了する囲んでいるDOWHILE, DOUNTIL,またはDOFORコマンドのラベル名を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:単純DOFORループの中断

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
:
DOFOR VAR(&INT) FROM(0) TO(10)
: (CLコマンドのグループ)
IF COND(&NAME *EQ *NONE) THEN(LEAVE)
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO
```

LEAVEコマンドが活動中のDOFORグループの処理を中断し、ENDDOの次のコマンドから処理が続行されます。

例2:ネストされたループで中断

```
DCL VAR(&INT) TYPE(*INT) LEN(2)
DCL VAR(&NAME) TYPE(*CHAR) LEN(10)
DCL VAR(&LGL) TYPE(*LGL) VALUE('1') /*真*/
:
LOOP1: DOFOR VAR(&INT) FROM(0) TO(10)
: (CLコマンドのグループ)
LOOP2: DOUNTIL COND(&LGL)
: (CLコマンドのグループ)
IF COND(&NAME *EQ *NONE) THEN(LEAVE CMDLBL(LOOP1))
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO /* DOUNTIL */
: (CLコマンドのグループ)
ENDDO /* DOFOR */
```

LEAVEコマンドが活動中のDOUNTILおよびDOFORグループの処理を両方とも中断し、DOFORコマンドに対応するENDDOの次のコマンドから処理が続行されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

データ定義リンク／リンク解除 (LNKDTADFN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ定義関係(LNKDTADFN)コマンドは、ディクショナリー、プログラム記述ファイル、または外部記述ファイル内のファイル定義を関係または関係解除します。

制約事項:すでに関係されているファイルは、関係させることができません。しかし、同時に複数のファイルに定義を関係させることができます。

注:ファイル・テキストとファイル定義が同じでない場合には、新しいバージョンの定義が作成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	*LINK, *UNLINK	必須, 定位置 1
FILE	データベース・ファイル	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	オプション
DFN	ファイル定義	名前	オプション
CRTDATE	作成日	日付, *FIRST	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

プログラム記述ファイル、外部記述ファイル、またはファイル定義に対して実行される処置を指定します。

注:外部記述ファイルは関係解除しかできません。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

*LINK

プログラム記述ファイルまたはファイル定義が関係されます。

*UNLINK

プログラム記述ファイル、外部記述ファイル、またはファイル定義が関係解除されます。

データベース・ファイル (FILE)

連係または連係解除するプログラム記述ファイルまたは外部記述ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

使用できるファイルの値は次の通りです。

***ALL** 指定したディクショナリーの定義に連係されたすべてのプログラム記述ファイルが連係解除されます。この値が有効なのは、*UNLINKがオプションプロンプト (OPTIONパラメーター) にも指定され、ディクショナリー名がデータ・ディクショナリープロンプト (DTADCTパラメーター) にも指定された場合だけです。この値は外部記述ファイルには正しくありません。

ライブラリー名/ファイル名

連係または連係解除するデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

データ・ディクショナリー (DTADCT)

プログラム記述ファイルに連係または連係解除するファイル定義を含むディクショナリーの名前を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*LINKが指定されている場合、あるいはデータベース・ファイルプロンプト (FILEパラメーター) に*ALLが指定され、オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*UNLINKが指定されている場合には、名前は必須です。

トップ

ファイル定義 (DFN)

プログラム記述ファイルに連係するファイル定義の名前を指定します。オプションプロンプト (OPTIONパラメーター) に*UNLINKが指定されている場合には、このパラメーターは適用されません。

トップ

作成日 (CRTDATE)

プログラム記述ファイルに連係するファイル定義の作成日を指定します。オプションプロンプト (OPTION パラメーター) に*UNLINKが指定されている場合には、この情報は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*FIRST

指定された定義名を持ち、作成日が一番早いファイル定義が使用されます。

作成日 プログラム記述ファイルに連係するファイル定義の作成日を指定します。

[トップ](#)

例

```
LNKDTADFN  OPTION(*LINK)  FILE(MYLIB/MYFILE)
           DTADCT(MINE)  DFN(MYDEF)
```

このコマンドは、ディクショナリーMINEの定義MYDEFを、ライブラリーMYLIBにあるプログラム記述データベース・ファイルMYFILEにリンクします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2E9B

定義&1が見つからない。

CPF2FE0

ディクショナリー&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF2FE1

ディクショナリー&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF2FE2

ディクショナリー&1は現在使用中である。

CPF2FE3

システム相互参照ファイルにエラーがある。

CPF2FE4

システム相互参照ファイルを使用することはできない。

CPF2F02

ディクショナリー&1の使用は認可されていない。

CPF2F07

ディクショナリー&1にエラーがある。

CPF2F08

辞書&1が見つからない。

CPF2F6A

LNKDTADFNの&3のファイル&2が正しくない。

CPF2F6C

すべてのファイルがリンク解除されなかった。

CPF2F61

&3のファイル&2は現在使用中である。

CPF2F7B

ファイル&2がリンクされなかった。レコード長が等しくない。

CPF2F7C

開始キー位置&1がフィールド&2を分割する。

CPF2F7D

終了キー位置&1がフィールド&2を分割する。

CPF2F7F

&3のファイル&2はすでにリンクされている。

CPF2F76

物理ファイルのファイル定義しかリンクすることができない。

CPF2F77

ファイルがキー付きでなかった。キー付きファイル定義にリンクすることはできません。

CPF2F78

定義&1にエラーがある。

CPF2F79

キー・フィールドが一致していない。

CPF2F80

&3のファイル&2はリンクされていない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

イメージ・カタログのロード/アンロード (LODIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログのロードまたはアンロード(LODIMGCLG)コマンドは、イメージ・カタログおよびそのイメージを仮想装置に関連付けるために使用します。オプション (OPTION)パラメーターに基づいてイメージ・カタログの状況が以下のように変更されます。

*LOAD

これにより、イメージ・カタログの状況は「使用可能」に変わります。「マウント済み」または「ロード済み」状況のすべてのイメージ・カタログ項目は、指定された仮想装置にロードされることとなります。すべてのイメージ・カタログ・ファイルについて、「保管可能」属性が「保管不可」に設定されます。

*UNLOAD

これにより、イメージ・カタログの状況は「使用不能」に変わります。イメージ・カタログのすべての項目が指定された仮想装置から除去されます。すべてのイメージ・カタログ項目について、「保管可能」属性が「保管可能」に設定されます。

仮想装置と関連付けることができるイメージ・カタログは1つだけです。仮想装置と関連したイメージ・カタログがすでにある場合には、OPTION(*UNLOAD)を使用して、現行のイメージ・カタログをアンロードすることができます。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログをロードするには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. イメージ・カタログに対する*USE権限。
 3. 仮想装置記述に対する*USE権限。
 4. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 5. WRTPTC(*ALL)またはWRTPTC(*NONE)が指定された場合には、次の権限が必要です。
 - a. イメージ・カタログに対する*CHANGE権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
DEV	仮想装置	名前	必須, 定位置 2
OPTION	オプション	*LOAD, *UNLOAD	オプション, 定位置 3
WRTPTC	書き込み保護	*DFT, *ALL, *NONE	オプション

イメージ・カタログ (IMGCLG)

ロードまたはアンロードするイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

仮想装置 (DEV)

イメージ・カタログをロードまたはアンロードする装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 仮想装置の名前を指定します。

トップ

オプション (OPTION)

イメージ・カタログをロードまたはアンロードするかどうかを指定します。

***LOAD**

イメージ・カタログは仮想装置にロードされます。

***UNLOAD**

イメージ・カタログは仮想装置からアンロードされます。

トップ

書き込み保護 (WRTPTC)

各カタログ項目に割り当て値を基にして書き込み保護するか、あるいはイメージ・カタログをロードする時にすべてのカタログ項目を強制的に書き込み保護するかを指定します。そのイメージ・カタログを装置からアンロードする時に、各カタログ項目の書き込み保護値はその前の値に戻されます。

このパラメーターが有効なのは、パラメーターOPTION(*LOAD)が指定された場合だけです。パラメーターOPTION(*UNLOAD)が指定されると、WRTPTCパラメーターは無視されます。

***DFT** イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、各イメージ・カタログ項目の現在の書き込み保護値が使用されます。

従属および参照イメージ・カタログの省略時の書き込み保護値は固有であり、次のように定義されます。

1. 光ディスク従属イメージ・カタログ

- イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオンに設定されます。

2. 光ディスク参照イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオンに設定されます。
3. テープ従属イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオンに設定されます。
4. テープ参照イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目で現行の書き込み保護値が使用されます。

***ALL** イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目が書き込み保護されます。

***NONE**

イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目で書き込み保護値がオフに設定されます。

従属および参照イメージ・カタログの***NONE**書き込み保護値は固有であり、次のように定義されます。

1. 光ディスク従属イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオンに設定されます。
2. 光ディスク参照イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオンに設定されます。
3. テープ従属イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオンに設定されます。
4. テープ参照イメージ・カタログ
 - イメージ・カタログが仮想装置にロードされる時に、すべての項目でその書き込み保護値がオフに設定されます。

トップ

例

例1:イメージ・カタログをロード

```
LODIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DEV(OPTVRT01)  OPTION(*LOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**を装置**OPTVRT01**にロードします。各カタログ項目の現行値に基づいて、書き込み保護が設定されます。この例は、**MYCLG**が従属カタログまたは参照カタログでないことを前提とします。

例2:イメージ・カタログを読み取り専用としてロード

```
LODIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DEV(OPTVRT01)  OPTION(*LOAD)
           WRTPTC(*ALL)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**を装置**OPTVRT01**にロードします。すべてのカタログ項目の書き込み保護が、オンに設定されています。

例3:イメージ・カタログをアンロード

```
LODIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DEV(OPTVRT01)  OPTION(*UNLOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**を装置**OPTVRT01**からアンロードします。

例4:テープ・タイプ・イメージ・カタログをロード

```
LODIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DEV(TAPVRT01)  OPTION(*LOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**を装置**TAPVRT01**にロードします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC10

イメージ・カタログ&1が装置&2にロードされなかった。

CPFBC11

イメージ・カタログ&1が装置&2からアンロードされなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

IMGCLG項目のロード/アンロード/マウント (LODIMGCLGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ項目のロード/アンロード/マウント(LODIMGCLGE)コマンドは、イメージ・カタログ中のイメージ・カタログ項目の状況を変更するために使用されます。オプション (OPTION)パラメーターに基づいてイメージ・カタログ項目の状況が以下のように変更されます。

*LOAD

これにより、イメージ・カタログ項目の状況は「ロード済み」に変わります。

*UNLOAD

これにより、イメージ・カタログ項目の状況は「アンロード済み」に変わります。

*MOUNT

これにより、イメージ・カタログ項目の状況は「マウント済み」に変わります。

「マウント済み」の状況にできるイメージ・カタログ項目は1つだけです。OPTION(*MOUNT)を指定した場合には、「マウント済み」状況の既存の項目は「ロード済み」に変更されます。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログ項目をロードするには、次の権限が必要です。
 1. ライブラリーQUSRSYSに対する実行(*EXECUTE)権限。
 2. ロードまたはアンロードしているイメージ・カタログに対する*USE権限。
 3. 仮想装置記述に対する*USE権限。
 4. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
- 次のパラメーターがサポートされるのは、テープ・タイプのイメージ・カタログの場合だけです。
 1. イメージ・カタログ・ボリューム(VOL)

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
IMGCLGIDX	イメージ・カタログ索引	1-256, *FIRST, *LAST, *NEXT, *VOL	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*MOUNT, *LOAD, *UNLOAD	オプション, 定位置 3
VOL	イメージ・カタログ・ボリューム	文字値	オプション

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

使用するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

[トップ](#)

イメージ・カタログ索引 (IMGCLGIDX)

その状況を変更するイメージ・カタログ項目の索引番号を指定します。

***FIRST**

イメージ・カタログ中の最初のイメージ・カタログ項目。

***LAST**

イメージ・カタログ中の最後のイメージ・カタログ項目。

***NEXT**

「ロード済み」状況の次のイメージ・カタログ項目がマウントされます。この値を使用できるのは、OPTION(*MOUNT)が指定された場合だけです。

***VOL** ボリューム名を指定することによってその項目をロード/アンロード/マウントするように指定します。

1から256

使用したいイメージ・カタログ索引番号を指定します。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

イメージ・カタログ項目の新しい状況を指定します。

***MOUNT**

イメージ・カタログ項目は、イメージ・カタログにマウントされます。

***LOAD**

イメージ・カタログ項目は、イメージ・カタログにロードされます。

***UNLOAD**

イメージ・カタログ項目は、イメージ・カタログからアンロードされます。

[トップ](#)

イメージ・カタログ・ボリューム (VOL)

アンロード、ロード、またはマウントする項目のボリューム名を指定します。

名前 アンロード、ロード、またはマウントする項目のボリューム名を指定します。光ディスク・イメージ・カタログでは、指定されたボリュームと一致する最初のボリュームでその状況が変更されま
す。

トップ

例

例1:イメージ・カタログ項目をマウント

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(*FIRST)  OPTION(*MOUNT)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**にある最初のイメージ・カタログ項目をマウントします。イメージは、マウントされると、ロード済み状況に変更されます。

例2:イメージ・カタログ項目をロード

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(5)  OPTION(*LOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**にある索引番号**5**と関連したイメージ・カタログ項目をロードします。

例3:イメージ・カタログ項目をアンロード

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(MYCLG)  IMGCLGIDX(*LAST)  OPTION(*UNLOAD)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG**にある最後のイメージ・カタログ項目をアンロードします。

例4:ボリュームによるテープ・イメージ・カタログ項目のマウント

```
LODIMGCLGE  IMGCLG(TAPECLG)  IMGCLGIDX(*VOL)  
              VOL(TAP002)  OPTION(*MOUNT)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**TAPECLG**のボリューム**TAP002**と関連したテープ・イメージ・カタログ項目をマウントします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC46

索引&1のカタログ項目がロードされなかった。

CPFBC47

索引&1のカタログ項目がアンロードされなかった。

CPFBC48

索引&1のカタログ項目がマウントされなかった。

CPFBC0D

索引&1のカタログ項目がロードされなかった。

CPFBC0E

索引&1のカタログ項目がアンロードされなかった。

CPFBC0F

索引&1のカタログ項目がマウントされなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

光ディスク・ファームウェアのロード (LODOPTFMW)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・ファームウェアのロード(LODOPTFMW)コマンドは、光ディスク装置ファームウェアを、光ディスク・ハードウェアサービス・マネージャーによってアクセスできるステージング域にロードします。ファームウェアを装置にロードするには、光ディスク・ハードウェア・サービス・マネージャーを使用する必要があります。

制約事項:

1. このコマンドは*EXCLUDE共通認可で出荷されます。
2. アクティブの光ディスク装置は必要ですが、それがファームウェアの宛先装置である必要はありません。システムがオンに構成変更された装置を検出します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMSTMF	FROMストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	文字値	必須, 定位置 2
MODEL	装置型式	文字値	必須, 定位置 3

[トップ](#)

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)

キャッシュに読み込むファームウェアが入っているストリーム・ファイルを指定します。

[トップ](#)

装置タイプ (TYPE)

ファームウェアが結果的にロードされる光ディスク媒体のライブラリー・タイプを指定します。

[トップ](#)

装置型式 (MODEL)

ファームウェア用のモデルを指定します。

[トップ](#)

例

例1: 媒体ライブラリーの指定

```
LODOPTFMW FROMSTMF('/MYDIR/MYFILE') TYPE(399F)
           MODEL(200)
```

このコマンドは、光ディスク装置ファームウェアを、MYFILEから399F光ディスク媒体ライブラリー・モデル200のシステム記憶域にロードします。

例2: 光ディスク・ドライブの指定

```
LODOPTFMW FROMSTMF('/MYDIR/MYFILE') TYPE(399F)
           MODEL(001)
```

このコマンドは、光ディスク装置ファームウェアを、MYFILEから14X光ディスク・ドライブのシステム記憶域にロードします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT1114

ストリーム・ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1121

長さがバッファの末尾を超えています。

OPT1681

活動状態の光ディスク装置が見つかりませんでした。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

[トップ](#)

プログラム一時修正ロード (LODPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正ロード(LODPTF)コマンドは、指定されたプロダクトのプログラム一時修正(PTF)をテープ、ディスク、光ディスク装置、または保管ファイルからプロダクトPTFライブラリーにロードします。各PTFには、プログラムを含め、プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドによってプロダクトに適用できる1つまたは複数のオブジェクトが入っています。

一度に1つのプロダクトに対するPTFだけしか、ロードすることはできません。指定したプロダクトのPTFをロードする時には、特定のPTFを選択または省略することができます。現在適用されているPTFはロードされません。

制約事項: このコマンドを使用するためには、QSRVとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていないければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	名前, *SERVICE, *SAVF	オプション
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SPRPTF	置き換えられたPTF	*APYPERM, *NOAPY	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
PATHID	経路識別コード	1-9999, *FIRST, *SELECT	オプション
SAVF	保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
COVER	PTFカバー・レター・コピー	*SRVATT, *YES, *NO, *ONLY	オプション
CPYSAVF	PTF保管ファイルのコピー	*SRVATT, *YES, *NO	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

PTFをロードするプロダクトの7桁のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置 (DEV)

PTFのロードが開始される装置を指定します。装置名は装置記述によってシステムに認識されていなければなりません。

***SERVICE**

保守サポート・システムから送られたPTFがロードされます。

***SAVF**

PTFは保管ファイルからロードされます。*SAVFが指定された場合には、**保管ファイル (SAVF)**パラメーターに値が必要です。

装置名 PTFのロードに使用されるテープ、ディスクット、または光ディスク装置の名前を指定します。

[トップ](#)

選択するPTF番号 (SELECT)

指定されたプロダクトに対してロードされるPTFを指定します。SELECTパラメーターに単一PTF番号が指定されている場合には、**除外するPTF番号 (OMIT)**パラメーターを指定することはできません。

注: SELECT(*ALL)およびDEV(*SERVICE)を指定した場合には、永続的に除去されたPTFは無視されます。除去されたPTFをロードするためには、**選択するPTF番号 (SELECT)**パラメーターにそのPTF番号を指定してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** 指定されたプロダクトに対してすべてのPTFがロードされます。

PTF番号

ロードされる単一PTFのPTF識別番号を指定します。最大50個のPTF番号を指定することができます。

[トップ](#)

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターに指定されている以外のすべてのPTFがロードされることを指定します。残りのPTFをロードする時に、除外する（ロードしない）PTF番号を指定してください。最大50個のPTF番号を指定することができます。**選択するPTF番号 (SELECT)**パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、**OMIT**パラメーターを指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

置き換えられたPTF (SPRPTF)

このロード操作で見つかったPTFと置き換えられることになる、一時的に適用されたPTFに対して実行される操作を指定します。

***APYPERM**

指定されたプロダクトの場合には、一時的に適用されるPTF、およびPTF媒体中のPTFと置き換えられるPTFは、新しく取って代わるPTFがロードされる前に、自動的に、永久的に適用されます。また、置き換えられるPTFに前提PTFが入っている場合には、これらもこの操作によって永久的に適用されます。

***NOAPY**

一時的に適用されたPTFが、PTF媒体に入っているPTFと置き換えられる時には、ロード操作が停止します。置き換えようとしている一時的に適用されたPTFは、LODPTFコマンドを再び実行する前に、永久的に適用するか(APYPTFコマンド)、あるいは除去(RMVPTFコマンド)しておかなければなりません。

リリース (RLS)

ロードされるPTFのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ONLY**

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係にロードされます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルである場合には、オプションのリリース・レベルとは無関係に、そのプロダクトのすべての導入済みオプションのPTFがロードされます。

指定されたリリース・レベルがプロダクトの基本オプションのリリース・レベルでない場合には、そのリリース・レベルで導入されるオプションのPTFだけがロードされます。

順序番号 (SEQNBR)

PTFデータをロードするためにロード操作が開始されるテープ・ボリューム上の順序番号を指定します。このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を装置 (DEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***SEARCH**

指定されたプロダクトの最初のPTFファイルでテープ・ボリュームが検索されます。最初に見つかったPTFファイルがロードされます。

順序番号

ロードするPTFファイルの順序番号を指定してください。この順序番号はテープ上に存在しなければなりません。有効な値の範囲は1から16777215です。

[トップ](#)

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

PTF操作が終了した後にテープ・ボリュームまたは光ディスク・ボリュームで自動的に実行される操作を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

経路識別コード (PATHID)

ロードしたいPTFが入っている光ディスク媒体上のファイルの識別番号を指定します。光ディスク媒体上に存在する各プロダクトおよびリリースのPTFファイルにはパスIDの番号があり、これによって特定の順序でファイルを処理できます。指定されたパスIDからのPTFだけがシステム上にロードされます。

注: このパラメーターが有効なのは、光ディスク装置名をDEVパラメーターに指定した場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

指定されたプロダクトおよびリリースの光ディスク媒体で最初のPTFファイルが検索されます。これはSELECTパラメーターに指定された検索従属性に従って行われます。

- SELECTパラメーターに特定のPTF IDが指定された場合には、指定されたPTFの最初のオカレンスがロードされます。
- SELECTパラメーターに*ALLが指定された場合には、最低のパスIDをもつ既存のPTFファイルがロードされます。

*SELECT

光ディスク媒体上に存在し、プロダクトおよびリリースと一致するPTFファイルのリストが表示されます。特定のファイルを選択して、そこからPTFをロードすることができます。バッチ環境では、この値は選択できません。

パスID

既存のPTFファイルのパスIDを指定し、そこからPTFデータをロードします。

[トップ](#)

保管ファイル (SAVF)

ロードされるPTFが入っている保管ファイルのライブラリーおよび名前を指定します。このパラメーターが有効なのは、装置 (DEV)パラメーターに*SAVFが指定されている場合だけです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

使用できる保管ファイルの値は次の通りです。

保管ファイル名

ロードされるPTFが入っている保管ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

PTFカバー・レター・コピー (COVER)

PTFのカバー・レターを物理ファイルにコピーするかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、テープ装置名または光ディスク装置名を装置 (DEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***YES** PTFがロードされた後で、カバー・レターが物理ファイルにコピーされます。

***NO** カバー・レターは物理ファイルにコピーされません。

*ONLY

カバー・レターは物理ファイルにコピーされますが、PTFはロードされません。SEQNBRパラメーターが指定されている場合には、そのパラメーターには、PTFを入れるファイルの順序番号が入っていなければなりません。

*SRVATT

PTFのカバー・レターを物理ファイル中にコピーする必要があるかどうかを判別するには、PTFコピー(CPYPTF)サービス属性を使用します。サービス属性表示(DSPSRVA)コマンドはシステムのセットアップ方法についての情報を表示します。これには、PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターを*SERVICE中にコピーするかどうかが含まれます。サービス属性変更(CHGSRVA)コマンドを使用して、CPYPTFサービス属性を変更することができます。

[トップ](#)

PTF保管ファイルのコピー (CPYSAVF)

PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルを*SERVICE中にコピーするかどうかを指定します。PTFを他のシステムに配布する時、あるいはシステム情報保管(SAVSYSINF)コマンドを使用する時には、PTF保管ファイルが*SERVICE中になければなりません。このパラメーターが有効なのは、テープ装置名または光ディスク装置名を装置 (DEV)パラメーターに指定した場合だけです。

*SRVATT

PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルを*SERVICE中にコピーするかどうかを判別するには、PTFコピー(CPYPTF)サービス属性を使用します。サービス属性表示(DSPSRVA)コマンドはシステムのセットアップ方法についての情報を表示します。これには、PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルおよびカバー・レターを*SERVICE中にコピーするかどうかが含まれます。サービス属性変更(CHGSRVA)コマンドを使用して、CPYPTFサービス属性を変更することができます。

***YES** PTFがロードされる時に、まだ存在していないPTF保管ファイルが*SERVICE中にコピーされます。

***NO** PTFがロードされる時に、PTF保管ファイルは*SERVICE中にコピーされません。

[トップ](#)

例

例1: PTFの省略

```
LODPTF LICPGM(5722SS1) OMIT(SI00003 SI00008 SI00014)
```

このコマンドは、SI00003、SI00008、およびSI00014以外の製品5722SS1の保守サポート・システム(*SERVICE)から、すべてのPTFをロードします。プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドは、5722SS1製品にこれらのPTFを適用するのに使用することができます。

例2: PTFの選択

```
LODPTF LICPGM(5722SS1) DEV(OPT01) SELECT(SI00009 SI00010)
```

このコマンドは、OPT01という名前の光ディスク装置からSI00009とSI00010という名前のPTFをロードします。プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドは、5722SS1製品にこれらのPTFを適用するのに使用することができます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35AA

ライセンス内部コードPTF &2はすでに適用されている。

CPF35AB

ライセンス内部コード修正&2は適用されていない。

CPF35AE

重複したPTF &1が見つかった。

CPF35A0

ライブラリー&1を割り振ることができない。

- CPF35A1**
ライセンス内部コードの間違ったコピーを使用している。
- CPF35A2**
PTF &2に必要なハードウェア変更が導入されていない。
- CPF35A3**
ライセンス内部コード修正&2が一時適用されていない。
- CPF35A5**
ライセンス内部コード修正&2が永久適用されていない。
- CPF35A6**
ライセンス・プログラムの言語オプション&1は導入されていない。
- CPF35A8**
ロードするPTFがない。
- CPF35A9**
ライセンス内部コード修正を処理中にエラーが起こった。
- CPF35CC**
PTF操作に必要なライブラリーはすでに存在しています。
- CPF35CF**
PTF &1-&2は適用されていない。
- CPF35C1**
LODPTFが終了した。これ以上使用可能な記憶域がありません。
- CPF35C9**
PTF &1-&2 &3が正しくない。
- CPF35EB**
プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。
- CPF35E3**
インターフェースのエラーが検出された。
- CPF35FA**
PTF &1-&2は適用されていない。
- CPF35F4**
カバー・レターの処理中にエラーが起こった。
- CPF35F6**
ライブラリー&1のMPTFIが削除されて作成された。
- CPF354A**
パス識別コードには*SELECTを指定できない。
- CPF354C**
光ディスク・ボリューム上のPTFファイルを処理できない。
- CPF354D**
装置&1は使用できない。
- CPF354E**
ファイルが選択されなかった。

CPF354F

必要なPTFファイル进行处理できない。

CPF355B

プロダクト&1の複数のリリースが媒体上に見つかった。

CPF355C

パス識別コード&1にPTFが見つからなかった。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF3564

PTF &1-&2に損傷がある。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF3587

PTFがロードされていない。

CPF3590

PTF &1-&2 &3はロードされなかった。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361D

PTFの適用順序を決定することができない。

CPF3612

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3616

PTFはロードされなかった。

CPF3619

装置上にリリース&1のPTFが見つかった。

CPF3657

エラーが起こったのでPTFはロードされなかった。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3924

PTFがロードされていない。

CPF3931

必要なプログラムが見つからない。PTFは完了していません。

CPF3945

ライセンス・プログラムのPTF活動のレコードが削除された。

CPF3992

ライセンス・プログラム&1 &2のPTFが保管／復元媒体上に存在しない。

CPF6602

PTF &1-&2 &3が見つからない。

CPF8191

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

CPF8193

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

[トップ](#)

Q/A データベース・ロード (LODQSTDB)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

質問・回答データベース・ロード(LODQSTDB)コマンドによって、質問・回答(Q&A)データベースを代替媒体（テープなど）からシステムにロードすることができます。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報で入手することができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. ユーザーは、このコマンドに対する権限をもち、このコマンドで参照されるすべてのQ&AデータベースのQ&Aデータベース回答担当者でなければなりません。
3. このコマンドは、対話式でのみ使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプションナル, 位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>QUSRSYS</u>	オプションナル, 位置 2

トップ

Q/Aデータベース (QSTDB)

ロードするQ&Aデータベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

使用するQ&Aデータベースの名前を指定してください。

- Q&Aデータベースがシステム上にすでに存在している場合には、指定したQ&Aデータベースのサブセットがこれに置き換わります。
- Q&Aデータベースがシステム上に存在していない場合には、指定したライブラリーにこれが作成されます。

[トップ](#)

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

QUSRSYS

このコマンドのためのライブラリーの省略時の値はQUSRSYSです。

ライブラリー名

Q&Aデータベースがロードされるライブラリーを指定してください。このライブラリーはシステムに存在しているものでなければなりません。

[トップ](#)

例

LODQSTDB

このコマンドは、システムへのデータベース・ロード画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ロードおよび実行 (LODRUN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体プログラム・ロードおよび実行(LODRUN)は、ユーザー作成のプログラム・オブジェクトをテープ、ディスク、または光ディスク装置からライブラリーQTEMPに復元します。システムは装置名を復元されたプログラムに渡して、復元されたプログラムに制御権を移動します。

LODRUNコマンドの実行は、次の通りです。

1. 媒体から、QINSTAPPという名前でライブラリーQTEMPから保管されていなければならないユーザー作成のプログラムが検索されます。

注: プログラムQINSTAPPは、ターゲット・システムに存在しているユーザー・プロファイルによって所有されていなければなりません。QINSTAPPが所有ユーザー・プロファイルのないシステムに復元されると、制御権は移動されず、そのプログラムは実行されません。

2. QINSTAPPプログラムがユーザーのシステムのQTEMPライブラリーにすでに存在している場合には、そのプログラムは削除されます。
3. QINSTAPPプログラムは、RSTOBJコマンドを使用してQTEMPライブラリーに復元されます。RSTOBJコマンドには、次の値が指定されます。

- OBJ(QINSTAPP)
- OBJTYPE(*PGM)
- SAVLIB(QTEMP)
- ENDOPT(*LEAVE)
- MBROPT(*ALL)
- ALWOBJDIF(*NONE)
- RSTLIB(QTEMP)
- VOL(*MOUNTED)

装置が光ディスク装置である場合には、ENDOPTパラメーターおよびVOLパラメーターは指定されません。

装置が光ディスクの場合には、このコマンドのDIRに指定された値がオブジェクト復元(RSTOBJ)コマンドのOPTFILEパラメーターに使用されます。

SEQNBRパラメーターは、LODRUNコマンドのSEQNBRパラメーターに従って指定されます。

復元操作に使用される装置はLODRUNコマンドによって判別されます。*TAP, *DKT,または*OPTがDEVパラメーターに指定されている場合には、LODRUNコマンドはQDEVNAMINGシステム値を調べて、システムが装置に対してISERIESまたはSYSTEM/36のいずれの命名規則を使用するかを判別します。

- QDEVNAMINGが*NORMAL (ISERIES規則) の場合
 - 装置TAP01はDEV(*TAP)に使用されます。

- 装置DKT01はDEV(*DKT)に使用されます。
- 装置OPT01はDEV(*OPT)に使用されます。
- QDEVNAMINGが*S36 (システム/36規則)の場合
 - テープ・カートリッジが検出されると、装置TCがDEV(*TAP)に使用されます。そうでない場合には、装置T1が使用されます。
 - 装置IIはDEV(*DKT)に使用されます。
 - 装置OPT01はDEV(*OPT)に使用されます。システム/36命名規則は光ディスク装置には適用されません。

DEVパラメーターで指定されたその他のすべての値は現状のまま使用されます。

4. システムの制御はQINSTAPPプログラムに渡されます。QINSTAPPプログラムは、たとえば、他のアプリケーションをユーザーのシステムに復元して、それらのアプリケーションを実行するために使用することができます。
5. ユーザーがサインオフすると、QINSTAPPプログラムがシステムから除去されます。
6. 3つのシステム値の設定が一緒に機能して、QINSTAPPプログラムが復元できるようになっているかどうか、また復元中に変換されるかどうかを判別します。3つのシステム値は次の通りです。
 - QVfyOBRST オブジェクト復元の検査
 - QFRCCVNRST 復元時の変換強制
 - QALWOBRST オブジェクト復元可能オプション

これらの値でQINSTAPPプログラムの復元および変換が可能になっていない場合には、LODRUNコマンドは制御権をQINSTAPPプログラムに移動されません。

QINSTAPPプログラムを提供するユーザーには、このプログラムを作成してサポートする責任があります。QINSTAPPプログラムはIBMから提供されません。このプログラムは、多くの異なるタスクを遂行するように設計することができます。たとえば、このプログラムは次を実行することができます。

- その他のプログラムまたはアプリケーションの復元および実行
- ライブラリーの復元
- 別のプログラムまたはアプリケーションの削除
- 特定の環境の作成
- 既存アプリケーションへの修正の適用

QINSTAPPプログラムは、LODRUNコマンドが入力されるたびに一度だけ実行されます。LODRUNコマンドは、ただ1つのパラメーター(DEV)を渡します。これはQINSTAPPプログラムの復元元の装置を指定します。QINSTAPPプログラムはLODRUNコマンドを再び使用しようとしません。これは、予測できない結果になります。

QINSTAPPプログラムの作成の他に、このプログラムを提供しているユーザーは、このプログラムが入っている媒体をユーザーに提供する責任があります。プログラムをテープ、ディスケット、または光ディスク装置で配布するには、次を実行してください。

1. テープまたはディスケットを準備してください。テープの場合は、テープ初期設定(INZTAP)コマンドを使用します。ディスケットの場合は、FMT(*SAVRST)を指定してディスケット初期設定(INZDKT)コマンドを使用します。
2. 重複オブジェクト作成(CRTDUPOBJ)コマンドは、QINSTAPPプログラムをQTEMP ライブラリーに作成するために使用します。

3. オブジェクト保管(SAVOBJ)コマンドは、QINSTAPPプログラムをQTEMPから所要のテープ装置またはディスク装置に保管するために使用します。このプログラムは、それが入っている媒体ファイルでただ1つのオブジェクトでなければなりません。次を指定してください。

- LIB(QTEMP)
- LABEL(*LIB)
- CLEAR(*ALL)

LABEL(*LIB)を指定すると、ラベルは必ずQTEMPになります。QINSTAPPプログラムがテープ装置に保管中の場合、および追加アプリケーション、プログラム、またはライブラリーがテープに保管される場合には、ENDOPT(*LEAVE)も指定されていなければなりません。ターゲット・リリースが省略時の値(*CURRENT)でない場合には、TGTRLSパラメーターに正しい値も入力しなければなりません。

4. その他の任意のアプリケーション、プログラム、またはライブラリーをテープまたはディスクに保管するには、オブジェクト保管(SAVOBJ)、ライブラリー保管(SAVLIB)、またはライセンス・プログラム保管(SAVLICPGM)コマンドを使用してください。このステップは任意選択で、LODRUNコマンドの実行時に、QINSTAPPプログラムが保管するアプリケーションをユーザーのシステムに保管するために使用されます。

QINSTAPPプログラムがテープに保管された場合には、そのテープはQINSTAPPプログラムの復元後に巻き戻されません。QINSTAPPプログラムがユーザーのシステムに復元するアプリケーションまたはアプリケーションのシリーズはテープ上の次のものになります。

制約事項:媒体からロードされて呼び出されるQINSTAPPプログラムでは、正常に実行するために特定権限が必要となることがあります。QINSTAPPプログラムを提供するユーザーは、特定権限が必要かどうかをユーザーに通知する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前, *TAP, *DKT, *OPT	オプション、定位置 1
SEQNBR	順序番号	10 進数, *FIRST, *SEARCH	オプション
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED, *SAVVOL	オプション
DIR	ディレクトリー	文字値, ' /	オプション

トップ

装置 (DEV)

プログラムのロード元の入出力装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***TAP** プログラムは、システムに接続された省略時のテープ装置からロードされます。

***DKT** プログラムは、システムに接続された省略時のディスク装置からロードされます。

*OPT プログラムは、システムに接続された省略時の光ディスク装置からロードされます。

テープ装置

プログラムのシステムへのロード元のテープ装置の名前を指定してください。

ディスケット装置

プログラムのシステムへのロード元のディスケット装置の名前を指定してください。

光ディスク装置

プログラムのシステムへのロード元の光ディスク装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

テープを使用する場合だけ、復元操作に使用する順序番号を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*FIRST

テープ装置のボリュームで、QTEMPラベルと一致しているIDをもつデータ・ファイルが先頭データ・ファイルから検索し始められます。最初に一致するものが検出されると、そのオブジェクトが復元されます。

*SEARCH

テープ装置のボリュームで、QTEMPラベルと一致しているIDをもつデータ・ファイルが現在のテープ位置より後の最初のデータ・ファイルから検索し始められます。一致するものが検出されると、そのオブジェクトが復元されます。

順序番号

ファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から16777215です。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

テープを使用する場合だけ、テープ装置のボリューム識別子を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*MOUNTED

現在テープ装置にマウントされているボリュームが使用されます。

ボリュームID

テープ装置にマウントするボリュームを指定してください。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

光ディスク装置を使用する場合だけ、復元操作に使用するディレクトリーを指定します。QTEMP;1という名前のファイルが指定されたディレクトリー内で検出されると、そのオブジェクトが復元されます。

考えられる値は次の通りです。

`/P` ルート・ディレクトリー(())が使用されます。

ディレクトリー名

QTEMPという名前のファイルを検索するディレクトリーを指定します。

[トップ](#)

例

例1: テープからのプログラムの復元

```
LODRUN DEV(TAP01)
```

このコマンドは、プログラム・オブジェクトを装置TAP01上のテープからライブラリーQTEMPに復元します。ここで制御権は復元されたプログラムに移ります。

例2: テープからのプログラムQINSTAPPの復元

```
LODRUN DEV(TAP01) SEQNBR(5)
```

このコマンドは、プログラム・オブジェクトQINSTAPPを装置TAP01の順序番号5にあるテープからライブラリーQTEMPに復元します。ここで制御権は復元されたプログラムに移ります。この順序番号が見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。この順序番号のファイル・ラベルがQTEMPでない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

例3: CD-ROMからのプログラムQINSTAPPの復元

```
LODRUN DEV(*OPT) DIR('/APP1/INST')
```

このコマンドは、プログラム・オブジェクトQINSTAPPを装置OPT01上のCD-ROMからライブラリーQTEMPに復元します。CD-ROMにおけるQTEMPライブラリーのファイル名は/APP1/INST/QTEMPです。ここで制御権は復元されたプログラムに移ります。ファイルが見つからない場合には、エスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ディレクトリーの作成 (MD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ディレクトリーの作成 (MD)コマンドは、システムに新しいディレクトリーを追加します。

ディレクトリーは、他のオブジェクトの名前を含むオブジェクトです。ライブラリーおよびフォルダーはディレクトリーの1つのタイプです。ディレクトリーが作成されると、リンクがディレクトリーの接頭部に追加されます。オブジェクトをディレクトリーに入れる前に、そのディレクトリーが作成されていなければなりません。

このコマンドはディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CRTDIR
- MKDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. 作成されるディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システムのライブラリーであるか、“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、次の制約事項が適用されます。
 - **オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)**パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
2. 作成されるディレクトリーがQDLSの既存のフォルダー中のフォルダーである場合には、次の制約事項が適用されます。
 - 既存のフォルダーの変更(*CHANGE)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. “ルート” (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システム内にディレクトリーを作成する場合には、新しいディレクトリーを入れるディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
5. ディレクトリーを作成している場合には、所有者ID (UID)がそのディレクトリーを作成中のユーザーです。

ディレクトリーが“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システム内に作成される場合には、以下が適用されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオフの場合は、グループID (GID)はそのディレクトリーを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオンの場合には、新規ディレクトリーのグループID (GID)は親ディレクトリーのGIDに設定されます。

ディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内に作成される場合には、1次ユーザー・プロファイルからGIDが取得されます。その他のファイル・システムについては、GIDは親ディレクトリーから取得されます。

6. オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

作成するディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: 文字Qで始まる名前は使用しないでください。システムは、そのような名前のライブラリーまたはディレクトリーをシステム・ライブラリーまたはシステム・ディレクトリーと見なします。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

ディレクトリーに対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいは作成されたディレクトリーからすべての権限を継承するように指定します。

*INDIR

作成するディレクトリーの権限は、作成されたディレクトリーによって決定されます。新しいディレクトリーの直前のディレクトリーが権限を決定します。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。

QDLSフォルダーについて作成されたディレクトリーの省略時の値として、第1レベルのフォルダーの*EXCLUDEが使用されます。第2レベル以上で作成された場合には、前のレベルの権限が使用されます。QOPENSYS,および"ルート" (/)ファイル・システムは、親ディレクトリーのデータ権限の値を使用します。値*INDIRがオブジェクトの共通認可 (OBJAUT)パラメーターまたはDTAAUTパラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),オブジェクト変更(*OBJALTER),およびオブジェクト参照(*OBJREF)権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、書き込み(*RW)権限は、*OBJOPRおよびデータ読み取り(*READ),追加(*ADD),更新(*UPD),削除(*DLT)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ,実行(*EXECUTE)権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT,*EXECUTE権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検査することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT権限を提供します。
- *X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

オブジェクトに対するデータ権限は与えられません。この値を*NONEのOBJAUT値と一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ディレクトリーのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このディレクトリーが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リス

ト、および1次グループが割り当てられます。OBJAUTパラメーターまたはデータの共通認可(DTAAUT)パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

***NONE**

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

***OBJEXIST**

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

***OBJMGT**

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

***OBJALTER**

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

***OBJREF**

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

トップ

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL以外のこのパラメーターの値は、一部のファイル・システムではサポートされないことがあります。

***SYSVAL**

ディレクトリー内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、オブジェクト作成監査(QCRTOBJAUD)システム値によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

*USRPRF

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) コマンドのOBSAUDパラメーターは、特定ユーザーに対する監査を変更するために使用されます。

*CHANGE

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

*ALL すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

トップ

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) を参照してください。

この属性を指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーの場合だけです。その他のファイル・システムの場合には、*PARENTを指定する必要があります。これは無視されます。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

*PARENT

このディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

*YES ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムで記述されている規則に従ってスキャンされます。

*NO ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

*CHGONLY

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連の出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

トップ

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じで、ネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, "ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーにしか設定できません。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。

***NO** このディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** このディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

トップ

例

MDの代替コマンド名はCRTDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MDはそれらのすべてで直接CRTDIRに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーの作成

```
CRTDIR DIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRを作成して、これを現行ディレクトリーに追加します。残りのパラメーターには省略時の値が使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

[トップ](#)

ディレクトリーの作成 (MKDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ディレクトリーの作成 (MKDIR)コマンドは、システムに新しいディレクトリーを追加します。

ディレクトリーは、他のオブジェクトの名前を含むオブジェクトです。ライブラリーおよびフォルダーはディレクトリーの1つのタイプです。ディレクトリーが作成されると、リンクがディレクトリーの接頭部に追加されます。オブジェクトをディレクトリーに入れる前に、そのディレクトリーが作成されていなければなりません。

このコマンドはディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CRTDIR
- MD

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. 作成されるディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システムのライブラリーであるか、“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、次の制約事項が適用されます。
 - **オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)**パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
2. 作成されるディレクトリーがQDLSの既存のフォルダー中のフォルダーである場合には、次の制約事項が適用されます。
 - 既存のフォルダーの変更(*CHANGE)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. “ルート” (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システム内にディレクトリーを作成する場合には、新しいディレクトリーを入れるディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
5. ディレクトリーを作成している場合には、所有者ID (UID)がそのディレクトリーを作成中のユーザーです。

ディレクトリーが“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システム内に作成される場合には、以下が適用されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオフの場合は、グループID (GID)はそのディレクトリーを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオンの場合には、新規ディレクトリーのグループID (GID)は親ディレクトリーのGIDに設定されます。

ディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内に作成される場合には、1次ユーザー・プロファイルからGIDが取得されます。その他のファイル・システムについては、GIDは親ディレクトリーから取得されます。

6. オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

作成するディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: 文字Qで始まる名前は使用しないでください。システムは、そのような名前のライブラリーまたはディレクトリーをシステム・ライブラリーまたはシステム・ディレクトリーと見なします。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

ディレクトリーに対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいは作成されたディレクトリーからすべての権限を継承するように指定します。

*INDIR

作成するディレクトリーの権限は、作成されたディレクトリーによって決定されます。新しいディレクトリーの直前のディレクトリーが権限を決定します。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。

QDLSフォルダーについて作成されたディレクトリーの省略時の値として、第1レベルのフォルダーの*EXCLUDEが使用されます。第2レベル以上で作成された場合には、前のレベルの権限が使用されます。QOPENSYS,および"ルート" (/)ファイル・システムは、親ディレクトリーのデータ権限の値を使用します。値*INDIRがオブジェクトの共通認可 (OBJAUT)パラメーターまたはDTAAUTパラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),オブジェクト変更(*OBJALTER),およびオブジェクト参照(*OBJREF)権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、書き込み(*RW)権限は、*OBJOPRおよびデータ読み取り(*READ),追加(*ADD),更新(*UPD),削除(*DLT)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ,実行(*EXECUTE)権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT,*EXECUTE権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検査することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT権限を提供します。
- *X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。
- *EXCLUDE**
ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。
- *NONE**
オブジェクトに対するデータ権限は与えられません。この値を*NONEのOBJAUT値と一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ディレクトリーのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

*INDIR

オブジェクト権限は、このディレクトリーが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リス

ト、および1次グループが割り当てられます。OBJAUTパラメーターまたはデータの共通認可(DTAAUT)パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

***NONE**

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER,または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER,または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

***OBJEXIST**

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

***OBJMGT**

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

***OBJALTER**

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

***OBJREF**

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

トップ

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL以外のこのパラメーターの値は、一部のファイル・システムではサポートされないことがあります。

***SYSVAL**

ディレクトリー内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、オブジェクト作成監査(QCRTOBJAUD)システム値によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

***USRPRF**

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定ユーザーに対する監査を変更するために使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

トップ

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説 (英文) を参照してください。

この属性を指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーの場合だけです。その他のファイル・システムの場合には、*PARENTを指定する必要があります。これは無視されます。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

***PARENT**

このディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムで記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連の出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

トップ

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じで、ネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, "ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーにしか設定できません。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。

***NO** このディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** このディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

トップ

例

MKDIRの代替コマンド名はCRTDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MKDIRはそれらのすべてで直接CRTDIRに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーの作成

```
CRTDIR DIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRを作成して、これを現行ディレクトリーに追加します。残りのパラメーターには省略時の値が使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

[トップ](#)

メッセージ・モニター (MONMSG)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

メッセージ・モニター(MONMSG)コマンドは、このコマンドが使用されているプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるエスケープ・メッセージ、通知メッセージ、および状況メッセージをモニターするために使用されます。完了メッセージと診断メッセージはモニターできません。

MONMSGコマンドを制御言語(CL)プログラムでコンパイルする時に、指定されたメッセージの到着用モニターが確立されます。コマンドは、コマンドに指定された比較データによって指定された条件のメッセージをモニターします。その条件を満たすメッセージがメッセージ待ち行列に到着すると、MONMSGコマンドに指定されたCLコマンドが処理されます。

最大1000のMONMSGコマンドをプログラムに指定して、特定の条件または条件のグループのメッセージの到着をモニターすることができます。特定のメッセージID,または総称のメッセージIDをモニターすることができます。

MONMSGコマンドは、CLプロシーチャーのほとんどのコマンドの後にコーディングすることができます。プログラムの始めではない個所に入れたMONMSGコマンドは、その直前のコマンドにだけ適用され、これはコマンド・レベルのMONMSGコマンドと呼ばれます。コマンド・レベルのMONMSGコマンドはその前のコマンドによって送信されたメッセージだけをモニターします。そのコマンドによって送信されたメッセージがMONMSGコマンドに指定された条件を満たした場合には、同じMONMSGコマンドに指定された処置が取られます。100のMONMSGコマンドをあるコマンドの直後にコーディングして、そのコマンドが送信したメッセージをモニターすることができます。

MONMSGコマンドに指定された処置が実行されて、その処置がGOTOまたはRETURNコマンドで終了していない場合には、メッセージを送信したコマンドの後にあるプログラムのコマンドに制御が戻ります。その処置がGOTOコマンドで終了した場合には、GOTO コマンドに指定されたプログラムのコマンドに制御が分岐します。処置がRETURNコマンドで終了した場合には、MONMSGコマンドが入っているプログラムを呼び出したプログラムに制御が戻されます。

1つまたは複数のMONMSGコマンドがプログラムの始めの宣言コマンド、または宣言コマンドがないPGMコマンド、の直後に入れられた場合には、これらのコマンドは、プログラムのすべてのコマンド(最大100)によって送信されたメッセージをモニターします。これはプログラム・レベルのMONMSGコマンドと呼ばれます。そのプログラムのコマンドによって送信されたメッセージが、プログラム・レベルのMONMSGコマンドの1つに指定された条件を満たした場合には、同じコマンドに指定された対応の処置が取られます。

コマンド・レベルのMONMSGコマンドによって取られる処置は、プログラム・レベルのMONMSGコマンドを一時変更します。

プログラムの始めに入れられるMONMSGコマンドのEXECパラメーターに対して、コマンドをコーディングした場合には、使用可能となるのはGOTOコマンドだけであり、モニターされたメッセージが発生した場合に制御を移す先のコマンドのレベルを指定しなければなりません。プログラム・レベルMONMSGコマン

ドで指定するラベルは、サブルーチンに関連したラベルとすることはできません。GOTOコマンドがプログラム・レベルMONMSGに実行されると、次のサブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンドでサブルーチン・スタックがリセットされます。

EXECパラメーターにコマンドがコーディングされない場合には、モニターされたメッセージは無視されません。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャー内でのみ有効です。
- これは、最後の宣言コマンドの後（宣言コマンドを使用する場合）、プログラムを開始するPGMコマンドに続いてコーディングするか、CLプロシージャーで使用できるコマンドに続いてコーディングすることができます。ただし DO, DOWHILE, DUNTIL, DOFOR, ELSE, ENDDO, SELECT, WHEN, OTHERWISE, ENDSELECT, ENDPGM, CALLSUBR, SUBR, RTNSUBR, ENDSUBR, GOTO, IF,または RETURNは除きます。別のプログラムがこのコマンドによってモニターされるメッセージを送信した場合には、そのプログラムに戻るできないことに注意してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 1
CMPDTA	比較データ	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
EXEC	実行するコマンド	コマンド・ストリング	オプション, 定位置 3

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

このコマンドによりモニターする1つまたは複数のエスケープ・メッセージ、通知メッセージ、または状況メッセージのメッセージIDを指定します。1つのコマンドで、特定のメッセージIDまたは総称メッセージIDを最大50個まで指定することができます。

注: 多くのCLコマンドが多くの異なったエラー条件に対して1つのエスケープ・メッセージを出します。エラーまたは障害に関する詳細は、エスケープ・メッセージの前にある診断メッセージ中に指定されます。診断メッセージをモニターすることはできませんが、エスケープ・メッセージは、ユーザーのメッセージ・モニターが活動化された後に、ジョブの外部メッセージ待ち行列からこれを受信することができます。

メッセージIDの最初の3文字は、英字1文字と、これに続く2桁の英数字（英字または数字）で構成されたコードでなければなりません。最後の4文字は、10進数の0から9および文字AからFで構成することができます。

注: MCHコード(MCHNNNN)を使用するメッセージIDでは、最後の4桁に0から9の数値だけを使用します。

右端の2桁または4桁すべてにゼロを指定した(USRMM00など) 場合には、総称メッセージIDが指定されます。たとえば、CPF0000が指定された場合は、接頭部'CPF'を持つすべてのメッセージがモニターされま

す。総称メッセージIDは、コマンド・レベルのMONMSGステートメントとプロシージャ・レベルのMONMSGステートメントの両方に使用することができます。

メッセージがこのプログラムのメッセージ待ち行列に到着した時にモニターされる1から50のメッセージのメッセージIDを指定します。コマンドが出すエスケープ、通知、および状況メッセージのメッセージIDとメッセージ・テキストは、INFORMATION CENTERにある当該コマンドの資料に記載されています。もちろん、当該コマンドのオンライン・ヘルプにも入っています。CL変数を使用してメッセージIDを指定することはできません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

比較データ (CMPDTA)

プログラムのメッセージ待ち行列で受け取るモニター対象メッセージ（指定したメッセージIDのどれかに該当するもの）を、このコマンドにより処置するかどうかを決めるために使用する比較データを指定します。プログラム・メッセージ送出し(SNDPGMMSG)コマンドのMSGDTAパラメーターに指定されたメッセージ・データと、比較データが比較されます。メッセージ置き換え値の最初の部分（最初の28桁まで、またはそれ以下）が、指定された比較データと一致した場合には、このコマンドのEXECパラメーターに指定された処置が取られます。比較データが指定されていない場合にも処置が行われます。

***NONE**

比較データは指定されません。プログラムのメッセージ待ち行列のメッセージが、このコマンドがモニターしているコマンドからのものである場合で、さらに、指定されたIDがある場合には、**実行するコマンド (EXEC)**パラメーターに指定された処置が取られます。

比較データ

28文字以下の文字ストリングを、必要ならばアポストロフィで囲んで指定してください。指定した文字ストリングは、受信したメッセージに含まれるメッセージ・データの最初の文字以降の同数の文字と比較されます。比較データが受信したメッセージ・データの最初の部分と一致した場合には、このコマンドは、EXECパラメーターに指定された機能を実行します。比較データに対してCL変数を指定することはできません。

比較データは、プログラム変数表示(DSPPGMVAR)コマンドを使用して表示することができます。

[トップ](#)

実行するコマンド (EXEC)

プログラムのメッセージ待ち行列に送られてきたモニター対象メッセージが、このコマンドで指定した条件を満たしていた場合に処理されるCLコマンドを指定します。コマンドを指定しなかった場合には、モニター対象メッセージが待ち行列に送られてきても、そのメッセージは無視され、プログラム中の次のコマンドに制御が渡されます。

プログラムの始めにMONMSGコマンドがある場合には、EXECパラメーターでGOTO コマンドおよび制御権を受け取るコマンドを識別するラベルを指定しなければなりません。

このコマンドに指定された条件を満たすメッセージを受信した時に実行される、CL コマンドを、使用されるそのパラメーターも含めて指定します。受信したメッセージが指定された条件を満たしていない場合には、指定されたコマンドは実行されません。CLコマンドの代わりに、CL変数を指定することはできません。

注: EXECにDO, DOWHILE, DOUNTIL, DOFOR,またはSELECTコマンドが指定されている場合は、条件が満たされると、そのコマンドと関連したグループ全体が処理されます。

トップ

例

例1:任意のコマンドから送られてくるメッセージのモニター

```
PGM
MONMSG  MSGID(CPF0001 CPF1999) EXEC(GOTO EXIT2)
```

この例は、CLプロシージャーの始めに置かれて、メッセージCPF0001およびCPF1999をモニターするMONMSGコマンドを示しています。これらのメッセージは、プロシージャーの後の方で処理されるコマンドから送られてくる可能性があるものです。プロシージャーで実行中のいずれかのコマンドからどちらかのメッセージを受け取ると、ラベルEXIT2で識別されるコマンドに制御権が分岐します。

CPF0001は、メッセージ自身の中で識別されるコマンドでエラーが見つかったことを示すメッセージです。CPF1999は、多数のデバッグ・コマンド(CHGPGMVARなど) から送られてくる可能性があるメッセージで、コマンドでエラーが発生したが、メッセージの中ではコマンドを識別しないことを示すものです。

例2:単一のコマンドから送られてくるメッセージのモニター

```
CHGVAR  VAR(&A) VALUE(&A / &B)
MONMSG  MSGID(MCH1211) EXEC(CHGVAR VAR(&A) VALUE(1))
```

この例では、MONMSGコマンドは変数変更(CHGVAR)コマンドの後にあるので、CHGVARコマンドから送られてくるメッセージのみをモニターします。ゼロによる除算が試みられると、エスケープ・メッセージMCH1211がこのプログラムのメッセージ待ち行列に送られます。MSGID(MCH1211)が指定されているので、MONMSGコマンドはこの条件をモニターし、メッセージを受け取ると、2番目のCHGVARコマンドが処理されます。この例では、変数&Aの値は1に設定されます。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

マウントFSの追加 (MOUNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム追加(MOUNT)コマンドは、ファイル・システム内のオブジェクトを、統合ファイル・システム名空間に対してアクセス可能にします。アクセス可能にするファイル・システムは、ローカル・システムのユーザー定義ファイル・システム(*UDFS)、ネットワーク・ファイル・システム・クライアント(*NFS)を介してアクセスされるリモート・ファイル・システム、あるいはリモートNETWAREファイル・システム(*NETWARE)のいずれかとすることができます。マウントの宛先であるディレクトリーマウントするディレクトリー (MNTOVRDIR)が存在しなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- ADDMFS

ネットワーク・ファイル・システム・コマンドの詳細については、NETWORK FILE SYSTEM BOOK (SC41-5714)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. NETWAREファイル・システムをマウントしようとしている場合には、マウントするファイル・システムに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。
3. ユーザーは、マウントするディレクトリーに対する書き込み(*W)権限を持っていないければなりません。
4. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	ファイル・システムのタイプ	*NFS, *UDFS, *NETWARE	必須, キー, 定位置 1
MFS	マウントするファイル・システム	パス名	必須, キー, 定位置 2
MNTOVRDIR	マウントするディレクトリー	パス名	必須, キー, 定位置 3
OPTIONS	マウント・オプション	文字値, <u>*DFT</u>	オプション
CCSID	コード化文字セットID	要素リスト	オプション
	要素 1: データ・ファイル CCSID	1-65533, *ASCII, *JOBCCSID, <u>*BINARY</u>	
	要素 2: パス名CCSID	1-65533, <u>*ASCII</u> , *JOBCCSID	

キーワード	記述	選択項目	注
CODEPAGE	コード・ページ	要素リスト	オプション
	要素 1: データ・ファイル・コード・ページ	1-32767, *ASCII, *JOBCCSID, * BINARY	
	要素 2: パス名コード・ページ	1-32767, * ASCII , *JOBCCSID	

トップ

ファイル・システムのタイプ (TYPE)

マウントするファイル・システムのタイプを指定します。マウントのタイプは、マウントするファイル・システム (MFS)パラメーターの正しい形式を判別します。

***NFS** MFSパラメーターに指定されたファイル・システムは、ネットワーク・ファイル・システムです。MFSパラメーターは、ホスト名:パス名の形式でなければなりません。ここで、ホスト名はシステム名またはIPアドレスのいずれかとすることができ、パス名は絶対パス名でなければなりません。

*UDFS

MFSパラメーターに指定されたファイル・システムはユーザー定義ファイル・システムです。MFSパラメーターの形式は、次の2つのうちのいずれかでなければなりません。

- `/DEV/QASPXX/UDFSNAME.UDFS`,ここでXXは有効なシステムまたはシステムの基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)番号の1つで、UDFSNAMEはユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。
- `/DEV/ASPNAME/UDFSNAME.UDFS`,ここでASPNAMEはシステムの有効な独立ASP名の1つで、UDFSNAMEはユーザー定義ファイル・システムの名前です。名前の他の各部分はすべて上記の例のように指定しなければなりません。

パスの名前部分は、指定されたQASPXXまたはASPNAMEディレクトリー内で固有でなければなりません。

*NETWARE

MFSパラメーターに指定されたファイル・システムはNETWAREファイル・システムです。MFSパラメーターの形式は、次のうちのいずれかでなければなりません。

- サーバー/ボリューム:パス名,ここでパス名は任意指定です。
- ボリュームに対するNETWAREディレクトリー・サービス(NDS)コンテキスト, マウントするディレクトリー・マップ・オブジェクト, またはボリュームまたはディレクトリー・マップ・オブジェクトへの別名。NDSコンテキストは、区別されたコンテキストまたは相対コンテキストとすることができます。相対コンテキストを指定した場合には、ジョブの現行コンテキストが検索され、それが見つからない場合には、省略時のシステム・コンテキストが検索されます。ボリュームに対するコンテキストまたはボリュームに対する別名を指定した場合には、任意選択のディレクトリー・パスを指定することもできます。

注: MFSパラメーターで、コロンの後にドットおよびパス名が入っていない相対コンテキストが指定されている場合には、コマンドのプロンプトが出されたときにパラメーター値が引用符で囲まれていることを確認する必要があります。コマンド分析プログラムは、MFS値をラベルとして解釈し、後書きコロンを除去することができます。

これは必須パラメーターです。

マウントするファイル・システム (MFS)

マウントするファイル・システムのパス名を指定します。これは、ローカル・ブロック特殊ファイル (*BLKSF)へのパス、リモートNFSパス名、またはNETWAREファイル・システムのパスにすることができます。MFSパラメーターの正しい形式を調べるには、**ファイル・システムのタイプ (TYPE)**パラメーターを参照してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

マウントするディレクトリー (MNTOVRDIR)

ファイル・システムをマウントする既存のディレクトリーのパス名を指定します。このディレクトリーはマウント・ファイル・システムによって「カバーされた」状態になります。このディレクトリーが存在しなければなりません。

同じディレクトリーに複数のファイル・システムを、1つの上にもう1つをマウントすることができます。しかし、先頭にマウントされたファイル・システムにアクセスできるだけで、ファイル・システムは後でマウントした順序とは逆の順序（後入れ先出し法）でアンマウントする必要があります。

これは必須パラメーターです。

トップ

マウント・オプション (OPTIONS)

オプション・リストには、マウント・オプションの文字ストリングが含まれます。オプションはコンマで区切ります。一部のオプションでは、オプションの後に等号 '=' および値を続けます。オプションを指定しないと、そのオプションの省略時の値が使用されます。オプション・リストには、スペースが含まれる場合があります。

***DFT** ネットワーク・ファイル・システム(*NFS)をマウントするためのオプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

```
'RW,SUID,RSIZE=8096,WSIZE=8096,TIMEO=20,RETRANS=5,ACREGMIN=30,ACREGMAX=60,ACDIRMIN=30,ACDIRMAX=60,HARD'
```

ユーザー定義ファイル・システム(*UDFS)のマウントの、オプションのストリングの省略時の値は次のとおりです。

```
'RW,SUID'
```

NETWAREファイル・システム(*NETWARE)をマウントするためのオプション・ストリングの省略時の値は、次の通りです。

```
'RW,ACREGMAX=60,ACDIRMAX=60'
```

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、次のオプションのすべてが有効です。ユーザー定義ファイル・システムのマウントで有効なのは、*RO*, *RW*, *SUID*, および *NOSUID* オ

プションだけです。NETWAREファイル・システムのマウントで有効なのは、*RO*、*RW*、*ACREGMAX*、*ACDIRMAX*、*NOAC*、および*NOCTO*オプションだけです。マウントするファイル・システムのタイプに有効でないオプションを指定した場合には、それらは無視されます。

オプション・リスト

使用可能なオプションとその説明を以下に示します。

RWIRO

このオプションはマウント・ファイル・システムの保護を指定します。*RO*（読み取り専用）または*RW*（読み取り／書き込み）のいずれかを指定できます。どちらも指定しない場合には、*RW*とみなされます。

SUIDINOSUID

ユーザー定義ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムのマウントで、*SUID*が指定されている場合には、*SETUID*の実行が許可されます。これは、許可ビット以外のビットをセットすることができることを意味します。*NOSUID*が指定されている場合には、*SETUID*の実行は許可されません。

HARDISOFT

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、*NFS*ファイル・システムがハード・マウントかソフト・マウントかを指定します。ハード・マウントは、操作に対する肯定応答がサーバーによって送られるまで、その操作は再試行されることを意味します。ソフト・マウントとは、リモート操作が*RETRANS*オプションで指定された回数だけ失敗した場合には、タイムアウト・エラーが戻されることを意味します。どちらも指定されていない場合には、*HARD*とみなされます。

RSIZE=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、読み取りバッファのサイズ（バイト数）を指定します。読み取りバッファは、*NFS*読み取り要求時に、*NFS*クライアントとリモート*NFS*サーバーの間のデータ転送用に使用されます。使用可能な範囲は512から8096までです。*RSIZE*が指定されていない場合には、省略時値の8096とみなされます。パフォーマンスを良くするために、読み取りバッファは、アプリケーション・バッファのサイズの倍数にしてください。

WSIZE=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、書き出しバッファのサイズ（バイト数）を指定します。書き出しバッファは、*NFS*書き出し要求時に、*NFS*クライアントとリモート*NFS*サーバーの間のデータ転送用に使用されます。使用可能な範囲は512から8096までです。*WSIZE*が指定されていない場合には、省略時値の8096とみなされます。パフォーマンスを良くするために、書き出しバッファは、アプリケーション・バッファのサイズの倍数にしてください。

TIMEO=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、クライアントが各試行に対して応答するのを待機する時間(1/10秒数)を指定します。使用可能な範囲は0から10000までです。*TIMEO*が指定されていない場合には、省略時値の20/10秒(2秒)とみなされます。

RETRY=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合に、マウント操作を再試行する回数を指定します。使用可能な範囲は0から10000までです。*RETRY*が指定されていない場合には、省略時値の5回の再送信とみなされます。

RETRANS=N

ネットワーク・ファイル・システムのマウントでは、サーバーへの送信を再試行する回数

を指定します。使用可能な範囲は0から10までです。*RETRANS*が指定されていない場合には、省略時値の5回の再送信とみなされます。

ACREGMIN=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、ファイル更新後に、記憶されたファイル属性をローカルに保持する最小秒数を指定します。使用可能な範囲は1から3600までです。*ACREGMIN*が指定されていない場合には、省略時値の30秒とみなされます。

ACREGMAX=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、ファイル更新後に、記憶されたファイル属性をローカルに保持する最大秒数を指定します。使用可能な範囲は1から2,000,000,000です。*ACREGMAX*が指定されていない場合には、省略時値の60秒とみなされます。

ACDIRMIN=N

ネットワーク・ファイル・システムをマウントする場合には、ファイル更新後に、記憶されたファイル属性をローカルに保持する最小秒数を指定します。使用可能な範囲は1から3600までです。*ACDIRMIN*が指定されていない場合には、省略時値の30秒とみなされます。

ACDIRMAX=N

ネットワーク・ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムをマウントする場合には、ディレクトリー更新後に、記憶されたディレクトリー属性をローカルに保持する最大秒数を指定します。使用可能な範囲は1から2,000,000,000です。*ACDIRMAX*が指定されていない場合には、省略時値の60秒とみなされます。

NOCTO

ネットワーク・ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムをマウントする場合には、ファイルのオープン時にリモート属性を強制的にリフレッシュするかどうかを指定します。このオプションが存在している場合には、ファイルのオープン時にサーバーからの属性は更新されず、最後のクローズ時に変更はサーバーに送られません。*NOCTO*が存在しない場合には、省略時値の「抑制なし」とみなされます。

NOAC ネットワーク・ファイル・システムまたはNETWAREファイル・システムをマウントする場合には、属性および名前のローカル記憶域を抑制するかどうかを指定します。このオプションが存在する場合には、属性および名前のローカル記憶域が抑制されます。*NOAC*が存在しない場合には、省略時値の「抑制」とみなされます。*NOAC*が指定されている場合には、*AGREGMIN*、*AGREGMAX*、*AGDIRMIN*、および*AGDIRMAX*に指定された値を指定できませんが、使用されません。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

ネットワーク・ファイル・システムの場合に、使用される特定の文字表現を識別する1対のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。最初のCCSIDは、リモート・システム上のデータ・ファイルにはどのエンコード・スキームを前提とするかを指定します。2番目のCCSIDは、リモート・システム上のパス名にはどのエンコード・スキームを前提とするかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、マウントがネットワーク・ファイル・システムの場合だけです。

要素1:データ・ファイルCCSID

*BINARY

変換は使用されません。

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSIDが使用されます。

1から65533

リモート・システムのデータ・ファイルに想定されるCCSIDを指定してください。

要素2:パス名CCSID

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブCCSIDが使用されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのCCSIDが使用されます。

1から65533

リモート・システムのパス名に想定されるCCSIDを指定してください。UCS-2レベル1 (1200)に変換できるCCSIDだけがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「グローバル化」情報を参照してください。

トップ

コード・ページ (CODEPAGE)

ネットワーク・ファイル・システムの場合に、1対のコード・ページを指定します。最初のコード・ページは、リモート・システム上のデータ・ファイルにはどのコード・ページを前提とするかを指定します。2番目のコード・ページは、リモート・システム上のパス名にはどのコード・ページを前提とするかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、マウントがネットワーク・ファイル・システムの場合だけです。

注: このパラメーターは、コード化文字セットID (CCSID)と置き換えられますが、CODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能な限りCCSIDパラメーターを使用してください。

要素1:データ・ファイル・コード・ページ

注: 元のデータと文字当たりのバイト数が同じコード・ページを指定する必要があります。

*BINARY

変換は使用されません。

*ASCII

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

*JOBCCSID

現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

1から32767

リモート・システムでデータ・ファイルに想定されるコード・ページを指定してください。1バイトまたは2バイトのコード化スキームに対応するコード・ページのみがサポートされます。混合バイト・コード化スキームに対応するコード・ページはサポートされません。

要素2:パス名コード・ページ

***ASCII**

ASCIIに等価な、現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

***JOBCCSID**

現行ジョブと関連した省略時のジョブ・コード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

1から32767

リモート・システムのパス名に想定されるコード・ページを指定してください。CCSIDをUCS-2レベル1 (1200)に変換できるコード・ページのみがサポートされます。サポートされる変換のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバル化セッション」情報を参照してください。

トップ

例

MOUNTの代替コマンド名はADDMFSです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MOUNTはそれらのすべてで直接ADDMFSに置き換えることができます。

例1: ユーザー定義ファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*UDFS) MFS('/DEV/QASP03/PROD1') MNTOVRDIR('DIRB')
```

このコマンドは、ユーザー定義ファイル・システムPROD1をディレクトリーDIRBにマウントします。その他のパラメーターには省略時の値を使用します。

例2: ネットワーク・ファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*NFS) MFS('RAINFALL:/QSYS.LIB/RAY.LIB')
MNTOVRDIR('/MYSTUFF')
```

このコマンドは、リモート・システムRAINFALLからディレクトリー/MYSTUFFに/QSYS.LIB/RAY.LIBをマウントします。

例3: OPTIONSを指定したネットワーク・ファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*NFS) MFS('RAINFALL:/QSYS.LIB/RAY.LIB')
MNTOVRDIR('/MYSTUFF')
OPTIONS('RO,NOSUID,RSIZE=256,RETRANS=10')
CODEPAGE(*ASCII *JOBCCSID) CCSID(*ASCII *JOBCCSID)
```

このコマンドは、リモート・システムRAINFALLからディレクトリー/MYSTUFFに/QSYS.LIB/RAY.LIBをマウントします。さらに、読み取り専用としてマウントするように指定し、SETUIDの実行を許可しないで、読み取りバッファを256バイトに設定して、再送信回数を10に設定します。リモート・パス名に使用するコード化文字セットIDを判別するには、ジョブ CCSID が使用されます。

例4: OPTIONSを指定したNETWAREファイル・システムのマウント

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE) MFS('RCHNWSVR1/LOTUS:LOTSUITE/SMARTCTR')
MNTOVRDIR('/TEMP1') OPTIONS('RO,AGREGMAX=120')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TEMP1に、サーバーRCHNWSVR1にあるボリュームLOTUSが入っているNETWAREディレクトリーLOTSUITE/SMARTCTRをマウントします。さらに、読み取り専用としてマウントするように指定し、ローカルにファイル属性を保管する最大時間を120秒に設定します。

例5: NETWAREディレクトリー・サービス・コンテキストを使用したマウント

以下に、NETWAREディレクトリー・サービス(NDS)コンテキストを使用してNETWAREファイル・システムをマウントするいくつかの例を示します。

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE) MFS('LOTUS_VOL.ROCHESTER.IBM')
MNTOVRDIR('/TEMP1')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TEMP1に、識別されたコンテキストを使用してNDSボリュームLOTUS_VOLをマウントします。

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE)
MFS('CN=LOTUS_VOL.OU=ROCHESTER:LOTSUITE/SMARTCTR')
MNTOVRDIR('/TEMP1')
```

このコマンドは、ディレクトリー/TEMP1に、相対パスと完全修飾名を使用して、NDSボリュームLOTUSのパスLOTSUITE/SMARTCTRをマウントします。

```
ADDMFS TYPE(*NETWARE) MFS('.CN=LOTUSMAP.OU=ROCHESTER.O=IBM')
MNTOVRDIR('/TEMP1')
```

このコマンドは、ディレクトリーTEMP1に、識別されたコンテキストと完全修飾名を使用して、ディレクトリー・マップをマウントします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA1B8

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

トップ

オブジェクトの移動 (MOV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトの移動 (MOV)コマンドは、オブジェクトをそれが入っているディレクトリーから別のディレクトリーへ移動します。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトは別のディレクトリーに移動されて、オブジェクトは同じ名前を保持します。 **TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトも名前変更されます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PCの読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル) の場合には、移動コマンドは次のように作動します。

1. 元のファイルを削除することができる（すなわち、そのファイルの読み取り専用ビットをオフにすることができる）場合には、移動は成功し、そのファイルの読み取り専用属性は保存されます。
2. 元のファイルを削除することができない場合（たとえば、CD-ROMファイルなど）には、移動操作は正常に実行されず、移動元が読み取り専用であることを示すメッセージが出されます。

ファイル・システム内でファイルを移動すると、最終アクセス日付/時刻、データ変更日付/時刻、および属性変更日付/時刻が新しいファイルに保存されます。ファイルが"ルート" (/), QOPENSYS, QDLS,またはUDFSファイル・システムへと元のファイル・システムの外側へ移動された場合には、属性変更日付/時刻が現在の時刻に変更されます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)に移動する場合には、データの変更日付/時刻も更新されます。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- MOVE

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. オブジェクトの移動先のディレクトリーには、TOOBJパラメーターで指定された名前がすでに入っているではありません（またTODIRが使用されている場合には、OBJパラメーターで指定された名前がTODIRに存在してはいけません）。
2. バイト・ストリーム・ファイル・タイプのオブジェクトだけが、ファイル・システム間で移動されません。
3. ディレクトリーを従属ディレクトリーに移動することはできません。
4. データベース・ファイル・メンバーを移動することはできません。
5. QDLS内のオブジェクトを、補助記憶域プール(ASP)間で移動することはできません。
6. 独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーを、基本補助記憶域プール(ASP)に移動することはできません。ただし、独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーは、システムASPまたは他の独立ASPに移動することができます。

7. MOVEコマンドは、1つのファイル・システムから別のファイル・システムへ移動するときには、オブジェクトの専用認可をコピーしません。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, '?'	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, * OBJ , *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, * OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	* BINARY , *TEXT	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, * OBJ , *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, * OBJ , *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

移動するオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: オブジェクト名のパターンを使用できるのは、**TOディレクトリー (TODIR)**パラメーターが使用されている場合だけです。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名を指定します。移動されるオブジェクトは、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定された名前を使用します。

。パス・オブジェクトは現行ディレクトリーに移ります。

ディレクトリー名

オブジェクトの移動先のディレクトリーの名前を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: TODIRと **TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターは相互に排他的です。

[トップ](#)

TOオブジェクト (TOOBJ)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名およびオブジェクトの新しい名前を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: **TOディレクトリー (TODIR)**とTOOBJパラメーターは相互に排他的です。

[トップ](#)

変換元CCSID (FROMCCSID)

移動操作のソースでコード化文字セットID (CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

***PCASCII**

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴは、MICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

***JOBCCSID**

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。

[トップ](#)

変換先CCSID (TOCCSID)

移動操作のターゲットでデータのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させて移動を続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSIDに基づいて計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。このCCSIDがオブジェクトの移動先であるファイル・システムで使用できない場合には、移動操作は正常に実行されません。

トップ

データ形式 (DTAFMT)

移動するファイルのデータの形式を指定します。

*BINARY

ファイルには2進数形式のデータ（実行可能ファイルなど）が入っています。移動時にデータの変換は行われません。ただし、移動するオブジェクトにソース・オブジェクトとは違うCCSIDがある場合には、設定される前にすべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

*TEXT

ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。移動時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データは移動時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルに移動される場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから他方のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルがデータベース・メンバーに移動される場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないければ、移動は失敗します。入っていないと移動は正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへの移動時に次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

トップ

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

移動操作のソース用コード・ページを入手する方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**パラメーターと置き換えられますが、FROMCODPAGパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、移動するオブジェクトのコード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT, およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。

トップ

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

移動操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、TOCODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならTOCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させて移動を続行してください。

*STDASCH

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCH

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

[トップ](#)

例

例1: オブジェクトの移動

```
MOV OBJ('/CURRENT/DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
    TODIR('/ARCHIVE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルをCURRENTという名前のディレクトリーからARCHIVEという名前のディレクトリーへ移動します。

例2: 変換して移動

```
MOV OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCCSID(*CALC) DTAFMT(*TEXT) TOCCSID(*CALC)
```

ストリーム・ファイル'DATAFB'がデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'へ移動されます。TOCCSID(*CALC)を指定することによって、(この場合にはQSYS.LIBファイル・システムへ)移動されるファイル・システムは、'DATAFB'と同じCCSIDで新しいメンバーを作成しようとしています。これが失敗すると(この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでないと)、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、移動を完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B8

&1オブジェクトは移動された。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

文書の移動 (MOVDOC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書移動(MOVDOC)コマンドは、システムが文書の検索に使用するパスを変更します。この文書は補助記憶域の別の場所に物理的に移動されるわけではなく、また新しいオブジェクトが作成されるわけでもありません。

制約事項:

- ユーザーはシステム・ディレクトリーに登録されていなければならず、さらに移動する文書に対して全(*ALL)権限およびFROMフォルダーとTOフォルダー（適用できる場合）の両方に対して変更(*CHANGE)権限が必要です。
- 文書をフォルダーに移動したりフォルダーから文書を移動したりするためには、そのフォルダーに対して*CHANGE権限が必要です。
- 異なる補助記憶域プール(ASP)に存在するフォルダー間で文書を移動することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMDOC	取り出し文書	文字値, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FROMFLR	取り出しフォルダー	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 3
RENAME	名前付け直し	文字値, <u>*SAME</u>	オプション, 定位置 4
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

取り出し文書 (FROMDOC)

移動される文書を指定します。FROMDOCパラメーターに文書名が指定された場合には、取り出しフォルダー (FROMFLR)パラメーターにフォルダー名を指定しなければなりません。*SYSOBJNAMがFROMDOCパラメーターに指定された場合には、システム・オブジェクト名をシステム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定しなければなりません。

注: FROMDOC(NAME)が指定された場合には、FROMFLR(NAME)が必要です。FROMDOC(*SYSOBJNAM)が指定された場合には、SYSOBJNAM(NAME)およびRENAME(NAME)が必要です。

これは必須パラメーターです。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名は、移動したい文書の識別に使用されます。このパラメーターは、フォルダーのない文書の移動に使用しなければなりません。また、システム・オブジェクト名が分かっている場合に、フォルダー／文書名の代わりに使用されることがあります。

名前 移動される文書の名前を指定を指定します。

[トップ](#)

取り出しフォルダー (FROMFLR)

文書を移動しているフォルダーの名前を指定します。文書名が**取り出し文書 (FROMDOC)**パラメーターに指定されている場合は、フォルダー名をこのパラメーターに入力しなければなりません。

FROMDOC(NAME)が指定された場合には、FROMFLR(*NONE)を指定することはできません。

***NONE**

移動される文書はそのシステム・オブジェクト名によって指定されます。

名前 移動される文書が入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

文書を移動するフォルダー名前を指定します。文書名を**名前付け直し (RENAME)**パラメーターに入力した場合には、このパラメーターにフォルダー名を入力しなければなりません。

***NONE**

文書はフォルダーなしのオブジェクトになります。TOFLR(*NONE)を指定した場合には、その文書はフォルダーなしとなり、そのシステム・オブジェクト名でしか参照することはできません。

名前 文書を入れることになるフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

名前付け直し (RENAME)

移動された文書がTOFLRフォルダー内で認識される名前を指定します。このパラメーターにより、ユーザーは、フォルダー外文書をフォルダーに移動する際に、文書の名前を指定することができます。また、文書のあるフォルダーから別のフォルダーへ移動する際に、文書の名前を変更することもできます。

ユーザーが文書をフォルダーに移動したい場合には、TOFLRフォルダー内におけるその文書の名前を固有としなければなりません。

新しい名前がすでにTOFLRパラメーターで指定されたフォルダーまたはフォルダー内の文書に割り当てられている場合には、ユーザーは、ターゲット文書の新しい名前を選択するか、あるいは同じ名前をもつフォルダーまたは文書の名前を変更しなければなりません。

注: FROMDOC(*SYSOBJNAM)が指定された場合には、RENAME(NAME)を指定しなければなりません。

*SAME

フォルダーをあるフォルダーから別のフォルダーに移動する時は、文書名は変更されません。または文書がフォルダーなしに作成される時には名前がなくなります。

名前 TOFLRフォルダー内の移動された文書の名前を指定してください。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

移動する文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。このパラメーターを指定できるのは、FROMDOC(*SYSOBJNAM)を指定した場合だけです。

名前 システム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:無フォルダー文書の追加

```
MOVDOC FROMDOC(*SYSOBJNAM) FROMFLR(*NONE) TOFLR(FLR1)
        RENAME(DOC1) SYSOBJNAM(CNTR192366)
```

このコマンド（システム・オブジェクト名がCNTR192366である）は、無フォルダー文書をFLR1に追加し、DOC1と名前を付けます。

例2:文書の移動およびその名前の保持

```
MOVDOC FROMDOC(DOC1) FROMFLR(FLR1) TOFLR(FLR2)
        RENAME(*SAME)
```

このコマンドは、DOC1をFLR1からFLR2に移動し、名前DOC1を保持します。

例3:文書の移動および名前変更

```
MOVDOC FROMDOC(DOC1) FROMFLR(FLR1) TOFLR(FLR2)
        RENAME(DOC2)
```

このコマンドは、DOC1をFLR1からFLR2に移動し、DOC2に名前変更します。

例4:文書の移動およびその無フォルダーへの変更

```
MOVDOC FROMDOC(DOC1) FROMFLR(FLR1) TOFLR(*NONE)
```

このコマンドは、DOC1をFLR1から移動し、無フォルダー文書に変更します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A13

フォルダー&1の文書&2は移動されなかった。

[トップ](#)

オブジェクトの移動 (MOVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクトの移動 (MOVE)コマンドは、オブジェクトをそれが入っているディレクトリーから別のディレクトリーへ移動します。

TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトは別のディレクトリーに移動されて、オブジェクトは同じ名前を保持します。**TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターが使用されている場合には、オブジェクトも名前変更されます。

元のオブジェクトが読み取り専用ファイル(PCの読み取り専用属性フラグがオンになっているファイル) の場合には、移動コマンドは次のように作動します。

1. 元のファイルを削除することができる（すなわち、そのファイルの読み取り専用ビットをオフにすることができる）場合には、移動は成功し、そのファイルの読み取り専用属性は保存されます。
2. 元のファイルを削除することができない場合（たとえば、CD-ROMファイルなど）には、移動操作は正常に実行されず、移動元が読み取り専用であることを示すメッセージが出されます。

ファイル・システム内でファイルを移動すると、最終アクセス日付/時刻、データ変更日付/時刻、および属性変更日付/時刻が新しいファイルに保存されます。ファイルが"ルート" (/), QOPENSYS, QDLS,またはUDFSファイル・システムへと元のファイル・システムの外側へ移動された場合には、属性変更日付/時刻が現在の時刻に変更されます。QSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のデータベース・ファイル・メンバー(*MBR)に移動する場合には、データの変更日付/時刻も更新されます。

このコマンドはオブジェクトの移動 (MOV)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- MOV

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. オブジェクトの移動先のディレクトリーには、TOOBJパラメーターで指定された名前がすでに入っているではありません（またTODIRが使用されている場合には、OBJパラメーターで指定された名前がTODIRに存在してはいけません）。
2. バイト・ストリーム・ファイル・タイプのオブジェクトだけが、ファイル・システム間で移動されません。
3. ディレクトリーを従属ディレクトリーに移動することはできません。
4. データベース・ファイル・メンバーを移動することはできません。
5. QDLS内のオブジェクトを、補助記憶域プール(ASP)間で移動することはできません。

6. 独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーを、基本補助記憶域プール(ASP)に移動することはできません。ただし、独立ASP QSYS.LIBの中のライブラリーは、システムASPまたは他の独立ASPに移動することができます。
7. MOVEコマンドは、1つのファイル・システムから別のファイル・システムへ移動するときには、オブジェクトの専用認可をコピーしません。

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
TODIR	TOディレクトリー	パス名, '?'	オプション, 定位置 2
TOOBJ	TOオブジェクト	パス名	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *OBJ, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *OBJ, *CALC, *STDASCII, *PCASCII, *JOBCCSID	オプション
DTAFMT	データ形式	*BINARY, *TEXT	オプション
FROMCODPAG	FROMコード・ページ	1-32767, *OBJ, *PCASCII	オプション
TOCODEPAGE	TOコード・ページ	1-32767, *OBJ, *CALC, *STDASCII, *PCASCII	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

移動するオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: オブジェクト名のパターンを使用できるのは、TOディレクトリー (TODIR)パラメーターが使用されている場合だけです。

トップ

TOディレクトリー (TODIR)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名を指定します。移動されるオブジェクトは、**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定された名前を使用します。

。 パス・オブジェクトは現行ディレクトリーに移ります。

ディレクトリー名

オブジェクトの移動先のディレクトリーの名前を指定してください。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: TODIRと **TOオブジェクト (TOOBJ)**パラメーターは相互に排他的です。

トップ

TOオブジェクト (TOOBJ)

オブジェクトの移動先ディレクトリーのパス名およびオブジェクトの新しい名前を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: **TOディレクトリー (TODIR)**とTOOBJパラメーターは相互に排他的です。

トップ

変換元CCSID (FROMCCSID)

移動操作のソースでコード化文字セットID (CCSID)を取得するメソッドを指定します。必要であれば、このCCSIDがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを計算するには、移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴは、MICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるCCSIDとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。

トップ

変換先CCSID (TOCCSID)

移動操作のターゲットでデータのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータCCSIDを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、ファイル・システムに別のCCSIDを判別させて移動を続行してください。

*STDASCII

ソース・ファイルのCCSIDに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のCCSIDを計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。オブジェクトのコピー先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のCCSIDを、ソース・ファイルのCCSIDに基づいて計算します。このCCSIDを移動操作のターゲットと関連付けし、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にも、データ変換にこのCCSIDを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのCCSIDを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*JOBCCSID

省略時のジョブCCSIDからのコード化文字セットID (CCSID)が使用されます。

1から65533

CCSID値を指定してください。このCCSIDがオブジェクトの移動先であるファイル・システムで使用できない場合には、移動操作は正常に実行されません。

トップ

データ形式 (DTAFMT)

移動するファイルのデータの形式を指定します。

*BINARY

ファイルには2進数形式のデータ（実行可能ファイルなど）が入っています。移動時にデータの変換は行われません。ただし、移動するオブジェクトにソース・オブジェクトとは違うCCSIDがある場合には、設定される前にすべての拡張属性が新しいオブジェクトのCCSIDに変換されます。

*TEXT

ファイルにはデータがテキスト形式で入っています。移動時にデータを新しいオブジェクトのCCSIDに変換します。データは移動時にはテキストとして処理されます。

データベース・メンバーがストリーム・ファイルに移動される場合には、行形式設定文字（改行、タブ、ファイルの終わりなど）は、一方のCCSIDから他方のCCSIDに変換されるだけです。

ストリーム・ファイルがデータベース・メンバーに移動される場合には、ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っていないければ、移動は失敗します。入っていないと移動は正常に実行されません。ストリーム・ファイルに行の終わり文字が入っている場合には、データベース・ファイルへの移動時に次の処置が実行されます。

- 行の終わり文字を除去します。
- レコードを、ブランク（ソース物理ファイル・メンバーの場合）またはヌル（データ物理ファイル・メンバーの場合）で埋め込みます。
- タブ文字を、適切な数のブランクで次のタブ位置まで置き換えます。

トップ

FROMコード・ページ (FROMCODPAG)

移動操作のソース用コード・ページを入手する方法を指定します。必要であれば、このコード・ページがデータ変換に使用されます。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換元CCSID (FROMCCSID)**パラメーターと置き換えられますが、FROMCODPAGパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならFROMCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。

*PCASCII

MICROSOFT WINDOWSエンコード・スキーム(X4105)のコード・ページを計算するには、移動するオブジェクトのコード・ページを使用します(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT, およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です)。DTAFMT(*TEXT)を指定する時には、データの変換元であるコード・ページとしてこれを使用します。このオプションにより、MICROSOFT WINDOWSを使用してデータを作成した場合に、PCからのデータが適切に変換されます。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。

トップ

TOコード・ページ (TOCODEPAGE)

移動操作の行き先のデータ・コード・ページを指定します。**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されたオブジェクトが通常のファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

注: このパラメーターは**変換先CCSID (TOCCSID)**と置き換えられますが、TOCODEPAGEパラメーターはまだ使用できます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、可能ならTOCCSIDパラメーターを使用してください。

***OBJ** 移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*CALC

移動するオブジェクトのデータ・コード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、ファイル・システムに別のコード・ページを判別させて移動を続行してください。

*STDASCH

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

*PCASCH

ソース・ファイルのコード・ページに基づいて、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページを計算します。このコード・ページを移動操作のターゲットと関連付け、またDTAFMT(*TEXT)が指定されている場合にはデータ変換にこのコード・ページを使用します。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

1から32767

コード・ページの値を指定してください。オブジェクトの移動先ファイル・システムでこのコード・ページを使用できない場合には、移動操作は失敗します。

[トップ](#)

例

MOVEの代替コマンド名はMOVです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、MOVEはそれらのすべてで直接MOVに置き換えることができます。

例1: オブジェクトの移動

```
MOV OBJ('/CURRENT/DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
    TODIR('/ARCHIVE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルをCURRENTという名前のディレクトリーからARCHIVEという名前のディレクトリーへ移動します。

例2: 変換して移動

```
MOV OBJ('/DATAFB')
    TOOBJ('/QSYS.LIB/APP1.LIB/DATA.FILE/DATAFB.MBR')
    TOCODEPAGE(*CALC) DTAFMT(*TEXT) TOCCSID(*CALC)
```

ストリーム・ファイル'DATAFB'がデータベース・ファイル'DATAFB.MBR'へ移動されます。TOCCSID(*CALC)を指定することによって、(この場合にはQSYS.LIBファイル・システムへ)移動されるファイル・システムは、'/DATAFB'と同じCCSIDで新しいメンバーを作成しようとします。これが失敗すると(この場合には、'DATA.FILE'が'DATAFB'と同じCCSIDでないと)、ファイル・システムは適切なCCSIDの選択を許可されて、移動を完了します。DTAFMT(*TEXT)を指定することにより、'DATAFB'のデータはテキストとして処理され、新しいファイル'DATAFB.MBR'用に選択したCCSIDに変換されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0B0

1つのファイル・システムから別のファイル・システムに渡って機能する要求は使用することができない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B8

&1オブジェクトは移動された。&2オブジェクトは正常に実行されなかった。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

オブジェクト移動 (MOV OBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト移動(MOV OBJ)コマンドでは、オブジェクトを現在割り当てられているライブラリーから除去して、別のライブラリーに入れます。保管および復元情報は、オブジェクト記述から除去されます。

注: ライブラリー作成(CRTL LIB)コマンドの作成権限(CRTAUT)パラメーターで作成先ライブラリーについて指定された値は、使用されません。オブジェクトの所有権と共通および専用権限は同じままです。

移動するオブジェクトのオブジェクト・タイプがジャーナル処理できるオブジェクト・タイプである場合は、移動先ライブラリー中のQDFTJRNという名前のデータ域の存在および内容により、ジャーナル処理をオブジェクトで開始するかどうかを決定します。オブジェクトをQTEMPから1次または2次ASPに移動する際の考慮事項で下記に示された例外により、オブジェクトを移動元ライブラリーでジャーナル処理した場合には、移動先ライブラリーでのジャーナル処理が続行されます。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

制約事項:

- *FILEオブジェクト以外のオブジェクトでは、以下が必要となります。
 - 移動するオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限,
 - オブジェクトの移動元のライブラリーに対する削除(*DELETE)および読み取り(*READ)権限, および
 - オブジェクトの移動先のライブラリーに対する追加(*ADD)および読み取り(*READ)権限
- *FILEオブジェクトでは、以下が必要となります。
 - 移動するオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限,
 - オブジェクトの移動元のライブラリーに対する削除(*DELETE), 追加(*ADD), および実行(*EXECUTE)権限, および
 - オブジェクトの移動先のライブラリーに対する追加(*ADD)および読み取り(*READ)権限
- ライブラリー, ユーザー・プロファイル, 編集記述, 回線記述, 制御装置記述, 装置記述, ジャーナル, およびジャーナル・レシーバーといったオブジェクト・タイプは移動できません。
- システム操作員メッセージ待ち行列QSYSOPR, すべてのワークステーション・ユーザー・メッセージ待ち行列, およびシステム・ログQHSTといったオブジェクトは移動できません。
- オブジェクトの移動先のライブラリーに, 移動されるオブジェクトと同じ名前およびタイプのオブジェクトが入ってはいけません。
- オブジェクトの移動先のライブラリーをQTEMPにすることはできません。
- ユーザー空間(*USRSPC), ユーザー見出し(*USRIDX), およびユーザー待ち行列 *USRQのユーザー定義域オブジェクトをコピーできるのは, システム値QALWUSRDMN (ライブラリーでユーザー定義域オブジェクトが使用できる) で使用できるライブラリーに対してだけです。しかし, ユーザー・オブジェクトがシステム・ドメイン・オブジェクトとして作成された場合には, 制約はありません。

8. 一般規則として、オブジェクトと移動先ライブラリーが異なった補助記憶域プール(ASP)内にある場合には、オブジェクトをその移動先ライブラリーに移動することはできません。オブジェクトを移動できないと、エラー・メッセージが送られます。この一般規則には以下に示す特例があります。

- 基本ユーザーASP内にある保管ファイルを、システムASP (ASP 1)内にあるライブラリーに移動することができます。ただし、これは、その保管ファイルのライブラリーもシステムASP内にある場合に限られます。
- 2次ASP内のオブジェクトを、同じASPグループ内の1次ASPに移動することができます。ただし、これは、移動先ライブラリーがQRPLXXXXX（ここで'XXXXX'はASPグループの1次ASPの番号）である場合に限られます。
- 以下の点を考慮して、オブジェクトをQTEMPから1次または2次ASPに移動することができます。
 - 「移動」は保管または復元操作によって遂行されます。
 - オブジェクトのサイズは1テラバイト未満でなければなりません。(ASPへのライブラリーの移動(QHSMOVL) APIにはこのサイズ制限はありません。)
 - オブジェクトを名前変更できない場合には、オブジェクトを移動することはできません。
 - データ待ち行列、メッセージ待ち行列、および論理ファイルの場合には、オブジェクト記述しか移動されません。オブジェクトの内容は移動されません。
 - オブジェクトに対する専用権限は保持されます。
 - オブジェクトが移動されると、以下の属性が元のオブジェクトとは異なってしまいます。
 - 最後に使用された日付はブランクに設定されます。
 - 変更日時は現在日時に設定されます。
 - 使用日数カウントはゼロに設定されます。
 - 日付使用カウント・リセットはブランクに設定されます。
 - 復元日時は現在日時に設定されます。
 - 移動するオブジェクトのオブジェクト・タイプがジャーナル処理できるオブジェクト・タイプである場合は、移動先ライブラリー中のQDFTJRNという名前のデータ域の存在および内容により、ジャーナル処理をオブジェクトで開始するかどうかを決定します。QDFTJRNデータ域が存在しないか、あるいはそのオブジェクト・タイプの復元操作でジャーナル処理を開始する必要があると指示していない場合は、元のオブジェクトがジャーナル処理された場合でも、そのオブジェクトはジャーナル処理されません。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *DTAQ, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *JOBQ, *JOBQ, *JRN, *JRNRCV, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SRVPGM, *SSND, *SVRSTG, *TBL, *USRIDX, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 2
TOLIB	TOライブラリー	名前, *CURLIB	必須, 定位置 3
ASPDEV	複写元ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプションル
TOASPDEV	宛先ASP装置	名前, *ASPDEV, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプションル

トップ

オブジェクト (OBJ)

別のライブラリーに移動されるオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

移動されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

移動されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

オブジェクト・タイプ

移動されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

トップ

TOライブラリー (TOLIB)

オブジェクトが移動される先のライブラリーを指定します。ライブラリーQTEMP は指定できません。

これは必須パラメーターです。

*CURLIB

オブジェクトは現行ライブラリーに移動されます。現行スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 オブジェクトが移動される先のライブラリーの名前を指定してください。

トップ

複写元ASP装置 (ASPDEV)

移動されるオブジェクトが入っているライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドと関連したライブラリー名スペースの一部でないASPに存在する場合には、必ず正しいオブジェクトが移動されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。ライブラリー (OBJ)パラメーターに*LIBLまたは*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1

次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

宛先ASP装置 (TOASPDEV)

TOライブラリー(TOLIB)パラメーターに指定された移動先ライブラリーの記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。移動先ライブラリーがスレッドと関連したライブラリー・ネーム・スペースの一部でないASPに存在する場合には、このパラメーターを指定して確実に正しいオブジェクトが移動されるようにしなければなりません。TOLIBパラメーターに*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを使用する場合には、TOASPDEV(*)を指定しなければならないか、TOASPDEV(*ASPDEV)を指定して、複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターを*にしなければなりません。

***ASPDEV**

ASPDEVパラメーターに指定されたASP装置がライブラリーを見つけるために検索されます。

- * 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32),およびスレッドのASPグループ内の1次および2次ASP (スレッドがASPグループを持っている場合)が含まれます。

***CURASGRP**

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

例

例1:汎用ライブラリーからのオブジェクトの移動

```
MOV OBJ(QGPL/X) OBJTYPE(*PGM) TOLIB(MY)
```

Xプログラム(*PGM)オブジェクトを見つけるために汎用ライブラリー(QGPL)が検索されます。Xプログラム・オブジェクトは、MYライブラリーに移動されます。このコマンドが実行されると、Xプログラム・オブジェクトはもうQGPLライブラリーに存在しなくなります。

例2:ライブラリー・リスト内のライブラリーからのオブジェクトの移動

```
MOV OBJ(*LIBL/Y) OBJTYPE(*FILE) TOLIB(Z)
-または-
MOV OBJ Y *FILE Z
```

Yファイル・オブジェクトを見つけるために、ライブラリー・リスト(*LIBL)が検索されます。ライブラリー・リストを構成するライブラリーに同じ名前のファイル・オブジェクトが複数存在する場合には、ライブラリー・リストで最初に見つかったYファイル・オブジェクトがZライブラリーに移動されます。このコマンドが実行されると、Yファイル・オブジェクトは、それが見つかったライブラリーにはもう存在しなくなります。

例3:独立補助記憶域プール(ASP)内のライブラリーから別のASPのライブラリーへのオブジェクトの移動

```
MOV OBJ(INVENTORY/MONTHLY) OBJTYPE(*PGM)
TOLIB(WINVENTORY) ASPDEV(SALES) TOASPDEV(WSALES)
```

MONTHLYプログラム・オブジェクトを見つけるためにSALES独立補助記憶域プール(ASP)内のINVENTORYライブラリーが検索されます。MONTHLYプログラム・オブジェクトは、WSALES ASP内のWINVENTORYライブラリーに移動されます。このコマンドが実行されると、MONTHLYプログラム・オブジェクトはもうSALES ASP内のINVENTORYライブラリーに存在しなくなります。SALES ASPおよびWSALES ASPは活動化されて(ASP装置をオンに構成変更することによって)、状況が「使用可能」になっていなければなりません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA030

オブジェクトはすでに使用中である。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF0601

&2のファイル&1に対する操作は許可されていない。

CPF0602

ファイル&1は、すでにライブラリー&2に存在している。

CPF0605

&2の装置ファイル&1は、記憶域を解放して保管された。

CPF0610

&2のファイル&1が使用可能でない。

CPF0678

&2のファイル名&1に対する操作は実行されなかった。

CPF1763

1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

- CPF2105**
&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。
- CPF2110**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF2112**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。
- CPF2113**
ライブラリー&1を割り振ることができない。
- CPF2114**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3を割り振ることができない。
- CPF2135**
タイプ*&3のオブジェクト&1はライブラリーにすでに存在している。
- CPF2150**
オブジェクト情報機能に障害。
- CPF2151**
&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。
- CPF2160**
オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。
- CPF216C**
TOLIB(*CURLIB)にはTOASPDEV値は無効である。
- CPF2173**
ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。
- CPF218C**
&1は1次または2次ASPではない。
- CPF2182**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF2183**
オブジェクト&1をライブラリー&3に移動することができない。
- CPF2189**
&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。
- CPF2193**
オブジェクト&1をライブラリー&4に移動することはできない。
- CPF22BC**
タイプ&3のオブジェクト&1はプログラム定義のオブジェクトでない。
- CPF2451**
メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。
- CPF2512**
メッセージ待ち行列&1に対してこの操作を使用することはできない。
- CPF32CF**
分散ファイル・エラー。理由コードは&3です。

CPF32C3

分散ファイル・エラー，レベルIDが一致していない。

CPF320B

データベース・ファイル&1に対して操作が正しくない。

CPF320C

SQLコレクション&2ではファイル&1は許されない。

CPF3201

ライブラリー&2にファイル&1はすでに存在している。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF322D

データベース・ファイル&1の操作は実行されなかった。

CPF3220

&2のファイル&1に対して操作を実行することはできない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF323D

ユーザーは正しい権限をもっていない。

CPF323F

ライブラリー&2のファイル&1の移動または名前変更が完了していない。

CPF3231

ライブラリー&2からファイル&1を移動することはできない。

CPF324B

ファイル&1にディクショナリーを割り振ることができない。

CPF324C

並行権限ホルダー操作のため，移動，名前変更，または復元を行なうことはできない。

CPF3245

ファイル&1メンバー&6の損傷により，ファイル&3に対する操作は行なわれなかった。

CPF325D

フィールドCCSID値に互換性がない。

CPF327C

ファイル&1をライブラリー&4に移動することができない。

CPF327E

ファイル&1の代替名は使用できない。

CPF329D

ライブラリー&2のファイル&1の操作が正常に行なわれていない。

CPF3323

ジョブ待ち行列&1はすでに&2に存在している。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3353

&2に出力待ち行列&1はすでに存在している。

CPF3373

&2のジョブ待ち行列&1は移動されなかった。ジョブ待ち行列は使用中です。

CPF3374

&2の出力待ち行列&1は移動されなかった。出力待ち行列は使用中です。

CPF3467

出力待ち行列&1が削除されてから、再作成された。

CPF3469

出力待ち行列に対する操作は認められない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7010

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF7014

オブジェクト&1をライブラリー&4に移動することはできない。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9827

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9876

保護されたライブラリー&2は変更できません。

[トップ](#)

メッセージ・カタログの組合せ (MRGMSGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・カタログ組合せ(MRGMSGCLG)コマンドは、1つまたは複数のソース・ファイル(SRCFILEパラメーター)からのメッセージ・テキストを、指定されたメッセージ・カタログ(CLGFILEパラメーター)内のメッセージ・テキストと組み合わせます。指定されたカタログが存在していない場合には、CLGCCSID, DTAAUT,およびOBJAUTパラメーターに指定された値を使用してそのカタログが作成されます。指定されたカタログがすでに存在している場合には、既存のメッセージ・カタログのCCSID, DTAAUT,およびOBJAUT属性が使用されます。

最大300のメッセージ・テキスト・ソース・ファイルを指定することができます。メッセージ・テキスト・ソース・ファイルは指定された順に処理されます。各ソース・ファイルが次から次へと連続的にカタログを変更します。メッセージ・カタログにすでに存在しているメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、メッセージ・カタログ・ファイル内の古いメッセージ・テキストは、ソース・ファイルに定義されている新しいメッセージ・テキストに置き換わります。メッセージ・カタログに存在していないメッセージ番号がソース・ファイルにある場合には、そのメッセージ情報がメッセージ・カタログに追加されます。

また、このコマンドは次の代替コマンド名を使用して出すことができます。

- GENCAT

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLGFILE	メッセージ・カタログ名	パス名	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル・パス名	値 (最大 300 回の繰り返し): パス名	必須, 定位置 2
CLGCCSID	メッセージ・カタログの CCSID	1-65533, *SRCCSID, *JOB	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
SRCCSID	ソース・ファイルのCCSID	1-65533, *SRCFILE, *JOB	オプション
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション

[トップ](#)

メッセージ・カタログ名 (CLGFILE)

変更または作成するメッセージ・カタログのパス名を指定します。ストリーム・ファイル・パス名内のすべてのディレクトリが存在していなければなりません。指定されたパス名をもつストリーム・ファイルが存在していない場合には、指定されたファイル名をもつメッセージ・カタログが作成されます。そのパス名が QSYSファイル・システムにある場合には、そのファイルが存在していなければなりません。QSYSファイル・システムにファイル・メンバーが存在していない場合には、それが作成されます。複数のデータ・フィールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

トップ

ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)

メッセージ・カタログと組み合わせるメッセージ・テキストが入っているソース・ファイルのパス名を指定します。ファイルがQSYSファイル・システムからのものである場合には、それはデータベース・ソース物理ファイルでなければなりません。

注: ソース・ファイルがレコード・ファイルでない場合には、ソース・ファイル中の各行は、ソース・ファイルの作成時には改行または行送り文字で終了していなければなりません。

トップ

メッセージ・カタログのCCSID (CLGCCSID)

メッセージ・テキストをメッセージ・カタログに入れる際のコード化文字セットID (CCSID)を指定します。メッセージ・カタログがストリーム・ファイルの場合には、入力されたCCSID値がストリーム・ファイルの属性を設定するために使用されます。メッセージ・カタログのCCSIDを表示するには、オブジェクト・リンク処理(WRKLNK) コマンドを使用します。QSYSファイル・システム内のメッセージ・カタログのCCSID を調べるには、ファイル記述表示(DSPFD)コマンドを使用します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCCCSID**

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSIDパラメーター) に指定された値からCCSID が決定されることを示す特殊値。

***JOB** カタログ情報の代わりにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

カタログ情報の代わりに使用されるCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

メッセージ・カタログを簡単に記述したテキストを指定します。

注: オブジェクトへのテキストの割り当ては、メッセージ・カタログに使用されているファイル・システムまたはオブジェクト・タイプによって提供されるサポートにより異なります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・ファイルのCCSID (SRCCSID)

ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRCFILE**

CCSIDが最初のソース・ファイル(SRCFILEパラメーター) のCCSIDから決定されることを示す特殊値。

***JOB** ソース・ファイルのCCSIDにジョブのCCSIDが使用されることを示す特殊値。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

コード化文字セットID

ソース・ファイルのCCSIDを指定してください。値0, 65534,および65535は無効です。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

作成されるオブジェクトの中のデータに対してユーザーに与えられる共通権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

作成されるオブジェクトに対する権限は、それが作成されるディレクトリーによって決まります。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限により、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在、オブジェクト管理、オブジェクト変更、およびオブジェクト参照権限によって制御される操作を除いて、オブジェクトについてのすべての操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できます。*RWX権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。

***RX** *RX権限により、ユーザーはプログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトにおける基本操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*RX権限は、オブジェクト操作権と読み取りおよび実行の権限を提供します。

***RW** *RW権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示および変更できます。*RW権限は、オブジェクト操作権およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

***WX** *WX権限により、ユーザーはオブジェクトの内容の変更、プログラムの実行、およびライブラリーまたはディレクトリーの検索ができます。*WX権限は、オブジェクト操作権と、データの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

***R** *R権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示できます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。

***W** *W権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を変更できます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

***X** *X権限により、ユーザーはプログラムを実行したり、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索できます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

除外権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値が*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対するデータ権限を何も認可されません。この値をOBJAUT値*NONEと一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ユーザーに与えられるオブジェクトに対する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このオブジェクトが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***NONE**

他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照権限）はユーザーに認可されません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リスト名を指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** 他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、および参照権限）のすべてがユーザーに認可されます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト存在権限を認可されます。

***OBJMGT**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を認可されます。

***OBJALTER**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト変更権限を認可されます。

*OBJREF

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト参照権限を認可されます。

[トップ](#)

例

```
MRGMSGCLG CLGFILE('/USDIR/USMSG.CAT') CLGCCSID(*SRCCSID)
SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MSGSRC.FILE/USMSG.MBR')
DTAAUT(*R) TEXT('MESSAGE CATALOG FOR USA')
```

このコマンドは、QSYSファイル・システム中のライブラリーMYLIBにあるソース物理ファイルMSGSRCのメンバーUSMSGのメッセージ・テキストをディレクトリーUSDIR中のメッセージ・カタログUSMSG.CATと組み合わせます。メッセージ・カタログがまだ存在しない場合には、ソース・ファイルのCCSIDおよびデータ権限*Rで作成されます。テキスト・パラメーターは、これをUSAのメッセージ・カタログとして記述します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3BE3

メッセージ・カタログ&1が作成または更新されていない。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル組み合わせ (MRGMSGF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ・ファイル組み合わせ(MRGMSGF)コマンドによって、1つのメッセージ・ファイルからのメッセージを別のメッセージ・ファイルのメッセージと組み合わせることができます。組み合わせの処理時には、置き換えられるメッセージを保持するために別のメッセージ・ファイルを指定することができます。このコマンドによって指定したメッセージ・ファイルが削除されることはありません。

このコマンドが処理される前に、取り出しメッセージ・ファイル(FROMMSGF)、受け取りメッセージ・ファイル(TOMSGF)、またはその両方のファイルにはメッセージが入っていてもかまいませんが、置き換えメッセージ・ファイル(RPLMSGF)には入ってはなりません。この3つの可能性は、MRGMSGFコマンドが処理されると、次のようになります。

- メッセージがFROMMSGFにしかない時には、それがTOMSGFに追加されます
- メッセージがTOMSGFにしかない時には、それがTOMSGFに残ります
- メッセージがFROMMSGFとTOMSGFの両方にある時には、TOMSGF内のメッセージがまずRPLMSGFに保管され（置き換えメッセージ・ファイルが指定された場合）、次にTOMSGF内のメッセージがFROMMSGF内のメッセージで置き換えられます

制約事項:取り出しメッセージ・ファイル(FROMMSGFパラメーター) に対する使用(*USE)権限、受け取りメッセージ・ファイル(TOMSGFパラメーター) に対する使用(*USE)、追加(*ADD)、および削除(*DLT)権限と、置き換えメッセージ・ファイル(RPLMSGFパラメーター) に対する*USEおよび*ADD権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMSGF	取り出しメッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 取り出しメッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOMSGF	受け取りメッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 受け取りメッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RPLMSGF	置き換えられたメッセージ・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 置き換えられたメッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
SELECT	選択するメッセージID	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション
OMIT	除外するメッセージID	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション

トップ

取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)

組み合わせるメッセージが入っているメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 取り出しメッセージ・ファイル

名前 組み合わせるメッセージが入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

取り出しメッセージ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 取り出しメッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)

メッセージが組み合わせられる先のメッセージ・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 受け取りメッセージ・ファイル

名前 メッセージが組み合わせられる先のメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

受け取りメッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 受け取りメッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定します。

トップ

置き換えられたメッセージ・ファイル (RPLMSGF)

受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルからオーバーレイされたメッセージを受け取るメッセージ・ファイルを指定します。

単一値

*NONE

TOMSGFメッセージ・ファイルからのオーバーレイされたメッセージは、置き換えメッセージ・ファイルにコピーされません。

修飾子1: 置き換えられたメッセージ・ファイル

名前 オーバーレイされたメッセージを受け取るメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

置き換えメッセージ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 置き換えメッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

選択するメッセージID (SELECT)

取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルから受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルに組み合わせるための選択メッセージIDを指定します。選択したメッセージだけが組み合わせられます。

単一値

***ALL** 取り出しメッセージ・ファイルのすべてのメッセージIDが、受け取りメッセージ・ファイルのメッセージと組み合わせられます。

その他の値

メッセージID

組み合わせられる最大50のメッセージIDのリストを指定してください。

[トップ](#)

除外するメッセージID (OMIT)

取り出しメッセージ・ファイル (FROMMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルから受け取りメッセージ・ファイル (TOMSGF)パラメーターに指定したメッセージ・ファイルに組み合わせないための選択メッセージIDを指定します。このリストに含まれない取り出しメッセージ・ファイル内のすべてのメッセージIDが組み合わせられます。

単一値

*NONE

メッセージIDは組み合わせ処理から取り除かれません。

その他の値

メッセージID

組み合わせされない最大50のメッセージIDのリストを指定します。メッセージIDがリストされていないすべてのメッセージが組み合わせられます。

[トップ](#)

例

例1: 2つのファイルの組み合わせ

MRGMSGF FROMMSGF(A) TOMSGF(B)

テーブル1.組み合わせ前のファイルの内容

メッセージ・ファイル A	メッセージ・ファイル B
-----	-----
ABC1234 'TEXT A4'	ABC1233 'TEXT B3'
ABC1236 'TEXT A6'	ABC1234 'TEXT B4'
ABC1237 'TEXT A7'	ABC1235 'TEXT B5'
ABC1238 'TEXT A8'	ABC1236 'TEXT B6'

以下は、MRGMSGFコマンドが処理された後の2つのメッセージ・ファイルです。メッセージABC1234とメッセージABC1236は両方のファイルにあることに注意してください。組み合わせが行われると、ファイルAからのメッセージ・テキスト（それぞれテキストA4およびA6）でファイルBのメッセージ・テキスト（それぞれテキストB4およびB6）が置き換えられます。

テーブル2.組み合わせ後のファイルの内容

メッセージ・ファイル A	メッセージ・ファイル B
-----	-----
ABC1234 'TEXT A4'	ABC1233 'TEXT B3'
ABC1236 'TEXT A6'	ABC1234 'TEXT A4'
ABC1237 'TEXT A7'	ABC1235 'TEXT B5'
ABC1238 'TEXT A8'	ABC1236 'TEXT A6'
	ABC1237 'TEXT A7'
	ABC1238 'TEXT A8'

例2:置き換えファイル・オプションを指定した2つのファイルの組み合わせ

以下の例では、受け取りファイル内の置き換えられたメッセージが、置き換えられる前と別のファイルに保管されます。

MRGMSGF FROMMSGF(A) TOMSGF(B) RPLMSGF(C)

テーブル3.組み合わせ前のファイルの内容

メッセージ・ファイル A	メッセージ・ファイル B
-----	-----
ABC1234 'TEXT A4'	ABC1233 'TEXT B3'
ABC1236 'TEXT A6'	ABC1234 'TEXT B4'
ABC1237 'TEXT A7'	ABC1235 'TEXT B5'
ABC1238 'TEXT A8'	ABC1236 'TEXT B6'

以下は、MRGMSGFコマンドが処理された後の2つのメッセージ・ファイルです。メッセージABC1234とメッセージABC1236は両方のファイルにあることに注意してください。組み合わせが行われると、これら2つのメッセージからのテキストが最初にファイルC（それぞれテキストB4およびB6）に移動します。次に、ファイルAからのメッセージ・テキスト（それぞれテキストA4およびA6）でファイルBのメッセージ・テキスト（それぞれテキストB4およびB6）が置き換えられます。

テーブル4.組み合わせ後のファイルの内容

メッセージ・ファイル A	メッセージ・ファイル B	メッセージ・ファイル C
-----	-----	-----
ABC1234 'TEXT A4'	ABC1233 'TEXT B3'	ABC1234 'TEXT B4'
ABC1236 'TEXT A6'	ABC1234 'TEXT A4'	ABC1236 'TEXT B6'
ABC1237 'TEXT A7'	ABC1235 'TEXT B5'	
ABC1238 'TEXT A8'	ABC1236 'TEXT A6'	
	ABC1237 'TEXT A7'	
	ABC1238 'TEXT A8'	

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2452

置き換えられるメッセージ・ファイルにメッセージが入っていない。

CPF2461

メッセージ・ファイル&1を拡張することができなかった。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2519

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

CPF2561

メッセージは組み合わせられなかった。

CPF2562

同じメッセージ・ファイルを複数回指定することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan